

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリウカクイカクジケン フクシマカクイカク 国立大学法人 福島大学								
フリガナ大学の名称	フクシマカクイカクイカク 福島大学大学院（Graduate School of Fukushima University）								
大学本部の位置	福島県福島市金谷川1番地								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科は、言語学・文化学、スポーツ・健康科学、音楽学、美術学、心理学、法学、政治学、行政学、社会学、経済学、経営学など、人文科学及び社会科学の高度かつ体系的な専門的知識と研究遂行能力を涵養するとともに、多様な人びとと協働しながら豊かな地域社会をデザインし、21世紀的課題に実践的に取り組むことができる幅広い能力を身につけた高度専門職業人（イノベーション人材）を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	地域デザイン科学研究科 [Graduate School of Regional Design]								【基礎となる学部】
	人間文化専攻 [Major in Human Culture and Science]	2	20	—	40	修士（人間文化） 【Master of Human Culture and Science】	令和5年4月 第1年次	福島県福島市金谷川1番地	人文社会学群人間発達文化学類
	地域政策科学専攻 [Major in Public Policy and Regional Administration]	2	8	—	16	修士（地域政策） 【Master of Public Policy and Administration in Region】	令和5年4月 第1年次	福島県福島市金谷川1番地	人文社会学群行政政策学類
	経済経営専攻 [Major in Economics and Business Administration]	2	14	—	28	修士（経済学） 【Master of Economics】	令和5年4月 第1年次	福島県福島市金谷川1番地	人文社会学群経済経営学類
計		42	—	84					14条特例の実施
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	食農科学研究科（令和4年3月意見伺い） 食農科学専攻（20） 教職実践研究科（令和4年4月事前相談） 教職高度化専攻（12） 人間発達文化研究科（廃止（予定）） 教職実践専攻（△16）※令和5年4月学生募集停止 地域文化創造専攻（△17）※令和5年4月学生募集停止 学校臨床心理専攻（△7）※令和5年4月学生募集停止 地域政策科学研究科（廃止（予定）） 地域政策科学専攻（△20）※令和5年4月学生募集停止 経済学研究科（廃止（予定）） 経済学専攻（△10）※令和5年4月学生募集停止 経営学専攻（△12）※令和5年4月学生募集停止 共生システム理工学研究科〔定員減（予定）〕 共生システム理工学専攻（△13）（令和5年4月） 環境放射能学専攻（△2）（令和5年4月）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	地域デザイン科学研究科 人間文化専攻	276 科目	153 科目	5 科目	434 科目	30 単位			
	地域デザイン科学研究科 地域政策科学専攻	251 科目	82 科目	0 科目	333 科目	30 単位			
地域デザイン科学研究科 経済経営専攻	248 科目	83 科目	0 科目	331 科目	30 単位				

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
			人	人	人	人	人	人	人	
教員組織の概要	新設分	地域デザイン科学研究科 人間文化専攻（修士課程）	35 (36)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	49 (50)	0 (0)	154 (153)	令和4年3月意見伺い 令和4年4月事前相談
		地域政策科学専攻（修士課程）	20 (20)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	147 (147)	
		経済経営専攻（修士課程）	24 (24)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	142 (142)	
		食農科学研究科 食農科学専攻（修士課程）	15 (15)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	1 (1)	
		教職実践研究科 教職高度化専攻（専門職学位課程）	15 (15)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	40 (42)	
		計	109 (110)	71 (71)	1 (1)	0 (0)	181 (182)	0 (0)	— (—)	
	既設分	共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻（博士前期課程）	30 (32)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	47 (49)	0 (0)	5 (5)	
		環境放射能学専攻（博士前期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	
		共生システム理工学専攻（博士後期課程）	29 (31)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	43 (45)	0 (0)	1 (1)	
		環境放射能学専攻（博士後期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	
		計	34 (36)	23 (23)	2 (2)	0 (0)	59 (61)	0 (0)	— (—)	
	合計		143 (146)	94 (94)	3 (3)	0 (0)	240 (243)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体	
	事務職員		114 (114)		42 (42)		156 (156)			
	技術職員		8 (8)		1 (1)		9 (9)			
	図書館専門職員		4 (4)		1 (1)		5 (5)			
	その他の職員		4 (4)		17 (17)		21 (21)			
計		130 (130)		61 (61)		191 (191)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校舎敷地	170,811㎡	0㎡		0㎡		170,811㎡			
	運動場用地	81,940㎡	0㎡		0㎡		81,940㎡			
	小 計	252,751㎡	0㎡		0㎡		252,751㎡			
	その他	199,330㎡	0㎡		0㎡		199,330㎡			
合計	452,081㎡	0㎡		0㎡		452,081㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		76,079㎡ (76,079㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		76,079㎡ (76,079㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	34室	62室	95室		1室 (補助職員 0人)		0室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の数	
		地域デザイン科学研究科			126 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	地域デザイン科学研究科	960,000〔236,700〕 (958,833〔236,638〕)	13,522〔2,731〕 (13,522〔2,731〕)	21,064〔21,064〕 (21,064〔21,064〕)	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)			
	計	960,000〔236,700〕 (958,833〔236,638〕)	13,522〔2,731〕 (13,522〔2,731〕)	21,064〔21,064〕 (21,064〔21,064〕)	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数				大学全体	
	10,638㎡		691席		1,113,194冊					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	3,778㎡		陸上競技場、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、バレーボールコート、弓道場、ハンドボール場、水泳プール、馬術場							

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	共同研究費等		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	図書購入費	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	設備購入費	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			-						
大学の名称	国立大学法人福島大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
人文社会学群 人間発達文化学類 行政政策学類 昼間	4	260	3年次 10	1,060	学士（発達文化）	1.02	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
夜間主	4	185	3年次 10	760	学士（法学）（社会学）	1.03	平成17		
夜間主	4	20	-	80	学士（法学）（社会学）	1.08	平成31		
夜間主	4	220	3年次 10	900	学士（経済学）	1.02	平成17		
理工学群 共生システム理工学類	4	160	-	640	学士（理工学）	1.06	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
農学群 食農学類	4	100	-	400	学士（農学）	1.04	平成31	福島県福島市金谷川1番地	
人間発達文化研究科 （専門職学位課程） 教職実践専攻 （修士課程）	2	16	-	32	教職修士（専門職） 修士（地域文化）	0.62	平成29	福島県福島市金谷川1番地	
地域文化創造専攻	2	17	-	34	修士（教育学）	0.88	平成21		
学校臨床心理専攻	2	7	-	14		0.99	平成13		
地域政策科学研究科 （修士課程） 地域政策科学専攻	2	20	-	40	修士（地域政策）	0.37	平成5	福島県福島市金谷川1番地	
経済学研究科 （修士課程） 経済学専攻	2	10	-	20	修士（経済学）	0.55	昭和51	福島県福島市金谷川1番地	
経済学専攻	2	12	-	24	修士（経済学）	0.74	昭和61		
共生システム理工学研究科 （博士前期課程） 共生システム理工学専攻	2	53	-	106	修士（理工学）	0.96	平成20	福島県福島市金谷川1番地	
環境放射能学専攻	2	7	-	14	修士（理工学）	0.49	平成31		
（博士後期課程） 共生システム理工学専攻	3	4	-	14	博士（理工学）	0.75	平成22		
環境放射能学専攻	3	2	-	4	博士（理工学）	1.00	令和3		
既設大学の状況	<p>名称：地域未来デザインセンター 目的：地域と連携した教育及び研究を支援し、地域の課題解決やイノベーション創出に貢献するとともに、新しい地域社会の在り方を提案し、地域創生に寄与することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：令和4年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 経済経営学類棟（6,710㎡）の一部</p>								
	<p>名称：情報基盤センター 目的：福島大学における情報処理システム及び情報ネットワークシステムを整備運用し、情報処理を効率的に行うとともに、教育及び学術研究の進展に資することを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 2,204 ㎡</p>								
	<p>名称：保健管理センター 目的：福島大学の学生及び職員の健康の保持増進を目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：昭和56年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 441 ㎡</p>								
	<p>名称：国際交流センター 目的：海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進、留学生教育の企画立案及び教育研究面での国際交流を図ることを目的とする。 所在地：福島県福島市金谷川1番地 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 金谷川キャンパス（432,894㎡）の一部、建物 S講義棟（4,360㎡）の一部</p>								

附属施設の概要	<p>名称：アドミッションセンター</p> <p>目的：アドミッションポリシーに応じた入学選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し、円滑な入学選抜の実施を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：平成28年4月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 事務局棟 (2,440㎡) の一部</p>	
	<p>名称：環境放射能研究所</p> <p>目的：国内外の研究機関と連携し、温帯多雨地域における放射性物質による環境への長期的な影響の調査・研究を行い、環境放射能動態について解明することを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：平成25年7月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 5,937 ㎡</p>	
	<p>名称：食農学類附属発酵醸造研究所</p> <p>目的：研究所は、発酵醸造に関する総合的な基盤研究と地域の課題を解決する橋渡し研究を推進し、これを国際的な課題や地球規模の課題の解決にも貢献する学際的な先端研究として発展させることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 食農学類管理棟 (2,530㎡) の一部</p>	
	<p>名称：食農学類附属農場</p> <p>目的：農学群の教育・研究に資することを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市松川町浅川字體2～6番， 福島県福島市松川町浅川字體27番1， 福島県福島市松川町浅川字體41番1， 福島県福島市松川町浅川字前田29番， 福島県福島市松川町浅川字前田22番1， 福島県福島市松川町浅川字武須沢16番， 福島県福島市松川町浅川字西森2番1</p> <p>設置年月：平成31年4月</p> <p>規模等：土地 19,187 ㎡ ， 建物 — ㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属幼稚園</p> <p>目的：幼児を保育し、健やかな成長のために適当な環境を与えて、心身の発達を助長するとともに、教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市浜田町12-39</p> <p>設置年月：昭和41年4月</p> <p>規模等：土地 5,033㎡ ， 建物 615㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属小学校</p> <p>目的：義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行うとともに、小学校教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市新浜町4-6</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規模等：土地 18,804㎡ ， 建物 9,018㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属中学校</p> <p>目的：義務教育として行われる普通教育を行うとともに、中学校教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市浜田町12-26</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規模等：土地 34,808㎡ ， 建物 6,177㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属特別支援学校</p> <p>目的：知的発達に遅れのある児童生徒に対して教育を行うとともに、教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市八木田字並柳71</p> <p>設置年月：昭和52年4月</p> <p>規模等：土地 12,031㎡ ， 建物 4,307㎡</p>	

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学研究科人間文化専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
目盤院大 科基学	イノベーション・リテラシー	1前	2			○								兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
盤専 科攻 目基	人間文化創造特論	1前		2		○			2					オムニ バス	
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—			2	0	0	0	0	0	
専門 科目	コンシバイ ア・ヨロノ	イノベーション・コア	2前		2		○							兼1	
		小計 (1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1	
	ト ブ 研 究 シ ェ ク	プロジェクト研究Ⅰ	1前		2			○		31	12	1			兼2
		プロジェクト研究Ⅱ	1後		2			○		31	12	1			兼2
		プロジェクト研究Ⅲ	2前		2			○		31	12	1			兼2
小計 (3科目)		—	0	6	0	—			31	12	1	0	0	兼2	
自 専 攻 科 目	言 語 文 化 コ ー ス 科 目	現代日本語特論	1前		2		○		1						
		現代日本語特論演習Ⅰ	1前		2			○	1						
		現代日本語特論演習Ⅱ	1後		2			○	1						
		地域言語特論	1前		2		○		1						
		地域言語特論演習Ⅰ	1前		2			○	1						
		地域言語特論演習Ⅱ	1後		2			○	1						
		日本近代文学特論	1後		2		○			1					
		日本近代文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		日本近代文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		比較文学特論	1後		2		○			1					
		比較文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		比較文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		日本古典文学特論	1前		2		○			1					
		日本古典文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		日本古典文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		日本文学特論	1後		2		○			1					
		日本文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		日本文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		漢文学特論	1前		2		○			1					
		漢文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		漢文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		中国思想特論	1前		2		○			1					
		中国思想特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
		中国思想特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
		国語科教育特論	1後		2		○			1					
		国語科カリキュラム特論演習	1後		2			○		1					
		国語科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○		1					隔年
		国語科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○		1					隔年
		英語意味論特論	1前		2		○			1					
		英語意味論特論演習	1後		2			○		1					
		英語意味研究Ⅰ	1後		2			○		1					隔年
		英語意味研究Ⅱ	1後		2			○		1					隔年
英語構造論特論	1前		2		○			1							
英語構造論特論演習	1後		2			○		1							
英語構造研究Ⅰ	1後		2			○		1					隔年		
英語構造研究Ⅱ	1後		2			○		1					隔年		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門 科目	自専 攻科目	言語 文化 コース 科目	社会言語学特論	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			社会言語学特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			映像文化研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			映像文化研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			現代アメリカ文化特論	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			現代アメリカ文化特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			現代アメリカ文化研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			現代アメリカ文化研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			初期近代英米文学特論	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			初期近代英米文学特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			初期近代英米文化研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			初期近代英米文化研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			近代英米文学特論	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			近代英米文学特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			近代英米文化研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			近代英米文化研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			英語教育学特論	1前	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			英語教育学特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			英語教育学研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			英語教育学研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			第二言語習得特論	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			第二言語習得特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0			
			第二言語習得研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			第二言語習得研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年		
			英語教育実践特論	1前	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			英語教育実践特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			英語教育実践研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			英語教育実践研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			外国文化特論	1前	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			外国文化特論演習	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0			
			外国文化研究Ⅰ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			外国文化研究Ⅱ	1後	2	0	0	○	0	0	0	1	0	0	0	隔年		
			小計 (68科目)			—	0	136	0	—	—	10	5	0	0	0	0	—
			地域 文化 コース 科目		日本社会文化史特論Ⅰ	1前	2	0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年
日本社会文化史特論Ⅱ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
日本地域文化史特論演習Ⅰ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
日本地域文化史特論演習Ⅱ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
ヨーロッパ社会文化史特論Ⅰ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
ヨーロッパ社会文化史特論Ⅱ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅰ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅱ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
自然災害特論Ⅰ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
自然災害特論Ⅱ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
環境地理学特論演習Ⅰ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
環境地理学特論演習Ⅱ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
地域と文化特論Ⅰ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
地域と文化特論Ⅱ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
地域復興・振興特論演習Ⅰ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
地域復興・振興特論演習Ⅱ	1後	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
観光産業特論Ⅰ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			
観光産業特論Ⅱ	1前	2			0	0	○	0	0	1	0	0	0	0	隔年			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 自専攻科目	地域経済特論演習Ⅰ	1後		2			○		1							隔年
	地域経済特論演習Ⅱ	1後		2			○		1							隔年
	コミュニティ文化特論Ⅰ	1前		2		○			1							隔年
	コミュニティ文化特論Ⅱ	1前		2		○			1							隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅰ	1後		2			○		1							隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅱ	1後		2			○		1							隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅰ	1前		2		○			1							隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅱ	1前		2		○			1							隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅰ	1後		2			○		1							隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1							隔年
	食品科学特論	1前		2		○									兼1	
	食物学研究	1後		2			○								兼1	
	食生活特論	1前		2		○			1							
	食生活支援研究Ⅰ	1後		2			○		1							隔年
	食生活支援研究Ⅱ	1後		2			○		1							隔年
	衣生活特論	1前		2		○			1							
	衣生活支援研究Ⅰ	1後		2			○		1							隔年
	衣生活支援研究Ⅱ	1後		2			○		1							隔年
	家庭科教育特論	1前		2		○			1							
	家庭科カリキュラム特論演習	1後		2			○		1							
家庭科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○		3							隔年・ オムニ バス	
家庭科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○		3							隔年・ オムニ バス	
生涯生活マネジメント特論	1後		2		○			1							隔年	
小計(41科目)		—	0	82	0		—	7	2	0	0	0	0	兼1	—	
スポーツ・芸術文化 コース科目	身体教育とスポーツ文化特論	1前		2		○			1							
	現代スポーツ特論演習	1後		2			○		1							
	スポーツ社会政策特論	1前		2		○				1						
	スポーツクラブマネジメント特論演習	1後		2			○			1						
	スポーツ医科学特論	1前		2		○				1						
	健康科学と運動処方特論	1後		2		○				1						
	スポーツバイオメカニクス特論	1前		2		○				1						
	運動学特論	1後		2		○				1						
	運動生理学特論	1前		2		○			1							
	健康指導特論演習	1後		2			○			1						
	武道文化特論	1前		2		○				1						
	武道文化特論演習	1後		2			○			1						
	保健体育科教育特論	1前		2		○					1					
	保健体育授業づくり特論	1後		2		○					1					
	現代器楽演奏演習	1前		2			○		1							
	器楽演奏特論演習	1後		2			○		1							
	アンサンブル特論演習	2前		2			○		1							
	現代声楽演奏特論演習	1前		2			○		1							
	声楽演奏特論演習	1後		2			○		1							
	オペラ特論演習	2前		2			○		1							
	音楽メディア創造演習	1前		2			○		1							
	作曲特論演習	1後		2			○		1							
	現代指揮法演習	1後		2			○		1							
音楽科教育特論	1前		2		○			1								
音楽科カリキュラム特論演習	1後		2			○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 自専攻科目	音楽科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○		1							隔年	
	音楽科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○		1							隔年	
	絵画特論	1前		2		○			1								
	絵画特論演習Ⅰ	1前		2			○		1								
	絵画特論演習Ⅱ	1後		2			○		1								
	絵画特論演習Ⅲ	2前		2			○		1								
	彫刻特論	1後		2		○			1								
	彫刻特論演習Ⅰ	1前		2			○		1								
	彫刻特論演習Ⅱ	1後		2			○		1								
	彫刻特論演習Ⅲ	2前		2			○		1								
	日本美術史特論	1後		2		○				1							
	西洋美術史特論	1前		2		○				1							
	美術科教育特論	1前		2		○										兼1	
	美術科カリキュラム特論演習	1後		2			○									兼1	
	美術科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○									兼1 隔年	
	美術科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○									兼1 隔年	
	小計 (41科目)	—	0	82	0	—	—	—	9	4	1	0	0	兼1	—		
	人間発達心理 心理学 コース 科目	教育心理学特論演習	1前		2			○		1							
		認知教育方法特論	1前		2		○			1							
		認知教育方法特論演習Ⅰ	1前		2			○		1							
認知教育方法特論演習Ⅱ		1後		2			○		1								
発達心理学特論		1前		2		○										兼1	
発達心理学特論演習Ⅰ		1前		2			○									兼1	
発達心理学特論演習Ⅱ		1後		2			○									兼1	
発達心理学特論演習Ⅲ		2前		2			○									兼1	
乳幼児・小学生の心理学特論		1後		2		○			1								
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ		1前		2			○		1								
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ		1後		2			○		1								
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ		2前		2			○		1								
中学生・高校生の心理学特論		1前		2		○			1								
人間理解特論演習Ⅰ		1前		2			○		1								
人間理解特論演習Ⅱ		1後		2			○		1								
人間理解特論演習Ⅲ		2前		2			○			1							
実験心理学特論		1前		2		○			1								
実験心理学特論演習Ⅰ		1前		2			○		1								
実験心理学特論演習Ⅱ		1後		2			○		1								
実験心理学特論演習Ⅲ		2前		2			○		1								
幼児心理学特論		1前		2		○			1								
幼児心理学特論演習Ⅰ		1前		2			○		1								
幼児心理学特論演習Ⅱ		1後		2			○		1								
幼児心理学特論演習Ⅲ		2前		2			○		1								
幼児教育学特論		1前		2		○				1							
幼児教育学特論演習Ⅰ		1前		2			○			1							
幼児教育学特論演習Ⅱ		1後		2			○			1							
幼児教育学特論演習Ⅲ	2前		2			○			1								
幼児教育内容特論	1前		2		○			1									
幼児教育内容特論演習Ⅰ	1前		2			○		1									
幼児教育内容特論演習Ⅱ	1後		2			○		1									
幼児教育内容特論演習Ⅲ	2前		2			○		1									
幼稚園実践研究	1前		2			○		2	1						オムニバス		
小計 (33科目)	—	0	66	0	—	—	—	6	2	0	0	0	兼1	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 自専攻科目 人間発達心理コース科目（臨床心理領域）	基礎論 教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理特論）	1前		2		○			1	1					兼1	オムニバス	
	臨床心理学特論Ⅰ	1後		2		○				1					兼1		
	臨床心理学特論Ⅱ	1後		2		○											
	福祉分野に関する理論と支援の展開（福祉心理特論）	1前		2		○			1								
	幼児発達心理学特論	1後		2		○			1								
	臨床発達心理学特論	1前		2		○			1								
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（神経生理学特論）	1後		2		○									兼1		
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	1後		2		○									兼1		
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神病理学特論）	1前		2		○									兼1		
	障害児心理学特論	1後		2		○			1								
	障害児病理特論	1前		2		○									兼1		
	小計（11科目）	—	0	22	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼6	—	
	方法論 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前		2		○			1								
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○			1								
	心理支援に関する理論と実践（心理学研究法特論）	1後		2		○			3	1							オムニバス
	心理実験統計法特論	1後		2		○			1								
	学習心理学特論	1前		2		○			1								
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族臨床心理学特論）	1後		2		○			1								
	心理支援に関する理論と実践（精神分析学特論）	1前		2		○				1							
	投影法特論	1後		2		○				1							
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪・非行臨床特論）	1前		2		○			1						兼1	オムニバス		
教育分野に関する理論と支援の展開（教育臨床学特論）	1後		2		○			1									
心理的アセスメントに関する理論と実践（心理アセスメント特論）	1後		2		○			2								オムニバス	
福祉分野に関する理論と支援の展開（家族福祉臨床特論）	1後		2		○			1									
臨床心理地域援助特論	1前		2		○			1									
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（グループ・アプローチ特論）	1後		2		○									兼1			
心理支援に関する理論と実践（心理療法特論）	1前		2		○									兼1			
産業・労働分野に関する理論と支援の展開（産業・労働心理学特論）	1前		2		○									兼1			
心の健康教育に関する理論と実践（心の健康教育特論）	1後		2		○				1					兼1	オムニバス		
小計（17科目）	—	0	34	0	—	—	—	5	1	0	0	0	0	兼5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 自専攻科目	人間発達心理コース科目(臨床心理領域)	実践論	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1前		2			○		1					隔年	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1後		2			○		1						隔年	
		臨床心理基礎実習	1前		2				○	1	1					兼2 共同	
		臨床心理実習Ⅱ	1後		2				○	2	1					兼4 共同	
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼6 共同	
	実践研究	学校教育臨床研究ⅠA	1前		2				○		4	1					隔年・共同
		学校教育臨床研究ⅡA	1後		2				○		4	1					隔年・共同
		小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	4	1	0	0	0	0	—	
	実践実習	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	1後		2					○	3	1					共同
		心理実践実習(カウンセリング実習Ⅰ)	1前		2					○	3	1					隔年・共同
		心理実践実習(カウンセリング実習Ⅱ)	1後		2					○	3	1					隔年・共同
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	—	
	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	憲法Ⅰ	1前		2			○								兼1 隔年
			憲法特論Ⅰ	1後		2			○								兼1 隔年
			憲法Ⅱ	1前		2			○								兼1 隔年
憲法特論Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
刑事法学			1前		2			○								兼1 隔年	
司法福祉政策			1後		2			○								兼1 隔年	
地方自治法Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
地方自治法Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
国際法Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
国際法Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
行政法Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
行政法Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
民法特論Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
民法特論Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
消費者法			1前		2			○								兼1 隔年	
財産法特論			1後		2			○								兼1 隔年	
法社会学Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
法社会学Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
民事手続法			1前		2			○								兼1 隔年	
民事救済法			1後		2			○								兼1 隔年	
商法Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
商法Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
労働法・社会保障法Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
労働法・社会保障法Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
地方行政			1前		2			○								兼1 隔年	
地方制度			1後		2			○								兼1 隔年	
行政学Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
行政学Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
比較政治Ⅰ			1前		2			○								兼1 隔年	
比較政治Ⅱ			1後		2			○								兼1 隔年	
国際政治Ⅰ	1前		2			○								兼1 隔年			
国際政治Ⅱ	1後		2			○								兼1 隔年			
政治学原論	1前		2			○								兼1 隔年			
現代政治論	1後		2			○								兼1 隔年			
社会計画Ⅰ	1前		2			○								兼1 隔年			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	社会計画Ⅱ	1後	2		○									兼1	隔年
	地域環境論Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域環境論Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	社会調査Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	社会調査Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域福祉論Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域福祉論Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	社会と情報Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	社会と情報Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会とジェンダーⅠ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会とジェンダーⅡ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会と歴史Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会と歴史Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会と歴史Ⅲ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会と歴史Ⅳ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会と考古学Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会と考古学Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会と社会教育Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会と社会教育Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会の国際化と言語Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会の国際化と言語Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	国際交流研究Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	国際交流研究Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	ヨーロッパ文化研究Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	ヨーロッパ文化研究Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	英米文化研究Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	英米文化研究Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	社会の基礎理論Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	社会の基礎理論Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	メディア論Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	メディア論Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	地域社会学Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	地域社会学Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
	都市計画特論Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
	都市計画特論Ⅱ	1後	2		○										兼1	隔年
小計(70科目)		—	0	140	0	—				0	0	0	0	0	兼35	—
地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	隔年
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	隔年
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	隔年
	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	隔年
	産業連関論特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	金融論特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	国際金融論特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	環境経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	公共経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	計量経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	隔年
	計量経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	隔年
	国際経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	産業組織論特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	法と経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年
	財政学特殊研究	1前		2		○									兼1	隔年

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	租税政策特殊研究	1前		2		○								兼1
		地域経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
		地域交通論特殊研究	1前		2		○								兼1
		特講（交通まちづくり論）	1前		1		○								兼1
		経済地理学特殊研究	1前		2		○								兼1
		社会政策論特殊研究	1前		2		○								兼1
		労働と福祉特殊研究	1前		2		○								兼1
		開発経済学特殊研究	1前		2		○								兼1
		経済政策特殊研究	1前		2		○								兼1
		現代資本主義特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		現代資本主義特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		地域政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		地域政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		経済思想史特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		経済思想史特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		日本経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
		日本経営史特殊研究	1前		2		○								兼1
		日本経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
		世界経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
		比較経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
		欧州経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
		アメリカ経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
		アジア経済論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		アジア経済論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		朝鮮近代史特殊研究	1前		2		○								兼1
		国際公共政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		国際公共政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		比較社会論特殊研究	1前		2		○								兼1
		管理会計論特殊研究	1前		2		○								兼1
		コスト・マネジメント特殊研究	1後		2		○								兼1
		価値創造会計特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		価値創造会計特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		財務諸表論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		財務諸表論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		財務報告論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		財務報告論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		租税法特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		租税法特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
		会計実務特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
		会計実務特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
特講（実務租税法Ⅰ）	1前		2		○								兼1		
特講（実務租税法Ⅱ）	1後		2		○								兼1		
特講（知的財産の応用）	1前		1		○								兼1		
特講（マーケティング概論）	1前		1		○								兼1		
特講（社会課題とマーケティング）	1前		1		○								兼1		
特講（マネジメント概論）	1前		1		○								兼1		
特講（組織論）	1前		1		○								兼1		
特講（競争戦略）	1前		1		○								兼1		
特講（ビジネス・イノベーション）	1前		1		○								兼1		
特講（地域企業経営）	1前		1		○								兼1		
特講（地域デザイン）	1前		1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講（組織行動）	1前	1		○									兼1	
		特講（ビジネス統計）	1前	1		○										兼1
		特講（マーケティング・リサーチ）	1前	1		○										兼1
		特講（データサイエンス基礎）	1前	1		○										兼1
		特講（コーポレート・ファイナンス）	1前	1		○										兼1
		特講（人的資源管理）	1前	1		○										兼1
		特講（リーダーシップ）	1前	1		○										兼1
		特設外国語 英語Ⅰ	1前	2		○										兼1
		特設外国語 英語Ⅱ	1前	2		○										兼1
		特設外国語 英語Ⅲ	1後	2		○										兼1
		特設外国語 英語Ⅳ	1後	2		○										兼1
		特設外国語 ロシア語Ⅰ	1前	2		○										兼1
		特設外国語 ロシア語Ⅱ	1後	2		○										兼1
		特設外国語 中国語Ⅰ	1前	2		○										兼1
		特設外国語 中国語Ⅱ	1後	2		○										兼1
		特設外国語 韓国朝鮮語	1前	2		○										兼1
		特設外国語 日本語Ⅰ	1前	2		○										兼1
		特設外国語 日本語Ⅱ	1後	2		○										兼1
		小計（84科目）	—	0	151	0	—			0	0	0	0	0	0	兼43
科共 目生 シ ス テ ム 理 工 学 研 究 科 共 生 シ ス テ ム 理 工 学 専 攻	生産システム最適化特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	物性物理学特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	メカトロニクス特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	物性物理学特論Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	メカトロニクス特論Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	分析化学特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	分析化学特論Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	環境微生物学特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	分子生態学特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	流域水管理特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	流域水循環特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	地下水盆管理計画特論Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	環境微生物学特論Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	分子生態学特論Ⅱ	1後		2			○								兼1	
流域水管理特論Ⅱ	1後		2			○								兼1		
流域水循環特論Ⅱ	1後		2			○								兼1		
地下水盆管理計画特論Ⅱ	1後		2			○								兼1		
小計（17科目）	—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼9	—
射共 能生 学シ ス テ ム 専 攻 科 目 理 工 学 研 究 科 環 境 放	環境放射能学Ⅰ	1前		2		○									兼6	オムニ バス
	環境放射能学Ⅱ	1後		2		○									兼6	オムニ バス
	核種分析学	1前		2		○									兼2	オムニ バス
	原子力災害学	1前		2		○									兼5	オムニ バス
	放射生態学	1前		2		○									兼6	オムニ バス
	水圏放射生態学	1後		2		○									兼1	
	森林放射能学	1後		2		○									兼1	
	動物生態学	1後		2		○									兼1	
	陸域放射能動態学	1後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 他専攻科目	専攻科目 共生システム環境放射理工学	移動現象論	1後		2		○									兼1	
		放射能モデリング学特論	1後		2		○									兼1	
		海洋放射能動態学特論	1後		2		○									兼1	
		陸域生物圏放射能動態学	1後		2		○									兼1	
		放射能等の分離技術	1後		2		○									兼1	
		放射線計測工学特論	1後		2		○									兼1	
		小計 (15科目)	—	0	30	0				0	0	0	0	0	0	0	兼14
	食農科学研究科食農科学専攻科目	先端食品科学	1前		1		○										兼10
		先端農業生産科学	1前		1		○										兼10
		先端生産環境科学	1前		1		○										兼10
		先端農業経営科学	1前		1		○										兼7
		復興知と農業・食料のイノベーション	1後		2		○										兼7
		アグロエコロジー	1後		2		○										兼9
	小計 (6科目)	—	0	8	0				0	0	0	0	0	0	0	0	兼37
	特別演習	言語文化特別演習 I	1前		2			○		10	5						
地域文化特別演習 I		1前		2			○		7	2							
スポーツ・芸術文化特別演習 I		1前		2			○		9	4	1					兼1	
人間発達心理特別演習 I		1前		2			○		9	2						兼2	
言語文化特別演習 II		1後		2			○		10	5							
地域文化特別演習 II		1後		2			○		7	2							
スポーツ・芸術文化特別演習 II		1後		2			○		9	4	1					兼1	
人間発達心理特別演習 II		1後		2			○		9	2						兼2	
小計 (8科目)	—	0	16	0				35	13	1	0	0	0	0	0	兼3	
特別研究	言語文化特別研究 I	2前		2			○		10	5							
	地域文化特別研究 I	2前		2			○		7	2							
	スポーツ・芸術文化特別研究 I	2前		2			○		9	4	1					兼1	
	人間発達心理特別研究 I	2前		2			○		9	2						兼2	
	言語文化特別研究 II	2後		2			○		10	5							
	地域文化特別研究 II	2後		2			○		7	2							
	スポーツ・芸術文化特別研究 II	2後		2			○		9	4	1					兼1	
	人間発達心理特別研究 II	2後		2			○		9	2						兼2	
小計 (8科目)	—	0	16	0				35	13	1	0	0	0	0	0	兼3	
合計 (434科目)		—	2	845	0				35	13	1	0	0	0	0	0	兼154

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		修士（人間文化）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
○専門性重視型の場合（人間発達心理コース臨床心理領域を除く）						1 学年の学期区分			2期					
<p>1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専門科目（特別演習）4単位、専門科目（特別研究）4単位を必修として（特別演習・特別研究はいずれも所属するコースの授業を履修すること）、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文または特定課題の研究成果の審査及び最終試験に合格すること。 （履修科目の登録の上限：20単位（半期））</p> <p>2. 修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院基盤科目2単位【必修2単位】 ・専門科目（自専攻科目）14単位【選択14単位】 <p>所属コース以外の他コース科目を含む専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して14単位を履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目（特別演習）4単位【必修4単位】 ・専門科目（特別研究）4単位【必修4単位】 ・自由選択科目6単位【選択6単位】 <p>専攻基盤科目、専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して6単位以上を履修する。</p>						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					
○学際性重視型の場合（人間発達心理コース臨床心理領域を除く）														
<p>1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専攻基盤科目2単位、専門科目（イノベーション・コア）2単位、専門科目（プロジェクト研究）6単位、専門科目（特別演習）4単位、専門科目（特別研究）4単位を必修として（特別演習・特別研究はいずれも所属するコースの授業を履修すること）、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文の審査または特定課題の研究成果の審査及び最終試験に合格すること。 （履修科目の登録の上限：20単位（半期））</p> <p>2. 修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院基盤科目2単位【必修2単位】 ・専攻基盤科目2単位【必修2単位】 ・専門科目（イノベーション・コア）2単位【必修2単位】 ・専門科目（プロジェクト研究）6単位【必修6単位】 ・専門科目（自専攻科目）4単位【選択4単位】 <p>所属コース以外の他コース科目を含む専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して4単位を履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目（他専攻科目）4単位【選択4単位】 ・専門科目（特別演習）4単位【必修4単位】 ・専門科目（特別研究）4単位【必修4単位】 ・自由選択科目2単位【選択2単位】 <p>専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して6単位以上を履修する。</p>														
○人間発達心理コース臨床心理領域の場合														
<p>1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専門科目（実践実習）「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）」2単位、専門科目（特別演習）4単位、専門科目（特別研究）4単位を必修として（特別演習・特別研究はいずれも人間発達心理コースの授業を履修すること）、これらを含め30単位以上を修得し、修士研究の審査に合格すること。 （履修科目の登録の上限：20単位（半期））</p> <p>2. 修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院基盤科目2単位【必修2単位】 														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門科目（基礎論）4単位【選択4単位】 ・ 専門科目（方法論）4単位【選択4単位】 ・ 専門科目（実践論）6単位【選択6単位】 ・ 専門科目（実践研究）2単位【選択2単位】 ・ 専門科目（実践実習）2単位【必修2単位】 ・ 専門科目（特別演習）4単位【必修4単位】 ・ 専門科目（特別研究）4単位【必修4単位】 ・ 自由選択科目2単位【選択2単位】 <p>専門科目の選択科目（「イノベーション・コア」及び「プロジェクト研究」を除く）から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して2単位以上を履修する。</p>														

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
目盤院大 科基学	イノベーション・リテラシー	1前	2			○								兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
科基専 目盤攻	地域政策科学入門	1前		2		○			20	15					
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—			20	15	0	0	0	0	
専門科目	コンシペイ ア・ヨリノ	イノベーション・コア	2前		2		○							兼1	
		小計 (1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1	
	トプ 研究 ジェ ク	プロジェクト研究Ⅰ	1前		2			○		20	15				
		プロジェクト研究Ⅱ	1後		2			○		20	15				
プロジェクト研究Ⅲ		2前		2			○		20	15					
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—		20	15	0	0	0	0	—	
自専 攻科 目	通専 科攻 目共	特殊研究Ⅰ	1前		2		○		20	15					
		特殊研究Ⅱ	1後		2		○		20	15					
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—	20	15	0	0	0	0	—	
自専 攻科 目	法・ 政策 コ ー ス 科 目	憲法Ⅰ	1前		2		○		1					隔年	
		憲法特論Ⅰ	1後		2		○		1					隔年	
		憲法Ⅱ	1前		2		○			1				隔年	
		憲法特論Ⅱ	1後		2		○			1				隔年	
		刑事法学	1前		2		○			1				隔年	
		司法福祉政策	1後		2		○			1				隔年	
		地方自治法Ⅰ	1前		2		○		1					隔年	
		地方自治法Ⅱ	1後		2		○		1					隔年	
		国際法Ⅰ	1前		2		○			1				隔年	
		国際法Ⅱ	1後		2		○			1				隔年	
		行政法Ⅰ	1前		2		○			1				隔年	
		行政法Ⅱ	1後		2		○			1				隔年	
		民法特論Ⅰ	1前		2		○			1				隔年	
		民法特論Ⅱ	1後		2		○			1				隔年	
		消費者法	1前		2		○			1				隔年	
		財産法特論	1後		2		○			1				隔年	
		法社会学Ⅰ	1前		2		○		1					隔年	
		法社会学Ⅱ	1後		2		○		1					隔年	
		民事手続法	1前		2		○			1				隔年	
		民事救済法	1後		2		○			1				隔年	
		商法Ⅰ	1前		2		○		1					隔年	
		商法Ⅱ	1後		2		○		1					隔年	
		労働法・社会保障法Ⅰ	1前		2		○			1				隔年	
		労働法・社会保障法Ⅱ	1後		2		○			1				隔年	
		地方行政	1前		2		○		1					隔年	
		地方制度	1後		2		○		1					隔年	
行政学Ⅰ	1前		2		○			1				隔年			
行政学Ⅱ	1後		2		○			1				隔年			
比較政治Ⅰ	1前		2		○			1				隔年			
比較政治Ⅱ	1後		2		○			1				隔年			
国際政治Ⅰ	1前		2		○		1					隔年			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 自専攻科目	法・政策 コース科目	国際政治Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		政治学原論	1前	2		○				1					隔年
		現代政治論	1後	2		○				1					隔年
		小計(34科目)	—	0	68	0	—	—	6	11	0	0	0	0	—
	コミュ ニティ 探究 コース 科目	社会計画Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		社会計画Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域環境論Ⅰ	1前	2		○				1					隔年
		地域環境論Ⅱ	1後	2		○				1					隔年
		社会調査Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		社会調査Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域福祉論Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		地域福祉論Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		社会と情報Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		社会と情報Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域社会とジェンダーⅠ	1前	2		○			1						隔年
		地域社会とジェンダーⅡ	1後	2		○			1						隔年
		地域社会と歴史Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		地域社会と歴史Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域社会と歴史Ⅲ	1前	2		○				1					隔年
		地域社会と歴史Ⅳ	1後	2		○				1					隔年
		地域社会と考古学Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		地域社会と考古学Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域社会と社会教育Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		地域社会と社会教育Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		地域社会の国際化と言語Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		地域社会の国際化と言語Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		国際交流研究Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		国際交流研究Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		ヨーロッパ文化研究Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		ヨーロッパ文化研究Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		英米文化研究Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		英米文化研究Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		社会の基礎理論Ⅰ	1前	2		○			1						隔年
		社会の基礎理論Ⅱ	1後	2		○			1						隔年
		メディア論Ⅰ	1前	2		○				1					隔年
		メディア論Ⅱ	1後	2		○				1					隔年
		地域社会学Ⅰ	1前	2		○				1					隔年
地域社会学Ⅱ	1後	2		○				1					隔年		
都市計画特論Ⅰ	1前	2		○			1						隔年		
都市計画特論Ⅱ	1後	2		○			1						隔年		
	小計(36科目)	—	0	72	0	—	—	14	4	0	0	0	0	—	
他専攻科目	文化 地域 デザイン 科学 研究 科 人間	人間文化創造特論	1前	2		○								兼2	オムニ バス
		現代日本語特論	1前	2		○								兼1	
		地域言語特論	1前	2		○								兼1	
		日本近代文学特論	1後	2		○								兼1	
		比較文学特論	1後	2		○								兼1	
		日本古典文学特論	1前	2		○								兼1	
		日本文学特論	1後	2		○								兼1	
		漢文学特論	1前	2		○								兼1	
		中国思想特論	1前	2		○								兼1	
		国語科教育特論	1後	2		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
専門 科目	他 専 攻 科 目	地 域 デ ザ イ ン 科 学 研 究 科 人 間 文 化 専 攻 科 目	国語科教育実践研究Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年	
			英語意味論特論	1前	2		○									兼1	
			英語構造論特論	1前	2		○									兼1	
			社会言語学特論	1前	2		○									兼1	
			現代アメリカ文化特論	1前	2		○									兼1	
			初期近代英米文学特論	1前	2		○									兼1	
			近代英米文学特論	1前	2		○									兼1	
			英語教育学特論	1前	2		○									兼1	
			英語教育学特論演習	1後	2				○							兼1	
			英語教育学研究Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			英語教育学研究Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			第二言語習得特論	1前	2			○								兼1	
			第二言語習得特論演習	1後	2				○							兼1	
			第二言語習得研究Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			第二言語習得研究Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			英語教育実践特論	1前	2			○								兼1	
			英語教育実践特論演習	1後	2				○							兼1	
			英語教育実践研究Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			英語教育実践研究Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			外国文化特論	1前	2			○								兼1	
			日本社会文化史特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年
			日本社会文化史特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年
			日本地域文化史特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			日本地域文化史特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			ヨーロッパ社会文化史特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年
			ヨーロッパ社会文化史特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年
			ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			自然災害特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年
			自然災害特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年
			環境地理学特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			環境地理学特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			地域と文化特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年
			地域と文化特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年
			地域復興・振興特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			地域復興・振興特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
			観光産業特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年
			観光産業特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年
			地域経済特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年
			地域経済特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年
コミュニティ文化特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年			
コミュニティ文化特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年			
コミュニティ形成特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年			
コミュニティ形成特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年			
人間開発の倫理学特論Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年			
人間開発の倫理学特論Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年			
共生の倫理学特論演習Ⅰ	1後	2				○							兼1	隔年			
共生の倫理学特論演習Ⅱ	1後	2				○							兼1	隔年			
食品科学特論	1前	2			○								兼1				
食物学研究	1後	2				○							兼1				
食生活特論	1前	2			○								兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学 研究科人間文化専攻 科目	食生活支援研究Ⅰ	1後		2			○							兼1	隔年
	食生活支援研究Ⅱ	1後		2			○							兼1	隔年
	衣生活特論	1前		2		○								兼1	
	衣生活支援研究Ⅰ	1後		2			○							兼1	隔年
	衣生活支援研究Ⅱ	1後		2			○							兼1	隔年
	家庭科教育特論	1前		2		○								兼1	
	家庭科カリキュラム特論演習	1後		2			○							兼1	
	家庭科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○							兼3	隔年・オムニバス
	家庭科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○							兼3	隔年・オムニバス
	生涯生活マネジメント特論	1後		2			○							兼1	隔年
	身体教育とスポーツ文化特論	1前		2			○							兼1	
	現代スポーツ特論演習	1後		2				○						兼1	
	スポーツ社会政策特論	1前		2			○							兼1	
	スポーツクラブマネジメント特論演習	1後		2				○						兼1	
	スポーツ医科学特論	1前		2			○							兼1	
	健康科学と運動処方特論	1後		2			○							兼1	
	スポーツバイオメカニクス特論	1前		2			○							兼1	
	運動学特論	1後		2			○							兼1	
	運動生理学特論	1前		2			○							兼1	
	健康指導特論演習	1後		2				○						兼1	
	武道文化特論	1前		2			○							兼1	
	武道文化特論演習	1後		2				○						兼1	
	保健体育科教育特論	1前		2			○							兼1	
	保健体育授業づくり特論	1後		2			○							兼1	
	現代声楽演奏特論演習	1前		2				○						兼1	
	声楽演奏特論演習	1後		2				○						兼1	
	オペラ特論演習	2前		2				○						兼1	
	音楽科教育特論	1前		2			○							兼1	
	音楽科カリキュラム特論演習	1後		2				○						兼1	
	音楽科教育実践研究Ⅰ	1前		2				○						兼1	隔年
	音楽科教育実践研究Ⅱ	1前		2				○						兼1	隔年
	絵画特論	1前		2			○							兼1	
	絵画特論演習Ⅰ	1前		2				○						兼1	
	彫刻特論	1後		2			○							兼1	
	彫刻特論演習Ⅰ	1前		2				○						兼1	
	日本美術史特論	1後		2			○							兼1	
	西洋美術史特論	1前		2			○							兼1	
	美術科教育特論	1前		2			○							兼1	
	美術科カリキュラム特論演習	1後		2				○						兼1	
	美術科教育実践研究Ⅰ	1前		2				○						兼1	隔年
美術科教育実践研究Ⅱ	1前		2				○						兼1	隔年	
教育心理学特論演習	1前		2				○						兼1		
認知教育方法特論	1前		2			○							兼1		
認知教育方法特論演習Ⅰ	1前		2				○						兼1		
認知教育方法特論演習Ⅱ	1後		2				○						兼1		
発達心理学特論	1前		2			○							兼1		
発達心理学特論演習Ⅰ	1前		2				○						兼1		
発達心理学特論演習Ⅱ	1後		2				○						兼1		
発達心理学特論演習Ⅲ	2前		2				○						兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	乳幼児・小学生の心理学特論	1後		2		○									兼1	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ	2前		2			○								兼1	
	中学生・高校生の心理学特論	1前		2		○									兼1	
	人間理解特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	人間理解特論演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	人間理解特論演習Ⅲ	2前		2			○								兼1	
	実験心理学特論	1前		2		○									兼1	
	実験心理学特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	実験心理学特論演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	実験心理学特論演習Ⅲ	2前		2			○								兼1	
	幼児心理学特論	1前		2		○									兼1	
	幼児心理学特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	幼児教育学特論	1前		2		○									兼1	
	幼児教育学特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	幼児教育内容特論	1前		2		○									兼1	
	幼児教育内容特論演習Ⅰ	1前		2			○								兼1	
	幼児教育内容特論演習Ⅱ	1後		2			○								兼1	
	小計(129科目)	—		0	258	0	—			0	0	0	0	0	0	兼47
地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	産業連関論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	金融論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	国際金融論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	環境経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	公共経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	計量経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	計量経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	国際経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	産業組織論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	法と経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	財政学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	租税政策特殊研究	1前		2		○									兼1	
	地域経済論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	地域交通論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	特講(交通まちづくり論)	1前		1		○									兼1	
	経済地理学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	社会政策論特殊研究	1前		2		○									兼1	
	労働と福祉特殊研究	1前		2		○									兼1	
	開発経済学特殊研究	1前		2		○									兼1	
	経済政策特殊研究	1前		2		○									兼1	
	現代資本主義特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	現代資本主義特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1	
地域政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1		
地域政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1		
経済思想史特殊研究Ⅰ	1前		2		○									兼1		
経済思想史特殊研究Ⅱ	1後		2		○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	日本経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
	日本経営史特殊研究	1前		2		○								兼1
	日本経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	世界経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	比較経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
	欧州経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	アメリカ経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	アジア経済論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	アジア経済論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	朝鮮近代史特殊研究	1前		2		○								兼1
	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	比較社会論特殊研究	1前		2		○								兼1
	管理会計論特殊研究	1前		2		○								兼1
	コスト・マネジメント特殊研究	1後		2		○								兼1
	価値創造会計特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	価値創造会計特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	財務諸表論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	財務諸表論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	財務報告論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	財務報告論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	租税法特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	租税法特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	会計実務特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	会計実務特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	特講（実務租税法Ⅰ）	1前		2		○								兼1
	特講（実務租税法Ⅱ）	1後		2		○								兼1
	特講（知的財産の応用）	1前		1		○								兼1
	特講（マーケティング概論）	1前		1		○								兼1
	特講（社会課題とマーケティング）	1前		1		○								兼1
	特講（マネジメント概論）	1前		1		○								兼1
	特講（組織論）	1前		1		○								兼1
	特講（競争戦略）	1前		1		○								兼1
	特講（ビジネス・イノベーション）	1前		1		○								兼1
	特講（地域企業経営）	1前		1		○								兼1
	特講（地域デザイン）	1前		1		○								兼1
	特講（組織行動）	1前		1		○								兼1
	特講（ビジネス統計）	1前		1		○								兼1
	特講（マーケティング・リサーチ）	1前		1		○								兼1
	特講（データサイエンス基礎）	1前		1		○								兼1
	特講（コーポレート・ファイナンス）	1前		1		○								兼1
	特講（人的資源管理）	1前		1		○								兼1
	特講（リーダーシップ）	1前		1		○								兼1
特設外国語 英語Ⅰ	1前		2		○								兼1	
特設外国語 英語Ⅱ	1前		2		○								兼1	
特設外国語 英語Ⅲ	1後		2		○								兼1	
特設外国語 英語Ⅳ	1後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 他専攻科目	地域経済学	特設外国語 ロシア語 I	1前	2		○									兼1		
		特設外国語 ロシア語 II	1後	2		○									兼1		
		特設外国語 中国語 I	1前	2		○									兼1		
		特設外国語 中国語 II	1後	2		○									兼1		
		特設外国語 韓国朝鮮語	1前	2		○									兼1		
		特設外国語 日本語 I	1前	2		○									兼1		
		特設外国語 日本語 II	1後	2		○									兼1		
		小計 (84科目)	—	0	151	0	—			0	0	0	0	0	0	兼43	—
		共生システム理工学研究科	生産システム最適化特論 I	1前	2		○									兼1	
			物性物理学特論 I	1前	2		○									兼1	
			メカトロニクス特論 I	1前	2		○									兼1	
			物性物理学特論 II	1後	2			○								兼1	
			メカトロニクス特論 II	1後	2			○								兼1	
			分析化学特論 I	1前	2		○									兼1	
			分析化学特論 II	1後	2			○								兼1	
			環境微生物学特論 I	1前	2		○									兼1	
			分子生態学特論 I	1前	2		○									兼1	
			流域水管理特論 I	1前	2		○									兼1	
			流域水循環特論 I	1前	2		○									兼1	
			地下水盆管理計画特論 I	1前	2		○									兼1	
			環境微生物学特論 II	1後	2			○								兼1	
			分子生態学特論 II	1後	2			○								兼1	
			流域水管理特論 II	1後	2			○								兼1	
			流域水循環特論 II	1後	2			○								兼1	
			地下水盆管理計画特論 II	1後	2			○								兼1	
		小計 (17科目)	—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—
		共生システム理工学研究科	環境放射能学 I	1前	2		○									兼6	オムニバス
		環境放射能学 II	1後	2		○									兼6	オムニバス	
		核種分析学	1前	2		○									兼2	オムニバス	
		原子力災害学	1前	2		○									兼5	オムニバス	
		放射生態学	1前	2		○									兼6	オムニバス	
		水圏放射生態学	1後	2		○									兼1		
		森林放射能学	1後	2		○									兼1		
		動物生態学	1後	2		○									兼1		
		陸域放射能動態学	1後	2		○									兼1		
		移動現象論	1後	2		○									兼1		
		放射能モデリング学特論	1後	2		○									兼1		
		海洋放射能動態学特論	1後	2		○									兼1		
		陸域生物圏放射能動態学	1後	2		○									兼1		
		放射能等の分離技術	1後	2		○									兼1		
		放射線計測工学特論	1後	2		○									兼1		
	小計 (15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 他専攻科目 食農科学研究科食農科学専攻科目	先端食品科学	1前		1			○									兼10 オムニバス・共同(一部)	
	先端農業生産科学	1前		1			○									兼10 オムニバス・共同(一部)	
	先端生産環境科学	1前		1			○									兼10 オムニバス・共同(一部)	
	先端農業経営科学	1前		1			○									兼7 オムニバス	
	復興知と農業・食料のイノベーション	1後		2			○									兼7 オムニバス・共同(一部)	
	アグロエコロジー	1後		2			○									兼9 オムニバス・共同(一部)	
	小計(6科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	0	0	兼37	—
	習特別演	地域政策科学特別演習Ⅰ	1前	2				○		20	15						
		地域政策科学特別演習Ⅱ	1後	2				○		20	15						
		小計(2科目)	—	4	0	0		—		20	15	0	0	0	0	0	—
	究特別研	地域政策科学特別研究Ⅰ	2前	2				○		20	15						
		地域政策科学特別研究Ⅱ	2後	2				○		20	15						
小計(2科目)		—	4	0	0		—		20	15	0	0	0	0	0	—	
合計(333科目)		—	10	635	0		—		20	15	0	0	0	0	0	兼147	—
学位又は称号		修士(地域政策)			学位又は学科の分野			法学関係、社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
○「専門性重視型」の場合 1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専門科目(特別演習)4単位、専門科目(特別研究)4単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限:14単位(半期)) 2. 修了要件について ・大学院基盤科目2単位【必修2単位】 ・専門科目(自専攻科目)14単位【選択14単位】 所属コース科目、他コース科目、専攻共通科目を含む専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して14単位を履修する。 ・専門科目(特別演習)4単位【必修4単位】 ・専門科目(特別研究)4単位【必修4単位】 ・自由選択科目6単位【選択6単位】 専攻基盤科目、専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して6単位以上を履修する。							1 学年の学期区分		2期								
							1 学期の授業期間		15週								
							1 時限の授業時間		90分								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>○「学際性重視型」の場合</p> <p>1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専攻基盤科目2単位、専門科目（イノベーション・コア）2単位、専門科目（プロジェクト研究）6単位、専門科目（特別演習）4単位、専門科目（特別研究）4単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修科目の登録の上限：14単位（半期））</p> <p>2. 修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院基盤科目2単位【必修2単位】 ・専攻基盤科目2単位【必修2単位】 ・専門科目（イノベーション・コア）2単位【必修2単位】 ・専門科目（プロジェクト研究）6単位【必修6単位】 ・専門科目（自専攻科目）4単位【選択4単位】 <p>所属コース科目、他コース科目、専攻共通科目を含む専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して4単位を履修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目（他専攻科目）4単位【選択4単位】 ・専門科目（特別演習）4単位【必修4単位】 ・専門科目（特別研究）4単位【必修4単位】 ・自由選択科目2単位【選択2単位】 <p>専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して2単位以上を履修する。</p>														

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学研究科経済経営専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
目盤院大 科基学	イノベーション・リテラシー	1前	2			○			1						
	小計(1科目)	—	2	0	0				1	0	0	0	0	0	
科基専 目盤攻	経済経営入門演習	1前		2			○		16	15					
	小計(1科目)	—	0	2	0				16	15	0	0	0	0	
専門科目	コンシペイ ア・ヨロノ	イノベーション・コア	2前		2			○	1						
		小計(1科目)	—	0	2	0			1	0	0	0	0	0	
	トプ 研究 ジェ ク	プロジェクト研究Ⅰ	1前		2			○		24	16				
		プロジェクト研究Ⅱ	1後		2			○		24	16				
		プロジェクト研究Ⅲ	2前		2			○		24	16				
小計(3科目)		—	0	6	0				24	16	0	0	0	0	
自専 攻科 目	経済学 コース 科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○		1						
		ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
		マクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
		マクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
		産業関連論特殊研究	1前		2		○		1						
		金融論特殊研究	1前		2		○			1					
		国際金融論特殊研究	1前		2		○			1					
		環境経済学特殊研究	1前		2		○			1					
		公共経済学特殊研究	1前		2		○			1					
		計量経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○		1						
		計量経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○		1						
		国際経済学特殊研究	1前		2		○			1					
		産業組織論特殊研究	1前		2		○			1					
		法と経済学特殊研究	1前		2		○			1					
		財政学特殊研究	1前		2		○							兼1	
		租税政策特殊研究	1前		2		○							兼1	
		地域経済論特殊研究	1前		2		○				1				
		地域交通論特殊研究	1前		2		○				1				
		特講（交通まちづくり論）	1前		1		○				1				
		経済地理学特殊研究	1前		2		○			1					
		社会政策論特殊研究	1前		2		○			1					
		労働と福祉特殊研究	1前		2		○			1					
		開発経済学特殊研究	1前		2		○			1					
		経済政策特殊研究	1前		2		○			1					
		現代資本主義特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1				
		現代資本主義特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
		地域政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1				
		地域政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
		経済思想史特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
		経済思想史特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
		日本経済史特殊研究	1前		2		○				1				
		日本経営史特殊研究	1前		2		○				1				
日本経済論特殊研究	1前		2		○			1							
世界経済論特殊研究	1前		2		○			1							
比較経済史特殊研究	1前		2		○				1						
欧州経済論特殊研究	1前		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 自専攻科目	経済学 コース科目	アメリカ経済論特殊研究	1前	2		○			1								
	アジア経済論特殊研究Ⅰ	1前	2		○			1									
	アジア経済論特殊研究Ⅱ	1後	2		○			1									
	朝鮮近代史特殊研究	1前	2		○			1									
	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	1前	2		○			1									
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	1後	2		○			1									
	比較社会論特殊研究	1前	2		○			1	1								
	小計(43科目)	—	0	85	0	—			10	10	0	0	0	兼1	—		
	経営学 コース科目	管理会計論特殊研究	1前	2		○			1								
	コスト・マネジメント特殊研究	1後	2		○			1									
	価値創造会計特殊研究Ⅰ	1前	2		○			1									
	価値創造会計特殊研究Ⅱ	1後	2		○			1									
	財務諸表論特殊研究Ⅰ	1前	2		○				1								
	財務諸表論特殊研究Ⅱ	1後	2		○				1								
	財務報告論特殊研究Ⅰ	1前	2		○				1								
	財務報告論特殊研究Ⅱ	1後	2		○				1								
	租税法特殊研究Ⅰ	1前	2		○				1								
	租税法特殊研究Ⅱ	1後	2		○				1								
	会計実務特殊研究Ⅰ	1前	2		○				1								
	会計実務特殊研究Ⅱ	1後	2		○				1								
	特講(実務租税法Ⅰ)	1前	2		○									兼1			
	特講(実務租税法Ⅱ)	1後	2		○									兼1			
	特講(知的財産の応用)	1前	1		○					1							
	特講(マーケティング概論)	1前	1		○				1								
	特講(社会課題とマーケティング)	1前	1		○				1								
	特講(マネジメント概論)	1前	1		○					1							
	特講(組織論)	1前	1		○					1							
	特講(競争戦略)	1前	1		○				1								
	特講(ビジネス・イノベーション)	1前	1		○				1								
	特講(地域企業経営)	1前	1		○					1							
	特講(地域デザイン)	1前	1		○					1							
	特講(組織行動)	1前	1		○					1							
	特講(ビジネス統計)	1前	1		○					1							
特講(マーケティング・リサーチ)	1前	1		○									兼1				
特講(データサイエンス基礎)	1前	1		○									兼1				
特講(コーポレート・ファイナンス)	1前	1		○				1									
特講(人的資源管理)	1前	1		○				1									
特講(リーダーシップ)	1前	1		○				1									
小計(30科目)	—	0	44	0	—			7	6	0	0	0	兼2	—			
コース 共通科目	特設外国語 英語Ⅰ	1前	2		○			1									
	特設外国語 英語Ⅱ	1前	2		○			1									
	特設外国語 英語Ⅲ	1後	2		○			1									
	特設外国語 英語Ⅳ	1後	2		○			1									
	特設外国語 ロシア語Ⅰ	1前	2		○				1								
	特設外国語 ロシア語Ⅱ	1後	2		○				1								
	特設外国語 中国語Ⅰ	1前	2		○				1								
	特設外国語 中国語Ⅱ	1後	2		○				1								
	特設外国語 韓国朝鮮語	1前	2		○				1								
	特設外国語 日本語Ⅰ	1前	2		○				1								
	特設外国語 日本語Ⅱ	1後	2		○				1								
小計(11科目)	—	0	22	0	—			8	1	0	0	0	0	0	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化 専攻科目	人間文化創造特論	1前		2		○									兼2 オムニ パス
	現代日本語特論	1前		2		○									兼1
	地域言語特論	1前		2		○									兼1
	日本近代文学特論	1後		2		○									兼1
	比較文学特論	1後		2		○									兼1
	日本古典文学特論	1前		2		○									兼1
	日本文学特論	1後		2		○									兼1
	漢文学特論	1前		2		○									兼1
	中国思想特論	1前		2		○									兼1
	国語科教育特論	1後		2		○									兼1
	国語科教育実践研究 I	1前		2			○								兼1 隔年
	英語意味論特論	1前		2		○									兼1
	英語構造論特論	1前		2		○									兼1
	社会言語学特論	1前		2		○									兼1
	現代アメリカ文化特論	1前		2		○									兼1
	初期近代英米文学特論	1前		2		○									兼1
	近代英米文学特論	1前		2		○									兼1
	英語教育学特論	1前		2		○									兼1
	英語教育学特論演習	1後		2			○								兼1
	英語教育学研究 I	1後		2			○								兼1 隔年
	英語教育学研究 II	1後		2			○								兼1 隔年
	第二言語習得特論	1前		2		○									兼1
	第二言語習得特論演習	1後		2			○								兼1
	第二言語習得研究 I	1後		2			○								兼1 隔年
	第二言語習得研究 II	1後		2			○								兼1 隔年
	英語教育実践特論	1前		2		○									兼1
	英語教育実践特論演習	1後		2			○								兼1
	英語教育実践研究 I	1後		2			○								兼1 隔年
	英語教育実践研究 II	1後		2			○								兼1 隔年
	外国文化特論	1前		2		○									兼1
	日本社会文化史特論 I	1前		2		○									兼1 隔年
	日本社会文化史特論 II	1前		2		○									兼1 隔年
	日本地域文化史特論演習 I	1後		2			○								兼1 隔年
	日本地域文化史特論演習 II	1後		2			○								兼1 隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論 I	1前		2		○									兼1 隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論 II	1前		2		○									兼1 隔年
	ヨーロッパ地域文化史特論演習 I	1後		2			○								兼1 隔年
	ヨーロッパ地域文化史特論演習 II	1後		2			○								兼1 隔年
	自然災害特論 I	1前		2		○									兼1 隔年
	自然災害特論 II	1前		2		○									兼1 隔年
	環境地理学特論演習 I	1後		2			○								兼1 隔年
	環境地理学特論演習 II	1後		2			○								兼1 隔年
	地域と文化特論 I	1前		2		○									兼1 隔年
	地域と文化特論 II	1前		2		○									兼1 隔年
	地域復興・振興特論演習 I	1後		2			○								兼1 隔年
地域復興・振興特論演習 II	1後		2			○								兼1 隔年	
観光産業特論 I	1前		2		○									兼1 隔年	
観光産業特論 II	1前		2		○									兼1 隔年	
地域経済特論演習 I	1後		2			○								兼1 隔年	
地域経済特論演習 II	1後		2			○								兼1 隔年	
コミュニティ文化特論 I	1前		2		○									兼1 隔年	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学 研究科人間文化 専攻科目	コミュニティ文化特論Ⅱ	1前	2		○									兼1	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅰ	1後	2				○								兼1	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅱ	1後	2					○							兼1	隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅰ	1前	2			○									兼1	隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅱ	1前	2			○									兼1	隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅰ	1後	2					○							兼1	隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅱ	1後	2					○							兼1	隔年
	食品科学特論	1前	2			○									兼1	
	食物学研究	1後	2					○							兼1	
	食生活特論	1前	2			○									兼1	
	食生活支援研究Ⅰ	1後	2					○							兼1	隔年
	食生活支援研究Ⅱ	1後	2					○							兼1	隔年
	衣生活特論	1前	2			○									兼1	
	衣生活支援研究Ⅰ	1後	2					○							兼1	隔年
	衣生活支援研究Ⅱ	1後	2					○							兼1	隔年
	家庭科教育特論	1前	2			○									兼1	
	家庭科カリキュラム特論演習	1後	2					○							兼1	
	家庭科教育実践研究Ⅰ	1前	2					○							兼3	隔年・ オムニ パス
	家庭科教育実践研究Ⅱ	1前	2					○							兼3	隔年・ オムニ パス
	生涯生活マネジメント特論	1後	2				○								兼1	隔年
	身体教育とスポーツ文化特論	1前	2				○								兼1	
	現代スポーツ特論演習	1後	2					○							兼1	
	スポーツ社会政策特論	1前	2				○								兼1	
	スポーツクラブマネジメント特論演習	1後	2					○							兼1	
	スポーツ医学特論	1前	2				○								兼1	
	健康科学と運動処方特論	1後	2				○								兼1	
	スポーツバイオメカニクス特論	1前	2				○								兼1	
	運動学特論	1後	2				○								兼1	
	運動生理学特論	1前	2				○								兼1	
	健康指導特論演習	1後	2					○							兼1	
	武道文化特論	1前	2				○								兼1	
	武道文化特論演習	1後	2					○							兼1	
	保健体育科教育特論	1前	2				○								兼1	
	保健体育授業づくり特論	1後	2				○								兼1	
	現代声楽演奏特論演習	1前	2					○							兼1	
	声楽演奏特論演習	1後	2					○							兼1	
	オペラ特論演習	2前	2					○							兼1	
	音楽科教育特論	1前	2				○								兼1	
	音楽科カリキュラム特論演習	1後	2					○							兼1	
	音楽科教育実践研究Ⅰ	1前	2					○							兼1	隔年
音楽科教育実践研究Ⅱ	1前	2					○							兼1	隔年	
絵画特論	1前	2				○								兼1		
絵画特論演習Ⅰ	1前	2					○							兼1		
彫刻特論	1後	2				○								兼1		
彫刻特論演習Ⅰ	1前	2					○							兼1		
日本美術史特論	1後	2				○								兼1		
西洋美術史特論	1前	2				○								兼1		
美術科教育特論	1前	2				○								兼1		
美術科カリキュラム特論演習	1後	2					○							兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	美術科教育実践研究Ⅰ	1前	2			○								兼1	隔年	
		美術科教育実践研究Ⅱ	1前	2			○								兼1	隔年	
		教育心理学特論演習	1前	2			○								兼1		
		認知教育方法特論	1前	2			○								兼1		
		認知教育方法特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		認知教育方法特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		発達心理学特論	1前	2			○								兼1		
		発達心理学特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		発達心理学特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		発達心理学特論演習Ⅲ	2前	2			○								兼1		
		乳幼児・小学生の心理学特論	1後	2			○								兼1		
		乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ	2前	2			○								兼1		
		中学生・高校生の心理学特論	1前	2			○								兼1		
		人間理解特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		人間理解特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		人間理解特論演習Ⅲ	2前	2			○								兼1		
		実験心理学特論	1前	2			○								兼1		
		実験心理学特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		実験心理学特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		実験心理学特論演習Ⅲ	2前	2			○								兼1		
		幼児心理学特論	1前	2			○								兼1		
		幼児心理学特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		幼児教育学特論	1前	2			○								兼1		
		幼児教育学特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		幼児教育内容特論	1前	2			○								兼1		
		幼児教育内容特論演習Ⅰ	1前	2			○								兼1		
		幼児教育内容特論演習Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		小計(129科目)	—	0	258	0	—			0	0	0	0	0	0	兼47	—
		他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	憲法Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
				憲法特論Ⅰ	1後	2			○							兼1	隔年
				憲法Ⅱ	1前	2			○							兼1	隔年
				憲法特論Ⅱ	1後	2			○							兼1	隔年
				刑事法学	1前	2			○							兼1	隔年
				司法福祉政策	1後	2			○							兼1	隔年
				地方自治法Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
				地方自治法Ⅱ	1後	2			○							兼1	隔年
				国際法Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
				国際法Ⅱ	1後	2			○							兼1	隔年
				行政法Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
				行政法Ⅱ	1後	2			○							兼1	隔年
				民法特論Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
				民法特論Ⅱ	1後	2			○							兼1	隔年
				消費者法	1前	2			○							兼1	隔年
				財産法特論	1後	2			○							兼1	隔年
				法社会学Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年
法社会学Ⅱ	1後			2			○							兼1	隔年		
民事手続法	1前			2			○							兼1	隔年		
民事救済法	1後			2			○							兼1	隔年		
商法Ⅰ	1前	2			○							兼1	隔年				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学 商法Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	労働法・社会保障法Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	労働法・社会保障法Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地方行政	1前		2		○								兼1	隔年	
	地方制度	1後		2		○								兼1	隔年	
	行政学Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	行政学Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	比較政治Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	比較政治Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	国際政治Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	国際政治Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	政治学原論	1前		2		○								兼1	隔年	
	現代政治論	1後		2		○								兼1	隔年	
	社会計画Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	社会計画Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域環境論Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域環境論Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	社会調査Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	社会調査Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域福祉論Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域福祉論Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	社会と情報Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	社会と情報Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会とジェンダーⅠ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会とジェンダーⅡ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と歴史Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と歴史Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と歴史Ⅲ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と歴史Ⅳ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と考古学Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と考古学Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と社会教育Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会と社会教育Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会の国際化と言語Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会の国際化と言語Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	国際交流研究Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	国際交流研究Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	ヨーロッパ文化研究Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	ヨーロッパ文化研究Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	英米文化研究Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	英米文化研究Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	社会の基礎理論Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	社会の基礎理論Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	メディア論Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	メディア論Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	地域社会学Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	地域社会学Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	都市計画特論Ⅰ	1前		2		○								兼1	隔年	
	都市計画特論Ⅱ	1後		2		○								兼1	隔年	
	小計(70科目)		—	0	140	0	—			0	0	0	0	0	兼35	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目 他専攻科目	共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻	生産システム最適化特論Ⅰ	1前		2		○										兼1	
		物性物理学特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		メカトロニクス特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		物性物理学特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		メカトロニクス特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		分析化学特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		分析化学特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		環境微生物学特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		分子生態学特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		流域水管理特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		流域水循環特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		地下水盆管理計画特論Ⅰ	1前		2		○											兼1
		環境微生物学特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		分子生態学特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		流域水管理特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		流域水循環特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
		地下水盆管理計画特論Ⅱ	1後		2			○										兼1
	小計(17科目)		—	0	34	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼9
	共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	環境放射能学Ⅰ	1前		2		○											兼6
		環境放射能学Ⅱ	1後		2		○											兼6
		核種分析学	1前		2		○											兼2
		原子力災害学	1前		2		○											兼5
		放射生態学	1前		2		○											兼6
		水圏放射生態学	1後		2		○											兼1
		森林放射能学	1後		2		○											兼1
		動物生態学	1後		2		○											兼1
		陸域放射能動態学	1後		2		○											兼1
		移動現象論	1後		2		○											兼1
		放射能モデリング学特論	1後		2		○											兼1
		海洋放射能動態学特論	1後		2		○											兼1
		陸域生物圏放射能動態学	1後		2		○											兼1
		放射能等の分離技術	1後		2		○											兼1
		放射線計測工学特論	1後		2		○											兼1
小計(15科目)		—	0	30	0			—		0	0	0	0	0	0	0	兼14	
食農科学研究科食農科学専攻科目	先端食品科学	1前		1		○											兼10	
	先端農業生産科学	1前		1		○											兼10	
	先端生産環境科学	1前		1		○											兼10	
	先端農業経営科学	1前		1		○											兼7	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	専攻科目	復興知と農業・食料のイノベーション	1後	2			○								兼7	オムニバス・共同(一部)
	専攻科目	アグロエコロジー	1後	2			○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		小計(6科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	兼37	—
特別演習		経済経営特別演習Ⅰ	1前	2				○		16	15					
		経済経営特別演習Ⅱ	1後	2				○		16	15					
		小計(2科目)	—	4	0	0	—		16	15	0	0	0	0	0	—
特別研究		経済経営特別研究Ⅰ	2前	2				○		16	15					
		経済経営特別研究Ⅱ	2後	2				○		16	15					
		小計(2科目)	—	4	0	0	—		16	15	0	0	0	0	0	—
合計(331科目)			—	10	631	0	—		24	16	0	0	0	0	兼142	—
学位又は称号		修士(経済学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
○専門性重視型の場合								1学年の学期区分		2期						
1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専門科目(特別演習)4単位、専門科目(特別研究)4単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文または特定課題の研究成果の審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限:14単位(半期))								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						
2. 修了要件について																
・大学院基盤科目2単位【必修2単位】																
・専門科目(自専攻科目)14単位【選択14単位】																
・専門科目(特別演習)4単位【必修4単位】																
・専門科目(特別研究)4単位【必修4単位】																
・自由選択科目6単位【選択6単位】:専攻基盤科目、専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して6単位以上を履修する。																
○学際性重視型の場合																
1. 専攻の修了には、大学院基盤科目2単位、専攻基盤科目2単位、専門科目(イノベーション・コア)2単位、専門科目(プロジェクト研究)6単位、専門科目(特別演習)4単位、専門科目(特別研究)4単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文または特定課題の研究成果の審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限:14単位(半期))																
2. 修了要件について																
・大学院基盤科目2単位【必修2単位】																
・専攻基盤科目2単位【必修2単位】																
・専門科目(イノベーション・コア)2単位【必修2単位】																
・専門科目(プロジェクト研究)6単位【必修6単位】																
・専門科目(自専攻科目)4単位【選択4単位】																
・専門科目(他専攻科目)4単位【選択4単位】																
・専門科目(特別演習)4単位【必修4単位】																
・専門科目(特別研究)4単位【必修4単位】																
・自由選択科目2単位【選択2単位】:専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して2単位以上を履修する。																

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文社会学群人間発達文化学類)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
【基盤教育科目】																	
接続 領域 科目	フスタ スタート アップ セミナー	1前	2					○			5	8					
	小計(1科目)	—	2	0	0			—			5	8	0	0	0	—	
	ネライ ト キャリア 形成論	1前	2					○			2	2					
	メマ 健康運動科学実習	1前	1							○						兼3	
	小計(2科目)	—	3	0	0			—			2	2	0	0	0	兼3	
	外国語 コミュニ ケー ション 科目	英語A I	1前・後	2					○								兼3
		英語A II	1前・後	2					○								兼4
		ドイツ語基礎 I	1前		1				○			1					兼1
		ドイツ語基礎 II	1後		1				○			1					兼1
		フランス語基礎 I	1前		1				○								兼3
		フランス語基礎 II	1後		1				○								兼3
		中国語基礎 I	1前		1				○			1					兼5
		中国語基礎 II	1後		1				○			1					兼5
ロシア語基礎 I		1前		1				○			1						
ロシア語基礎 II		1後		1				○			2						
韓国朝鮮語 I		1前		1				○									兼2
韓国朝鮮語 II	1後		1				○			1							
小計(12科目)	—	4	10	0			—			8	0	0	0	0	兼18		
教養 領域 科目	倫理学	1後		2				○			1						
	心理学 I	1前		2				○			1						
	言語・文学 I	1後		2				○			2	1				隔年	
	音楽	1後		2				○								兼1	
	美術	1前		2				○								兼1	
	教育と文化	1後		2				○								隔年	
	ことばの仕組み	1後		2				○								兼1	
	精神疾患とその治療	1前		2				○								兼1	
	哲学 I	1後		2				○								隔年	
	心理学 II	1後		2				○				1					
	言語・文学 II	1後		2				○			2	1				隔年	
	言語・文学 III	1前		2				○			2					隔年	
	哲学 II	1後		2				○								兼1	
	小計(13科目)	—	0	26	0			—			8	3	0	0	0	兼7	
学術 基礎 科目 ・ 社会 科学 分野	経済学 I	1後		2				○								兼1	
	地理学 I	1前		2				○								隔年	
	社会論	1後		2				○								兼1	
	ジェンダー学入門	1前		2				○								兼1	
	政治学	1後		2				○								兼1	
	歴史学 II	1後		2				○				1				兼2	
	日本国憲法	1後		2				○								兼2	
	市民と法	1前		2				○								兼1	
	農業と人間	1後		2				○			1						
	地域論 I	1前		2				○								兼1	
	経済学 II	1前		2				○								兼1	
	若者・学校・社会	1前		2				○								兼1	
	経営学	1前		2				○								兼1	
	歴史学 I	1前		2				○				1				兼2	
小計(14科目)	—	0	28	0			—			1	2	0	0	0	兼15		
学術 基礎 科目 ・ 自然 科学 分野	環境の科学 I	1前		2				○								兼3	
	環境の科学 II	1後		2				○								兼3	
	ちからとうごき	1後		2				○								兼1	
	食と健康	1前		2				○			1						
	物質の科学	1後		2				○								兼1	
	生命の科学	1後		2				○								兼1	
	食品の機能	1前		2				○			1					隔年	
	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	1後		2				○								兼1	
	マセマティカル・サイエンス	1前		2				○								兼2	
	教養の数学	1前		2				○								兼1	
	情報化と経営	1後		2				○								兼2	
小計(11科目)	—	0	22	0			—			1	1	0	0	0	兼13		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養領域科目	科目 キャリア設計	教職入門(キャリアモデル学習Ⅰ)	2前	2		○				3					兼3 共同・集中	
		キャリアモデル学習Ⅱ	2前	2		○			5	1						
		インターンシップ	3前	1~2				○		2						
		ワーキングスキル	2後	1~2				○								
		小計(4科目)	—	0	6~8	0	—	—	7	4	0	0	0	0		兼3
	科運健 目動康・	スポーツ実習	1後		1				○							兼3
		小計(1科目)	—	0	1	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	
	外国語科目	英語BⅠ	2前・後		2		○			3						兼6
		英語BⅡ	2前・後		2		○			3						兼6
		応用英語	1前・後		2		○									兼5
ドイツ語基礎(特設)Ⅰ		1前		1		○			1						兼2	
ドイツ語基礎(特設)Ⅱ		1後		1		○			1						兼2	
フランス語基礎(特設)Ⅰ		1前		1		○									兼4	
フランス語基礎(特設)Ⅱ		1後		1		○									兼4	
中国語基礎(特設)Ⅰ		1前		1		○									兼4	
中国語基礎(特設)Ⅱ		1後		1		○									兼4	
ロシア語基礎(特設)Ⅰ		1前		1		○									兼2	
ロシア語基礎(特設)Ⅱ		1後		1		○									兼2	
朝鮮韓国語基礎(特設)Ⅰ		1前		1		○									兼2	
朝鮮韓国語基礎(特設)Ⅱ		1後		1		○									兼2	
ドイツ語応用Ⅰ		2前		1		○			1						兼1	
ドイツ語応用Ⅱ		2後		1		○			1						兼1	
フランス語応用Ⅰ		2前		1		○									兼2	
フランス語応用Ⅱ		2後		1		○									兼2	
中国語応用Ⅰ		2前		1		○									兼5	
中国語応用Ⅱ		2後		1		○									兼5	
ロシア語応用Ⅰ		2前		1		○									兼2	
ロシア語応用Ⅱ	2後		1		○									兼2		
朝鮮韓国語応用Ⅰ	2前		1		○									兼2		
朝鮮韓国語応用Ⅱ	2後		1		○									兼2		
小計(23科目)	—	0	26	0	—	—	7	0	0	0	0	0	兼35	—		
科情 目報	情報リテラシー	1前・後		2		○									兼4	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4		
問題探究領域科目	ポランディア論	1前		2		○			1						兼2	
	福島のブランド農業	1前		2		○									兼1	
	暮らしと仕事と大学生	1前		2		○									兼1	
	社会とデータの基礎	1前		2		○									兼3	
	都市生活と「まちづくり」	1前		2		○									兼1	
	生活探究演習	1前		2		○									兼3	
	大学で学ぶ	1前		2		○									兼1	
	哲学カフェ	1前		2		○			1							
	グローバル災害論	1前		2		○									兼1	
	ふくしま未来学入門Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	評価論入門	1後		2		○									兼1	
	環境放射能学入門	1後		2		○									兼1	
	災害復興支援学Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	震災農村復興論	1後		2		○									兼2	
	データ分析入門	1後		2		○									兼1	
	地域と世界の未来をつくる科学と数学	1後		2		○									兼1	
	ふくしま未来学入門Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	立ち直り支援と地域社会	1後		2		○									兼1	
	むらの大学A	1後		2		○									兼2	
	むらの大学B	1後		2		○									兼2	
	むらの大学C	1後		2		○									兼1	
小計(21科目)	—	0	42	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼27	—		
グ ラ ブ 自 主 学 修 プ ロ グ ラ ム	自主学修プログラム	1前			1~2		○		2	3						
	小計(1科目)	—	0	0	1~2	—	—	2	3	0	0	0	0		—	
ナ ー イ ン ク エ ス ト ナ ー イ ン ク エ ス ト ナ ー イ ン ク エ ス ト	問題探究セミナーⅠ	1後	2				○		6	6						
	小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	6	6	0	0	0	0		—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
【専門教育科目】																
学類基礎領域	問題探究セミナーⅡ	2前	2					○		9	3					
	小計（1科目）	—	2	0	0			—		9	3	0	0	0	0	—
	保育内容（環境）	1前		2			○			1	1					隔年、オムニバス
	保育内容（健康）	2後		2			○			1						隔年
	保育内容（言葉）	1後		2			○			1						
	保育内容（人間関係）	2後		2			○				1					
	保育内容（表現Ⅰ）	2後		2			○			1						
	保育内容（表現Ⅱ）	3前		2			○									兼1
	幼児と音楽A	2前		2			○			1						
	幼児と音楽B	2前		2			○			1						
	幼児とことば	2後		2			○			2	1					隔年、オムニバス
	幼児と造形	2前		2			○									兼1
	幼児と体育	3前		2			○			1						
	幼児と環境	2後		2			○			2						共同
	幼児と人間関係A	3前		2			○				1					
	幼児と人間関係B	3前		2			○			1						
	幼児と人間関係C	3前		2			○			1						
	音楽科学習指導論A	2前		2			○			1						
	音楽科学習指導論B	2後		2			○			1						
	家庭科学習指導論A	2前		2			○			1						
	家庭科学習指導論B	2後		2			○			1						
	家庭科の実習指導	2後		2			○			4						オムニバス
	国語科学習指導論A	2前		2			○			1						
	国語科学習指導論B	2後		2			○			1						
	子どもと外国語	2前		2			○			5	2					オムニバス
	子どもとことば	2前		2			○			2						兼1
	子どもと自然A	1後		2			○				2					オムニバス
	子どもと自然B	2前		2			○				2					オムニバス
	子どもの音楽表現A	2前		2			○									兼1
	子どもの音楽表現B	2前		2			○									兼1
	子どもの音楽表現C	2前		2			○			4						
	子どもの健康と運動A	2後		2			○					1				
	子どもの健康と運動B	2後		2			○					1				
	子どもの生活と遊び	3後		2			○			1						
	子どもの造形活動A	1後		2			○			1						兼1
	子どもの造形活動B	1後		2			○			1						
	子どもの造形活動C	1後		2			○			1						
	子どもを取り巻く社会	2後		2			○			1						
	算数科学習指導論A	2前		2			○			1						兼1
	算数科学習指導論B	2後		2			○			1						
	社会科学習指導論A	2後		2			○			1						
	社会科学習指導論B	2前		2			○			1						
	小学校外国語学習指導論A	2前		2			○			1						
	小学校外国語学習指導論B	2前		2			○				1					
	図工科学習指導論A	2前		2			○			1						
	図工科学習指導論B	2後		2			○			1						
	生活科学習指導論A	3後		2			○			1						
生活科学習指導論B	3後		2			○			1							
生活の科学	2前		2			○			3							
生活の中の数と図形A	2前		2			○			1							
生活の中の数と図形B	2後		2			○			1							
造形表現基礎	1後		2			○			2							
体育科学習指導論A	2前		2			○			1		1				オムニバス	
体育科学習指導論B	2前		2			○			1		1				オムニバス	
理科学習指導論A	2前		2			○			2	2						
理科学習指導論B	2後		2			○			2	2						
理科学習指導論C	2前		2			○			2	2						
理科の実験指導A	2後		2			○			2							
理科の実験指導B	2後		2			○			2							
英語科教育法Ⅰ	2後		2			○			1							
英語科教育法Ⅱ	3前		2			○				1						
英語科教育法Ⅲ	3後		2			○			1							
英語科教育法Ⅳ	3前		2			○			1							
音楽科教育法Ⅰ	2前		2			○			1							
音楽科教育法Ⅱ	2後		2			○			1							
音楽科教育法Ⅲ	3後		2			○			1							
音楽科教育法Ⅳ	3前		2			○			1							
家庭科教育法Ⅰ	2後		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学類基礎領域	小コース専任の科目(1内容)に関する科目・幼	家庭科教育法Ⅱ	3前	2	0	○			1							
		家庭科教育法Ⅲ	3後	2	0	○			1							
		家庭科教育法Ⅳ	3前	2	0	○			1							
		国語科教育法Ⅰ	2後	2	0	○			1							
		国語科教育法Ⅱ	2前	2	0	○			1							
		国語科教育法Ⅲ	3後	2	0	○			1							
		国語科教育法Ⅳ	3前	2	0	○			2							オムニバス
		社会科教育法Ⅰ	2後	2	0	○			1							
		社会科教育法Ⅱ	3前	2	0	○			1							
		社会科教育法Ⅲ	3前	2	0	○									兼1	
		社会科教育法Ⅳ	3前	2	0	○			1							
		数学科教育法Ⅰ	2後	2	0	○			1							
		数学科教育法Ⅱ	3前	2	0	○			1							
		数学科教育法Ⅲ	3後	2	0	○			1							兼1
		数学科教育法Ⅳ	3前	2	0	○			1							オムニバス
		美術科教育法Ⅰ	2後	2	0	○										兼1
		美術科教育法Ⅱ	3前	2	0	○										兼1
		美術科教育法Ⅲ	3後	2	0	○										兼1
		美術科教育法Ⅳ	3前	2	0	○										兼1
		保健体育科教育法Ⅰ	2後	2	0	○						1				
保健体育科教育法Ⅱ	3前	2	0	○						1						
保健体育科教育法Ⅲ	3後	2	0	○												
保健体育科教育法Ⅳ	3前	2	0	○						1				兼1		
小計(89科目)		—	0	178	0	—	—	36	6	1	0	0	兼11	—		
コース専門科目(2)教育実践コース専門科目	外国の教育	2前		2	0	○				1						
	学校と教育の歴史	2後		2	0	○			1							
	学校の運営	2後		2	0	○			1						隔年	
	カリキュラム・教育方法論	2後		2	0	○				1						
	教育課程論	2前		2	0	○				1					隔年	
	教育行政学	2前		2	0	○								兼1		
	教育社会学	2後		2	0	○			1						隔年	
	教育社会研究	2後		2	0	○		○	1							
	教育と社会A	3前		2	0	○			1							
	教育と社会B	3後		2	0	○									兼1	
	教育の方法・課程論A	2後		2	0	○				1						
	教育の方法・課程論B	2前		2	0	○			1	1						
	教職概論	2後		2	0	○			2						オムニバス	
	子ども社会と学校	2前		2	0	○			1						隔年	
	子どもと道徳	2後		2	0	○			1							
	子どもと特別活動	3前		2	0	○									兼1	
	社会教育課題研究Ⅰ	3通		2	0	○		○	1						隔年	
	社会教育課題研究Ⅱ	3通		2	0	○		○	1						隔年	
	社会教育課題研究	3前		2	0	○		○	1							
	社会教育経営論Ⅰ	3前		2	0	○									兼1	
	社会教育経営論Ⅱ	3前		2	0	○									兼1	
	社会教育計画論Ⅰ	3前		2	0	○									兼1	
	社会教育計画論Ⅱ	3前		2	0	○									兼1	
	社会教育実習	3前		2	0	○			1							
	社会教育の基礎	2前		2	0	○			1						隔年	
	生涯学習社会と学校・家庭・地域	2前		2	0	○			1						隔年	
	生涯学習支援論Ⅰ	2前		2	0	○									兼1	
	生涯学習支援論Ⅱ	2前		2	0	○									兼1	
	授業分析法	2後		2	0	○									隔年	
	生徒・進路指導論A	2前		2	0	○				1					兼1	
	生徒・進路指導論B	2後		2	0	○									兼1	
	生徒指導・教育相談の基礎	2前		2	0	○			1							
	西洋教育思想	2後		2	0	○				1						
	道徳指導論A	3前		2	0	○			1							
	道徳指導論B	3後		2	0	○			1							
	特別活動	3後		2	0	○									兼1	
	日本教育史	2前		2	0	○									兼1	
	人間と教育A	2前		2	0	○			1							
	人間と教育B	2後		2	0	○				1						
小計(39科目)		—	0	78	0	—	—	11	3	0	0	0	兼7	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学類基礎領域	コース専門科目(3)心理学・幼児教育コース専門科目	関係行政論	1後	2		○			3	1					兼1	オムニバス		
		感情・人格心理学	2前	2		○									兼1			
		基礎心理学Ⅰ(学習・言語心理学)	2後	2		○			1						兼1			
		基礎心理学Ⅱ(神経・生理心理学)	2後	2		○				1					兼1			
		キャリア教育論(進路指導と教育相談)	3前	2		○				1					兼1			
		教育・学校心理学	2前	2		○			1								3年に2回	
		教育心理学	2前	2		○			1								3年に2回	
		教育相談	3前	2		○				1								
		子ども理解と指導援助	3後	2		○			1									
		教育相談の心理(臨床心理学概論)	2後	2		○				1								
		健康・医療心理学	3前	2		○											兼1	
		公認心理師の職責	1前	2		○			3	1							兼1	
		サイコロジナウ	2後	2		○			1								オムニバス	
		産業・組織心理学	2後	2		○											兼1	
		児童期の発達心理学	2前	2		○											兼1	
		司法・犯罪心理学	3前	2		○			1									
		社会・集団・家族心理学	2前	2		○			1									
		障害者・障害児心理学	2後	2		○			1									
		神経・生理心理学Ⅰ	3後	2		○			1									
		心理演習	3前	2				○		3	1							オムニバス
		心理学概論	2前	2				○		1								
		心理学研究法	3前	2				○		1								
		心理学実験	1後	2						1								
		心理学実践演習Ⅰ	3前	2					○	1								
		心理学実践演習Ⅱ	3後	2					○		1							
		心理学的支援法	2前	2				○			1							
		心理学統計法	2後	2				○		1								
		心理実習(3年次～4年次)	3後～4前	2						○	3	1						オムニバス
		心理的アセスメント	3前	2				○			1							
		青年心理学	2後	2				○			1							
		知覚・認知心理学Ⅰ	2前	2				○			1							
		知覚・認知心理学Ⅱ	2前	2				○									兼2	
		特別活動の理論と方法	3前	2				○			1						隔年、共同	
		認知臨床心理学	3前	2				○			1							
		発達心理学	2前	2				○			1							3年に2回
		福祉心理学	2前	2				○									兼1	
		家族支援論	3後	2				○									兼1	
		子育て支援論	3前	1				○			1							
		子どもの健康と安全	3前	1				○			1							
		子どもの食と栄養	2後	2				○									兼1	
		児童福祉概論	1後	2				○				1						
		社会的養護	2前	2				○									兼1	
		社会的養護内容	3後	2				○									兼1	
		社会福祉論	2後	2				○									兼1	
		障害児保育論	2前	2				○									兼1	
		総合表現(劇)	3後	2				○			2						隔年共同	
		乳児保育演習	3前	1					○			1						
		保育カリキュラム論	3後	2				○				1						
		保育原理	1後	2				○				1						
		保育内容総論	2後	1				○			1							
		保育方法実践論	3前	2				○			1							
		幼児教育・保育者論の歴史と思想	1後	2				○				1						
		幼児発達心理学	1前	2				○			1							
		幼児理解・教育相談の理論と方法	3前	2				○			1							
		幼児理解と援助	3前	1				○			1							
小計(55科目)	—	—	0	105	0	—	—	—	8	2	0	0	0	兼15	—			
生活科学専門科目(4)特別支援	視覚障害教育総論	2前		2		○								兼1	共同共同			
		2後		2		○			1									
		1後		2		○			1									
		2後		2		○			3	1								
		3前		2		○			3	1								
		3後		2		○				1								
		2前		2		○				1								
		3前		2		○				1								
		2前		2		○					1							
		2後		2		○				1								
		1前		2		○				1								
2前		2		○				1					兼1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学類基礎領域	コース専門科目(4)特別支援・生活科学コース専門科目	重複障害・軽度発達障害教育総論	2後	2		○			1						兼1 オムニバス 兼1 隔年 兼1 兼1 隔年 兼1 兼5	
		特別支援教育概論	1前	2		○			1	1						
		特別支援教育入門	1後	1		○			1	1						
		病弱児・健康障害児の教育	2前	2		○										
		病弱者の生理・病理・心理	2前	2		○			1							
		衣服学概論及び実習	2前	2				○	1							
		衣服デザイン実習	2後	2				○	1							
		衣服のデザインと機能	2後	2			○		1							
		栄養機能科学	3前	2			○		1							
		家族と家庭	2前	2			○		1							
		暮らしと技術	2後	2			○		1							
		住環境学	3前	2			○									
		住居学実習	2前	1					○							
		住生活学	2後	2			○									
		食生活論	1後	2			○			1						
		食と健康	1前	2			○			1						
		食品加工学概論及び実習	2後	2					○	1						
		食物学	2後	2			○			1						
		生活科学実験	3後	2					○	1						
		生活経営学	2後	2			○			1						
		調理学及び基礎実習	2前	2					○	1						
調理実習	2後	2					○	1								
人間と衣服	3前	2			○			1								
保育学	2前	2			○											
小計(36科目)	—	0	70	0	—			7	1	0	0	0	兼5	—		
コース専門科目(5)芸術・表現コース専門科目		音楽学概論	2前	2		○								兼1		
		音楽史 I	2前	2		○								兼1	3年に1回	
		音楽史 II	2後	2		○								兼1	3年に1回	
		音楽美学	2後	2		○								兼1	3年に1回	
		合唱 I	2前	2					○					兼1	隔年	
		合唱 II	2後	1					○					兼1	隔年	
		合奏	2後	1					○					兼1		
		管楽器特講	2前	2					○					兼1		
		キーボード実習	3前	2					○		1					
		器楽アンサンブル	2前	2					○					兼1	隔年	
		器楽演奏研究 I	1前	2					○					兼1	隔年	
		器楽演奏研究 II	1後	2					○					兼1	隔年	
		器楽基礎 I	1前	1					○					兼1	隔年	
		器楽基礎 II	1後	1					○					兼1	隔年	
		形式学基礎	2前	2			○			1						
		形式学研究	2後	2			○			1						
		弦楽器特講	3前	1					○						兼1	
		コンピュータ・ミュージック	2前	2			○			1						
		作曲基礎 I	1前	1					○		1					
		作曲基礎 II	1後	1					○		1					
		指揮法基礎	3前	1					○		1					
		指揮法研究	3後	1					○		1					
		声楽アンサンブル I	3前	2					○		1				隔年	
		声楽アンサンブル II	3後	2					○		1				隔年	
		声楽演奏研究 I	2前	2					○		1					
		声楽演奏研究 II	2後	2					○		1					
		声楽基礎 I	1前	1					○		1					
		声楽基礎 II	1後	1					○		1					
		ソルフェージュ I	1前	1					○		1					
		ソルフェージュ II	1後	1					○		1					
		ソルフェージュ III	2前	1					○		1					
		ソルフェージュ IV	2後	1					○		1					
		対位法研究	2前	2			○			1					隔年	
		日本楽器	1前	1					○						兼1	隔年
		ピアノアンサンブル I	3前	2					○		1				隔年	
		ピアノアンサンブル II	3前	2					○		1				隔年	
ピアノ演奏研究 I	2前	2					○		1							
ピアノ演奏研究 II	2後	2					○		1							
ピアノ基礎 I	1前	1					○		1							
ピアノ基礎 II	1後	1					○		1							
ポピュラー音楽論	3前	2			○			1								
映像メディア論	2前	2			○			1					隔年			
絵画 I	1後	2					○		1							
絵画 II	2前	2					○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学類基礎領域	絵画演習旅行	2前		2				○		1						兼1	隔年	
	絵画技法特講	1前・後		2				○									隔年	
	絵画研究Ⅰ	3前		2				○		1							隔年	
	鑑賞教育	3前		2			○				1						隔年	
	芸術学Ⅰ	3前		2			○				1						隔年	
	芸術学Ⅱ	3後		2			○				1						隔年	
	芸術企画演習Ⅰ	2前		2				○		1							隔年	
	芸術と環境	3前		2			○			1							隔年	
	現代アートマネジメント	1前		2			○			1							隔年	
	現代の美術	3後		2			○				1						隔年	
	工芸基礎	1後		1					○							兼1	隔年	
	工芸デザインⅠ	2前		2					○							兼1	隔年	
	工芸デザインⅡ	2前		2					○							兼1	隔年	
	工芸デザイン研究Ⅰ	2前		2					○							兼1	隔年	
	視覚デザインⅠ	2前		2					○							兼1	隔年	
	視覚デザインⅡ	2後		2					○							兼1	隔年	
	視覚デザインⅢ	3前		2					○							兼1	隔年	
	素描Ⅰ	1前		1					○		1						隔年	
	素描Ⅱ	1後		1					○		1						隔年	
	彫刻Ⅰ	1前		2					○		1						隔年	
	彫刻Ⅱ	2前		2					○		1						隔年	
	彫刻Ⅲ	2後		2					○		1						隔年	
	彫刻研究Ⅰ	3前		2					○		1						隔年	
	彫刻研究Ⅱ	3後		2					○		1						隔年	
	彫刻理論	3前		2				○			1						隔年	
	版表現	2後		2					○		1						隔年	
	美術解剖学	2後		2				○			1						隔年	
	美術教育特講	4前		2				○			1						隔年	
	美術史Ⅰ	2後		2				○				1					隔年	
	美術史Ⅱ	3前		2				○				1					隔年	
美術史演習旅行	2前		2					○		1						隔年		
小計(75科目)		—	0	129	0			—		8	1	0	0	0	兼8	—		
コース専門科目(6)人文科学コース専門科目	アジア言語文化論Ⅰ	2前		2				○								兼1	隔年	
	アジア言語文化論Ⅱ	2前		2				○								兼1	隔年	
	近代文学史	1後		2				○			1						隔年	
	古代・中世文学史	2前		2				○		1							隔年	
	書道	3後		2					○							兼1	隔年	
	中国古典学概論	1前		2				○		1							隔年	
	中国文化演習Ⅰ	2後		2					○	1							隔年	
	中国文化演習Ⅱ	2前		2					○	1							隔年	
	中国文化特講	2後		2				○		1							隔年	
	中国文化論	3前		2				○		1							隔年	
	伝統言語文化論	2前		2				○		1							隔年	
	日本近代文学演習Ⅰ	2前		2					○		1						隔年	
	日本近代文学演習Ⅱ	2前		2					○			1					隔年	
	日本語学演習Ⅰ	3前		2					○		1						隔年	
	日本語学演習Ⅱ	3後		2					○		1						隔年	
	日本語学演習Ⅲ	2後		2					○		1						隔年	
	日本語学演習Ⅳ	2後		2					○		1						隔年	
	日本語学概論	2前		2				○		1							隔年	
	日本語学実習	3通		2						1							隔年	
	日本語教育学特講	3前		2				○								兼1	隔年	
	日本語教育法Ⅰ	2後		2				○								兼1	隔年	
	日本語教育法Ⅱ	2後		2				○								兼1	隔年	
	日本語教材論	3前		2				○								兼1	隔年	
	日本古典文学演習Ⅰ	2前		2					○		1						隔年	
	日本古典文学演習Ⅱ	2前		2					○		1						隔年	
	日本語の構造	2後		2				○			1						兼1	隔年
	日本語の変異	2後		2				○			1						隔年	
	日本語の歴史	3前		2				○								兼1	隔年	
	日本文学概論	1前		2				○		1		1					3年に1回	
	日本文学特講Ⅰ	2前		2				○				1					3年に1回	
日本文学特講Ⅱ	2前		2				○				1					3年に1回		
日本文学特講Ⅲ	2前		2				○			1						3年に1回		
比較文学演習Ⅰ	2後		2					○		1						隔年		
比較文学演習Ⅱ	2後		2					○			1					隔年		
異文化理解	2前		2				○				1					隔年		
英語意味論	2後		2				○				1					隔年		
英語音声学	1前		2				○									隔年		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学類基礎領域	コース専門科目(6)人文科学コース専門科目	英語学演習Ⅰ	2後	2				○				1					隔年
		英語学演習Ⅱ	3前	2				○				1					隔年
		英語学演習Ⅲ	2後	2				○				1					隔年
		英語学演習Ⅳ	3前	2				○				1					隔年
		英語学演習Ⅴ	2後	2				○			1						隔年
		英語学演習Ⅵ	3前	2				○			1						隔年
		英語学概論	2前	2				○			1						隔年
		英語語彙論	2後	2				○			1						隔年
		英語構造論	2後	2				○			1						隔年
		英語コミュニケーションⅠA	2前	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅠB	2前	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅡA	2後	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅡB	2後	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅢA	2前	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅢB	2前	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅣA	1後	1					○			1					
		英語コミュニケーションⅣB	1後	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅤ	3前	1					○								兼1
		英語コミュニケーションⅥ	3後	1					○								兼1
		英詩の韻律	1前	2				○			1						
		英文学史	1前	2				○			1						
		英文法	1前	2				○				1					
		英米文学演習Ⅰ	3前	2					○		1						
		英米文学演習Ⅱ	2後	2					○		1						
		英米文学演習Ⅲ	3前	2					○		1						
		英米文学演習Ⅳ	2後	2					○		1						
		英米文学演習Ⅴ	3前	2					○		1						
		英米文学演習Ⅵ	2後	2					○		1						
		近代英米文学	1後	2				○			1						
		現代英米文学	1後	2				○			1						
		米文学史	1前	2				○			1						
		初期近代英米文学	2後	2				○			1						
		ドイツ語圏の言語と文化	2前	2				○				1					隔年
		ヨーロッパ言語文化論	1前	2				○				1					隔年
		外国史概説	2後	2				○				1					
		外国史史料講読	2前	2				○		○			1				
		科学技術と環境の倫理学	1後	2				○			1						隔年
		気候環境と人間	2後	2				○			1						隔年
		経済学概説	1後	2				○			1						隔年
		現代社会とコミュニティ	1後	2				○			1						隔年
		現代社会と地域計画	1後	2				○			1						隔年
		現代社会と文化	1前	2				○			1						隔年
		現代日本経済論Ⅰ	2前	2				○			1						隔年
		現代日本経済論Ⅱ	2前	2				○			1						隔年
		現代日本の政治	2後	2				○									兼1
		現代の地域経済	1前	2				○									兼1
		公民科教育法Ⅰ	2前	2				○			2						
		公民科教育法Ⅱ	2後	2				○			2						
		産業社会文化論	2前	2				○			1						
		産業と経済、地域振興の地理学	2後	2				○			1						
自然災害と人間	2後	2				○			1								
自然地理学概説	2前	2				○			1								
自然と人間の哲学	2前	2				○									兼1		
社会学概説	1前	2				○			1						隔年		
人文地理学概説	1後	2				○			1								
政治学概説	2前	2				○									兼1		
政治思想史	2後	2				○									兼1		
世界地誌	2前	2				○			1						隔年		
戦争と平和の倫理学	1後	2				○			1						隔年		
地域文化の総合研究	2後	2					○		1								
地誌学概説	2前	2				○									兼1		
知識の哲学	2前	2				○									兼1		
地理学概説	2前	2				○			1						隔年		
地理学実地研究Ⅰ	1前	2					○		2								
地理学実地研究Ⅱ	1後	2					○		2								
地理歴史科教育法Ⅰ	3前	2				○			1								
地理歴史科教育法Ⅱ	3後	2				○			1	2							
哲学概説	1後	2				○									兼1		
東洋近世社会史	2前	2				○									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
学類基礎領域	コース専門科目(6)人文科学コース専	東洋古代・中世社会史	2後	2		○									兼1	隔年			
		都市とまちづくりの地理学	2前	2		○			1										
		日本近世社会史	2後	2		○				1							3年に2回		
		日本近代社会史	2前	2		○				1							3年に2回		
		日本古代中世社会史	2前	2		○				1							3年に2回		
		日本史概説	2前	2		○				1									
		日本史史料講読	2前	2		○		○		1							隔年		
		日本地誌	2前	2		○			1										
		日本の地域文化	1後	2		○			1									隔年	
		日本文化史演習旅行	1後	2		○				1								隔年	
		ヨーロッパ近世・近代史	2前	2		○				1								3年に2回	
		ヨーロッパ古代・中世史	2後	2		○				1								3年に2回	
		ヨーロッパ近・現代史	2前	2		○				1								3年に2回	
		倫理学概説	1前	2		○				1								隔年	
		小計(120科目)		—	0	230	0	—		14	6	0	0	0	兼19	—			
		コース専門科目(7)数理自然科学コース専門科目		解析学Ⅰ	2後	2		○				1					兼1		
				解析学Ⅱ	3前	2		○				1					兼1		
				解析学統論	2前	2		○				1							
				確率論・統計学	2後	2		○				1							
幾何学Ⅰ	2後			2		○			1										
幾何学Ⅱ	2前			2		○			1								隔年		
幾何学Ⅲ	2前			2		○			1								隔年		
幾何学統論Ⅰ	2後			2		○			1								隔年		
幾何学統論Ⅱ	2後			2		○			1								隔年		
基礎解析学Ⅰ	1前			2		○				1									
基礎解析学Ⅱ	1後			2		○				1									
基礎解析学Ⅲ	2前			2		○				1						兼1			
行列とベクトルⅠ	1前			2		○				1									
行列とベクトルⅡ	1後			2		○				1									
コンピュータ	2前			2		○				1									
集合と位相Ⅰ	1前			2		○				1						兼1			
集合と位相Ⅱ	1後			2		○				1						兼1			
数理統計学	3前			2		○										兼1			
線形写像と幾何Ⅰ	2前			2		○				1						兼1			
線形写像と幾何Ⅱ	2後			2		○				1						兼1			
代数学Ⅰ	1後			2		○										兼1			
代数学Ⅱ	2前			2		○										兼1			
代数学Ⅲ	2後			2		○										兼1			
代数学統論Ⅰ	3前			2		○										兼1	隔年		
化学Ⅰ	1前			2		○				2	3					兼5	オムニバス		
化学Ⅱ	1後			2		○				3	2					兼5	オムニバス		
気象学	2前			2		○					1					兼1			
基礎有機化学	2前			2		○					1					兼1			
基礎無機化学	2前			2		○				1						兼1			
森林生態学	3前			2		○				1						兼1			
生態学基礎	2後			2		○				1						兼1			
生物学	1前			2		○				1						兼1			
生物多様性概論	2前			2		○				1						兼1			
生命環境の科学Ⅰ	2前			2		○					1						隔年		
生命環境の科学Ⅱ	2前			2		○					1						隔年		
地域理科実践演習Ⅰ	1前			2					○	2	2						共同		
地域理科実践演習Ⅱ	1前			2					○	2	2						共同		
地球科学	1前			2				○		2						兼2	オムニバス		
地球惑星の科学Ⅰ	2後			2		○					1						隔年		
地球惑星の科学Ⅱ	2後			2		○					1						隔年		
地質学概論	2前			2		○				1						兼1			
統計力学	3前	2		○					1					兼1					
物質化学Ⅰ	2後	2		○				1							隔年				
物質化学Ⅱ	2後	2		○				1							隔年				
物理学Ⅰ	2前	2		○				1							隔年				
物理学Ⅱ	2前	2		○				1							隔年				
物理学Ⅰ(力学)	1前	2		○				1						兼1					
物理学Ⅱ(電磁気学)	1後	2		○					1					兼1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学類基礎領域	熱力学	2前		2		○				1					兼1	共同
	分析化学	2前		2		○			1					兼1		
水循環システム学概論	2前		2		○			1					兼1			
理科教育インターンシップ	2前		2				○	2	2				兼1			
流体力学	3前		2		○			1					兼1			
量子力学	2後		2		○			1					兼1			
小計 (54科目)		—	0	108	0	—	—	—	3	3	0	0	0	兼35	—	
コース専門科目 (8) スポーツ健康科学コース専門科目	運動学習の心理 (体育心理学)	3後		2		○								兼1	オムニバス	
	運動処方	3前		2		○				1				兼4		
	運動の学習と発達	2後		2		○				1				兼1		
	衛生学及び公衆衛生学	2後		2		○								兼1		
	解剖学	1前		2		○			1					兼1		
	学校保健	2前		2		○				1				兼1		
	器械運動	1前		1		○				1				兼1		
	救急処置及び看護法	2前		2		○								兼1		
	健康科学演習	3後		2			○		1	2				兼1		
	剣道	2前		1				○	1					兼1		
	コーチング演習	3後		2			○		1					兼1		
	コーチング論	3前		2		○			1					兼1		
	サービス概論	3後		2		○						1		兼1		
	サッカー	2前		1				○						兼1		
	柔道	3前		1				○						兼1		
	生涯スポーツ演習	3前		2			○			1				兼1		
	生涯スポーツ論	1前		2		○				1				兼1		
	水泳	1前		1				○		2				共同		
	スノースポーツ	2後		1				○		1				隔年、共同		
	スポーツ医学	2前		2		○				1				兼1		
	スポーツ運動学 (運動方法学を含む。)	2前		2		○				1				兼1		
	スポーツ栄養学	3前		2		○								隔年		
	スポーツ企画演習	3前		2			○		1	1				共同		
	スポーツ指導論	3前		2		○								兼1		
	スポーツ心理学	2前		2		○								兼1		
	スポーツ政策論	2後		2		○				1				兼1		
	スポーツと文化 (体育原理)	2前		2		○			1					兼1		
	スポーツ文化史	2後		2		○								隔年		
	生理学 (運動生理学)	1後		2		○				1				兼1		
	体操	1前		1				○		1				兼1		
	体力トレーニング	2後		1			○			1				兼1		
	ダンス	1前		1				○				1		兼1		
	テニス	3前		1				○						隔年		
	トレーニングマネジメント	2後		2		○			1					兼1		
	ニュースポーツ	4前		1				○		1				兼1		
	バスケットボール	2前		1				○			1			兼1		
	バレーボール	2前		1				○		1				兼1		
	野外活動	3前		1				○		1	1			兼1		
	陸上競技	1前		1				○		1				兼1		
小計 (39科目)		—	0	63	0	—	—	—	5	3	1	0	0	兼14	—	
学際・教養科目	異文化交流演習	2通		2		○				1				兼1	隔年	
	学校教育支援実習 I	2通		1		○								兼1		
	学校教育支援実習 II	2通		2		○								兼1		
	自然体験実習	1通		2				○		1				兼1		
	初等科授業研究	3前		2		○			8	2				兼1		
	総合的な学習の時間の指導法A	3後		2		○			1					兼1		
	総合的な学習の時間の指導法B	3後		2		○			3					兼1		
	地域教育実践 I	2通		2				○	2	1				隔年		
	地域教育実践 II	2通		2				○	2	1				隔年		
	日本語教育実習 I	3後		2				○						兼1		
	日本語教育実習 II	3後		2				○						兼1		
	人間発達の基礎	1前		2		○								兼1		
	未来創造教育論	1前		2		○			1	3				兼1		
	教育実習事前及び事後指導 (3年次)	3後		1		○								兼1		
	教育実習事前及び事後指導 (4年次)	4前		1		○								兼1		
	教育実習 I (幼稚園)	3前		4				○						兼1		
	教育実習 I (小学校)	3前		4				○						兼1		
	教育実習 I (中学校)	3前		4				○						兼1		
	教育実習 I (高等学校)	4前		2				○						兼1		
	教育実習 II (幼稚園)	4前		2				○						兼1		
	教育実習 II (小学校)	4前		2				○						兼1		
教育実習 II (中学校)	4前		2				○						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学類基礎領域	学際・教養科目	特別支援学校教育実習(基礎)	3前		1				○								
		特別支援学校教育実習(応用)	4前		2				○								
		保育・教職実践演習(幼稚園)	4後		2												
		教職実践演習(小学校)	4後		2				○				1				
		教職実践演習(中・高)	4後		2				○				2	2			
		保育実習指導Ⅰ(2年次～3年次)	2前		2				○				3	2			
		保育実習指導Ⅱ(3年次～4年次)	3後		1				○								
		保育実習指導Ⅲ(3年次～4年次)	3後		1				○								
		保育実習Ⅰ①	3前		2						○						
		保育実習Ⅰ②	2後		2						○						
		保育実習Ⅱ	3後		2						○						
		保育実習Ⅲ	3前		2						○						
	小計(34科目)	—	0	68	0			—				18	6	0	0	0	兼1 兼3
卒業研究領域	卒業研究科目	卒業研究基礎演習	3後	1					○			56	19	1			
		卒業研究演習Ⅰ	4前	1					○			56	19	1			
		卒業研究演習Ⅱ	4後	1					○			56	19	1			
		プレゼンテーション演習	4後	1					○			56	19	1			
		卒業論文	4後	4					○			56	19	1			
	小計(5科目)	—	8	0	0			—			56	19	1	0	0	0	—
合計(652科目)			—	21	1192~1194	1~2		—			56	19	1	0	0	0	兼209
学位又は称号		学士(発達文化)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
(卒業要件)								1学年の学期区分					2学期				
基盤教育科目34単位、専門教育科目70単位、自由選択科目20単位、合計124単位								1学期の授業期間					15週				
								1時限の授業時間					90分				
<基盤教育科目>																	
(接続領域) スタートアップセミナー2単位、キャリア形成論2単位、健康運動科学実習1単位、 外国語コミュニケーション科目・英語4単位、合計9単位必修 外国語コミュニケーション科目・英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱから2単位選択必修																	
(教養領域) 学術基礎科目 人文科学分野から2単位、社会科学分野から2単位、自然科学分野から2単位、合計6単位選択必修 キャリア設計科目 教職入門、キャリアモデル学習Ⅱ、インターンシップ、ワーキングスキルから2単位選択必修 外国語科目 4単位選択必修(「英語4単位」「英語以外の外国語4単位」「英語2単位+英語以外の外国語2単位」のいずれか)																	
(問題探究領域)問題探究セミナーⅠ2単位必修、問題探究科目から2単位選択必修 (教養領域・問題探究領域)上記の単位数に加え、教養領域科目、問題探究領域科目からさらに7単位選択必修																	
<専門教育科目>																	
(学類基礎領域)問題探究セミナーⅡ2単位必修																	
(学類専門領域)コース専門科目から34単位以上、かつコース専門科目、学際・教養科目を合わせて計60単位選択必修																	
(卒業研究領域)卒業研究基礎演習1単位、卒業研究演習Ⅰ・Ⅱ2単位、プレゼンテーション演習1単位、卒業論文4単位、計8単位必修																	
<自由選択科目>																	
(自由選択)基盤教育科目、専門教育科目・他学類開放科目から20単位選択必修																	
<履修科目の登録の上限>24単位(1セメスター(半期)あたり)																	

教育課程等の概要															
(人文社会学群行政政策学類)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
【基盤教育科目】															
接続領域	フタスター 科目	スタートアップセミナー	1前	2				○			5	7			
		小計(1科目)	—	2	0	0		—			5	7	0	0	0
	トネジメ 科目	キャリア形成論	1前	2			○				2				
		健康運動科学実習	1前	1					○						兼5
		小計(2科目)	—	3	0	0		—			0	2	0	0	0
	外国語コミュニケーション科目	英語A I	1前・後	2			○								兼10
		英語A II	1前・後	2			○				3	1			兼6
		ドイツ語基礎 I	1前		1		○								兼2
		ドイツ語基礎 II	1後		1		○								兼2
		フランス語基礎 I	1前		1		○				1				兼2
		フランス語基礎 II	1後		1		○				1				兼2
		中国語基礎 I	1前		1		○								兼6
		中国語基礎 II	1後		1		○								兼6
		ロシア語基礎 I	1前		1		○								兼2
ロシア語基礎 II		1後		1		○								兼2	
韓国・朝鮮語基礎 I		1前		1		○								兼2	
韓国・朝鮮語基礎 II		1後		1		○								兼2	
	小計(12科目)	—	4	10	0		—			4	1	0	0	0	
教養領域	学術基礎科目・人文科学分野	心理学 I	1後		2		○								兼1
		美術	1後		2		○								兼1
		精神疾患とその治療	1前		2		○								兼1
		哲学 II	1後		2		○								兼1
		心理学 II	1前		2		○								兼1
		言語・文学 III	1前		2		○								兼2
		倫理学	1後		2		○								兼2
		ことばの仕組み	1後		2		○								兼1
		言語・文学 I	1前		2		○								兼1
		音楽	1前		2		○								兼1
		教育と文化	1前		2		○								兼1
		哲学 I	1前		2		○								兼1
		言語・文学 II	1後		2		○								兼3
		小計(13科目)	—	0	26	0		—			0	0	0	0	0
	学術基礎科目・社会科学分野	若者・学校・社会	1前		2		○								兼1
		ジェンダー学入門	1前		2		○				1				
		政治学	1前		2		○					1			
経済学 I		1前		2		○								兼1	
経営学		1後		2		○								兼1	
歴史学 I		1後		2		○				2				兼1	
社会論		1後		2		○				1					
経済学 II		1前		2		○								兼1	
歴史学 II		1後		2		○					1			兼2	
地理学 I		1後		2		○								兼1	
農業と人間	1後		2		○								兼1		
	小計(11科目)	—	0	22	0		—			4	2	0	0	0	
教養領域	野・学術基礎科学分野	食品の機能	1前		2		○								兼1
		食と健康	1前		2		○								兼1
		物質の科学	1前		2		○								兼1
		マセマティカル・サイエンス	1後		2		○								兼2
		人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	1後		2		○								兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養領域	科学分野 基礎科目・自然	環境の科学Ⅰ	1後	2		○									兼3	隔年 隔年	
		教養の数学	1前	2		○									兼1		
		ちからとうごき	1後	2		○									兼1		
		生命の科学	1後	2		○									兼1		
		情報化と経営	1後	2		○									兼2		
		環境の科学Ⅱ	1後	2		○									兼1		
	小計(11科目)	—	0	22	0	—			6	5	0	0	0	兼15	—		
	計 目 設	キャリア 目 設	キャリアモデル学習	2前	2		○			1	1						
			インターンシップ	3前・後	1				○	1	1						
			ワーキングスキル	2後	1~2		○									兼4	
	小計(3科目)	—	0	4~5	0	—			2	2	0	0	0	兼4	—		
	科 目 動 健 康	スポーツ 目 動 健 康	スポーツ実習	1後	1				○							兼3	
			小計(1科目)	—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
	外 国 語 科 目	英語BⅠ 英語BⅡ 応用英語 ドイツ語応用Ⅰ ドイツ語応用Ⅱ フランス語応用Ⅰ フランス語応用Ⅱ 中国語応用Ⅰ 中国語応用Ⅱ ロシア語応用Ⅰ ロシア語応用Ⅱ 韓国朝鮮語応用Ⅰ 韓国朝鮮語応用Ⅱ ドイツ語基礎(特設)Ⅰ ドイツ語基礎(特設)Ⅱ フランス語基礎(特設)Ⅰ フランス語基礎(特設)Ⅱ 中国語基礎(特設)Ⅰ 中国語基礎(特設)Ⅱ ロシア語基礎(特設)Ⅰ ロシア語基礎(特設)Ⅱ 韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅰ 韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅱ	2前・後	2		○			1						兼10	—	
			2前・後	2		○			2						兼9		
1前・後			1		○										兼10		
2前			1		○										兼2		
2後			1		○										兼2		
2前			1		○										兼2		
2後			1		○										兼2		
2前			1		○				1						兼4		
2後			1		○				1						兼4		
2前			1		○										兼2		
2後			1		○										兼2		
2前			1		○										兼2		
2後			1		○										兼2		
2前			1		○										兼2		
2後			1		○										兼2		
2前			1		○										兼1		
2後			1		○										兼1		
1前			1		○										兼1		
1後			1		○										兼1		
1前			1		○										兼1		
1後			1		○										兼1		
小計(23科目)			—	0	25	0	—			3	1	0	0	0	兼27		—
科 目 報			情報リテラシー 目 報	情報リテラシー	1前・後	2		○									
	小計(1科目)	—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	
問 題 探 究 領 域	問題 探 究 科 目	ポランディア論	1前	2		○									兼1	共同・オムニバス	
		福島のブランド農業	1前	2		○									兼2		
		暮らしと仕事と大学生	1前	2		○				1					兼3		
		社会とデータの基礎	1前	2		○									兼3		
		都市計画と「まちづくり」	1前	2		○			1						兼3		
		生活探究演習	1前	2		○									兼3		
		大学で学ぶ	1前	2		○									兼1		
		哲学カフェ	1前	2		○									兼1		
		グローバル災害論	1前	2		○									兼1		
		ふくしま未来学入門Ⅰ	1前	2		○					1				兼8		
		評価論入門	1後	2		○									兼1		
		環境放射能学入門	1後	2		○									兼8		
		災害復興支援学Ⅱ	1後	2		○			1						兼6		
		震災農村復興論	1後	2		○									兼2		
データ分析入門	1後	2		○									兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
問題探究領域	問題探究科目 地域と世界の未来をつくる科学と数学 ふくしま未来学入門Ⅱ 立ち直り支援と地域社会 むらの大学A むらの大学B むらの大学C	1後		2		○									兼4 兼4	共同・オムニバス 共同・オムニバス	
		1後		2		○											
		1後		2		○				1							
		1後		2		○										兼2	
		1後		2		○										兼2	
		1後		2		○										兼1	
	小計(21科目)	—	0	42	0	—			2	3					兼37	—	
問題探究セミナーⅠ	1後	2				○		5	7								
自主学修プログラム	1前		1~2				○	1									
小計(2科目)	—	2	1~2	0	—			6	7	0	0	0	0	0	0	—	
【専門教育科目】																	
専門領域・学類専門科目	学類共通科目 現代社会へのアプローチ 現代法学論 民法総則 現代政治論Ⅰ 社会学原論Ⅰ 社会と文化の理論	1後		2		○			9	5						オムニバス	
		1前		2		○		4	8							オムニバス	
		1前		2		○				1							
		1後		2		○				1							
		1後		2		○			1								
		1前		2		○			1								
	小計(6科目)	—	0	12	0	—		13	14	0	0	0	0	0	0	—	
	学類基礎科目	法社会学Ⅰ	2前		2		○			1							
		法社会学Ⅱ	2後		2		○			1							
		憲法(人権)Ⅰ	2前		2		○			1							
		憲法(人権)Ⅱ	2後		2		○			1							
		憲法(統治)Ⅰ	2前		2		○				1						
		憲法(統治)Ⅱ	2後		2		○				1						
		行政法総論Ⅰ	2後		2		○				1						
		刑法Ⅰ	2前		2		○				1						
		民法(不法行為)	2後		2		○				1						
		民法(債権総論)	2前		2		○				1						
		民法(債権各論)	2後		2		○				1						
		現代政治論Ⅱ	2前		2		○				1						隔年
地方行政論		2前		2		○			1								
行政学Ⅰ	2後		2		○				1						隔年		
行政学Ⅱ	2後		2		○				1						隔年		
政治過程論Ⅰ	2後		2		○				1						隔年		
政治過程論Ⅱ	2後		2		○				1						隔年		
社会計画論	2前		2		○			1									
社会調査論	2前		2		○			1									
社会福祉論	2前		2		○								兼1				
文化史	2後		2		○			1									
考古学Ⅰ	2後		2		○			1									
社会教育論(生涯学習論を含む)Ⅰ	2休		2		○			1							集中		
社会教育論(生涯学習論を含む)Ⅱ	2後		2		○			1									
ジェンダー論Ⅰ	2後		2		○			1							隔年		
比較地域文化論	2前		2		○			1									
社会学原論Ⅱ	2前		2		○			1									
地域社会学	2後		2		○				1								
小計(28科目)	—	0	56	0	—			10	9	0	0	0	0	兼1	—		
政策と法専門科目・地域	労働法Ⅰ	3前		2		○				1							
	労働法Ⅱ	3後		2		○				1							
	社会保障法	3前		2		○				1						隔年	
	商法Ⅰ	3後		2		○			1								
	商法Ⅱ	3前		2		○			1								
	行政法総論Ⅱ	3前		2		○				1							
	行政救済法Ⅰ	3前		2		○				1						隔年	
行政救済法Ⅱ	3前		2		○			1							隔年		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域・学類専門科目	地方自治法Ⅰ	3前		2		○			1							
	地方自治法Ⅱ	3後		2		○			1							隔年
	刑法Ⅱ	2後		2		○				1						隔年
	刑事裁判法Ⅰ	3前		2		○				1						隔年
	民事裁判法Ⅰ	3後		2		○				1						隔年
	民事裁判法Ⅱ	3後		2		○				1						隔年
	民法(物権)	3前		2		○				1						隔年
	民法(家族)	2前		2		○								兼1		隔年
	民法(相続)	2後		2		○								兼1		隔年
	国際法Ⅰ	3前		2		○				1						
	国際法Ⅱ	3後		2		○				1						
	地方政治論Ⅰ	3前		2		○								兼1		
	地方政治論Ⅱ	3後		2		○								兼1		
	国際政治論Ⅰ	3前		2		○				1						
国際政治論Ⅱ	3後		2		○				1							
小計(23科目)		—	0	46	0	—			3	6	0	0	0	兼2	—	
コース専門科目・地域社会と文化コース	地域環境論	2後		2		○				1						
	地域福祉論	3後		2		○				1						
	情報社会論	3後		2		○				1						
	社会福祉課題研究Ⅰ	3通		2				○		1	1					隔年
	社会福祉課題研究Ⅱ	3通		2				○		1	1					隔年
	地域史Ⅰ	3前		2		○					1					
	地域史Ⅱ	3後		2		○					1					
	考古学Ⅱ	3前		2		○				1						
	生涯学習支援論Ⅰ	2休		2		○								兼1		隔年、集中
	生涯学習支援論Ⅱ	2休		2		○								兼1		隔年、集中
	ジェンダー論Ⅱ	3前		2		○				1						隔年
	博物館学概論	2前		2		○				1						隔年
	博物館資料論	2後		2		○				1						隔年
	博物館経営論	2前		2		○								兼1		隔年
	博物館情報・メディア論	2休		2		○								兼1		隔年、集中
	博物館展示論	2後		2		○								兼1		隔年
	博物館資料保存論	2休		2		○								兼1		隔年、集中
	博物館教育論	2前		2		○								兼1		隔年
	古文書講読Ⅰ	3前		2				○		1						
	古文書講読Ⅱ	3後		2				○		1						
	考古学実習	3通		2					○		1					
	古文書学実習	3通		2					○		1	1				
	社会教育実習	3通		4					○		1					
	博物館実習	3通		3					○		1	1				
	言語文化論Ⅰ	3後		2		○				1						
	言語文化論Ⅱ	3前		2		○				1						
	国際文化交流論	3前		2		○				1						
欧米文化論Ⅰ	3後		2		○				1							
欧米文化論Ⅱ	3前		2		○				1							
メディア論	3前		2		○					1						
日本史概論	2前		2		○				1	1					隔年	
外国史概論	2後		2		○				4						隔年	
小計(32科目)		—	0	67	0	—			12	4	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域・学類専門科目	グローバル・コミュニケーション科目	外書講読(英語)Ⅰ	3後	2		○				1						隔年 隔年 隔年 隔年
	外書講読(英語)Ⅱ	3後	2		○				1							
	外書講読(非英)Ⅰ	3前	2		○				1							
	外書講読(非英)Ⅱ	3前	2		○				1							
	英語コミュニケーションAⅠ	3前	2		○				1							
	英語コミュニケーションAⅡ	3後	2		○				1							
	英語コミュニケーションBⅠ	3前	2		○				1							
	英語コミュニケーションBⅡ	3後	2		○				1							
	英語コミュニケーションCⅠ	3前	2		○				1							
	English PresentationsⅠ	3前	2		○				1							
	English PresentationsⅡ	3後	2		○				1							
	中国語コミュニケーションⅠ	3前	2		○				1							
	中国語コミュニケーションⅡ	3後	2		○				1							
小計(13科目)		—	0	26	0				0	4	0	0	0	0	—	
特殊講義科目等	コア・アクティブ科目/学際科目	2前		2				○	1						集中	
	副演習Ⅲ	4前			2					1						
	副演習Ⅳ	4後			2					1						
	小計(3科目)	—	0	2	4				1	1	0	0	0	0	—	
専門領域・演習、卒業研究	問題探究セミナーⅡ	2前	2					○	8	5						
	問題探究セミナーⅢ	2後	2					○	8	5						
	小計(2科目)	—	4	0	0				16	10	0	0	0	0	—	
	演習Ⅰ	3前	2					○	18	15						
	演習Ⅱ	3後	2					○	18	15						
演習Ⅲ	4前	2					○	18	15							
演習Ⅳ	4後	2					○	18	15							
小計(4科目)	—	8	0	0				18	15	0	0	0	0	—		
卒業研究	卒業研究	4後	4					○	18	15						
小計(1科目)	—	4	0	0				18	15	0	0	0	0	—		
合計(213科目)			—	27	364~366	4			21	17	0	0	0	0	兼150	
学位又は称号		学士(法学)、学士(社会学)		学位又は学科の分野				法学関係、社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
(卒業要件)							1学年の学期区分		2学期							
基盤教育科目34単位、専門教育科目72単位、自由選択領域科目18単位、合計124単位							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							
【基盤教育科目】																
(接続領域)																
スタートアップセミナー2単位、キャリア形成論2単位、健康運動科学実習1単位、外国語コミュニケーション科目・英語4単位の合計9単位必修 英語以外の外国語基礎から2単位選択必修																
(教養領域)																
学術基礎科目 人文科学分野から2単位、社会学分野から2単位、自然科学分野から2単位の合計6単位選択必修 キャリア設計科目 キャリアモデル学習、インターンシップ、ワーキングスキルから2単位選択必修 外国語科目 4単位選択必修																
(問題探究領域)																
問題探究領域の問題探究科目から2単位選択必修、問題探究セミナーⅠ2単位必修 さらに、上記の単位数に加え、教養領域の全科目、及び問題探究領域の問題探究科目、自主学修プログラムから7単位選択必修																
【専門教育科目】																
(学類共通科目) 指定科目から4科目8単位選択必修																
(学類基礎科目) 指定科目から12科目24単位選択必修																
(コース専門科目) 所属するコースの指定科目から12科目24単位選択必修																
(問題探究セミナーⅡ・Ⅲ) 2科目4単位必修																
(演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) 4科目8単位必修																
(卒業研究) 4単位必修																
(自由選択領域科目) 基盤教育科目、専門教育科目(他コース科目含む)、副演習、他学類開放科目、他大学単位互換科目(海外協定校含む)、特殊講義、技能審査・語学研修の単位認定分から18単位選択																
【履修科目の登録上の上限】1セメスター当たり24単位。 ただし、全学類で定める共通のキャップ除外科目として、集中講義、自主学修プログラム、インターンシップ、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目、行政政策学類で定めるキャップ除外科目として、要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会福祉課題研究、社会教育実習、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentationsがある。																

教育課程等の概要																
(人文社会学群行政政策学類(夜間主))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
【基礎教育科目】																
接続領域	フタスタート	スタートアップセミナー(夜)	1前	2				○							兼1	
		小計(1科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	トネラト	キャリア形成論(夜)	1前	2			○								兼1	
	目ジメ	健康運動科学実習(夜)	1前	1					○						兼1	
	小計(2科目)	—	3	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—	
科シヨ科	目ニミ目	英語(夜)	1前・後	4			○								兼2	
	ンミヨ	小計(1科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	目ヨミ	人間と文化Ⅰ(夜)	1後		2		○								兼3	隔年、オムニバス
	目ヨミ	人間と文化Ⅱ(夜)	1後		2		○								兼8	隔年、オムニバス
教養領域	学目学	心理学概論(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
	分野人基	小計(3科目)	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼12	—
	文基礎	政治学の基礎(夜)	1前		2		○									隔年
	科科	現代法学論(夜)	1後		2		○			1	1					隔年
科学術	分野基礎	社会科学の基礎Ⅰ(夜)	1後		2		○			1						隔年
	科目・社会	現代文化論(夜)	1前		2		○			1						隔年
		経営学概論(夜)	1前		2		○								兼1	隔年
		経済学入門(夜)	1後		2		○								兼1	隔年
	小計(6科目)	—	0	12	0		—		3	1	0	0	0	兼2	—	
学目学	分野自然	自然と科学(夜)	1前		2		○								兼5	隔年、オムニバス
	基礎科	六次化産業と農(夜)	1前		2		○								兼12	隔年、オムニバス
		自然科学はじめの一步(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
		小計(3科目)	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼18	—
計キ	科目リ	キャリアモデル学習	2前		2		○			1	1					
	目ア	新時代の組織経営と働き方(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送
	設	インターンシップ	2前・後		1~2				○	1	1					
		小計(3科目)	—	0	5~6	0		—		2	2	0	0	0	兼1	—
科運健	目動康	スポーツ実習	1後		1										兼3	
		小計(1科目)	—	0	1	0		—		0	0	0	0	0	兼3	—
外国語科目		ドイツ語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼2	
		ドイツ語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼2	
		フランス語基礎Ⅰ	1前		1		○			1					兼2	
		フランス語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼2	
		中国語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼6	
		中国語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼6	
		ロシア語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼2	
		ロシア語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼2	
		韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1前		1		○								兼2	
		韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1後		1		○								兼2	
		ドイツ語Ⅰ(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
		フランス語Ⅰ(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
		中国語Ⅰ(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
		韓国語Ⅰ(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送
		ドイツ語Ⅱ(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送
		フランス語Ⅱ(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送
		中国語Ⅱ(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送
		韓国語Ⅱ(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送
		英語B1	2前・後		2		○			1					兼10	
		英語B2	2前・後		2		○			2					兼9	
	応用英語	1前・後		1		○								兼10		
	ドイツ語応用Ⅰ	2前		1		○								兼2		
	ドイツ語応用Ⅱ	2後		1		○								兼2		
	フランス語応用Ⅰ	2前		1		○								兼2		
	フランス語応用Ⅱ	2後		1		○								兼2		
	中国語応用Ⅰ	2前		1		○			1					兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養領域	外国語科目	中国語応用Ⅱ	2後	1		○				1					兼4	
		ロシア語応用Ⅰ	2前	1		○									兼2	
		ロシア語応用Ⅱ	2後	1		○									兼2	
		韓国朝鮮語応用Ⅰ	2前	1		○									兼2	
		韓国朝鮮語応用Ⅱ	2後	1		○									兼2	
		ドイツ語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼2	
		ドイツ語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼2	
		フランス語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼1	
		フランス語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼1	
		中国語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○				1					兼2	
		中国語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○				1					兼2	
		ロシア語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼1	
		ロシア語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼1	
		韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼2	
韓国朝鮮語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼2			
	小計(41科目)	—	0	51	0	—			4	4	0	0	0	兼35	—	
科情報	情報リテラシー	1前・後		2		○								兼4		
	遠隔学習のためのパソコン活用(放送大学)	1後		2		○								兼1	放送	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—	
問題探究領域	問題探究科目	アクティブラーナー論(夜)	1後	2		○			1							
		ボランティア論	1前	2		○									兼1	
		福島のブランド農業	1前	2		○									兼2	
		暮らしと仕事と大学生	1前	2		○				1					兼3	オムニバス
		社会とデータの基礎	1前	2		○									兼3	
		都市計画と「まちづくり」	1前	2		○			1							
		生活探究演習	1前	2		○									兼3	
		大学で学ぶ	1前	2		○									兼1	
		哲学カフェ	1前	2		○									兼1	
		グローバル災害論	1前	2		○									兼1	
		ふくしま未来学入門Ⅰ	1前	2		○				1					兼8	オムニバス
		評価論入門	1後	2		○									兼1	
		環境放射能学入門	1後	2		○									兼8	オムニバス
		災害復興支援学Ⅱ	1後	2		○			1						兼6	オムニバス
		震災農村復興論	1後	2		○									兼2	
		データ分析入門	1後	2		○									兼1	
		地域と世界の未来をつくる科学と数学	1後	2		○									兼4	オムニバス
		ふくしま未来学入門Ⅱ	1後	2		○									兼4	オムニバス
		立ち直り支援と地域社会	1後	2		○				1						
		むらの大学A	1後	2		○									兼2	
		むらの大学B	1後	2		○									兼2	
		むらの大学C	1後	2		○									兼1	
	小計(22科目)	—	0	44	0	—			2	3	0	0	0	兼51	—	
	問題探究セミナーⅠ(夜)	1後	2				○							兼1		
	自主学修プログラム	1前		1~2					1							
	小計(2科目)	—	2	1~2	0	—			1	0	0	0	0	兼1	—	
【専門教育科目】																
専門領域・学類専門科目	学類専門科目・夜間主共通科目	現代憲法Ⅰ(夜)	1後	2		○			1							隔年
		民法入門(夜)	1後	2		○				1						隔年
		社会と法(夜)	1前	2		○			1							隔年
		現代政治のトピックス(夜)	1後	2		○				1						隔年
		現代行政のトピックス(夜)	1前	2		○				1						隔年
		現代の地域問題(夜)	1後	2		○								兼1		隔年
		現代社会と計画(夜)	1後	2		○			1							隔年
		社会科学の基礎Ⅱ(夜)	1前	2		○				1						隔年
		現代社会論(夜)	1後	2		○			1							隔年
		地域と文化の歴史(夜)	1後	2		○			1							隔年
		文化と科学Ⅰ(夜)	1後	2		○									兼1	隔年
		文化と科学Ⅱ(夜)	1後	2		○									兼1	隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域・学類専門科目	通学類専門科目・夜間主共	経済学概論Ⅰ(夜)	1前	2		○									兼1	隔年
		経済学概論Ⅱ(夜)	1前	2		○									兼1	隔年
		政治過程論Ⅱ	2後	2		○				1						隔年
		行政学Ⅱ	2後	2		○				1						隔年
		グローバル化時代の日本国憲法(放送大学)	3前	2		○									兼1	放送
		日本近現代史(放送大学)	3前	2		○									兼1	放送
		発達心理学概論(放送大学)	3前	2		○									兼1	放送
		経済社会を考える(放送大学)	3前	2		○									兼1	放送
		小計(20科目)	—	0	40	0	—			5	4	0	0	0	兼9	—
	学類専門科目・夜間主コース専門科目・地域政策と法コース		現代憲法Ⅱ(夜)	2後	2		○			1						
		日常生活と民法(夜)	2前	2		○				1						隔年
		犯罪と刑罰(夜)	2後	2		○				1						隔年
		金融取引法(夜)	2後	2		○				1						隔年
		裁判と法(夜)	2後	2		○				1						隔年
		企業組織と法(夜)	2前	2		○			1							隔年
		行政と法Ⅰ(夜)	2後	2		○				1						隔年
		行政と法Ⅱ(夜)	2前	2		○				1						隔年
		地方自治と法(夜)	2後	2		○				1						隔年
		労働と法(夜)	2後	2		○				1						隔年
		国際関係と法(夜)	2後	2		○				1						隔年
		現代の地方行政(夜)	2前	2		○			1							隔年
		現代の国際政治(夜)	2前	2		○			1							隔年
		地域行政政策論(夜)	2後	2		○			4	9						隔年、オムニバス
		簿記概論(夜)	2前	2		○									兼1	隔年
		グローバル社会・経済論(夜)	2後	2		○									兼1	隔年
		刑法Ⅰ	2前	2		○				1						
		商法Ⅱ	3前	2		○			1							
		商法Ⅰ	3後	2		○			1							
		労働法Ⅰ	3前	2		○				1						
		地方行政論	2前	2		○			1							
		国際政治論Ⅰ	3前	2		○			1							
		労働法Ⅱ	3後	2		○				1						
		社会保障法	3前	2		○				1						隔年
		行政法総論Ⅱ	3前	2		○				1						
		行政救済Ⅰ	3前	2		○				1						隔年
		行政救済Ⅱ	3前	2		○			1							隔年
		地方自治法Ⅰ	3前	2		○			1							
		地方自治法Ⅱ	3後	2		○			1							隔年
		刑法Ⅱ	2後	2		○				1						隔年
		刑事裁判法Ⅰ	3前	2		○				1						隔年
		民事裁判法Ⅰ	3後	2		○				1						隔年
		民事裁判法Ⅱ	3後	2		○				1						隔年
		民法(物権)	3前	2		○				1						
	民法(家族)	2前	2		○									兼1	隔年	
	民法(相続)	2後	2		○									兼1	隔年	
	国際法Ⅰ	3前	2		○				1							
	国際法Ⅱ	3後	2		○				1							
	地方政治論Ⅰ	3前	2		○									兼1		
	地方政治論Ⅱ	3後	2		○									兼1		
	国際政治論Ⅱ	3後	2		○			1								
	財政と現代の経済社会(放送大学)	2前	2		○									兼1	放送	
	現代東アジアの政治と社会(放送大学)	2前	2		○									兼1	放送	
	市民生活と裁判(放送大学)	2前	2		○									兼1	放送	
	小計(44科目)	—	0	88	0	—			6	11	0	0	0	兼7	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域・学類専門科目	社会計画論(夜)	2後		2		○			1							隔年
	地域環境論(夜)	2前		2		○				1						隔年
	社会福祉論(夜)	2前		2		○			1							隔年
	地域福祉論(夜)	2後		2		○			1							隔年
	社会調査論(夜)	2後		2		○			1							隔年
	情報社会論(夜)	2後		2		○			1							隔年
	ジェンダー論(夜)	2前		2		○			1							隔年
	地域社会学(夜)	2前		2		○				1						隔年
	メディア論(夜)	2前		2		○				1						隔年
	地域史(夜)	2後		2		○				1						隔年
	考古学(夜)	2前		2		○			1							隔年
	言語文化論(夜)	2後		2		○			1							隔年
	国際文化交流論(夜)	2前		2		○			1							隔年
	欧米文化論(夜)	2前		2		○			1							隔年
	外国語コミュニケーション文化(夜)	2前		2		○				1						隔年
	地域と文化Ⅰ(夜)	2前		2		○								兼4	隔年、オムニバス	
	地域と文化Ⅱ(夜)	2前		2		○								兼1	隔年	
	社会計画論	2前		2		○			1							
	地域環境論	2後		2		○				1						
	社会福祉論	2前		2		○								兼1		
	地域福祉論	3後		2		○			1							
	社会調査論	2前		2		○			1							
	情報社会論	3後		2		○			1							
	ジェンダー論Ⅰ	2後		2		○			1							
	地域社会学	2後		2		○				1						
	メディア論	3前		2		○				1						
	地域史Ⅱ	3後		2		○				1						
	考古学Ⅰ	2後		2		○			1							
	言語文化論Ⅰ	3後		2		○			1							
	言語文化論Ⅱ	3前		2		○			1							
	国際文化交流論	3前		2		○			1							
	欧米文化論Ⅰ	3後		2		○			1							
	欧米文化論Ⅱ	3前		2		○			1							
	社会福祉課題研究Ⅰ	3通		2					○	1	1					隔年
	社会福祉課題研究Ⅱ	3通		2					○	1	1					隔年
	地域史Ⅰ	3前		2		○					1					
	考古学Ⅱ	3前		2		○			1							
	生涯学習支援論Ⅰ	2休		2		○								兼1	隔年、集中	
	生涯学習支援論Ⅱ	2休		2		○								兼1	隔年、集中	
	ジェンダー論Ⅱ	3前		2		○			1							隔年
	博物館学概論	2前		2		○			1							隔年
	博物館資料論	2後		2		○			1							隔年
	博物館経営論	2前		2		○								兼1	隔年	
	博物館情報・メディア論	2休		2		○								兼1	隔年、集中	
	博物館展示論	2後		2		○								兼1	隔年	
	博物館資料保存論	2休		2		○								兼1	隔年、集中	
博物館教育論	2前		2		○								兼1	隔年		
古文書講読Ⅰ	3前		2				○	1								
古文書講読Ⅱ	3後		2				○	1								
考古学実習	3通		2					○	1							
古文書学実習	3通		2					○	1	1						
社会教育実習	3通		4					○	1							
博物館実習	3通		3					○	1	1						
子どもの人権をどうまもるのか(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送		
リスクコミュニケーションの現在(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送		
NPO・NGOの世界(放送大学)	2前		2		○								兼1	放送		
小計(56科目)		—	0	115	0	—			13	5	0	0	0	兼14	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域・学類専門科目	英語コミュニケーションA I	3前		2		○				1					
	英語コミュニケーションA II	3後		2		○				1					
	英語コミュニケーションB I	3前		2		○				1					
	英語コミュニケーションB II	3後		2		○				1					
	英語コミュニケーションC I	3前		2		○				1					
	English Presentations I	3前		2		○				1					
	English Presentations II	3後		2		○				1					
小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	1	0	0	0	0	—
コア・アクティブ科目/学際科目		2前		2				○	1						
小計(1科目)		—	0	2	0	—			1	0	0	0	0	0	—
専門領域・演習、卒業研究	問題探究セミナーⅡ(夜)	2前	2					○	1	1					
	問題探究セミナーⅢ(夜)	2後	2					○	1	1					
	小計(2科目)		—	4	0	0	—		1	1	0	0	0	0	—
	協働演習Ⅰ(夜)	3前	2					○							兼1
	協働演習Ⅱ(夜)	3後	2					○							兼1
	協働演習Ⅲ(夜)	4前	2					○							兼1
	協働演習Ⅳ(夜)	4後	2					○							兼1
小計(4科目)		—	8	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2	—
卒業研究		4後	4					○							兼1
小計(1科目)		—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
合計(222科目)			—	27	389~391	0	—		21	17	0	0	0	0	兼166
学位又は称号		学士(法学)、学士(社会学)		学位又は学科の分野				法学関係、社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(卒業要件) 基盤教育科目34単位、専門教育科目70単位、自由選択領域20単位、合計124単位								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				
【基盤教育科目】 (接続領域) スタートアップセミナー2単位、キャリア形成論2単位、健康運動科学実習1単位、外国語コミュニケーション科目・英語4単位の合計9単位必修 (教養領域) 学術基礎科目 人文科学分野から2単位、社会学分野から2単位、自然科学分野から2単位、合計6単位選択必修 キャリア設計科目 キャリアモデル学習、放送大学指定科目、インターンシップから2単位選択必修 外国語科目 2単位選択必修 (問題探究領域) 問題探究領域の問題探究科目から2単位選択必修、問題探究セミナーⅠ2単位必修 さらに、上記の単位数に加え、教養領域の全科目、及び問題探究領域の問題探究科目、自主学修プログラムから11単位選択必修 【専門教育科目】 (夜間主共通科目) 指定科目から12科目24単位選択必修 (夜間主コース専門科目) 所属するコースの指定科目から12科目24単位選択必修 (問題探究セミナーⅡ・Ⅲ) 2科目4単位必修 (協働演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) 4科目8単位必修 (卒業研究) 4単位必修 (自由選択領域科目) 基盤教育科目、専門教育科目(他コース科目含む)、他学類開放科目、他大学単位互換科目(海外協定校含む)、技能審査・語学研修の単位認定分から20単位選択 【履修科目の登録上の上限】1セメスター当たり24単位。 ただし、全学類で定める共通のキャップ除外科目として、集中講義、自主学修プログラム、インターンシップ、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目、行政政策学類で定めるキャップ除外科目として、要卒業単位に計上されない教職に関わる科目、社会福祉課題研究、社会教育実習、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、英語コミュニケーション、English Presentationsがある。															

教育課程等の概要																		
(人文社会学群経済経営学類)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
【基盤教育科目】																		
接続領域科目	フタタツ	スタートアップセミナー	1前	2				○			5	8						
		小計（1科目）	—	2	0	0		—			5	8	0	0	0	0	0	—
	メンテナ	キャリア形成論	1前	2			○			1								
	トジフ	健康運動科学実習	1前	1					○									兼6
		小計（2科目）	—	3	0	0		—		1	0	0	0	0	0	0	0	兼6
	外国語コミュニケーション科目	英語AⅠ	1前・後	2			○			2								兼8
		英語AⅡ	1前・後	2			○											兼10
		ドイツ語基礎Ⅰ	1前		1		○			1								兼1
		ドイツ語基礎Ⅱ	1後		1		○			1								兼1
		フランス語基礎Ⅰ	1前		1		○											兼3
フランス語基礎Ⅱ		1後		1		○											兼3	
中国語基礎Ⅰ		1前		1		○			1								兼4	
中国語基礎Ⅱ		1後		1		○			1								兼4	
ロシア語基礎Ⅰ		1前		1		○			1									
ロシア語基礎Ⅱ		1後		1		○			1	1								
韓国朝鮮語Ⅰ		1前		1		○												兼2
韓国朝鮮語Ⅱ		1後		1		○			1									
	小計（12科目）	—	2	10	0		—		9	1	0	0	0	0	0	0	兼24	
教養領域科目	倫理学	1後		2		○											兼2	
	心理学Ⅰ	1後		2		○											兼1	
	言語・文学Ⅰ	1前		2		○											隔年	
	音楽	1前		2		○											隔年	
	美術	1後		2		○											兼1	
	教育と文化	1前		2		○											隔年	
	ことばの仕組み	1後		2		○			1									
	精神疾患とその治療	1前		2		○											兼1	
	哲学Ⅰ	1前		2		○											隔年	
	心理学Ⅱ	1前		2		○											兼1	
	言語・文学Ⅱ	1後		2		○											兼3	
	言語・文学Ⅲ	1前		2		○											兼2	
	哲学Ⅱ	1後		2		○											兼1	
	小計（13科目）	—	0	26	0		—		1	0	0	0	0	0	0	0	兼15	
学術基礎科目・社会科学分野	地理学Ⅰ	1後		2		○			1								隔年	
	社会論	1後		2		○											兼1	
	ジェンダー学入門	1前		2		○											隔年	
	政治学	1前		2		○											隔年	
	歴史学Ⅱ	1後		2		○											兼3	
	日本国憲法	1後		2		○											兼2	
	市民と法	1前		2		○											兼1	
	農業と人間	1後		2		○											隔年	
	地域論Ⅰ	1前		2		○			1								隔年	
	若者・学校・社会	1前		2		○											兼1	
歴史学Ⅰ	1前		2		○											兼3		
	小計（11科目）	—	0	22	0		—		1	0	0	0	0	0	0	0	兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養領域科目	学術基礎科目・自然科学分野	環境の科学Ⅰ	1前	2		○									兼3	隔年
		環境の科学Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		ちからとうごき	1前	2		○									兼1	
		食と健康	1前	2		○									兼1	
		物質の科学	1前	2		○									兼1	
		生命の科学	1後	2		○									兼1	
		食品の機能	1前	2		○									兼1	
		人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	1後	2		○									兼1	
		マセマティカル・サイエンス	1後	2		○									兼1	
		情報化と経営	1後	2		○									兼2	
		教養の数学	1前	2		○									兼1	
小計(11科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—	
キャリア科目	キャリア科目	キャリアモデル学習	3前	2		○			1	1						集中
		インターンシップ	2前	1~2					1							
		ワーキングスキル	2後	1~2		○									兼4	
		小計(3科目)	—	0	4~6	0	—		2	1	0	0	0	0	兼4	
健康・運動科目	健康・運動科目	スポーツ実習	1後		1			○							兼3	—
		小計(1科目)	—	0	0	1	—		0	0	0	0	0	0	兼3	
外国語科目	外国語科目	英語BⅠ	2前・後	1		○			3						兼8	—
		英語BⅡ	2前・後	1		○			2						兼9	
		応用英語	1前・後	1		○			4						兼1	
		ドイツ語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○			1						兼1	
		ドイツ語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○			1						兼1	
		フランス語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼1	
		フランス語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼1	
		中国語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○			1						兼2	
		中国語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○			1						兼2	
		ロシア語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○				1						
		ロシア語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○				1						
		朝鮮韓国語基礎(特設)Ⅰ	1前	1		○									兼2	
		朝鮮韓国語基礎(特設)Ⅱ	1後	1		○									兼1	
		ドイツ語応用Ⅰ	2前	1		○				1					兼1	
		ドイツ語応用Ⅱ	2後	1		○				1					兼1	
		フランス語応用Ⅰ	2前	1		○									兼2	
		フランス語応用Ⅱ	2後	1		○									兼2	
		中国語応用Ⅰ	2前	1		○				1					兼4	
		中国語応用Ⅱ	2後	1		○				1					兼4	
		ロシア語応用Ⅰ	2前	1		○				1	1					
		ロシア語応用Ⅱ	2後	1		○				1					兼1	
		朝鮮韓国語応用Ⅰ	2前	1		○									兼2	
		朝鮮韓国語応用Ⅱ	2後	1		○				1					兼1	
小計(23科目)	—	0	23	0	—			10	1	0	0	0	0	兼26		
情報科目	情報科目	情報リテラシー	1前・後	2		○									兼3	—
		小計(1科目)	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	
問題探究領域科目	問題探究領域科目	ボランティア論	1前	2		○									兼1	—
		福島のブランド農業	1前	2		○									兼2	
		暮らしと仕事と大学生	1前	2		○				1						
		社会とデータの基礎	1前	2		○									兼3	
		都市生活と「まちづくり」	1前	2		○									兼1	
		生活探究演習	1前	2		○									兼3	
		大学で学ぶ	1前	2		○									兼1	
		哲学カフェ	1前	2		○									兼1	
		グローバル災害論	1前	2		○				1						
		ふくしま未来学入門Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		評価論入門	1後	2		○									兼1	
		環境放射能学入門	1後	2		○									兼1	
		災害復興支援学Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		震災農村復興論	1後	2		○									兼2	
		データ分析入門	1後	2		○									兼1	
		地域と世界の未来をつくる科学と数学	1後	2		○									兼1	
		ふくしま未来学入門Ⅱ	1後	2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
問題探究領域科目	問題探究科目	立ち直り支援と地域社会	1後	2		○											兼1	
		むらの大学A	1後	2		○											兼2	
		むらの大学B	1後	2		○											兼2	
		むらの大学C	1後	2		○											兼1	
		小計 (21科目)	—	0	42	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	0	兼15	—
自主プログラム	自主プログラム	自主学修プログラム	1前		1		○		1									
		小計 (1科目)	—	0	0	1	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0	—	
		問題探究セミナー I	1後	2			○		4	9								
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—	—	4	9	0	0	0	0	0	0	—	
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—	—	4	9	0	0	0	0	0	0	—	
【専門教育科目】																		
専門領域科目	理学類基礎科目 A	入門マクロ経済学	1前	2		○			1									
		入門政治経済学	1前	2		○				1								
		入門経営学	1前	2		○					1							
		簿記概論 I	1前	2		○					1							
		入門ミクロ経済学	1後	2		○					1							
		簿記概論 II	1後	2		○					1							
		入門統計学	2前	2		○			1									
		小計 (7科目)	—	14	0	0	—	—	2	5	0	0	0	0	0	0	—	
	理学類基礎科目 B	理学類基礎科目 B	歴史と経済	1後	2		○				1							
			多文化理解	1後	2		○			1								
基礎経営学 I			1後	2		○				1								
ミクロ経済学 I			2前	2		○				1								
マクロ経済学 I			2前	2		○				1								
世界経済論 I			2前	2		○			1									
地域と経済			2前	2		○				1								
基礎経営学 II			2前	2		○			1									
入門会計学			2前	2		○			1									
小計 (9科目)	—	0	18	0	—	—	4	5	0	0	0	0	0	0	—			
問題探究科目	問題探究科目	問題探究セミナー II	2前	2			○		6	8								
		小計 (1科目)	—	2	0	0	—	—	6	8	0	0	0	0	0	—		
コース専門科目群	コース専門科目群	ミクロ経済学 II	2後	2		○				1								
		経済数学	2後	2		○			1									
		マクロ経済学 II	2後	2		○				1								
		入門金融論	2後	2		○											兼1	
		経済政策	2後	2		○			1									
		公共経済学	2後	2		○				1								
		地域経済論	2後	2		○					1							
		社会開発論	2後	2		○											兼1	
		経済学史	2後	2		○			1									
		統計学概論	2後	2		○			1									
		調査法 I (質問紙)	2後	2		○				1								
		経営戦略論	2後	2		○			1									
		経営組織論	2後	2		○				1								
		組織行動論	2後	2		○				1								
		マーケティング論	2後	2		○			1									
		中級簿記	2後	2		○			1									
		原価計算 I	2後	2		○			1									
		財務諸表論 I	2後	2		○				1								
		租税法概論	2後	2		○				1								
		国際関係論	2後	2		○			1									
		国際経済学	3前	2		○				1								
		応用経済分析	3前	2		○			1									
		国際金融論	3前	2		○				1								
		地域金融論	3前	2		○				1								
		財政学	3前	2		○			1									
		地方財政論	3前	2		○			1									
		環境経済学	3前	2		○				1								
		社会政策	3前	2		○			1									
		労働経済	3前	2		○			1									
		産業組織と規制の経済学	3前	2		○				1								
		地域政策論	3前	2		○				1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門領域科目	コース専門科目群	交通政策論	3前	2		○				1	1						
		日本経済論	3前	2		○				1							兼1
		開発経済学	3前	2		○											
		世界経済論Ⅱ	3前	2		○				1							
		アメリカ経済論	3前	2		○				1							
		欧州経済論	3前	2		○					1						
		アジア経済論	3前	2		○											兼1
		社会思想史	3前	2		○				1							
		日本経済史	3前	2		○					1						
		比較経済史	3前	2		○					1						
		政治経済学	3前	2		○					1						
		計量経済学	3前	2		○				1							
		産業連関分析	3前	2		○				1							
		調査法Ⅱ（フィールド）	3前	2		○					1						
		人的資源管理論	3前	2		○				1							
		消費者行動論	3前	2		○					1						
		地域企業経営論	3前	2		○					1						
		国際経営論	3前	2		○				1							
		財務管理論	3前	2		○				1							
		現代ファイナンス論	3前	2		○				1							
		経営情報分析	3前	2		○					1						
		証券市場論	3前	2		○				1							
		上級簿記	3前	2		○				1							
		原価計算Ⅱ	3前	2		○				1							
		管理会計	3前	2		○				1							
		コスト・マネジメント	3前	2		○				1							
		財務諸表論Ⅱ	3前	2		○				1							
		財務諸表監査	3前	2		○					1						
		租税法Ⅰ	3前	2		○					1						
		租税法Ⅱ	3前	2		○					1						
		国際公共政策論	3前	2		○				1							
		比較社会論	3前	2		○					1						
		言語コミュニケーション論	3前	2		○				1							
		英語圏文化スタディーズ	3前	2		○				1							
		ヨーロッパ文化スタディーズ	3前	2		○				1							
		アジア文化スタディーズ	3前	2		○				1							
		Analyzing Japanese : From a Comparative Perspective	2前	2		○				1							
		中国語実践演習	1前	2						○	1						
		韓国朝鮮語実践演習	1前	2						○	1						
		英語実践演習（留学）	1前	2						○	1						
		外国語実践演習（留学）	1前	2						○	1						
		英語アドバンスト演習Ⅰ	1前	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅱ	1後	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅲ	1前	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅳ	1後	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅴ	1前	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅵ	1後	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅶ	1前	1				○									兼1
		英語アドバンスト演習Ⅷ	1後	1				○			1						
		英語アドバンスト演習Ⅸ	1前	1				○			1						
英語アドバンスト演習Ⅹ	1後	1				○			1								
英語アドバンスト演習Ⅺ	1前	1				○			1								
英語アドバンスト演習Ⅻ	1後	1				○			1								
ドイツ語アドバンスト演習Ⅰ	1前後	1				○			1								
フランス語アドバンスト演習Ⅰ	1前後	1				○									兼1		
中国語アドバンスト演習Ⅰ	1前後	1				○									兼1		
ロシア語アドバンスト演習Ⅰ	1前後	1				○			1	1							
朝鮮韓国語アドバンスト演習Ⅰ	1前後	1				○			1						兼1		
ドイツ語アドバンスト演習Ⅱ	2前後	1				○			1						兼1		
フランス語アドバンスト演習Ⅱ	2前後	1				○									兼1		
中国語アドバンスト演習Ⅱ	2前後	1				○			1						兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域科目	ロシア語アドバンスト演習Ⅱ	2前後		1			○		1	1					兼1	
	韓国朝鮮語アドバンスト演習Ⅱ	2前後		1			○		1						兼1	
	民法総則	2前		2		○									兼1	
	民法（不法行為）	2前		2		○									兼1	
	民法（債権総論）	3前		2		○									兼1	
	民法（債権各論）	3前		2		○									兼1	
	労働法Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	労働法Ⅱ	3前		2		○									兼1	
	社会保障法	3前		2		○									兼1	
	社会構造論Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	商法Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	商法Ⅱ	3前		2		○									兼1	
	経済法	3前		2		○									兼1	
	国際法Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	国際法Ⅱ	3前		2		○									兼1	
	公共政策論Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	地域社会学	3前		2		○									兼1	
	エコロジカル経済学	3前		2		○									兼1	
	経営工学	2前		2		○									兼1	
	応用数学Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	サプライチェーンマネジメント	2後		2		○									兼1	
	応用数学Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	生産管理概論	2前		2		○									兼1	
	流通管理概論	2前		2		○									兼1	
	経営情報システム	3前		2		○									兼1	
	協同組合学	3前		2		○									兼1	
農林資源経済論	3前		2		○									兼1		
フードシステム論	3前		2		○									兼1		
小計（120科目）	—	0	218	0			—		26	17	0	0	0	兼25	—	
演習門	専門演習	2後～3後		2			○		14	16						
	小計（1科目）	—	0	2	0		—		14	16	0	0	0	0	—	—
AL科目群	卒研のための統計分析	3後		2			○			2						
	コーオペ演習：アクセントチュア	2後～3後		2			○		1							
	コーオペ演習：地域デザインⅠ	3前		2			○		1							
	コーオペ演習：地域デザインⅡ	3後		2			○		1							
	海外調査：アジアⅠ	3前		2			○		1							
	海外調査：アジアⅡ	3後		2			○		1							
	海外調査：欧米Ⅰ	3前		2			○			1						
	海外調査：欧米Ⅱ	3後		2			○			1						
	Japan Study ProgramⅠ（JSPⅠ）	2前		2			○		1							
	Japan Study ProgramⅡ（JSPⅡ）	2後		2			○		1							
	Japan Study ProgramⅢ（JSPⅢ）	2前		2			○								兼1	
	Japan Study ProgramⅣ（JSPⅣ）	2前		2			○								兼1	
	Work Experience AbroadⅠ（WEAⅠ）	2前		2			○		1							
	Work Experience AbroadⅡ（WEAⅡ）	2後		2			○		1							
	特別演習 外書購読（英語）	2後		2			○		1							
	ドイツ語実践演習Ⅰ	2後		2			○		1							
	ロシア語実践演習Ⅰ	2後		2			○			1						
	ドイツ語実践演習Ⅱ	3前		2			○		1							
	ロシア語実践演習Ⅱ	3前		2			○			1						
小計（19科目）	—	0	38	0			—		4	4	0	0	0	兼1	—	
Ⅰ 演習卒業	卒業研究演習Ⅰ	4前		2			○		14	16						
	小計（1科目）	—	0	2	0		—		14	16	0	0	0	0	—	—
Ⅱ 演習卒業	卒業研究演習Ⅱ	4後		2			○		14	16						
	小計（1科目）	—	2	0	0		—		14	16	0	0	0	0	—	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門領域科目	特殊講義	英語技能検定試験対策講座Ⅰ	1前			2	○			1						兼1
		英語技能検定試験対策講座Ⅱ	1前			2	○									兼1
		ビジネス法務	2後			2	○				1					兼7
		アドバンスト科目	3前			2	○			17	2					兼1
		海外語学研修(英語)	1前			2~4			○	1						兼1
		Interpretation Exercises	2前			2	○									兼1
		Fukushima's History and Culture I	2前			2	○									兼1
		Fukushima's History and Culture II	2前			2	○									兼1
		国際共修(Intercultural Co-Learning)	2前			1	○									兼1
		国際共修(Intercultural Co-Learning) Understanding Post-Disaster Fukushima	2前			1	○									兼1
		小計(11科目)	—	0	0	20~22			—	9	2	0	0	0	0	兼6
研卒業	卒業研究	4後	4				○		14	16						
	小計(1科目)	—	4	0	0			—	14	16	0	0	0	0	0	
合計(272科目)			—	31	429~431	22~24		—	26	17	0	0	0	0	兼128	—
学位又は称号		学士(経済学)		学位又は学科の分野				経済学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
(卒業要件) 基盤教育科目34単位、専門教育科目74単位、自由選択科目16単位、合計124単位								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						
<基盤教育科目>																
(接続領域) スタートアップセミナー2単位、キャリア形成論2単位、健康運動科学実習1単位、 外国語コミュニケーション科目・英語4単位、外国語コミュニケーション科目・英語以外の外国語基礎Ⅰ・Ⅱ2単位の合計11単位必修																
(教養領域) 学術基礎科目 人文科学分野から2単位選択、社会科学分野から2単位選択、自然科学分野から2単位選択、合計6単位選択必修 キャリア設計科目 キャリアモデル学習、インターンシップ、ワーキングスキルから2単位選択必修 外国語科目 4単位選択必修(「英語4単位」「英語以外の外国語4単位」「英語2単位+英語以外の外国語2単位」のいずれか)																
(問題探究領域)問題探究セミナーⅠ2単位必修、問題探究科目から2単位選択必修 (教養領域・問題探究領域)上記の単位数に加え、教養領域科目、問題探究領域科目からさらに7単位選択必修																
<専門教育科目>																
(学類基礎科目)リテラシーA14単位必修、リテラシーBから14単位選択必修																
(問題探究科目)問題探究セミナーⅡ2単位必修																
(コース専門科目)コース専門科目群から32単位選択必修 専門演習、AL科目群、卒業研究演習Ⅰから6単位選択必修 卒業研究演習Ⅱ2単位必修																
(卒業研究)卒業研究4単位必修																
<自由選択科目>																
(自由選択)基盤教育科目、専門教育科目から16単位																
<履修科目の登録の上限>24単位(1セメスター(半期)あたり)																

教育課程等の概要														
(人間発達文化研究科地域文化創造専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
通専科目共	地域文化創造特論	1前	2			○			2					オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			2	0	0	0	0	—
領域共通科目	人間発達支援コミュニティⅠ	1前		1		○			1					
	人間発達支援コミュニティⅡ	2前		1		○			1					
	日英言語文化コミュニティⅠ	1前		1		○			1					
	日英言語文化コミュニティⅡ	2前		1		○			1					
	地域生活文化コミュニティⅠ	1前		1		○				1				
	地域生活文化コミュニティⅡ	2前		1		○				1				
	芸術文化コミュニティⅠ	1前		1		○			1					
	芸術文化コミュニティⅡ	2前		1		○			1					
	数理科学コミュニティⅠ	1前		1		○			1					
	数理科学コミュニティⅡ	2前		1		○			1					
	スポーツ健康科学コミュニティⅠ	1前		1		○				1				
	スポーツ健康科学コミュニティⅡ	2前		1		○				1				
小計(12科目)	—	0	12	0	—			4	2	0	0	0	0	—
専攻専門科目	教育心理学特論演習	1通		4			○		1					
	認知教育方法特論	1前		2		○			1					
	認知教育方法特論演習	1通		4			○		1					
	発達心理学特論	1前		2		○			1					
	発達心理学特論演習Ⅰ	1通		4			○		1					
	発達心理学特論演習Ⅱ	1通		4			○		1					
	乳幼児・小学生の心理学特論	1後		2		○			1					
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	1通		4			○		1					
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	1通		4			○		1					
	中学生・高校生の心理学特論	1前		2		○				1				
	中学生・高校生の心理学特論演習	1通		4			○			1				
	人間理解特論	1前		2		○				1				
	人間理解特論演習	1通		4			○			1				
	集団の心理特論	1前		2		○			1					
	集団の心理特論演習Ⅰ	1通		4			○		1					
	集団の心理特論演習Ⅱ	1通		4			○		1					
	障害学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	障害学特論Ⅱ	1前		2		○				1				
	障害学特論Ⅲ	1後		2		○				1				
	幼児教育学特論	1前		2		○				1				
	幼児教育学特論演習Ⅰ	1通		4			○			1				
	幼児教育学特論演習Ⅱ	1通		4			○			1				
	幼児心理学特論	1後		2		○			1					
	幼児心理学特論演習Ⅰ	1通		4			○		1					
	幼児心理学特論演習Ⅱ	1通		4			○		1					
	幼児教育内容特論	1前		2		○			1					
	幼児教育内容特論演習Ⅰ	1通		4			○		1					
	幼児教育内容特論演習Ⅱ	1通		4			○		1					
	幼稚園実践研究	1前		2			○		2	1				オムニバス
	現代日本語特論	1後		2			○		1					
	現代日本語特論演習	1通		4			○		1					
	地域言語特論	1前		2			○		1					
地域言語特論演習	1通		4			○		1						
日本近代文学特論	1後		2			○			1					
日本近代文学特論演習	1通		4			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻専門科目	比較言語文化特論	1後		2		○					1					
	比較言語文化特論演習	1通		4			○				1					
	日本古典文学特論	1前		2		○				1						
	日本古典文学特論演習	1通		4			○			1						
	日本言語文化史特論	1後		2		○				1						
	日本言語文化史特論演習	1通		4			○			1						
	中国文化特論	1前		2		○				1						
	中国文化特論演習	1通		4			○			1						
	中国思想特論	1前		2		○				1						
	中国思想特論演習	1通		4			○			1						
	英語意味論特論	1前		2		○					1					
	英語意味論特論演習	1後		2							1					
	英語意味研究Ⅰ	1後		2			○				1					隔年
	英語意味研究Ⅱ	1後		2			○				1					隔年
	英語構造論特論	1前		2		○				1						
	英語構造論特論演習	1後		2			○			1						
	英語構造研究Ⅰ	1後		2			○			1						隔年
	英語構造研究Ⅱ	1後		2			○			1						隔年
	外国語教授学特論	1後		2		○					1					
	初期近代英米文学特論	1前		2		○				1						
	初期近代英米文学特論演習	1後		2			○			1						
	初期近代英米文化研究Ⅰ	1後		2			○			1						隔年
	初期近代英米文化研究Ⅱ	1後		2			○			1						隔年
	近代英米文学特論	1前		2		○				1						
	近代英米文学特論演習	1後		2			○			1						
	近代英米文化研究Ⅰ	1後		2			○			1						隔年
	近代英米文化研究Ⅱ	1後		2			○			1						隔年
	現代英米文学特論	1前		2		○				1						
	現代英米文学特論演習	1後		2			○			1						
	現代英米文化研究Ⅰ	1後		2			○			1						隔年
	現代英米文化研究Ⅱ	1後		2			○			1						隔年
	外国文化特論	1前		2		○					1					
	外国文化特論演習	1後		2			○				1					
	外国文化研究Ⅰ	1通		2			○				1					隔年
	外国文化研究Ⅱ	1後		2			○				1					隔年
	国語科教育特論Ⅰ	1後		2			○			1						
	英語科教育特論Ⅰ	1前		2			○				1					隔年
	英語科教育特論Ⅱ	1前		2			○			1						
	国語科カリキュラム特論演習Ⅰ	1後		2			○			1						
	英語科カリキュラム特論演習Ⅰ	1前		2			○				1					隔年
	英語科カリキュラム特論演習Ⅱ	1後		2			○			1						
	国語科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○			1						隔年
	国語科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○			1						隔年
	英語科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○			1	1					隔年、共同
	英語科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○			1	1					隔年、共同
日本社会文化史特論	1前		2		○				1							
日本地域生活史特論演習	1後		2			○			1							
ヨーロッパ社会文化史特論	1前		2		○				1							
ヨーロッパ地域生活史特論演習	1後		2			○			1							
アジア社会文化史特論	1前		2		○										兼1 隔年	
アジア地域生活史特論演習	1前		2			○									兼1 隔年	
風土と生活特論	1前		2		○				1							
環境地理学特論演習	1後		2			○			1							
地域と文化特論	1前		2		○				1							
地域振興とまちづくり特論演習	1後		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻専門科目	農業と農村の地理学特論演習	1後		2			○								兼1	隔年
	異文化共生の政治学特論演習	1前		2			○								兼1	隔年
	コミュニティ文化特論	1前		2			○		1							
	コミュニティ形成特論演習	1後		2				○	1							
	人間理解の哲学特論	1前		2			○								兼1	隔年
	知識の哲学特論	1前		2			○								兼1	
	人間開発の倫理学特論	1前		2			○		1							
	共生の倫理学特論演習	1後		2				○	1							
	食品科学特論	1前		2			○		1							
	食物学研究	1後		2				○	1							
	食生活特論	1前		2			○		1							
	食生活支援研究	1後		2				○	1							
	衣生活特論	1前		2			○		1							
	衣生活支援研究	1後		2				○	1							
	家庭科教育特論	1前		2			○		1							
	家庭科カリキュラム特論演習	1後		2				○	1							
	家庭科教育実践研究	1前		2				○	4							オムニバス
	生涯生活マネジメント特論	1後		2			○		1							隔年
	社会科教育特論	1前		2			○		1							
	社会科教育実践研究	1後		2				○	1							
	現代ピアノ演奏演習	1前		2				○	1							
	ピアノ演奏特論演習	1後		2				○	1							
	鍵盤楽器特論演習	2前		2				○	1							
	現代器楽演奏演習	1前		2				○							兼1	隔年
	器楽演奏特論演習	2前		2				○							兼1	隔年
	器楽アンサンブル特論演習	1前		2				○							兼1	隔年
	現代声楽演奏特論演習	1前		2				○	1							
	声楽演奏特論演習	1後		2				○	1							
	オペラ特論演習	2前		2				○	1							
	音楽メディア創造演習	1前		2				○	1							
	作曲特論演習	1後		2				○	1							
	現代指揮法演習	1後		2				○	1							
	音楽文化特論	1前		2			○								兼1	隔年
	音楽文化特論演習	1前		2				○							兼1	隔年
	現代文化と絵画特論	1前		2			○		1							
	現代文化と絵画特論演習 I	1通		2				○	1							
	現代文化と絵画特論演習 II	2後		2				○	1							
	環境と彫刻特論	1後		2			○		1							
	環境と彫刻特論演習 I	1通		2				○	1							
	環境と彫刻特論演習 II	2前		2				○	1							
	生活と工芸特論	1前		2			○								兼1	
	日本美術史特論	1後		2			○			1						
	西洋美術史特論	1前		2			○			1						
	音楽科教育特論	1前		2			○		1							
	美術科教育特論	1前		2			○		1							
	音楽科カリキュラム特論演習	1後		2				○	1							
	美術科カリキュラム特論演習	1後		2				○	1							
音楽科教育実践研究 I	1後		2				○	1							隔年	
音楽科教育実践研究 II	1前		2				○	1							隔年	
美術科教育実践研究 I	1前		2				○	1							隔年	
美術科教育実践研究 II	1前		2				○	1							隔年	
多様体と構造の幾何特論	1前		2			○		1							隔年	
多様体と構造の幾何特論演習 I	1前		2				○	1							隔年	
多様体と構造の幾何特論演習 II	1後		2				○	1							隔年	
現象の幾何特論	1前		2			○		1							隔年	
現象の幾何特論演習	1前		2				○	1							隔年	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻専門科目	グラフとネットワーク特論	1後		2		○			1							隔年
	自然現象の数理特論	1前		2		○				1						隔年
	自然現象の数理特論演習Ⅰ	1前		2			○			1						隔年
	自然現象の数理特論演習Ⅱ	1後		2			○			1						隔年
	力学系と数式処理特論	1後		2		○				1						隔年
	統計理論の社会的応用特論	1前		2		○				1						隔年
	統計理論の社会的応用特論演習	1前		2			○			1						隔年
	情報コミュニティ特論	1前		2		○			1							
	伝統の数理特論	1後		2		○			1							
	生命環境科学特論	1前		2		○				1						
	生命環境科学特論演習	1後		2			○			1						
	自然環境科学特論	1前		2		○				1						
	自然環境科学特論演習	1後		2			○			1						
	物質化学特論	1前		2		○			1							
	物質化学特論演習	1後		2			○		1							
	理科教育特論	1前		2		○				1						
	理科カリキュラム特論演習	1後		2			○			1						
	理科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○			1						隔年
	理科教育実践研究Ⅱ	1前		2			○			1						隔年
	身体教育とスポーツ文化特論	1前		2		○			1							
	現代スポーツ特論演習	1後		2			○		1							
	身体観と身体技法特論	1前		2		○			1							
	身体文化史研究	1後		2			○		1							
	スポーツ社会政策特論	1前		2		○				1						
	スポーツクラブマネジメント特論演習	1後		2			○			1						
	スポーツ医科学特論	1前		2		○				1						
	健康科学と運動処方特論	1後		2		○				1						
	運動発達のバイオメカニクス特論	1前		2		○				1						
	発達と加齢の運動学特論	1後		2			○			1						
	運動とライフサイエンス特論	1前		2		○			1							
	健康指導特論演習	1後		2			○		1							
	スポーツトレーニング特論	1前		2		○			1							
	トレーニング実践特論演習	1後		2			○		1							
保健体育科教育特論Ⅰ	1前		2		○					1						
保健体育科カリキュラム特論演習Ⅰ	1後		2			○				1						
保健体育科教育実践研究Ⅰ	1前		2			○				1						
プロジェクト実践研究Ⅰ	1後		2			○		37	15	1						
プロジェクト実践研究Ⅱ	1前		2			○		37	15	1						
小計(184科目)	—		0	416	0	—		37	15	1	0	0	兼12	—		
課題研究	課題研究Ⅰ	1前		2			○		37	15	1					
	課題研究Ⅱ	2前		2			○		37	15	1					
	小計(2科目)	—		4	0	0	—		37	15	1	0	0	0	—	
専門演習	専門演習Ⅰ	1後		2			○		37	15	1					
	専門演習Ⅱ	2後		2			○		37	15	1					
	小計(2科目)	—		4	0	0	—		37	15	1	0	0	0	—	
合計(201科目)		—		10	428	0	—		37	15	1	0	0	兼12	—	
学位又は称号		修士(地域文化)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
1. 専攻の修了には、専攻共通科目2単位、領域共通科目2単位(所属する領域の科目を履修すること)、課題研究4単位、専門演習4単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士論文または特定課題の研究成果の審査及び最終試験に合格すること。 2. 修了要件について ・専攻共通科目2単位【必修2単位】 ・領域共通科目2単位【選択2単位】								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<ul style="list-style-type: none"> ・専攻専門科目14単位【選択14単位】 ・課題研究4単位【必修4単位】 ・専門演習4単位【必修4単位】 ・自由選択科目4単位【選択4単位】：専攻専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して4単位以上を履修する。 														

教育課程等の概要															
（人間発達文化研究科学校臨床心理専攻）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎論	教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理特論）	1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス
	臨床心理学特論Ⅰ	1後		2		○			1						
	臨床心理学特論Ⅱ	1前		2		○								兼1	集中
	福祉分野に関する理論と支援の展開（福祉心理特論）	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
	幼児発達心理学特論	1後		2		○								兼1	
	臨床発達心理学特論	1前		2		○			1						
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（神経生理学特論）	1前		2		○								兼1	集中
	社会心理学特論	1前		2		○								兼1	
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	1前		2		○								兼1	集中
	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神病理学特論）	1前		2		○			1						集中
	障害児心理学特論	1前		2		○			1						
	障害児病理特論	1前		2		○								兼1	集中
	小計（12科目）		—	4	20	0	—			3	1	0	0	0	兼8
方法論	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前		2		○			1						
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	心理支援に関する理論と実践（心理学研究法特論）	1後		2		○			3	1					オムニバス
	心理実験統計法特論	1前		2		○								兼1	
	学習心理学特論	1前		2		○								兼1	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族臨床心理学特論）	1前		2		○			1						
	心理支援に関する理論と実践（精神分析学特論）	1前		2		○				1					
	投影法特論	1後		2		○				1					
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪・非行臨床特論）	1前		2		○			1					兼1	オムニバス
	教育分野に関する理論と支援の展開（教育臨床学特論）	1後		2		○			1						
	心理アセスメントに関する理論と実践（心理アセスメント特論）	1前		2		○			2						オムニバス・集中
	福祉分野に関する理論と支援の展開（家族福祉臨床特論）	1前		2		○			1						
	臨床心理地域援助特論	1後		2		○			1						
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（グループ・アプローチ特論）	1前		2		○								兼1	集中
	心理支援に関する理論と実践（心理療法特論）	1前		2		○								兼1	集中
産業・労働分野に関する理論と支援の展開（産業・労働心理学特論）	1後		2		○								兼2	オムニバス	
心の健康教育に関する理論と実践（心の健康教育特論）	1後		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
小計（17科目）		—	4	30	0	—			4	1	0	0	0	兼7	—
実践論	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1前		2			○		1						
	臨床心理査定演習Ⅱ	1前		2			○		1						
	臨床心理基礎実習	1通		2				○	1	1					共同
	臨床心理実習Ⅱ	2通		2				○	2	1				兼4	共同
小計（4科目）		—	8	0	0	—			3	1	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
実践研究	学校教育臨床研究ⅠA	1前		2				○		4	2					隔年・ 共同・ 集中 隔年・ 共同・ 集中	
	学校教育臨床研究ⅡA	1前		2				○		4	2						
	小計(2科目)	—	0	4	0			—		4	2	0	0	0	0		—
課題研究	課題研究Ⅰ	1後		2				○		4	2						
	課題研究Ⅱ	2後		2				○		4	2						
	小計(2科目)	—	0	4	0			—		4	2	0	0	0	0		—
実践実習	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	2通		2				○		4	1					共同 隔年・ 共同 隔年・ 共同	
	心理実践実習(カウンセリング実習Ⅰ)	1通		2				○		4	1						
	心理実践実習(カウンセリング実習Ⅱ)	2通		2				○		4	1						
	小計(3科目)	—	0	6	0			—		4	1	0	0	0	0		—
合計(40科目)		—	16	64	0			—		4	2	0	0	0	0	兼19	—
学位又は称号		修士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p>1. 専攻の修了には、基礎論6単位、方法論4単位、基礎論または方法論2単位、実践論8単位、実践研究2単位、課題研究2単位を必修として、これらを含め30単位以上を修得し、修士研究の審査に合格すること。</p> <p>2. 修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎論6単位【必修4単位、選択2単位】 ・方法論4単位【必修4単位】 ・基礎論または方法論からさらに2単位【選択2単位】 ・実践論8単位【必修8単位】 ・実践研究2単位【選択2単位】 ・課題研究2単位【選択2単位】 ・自由選択科目6単位【選択6単位】：専門科目の選択科目から、学生が自らの学修に必要な科目を選択して6単位以上を履修する。 								1学年の学期区分	2期								
								1学期の授業期間	15週								
								1時限の授業時間	90分								

教 育 課 程 等 の 概 要

（地域政策科学研究科地域政策科学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修	地方行政演習A I	1前		2			○		3	3					
	地方行政演習A II	1後		2			○		3	3					
	地方行政演習A III	2前		2			○		3	3					
	地方行政演習A IV	2後		2			○		3	3					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		3	3	0	0	0		—
社会経済法	社会経済法演習A I	1前		2			○		2	1					
	社会経済法演習A II	1後		2			○		2	1					
	社会経済法演習A III	2前		2			○		2	1					
	社会経済法演習A IV	2後		2			○		2	1					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		2	1	0	0	0		—
行政基礎法	行政基礎法演習A I	1前		2			○		1	7					
	行政基礎法演習A II	1後		2			○		1	7					
	行政基礎法演習A III	2前		2			○		1	7					
	行政基礎法演習A IV	2後		2			○		1	7					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		1	7	0	0	0		—
社会計画	社会計画演習A I	1前		2			○		4	3					
	社会計画演習A II	1後		2			○		4	3					
	社会計画演習A III	2前		2			○		4	3					
	社会計画演習A IV	2後		2			○		4	3					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		4	3	0	0	0		—
地域文化	地域文化演習A I	1前		2			○		10	1					
	地域文化演習A II	1後		2			○		10	1					
	地域文化演習A III	2前		2			○		10	1					
	地域文化演習A IV	2後		2			○		10	1					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		10	1	0	0	0		—
基盤科目	地域政策科学入門	1前		2		○			20	15					
	事前指導1	1前		2			○		20	15					
	事前指導2	1後		2			○		20	15					
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		20	15	0	0	0		—
選択必修	国家と行政1	1前		2		○				1					
	国家と行政2	1後		2			○		1						
	社会と政治1	1前		2			○			1					
	比較政治	1前		2			○			1					
	国際社会と政治	1後		2			○		1						
	地域社会と法1	1後		2			○		1						
	地方行政特殊研究	1前・後		2				○	3	3					
	小計（7科目）	—	0	14	0		—		3	3	0	0	0		—
社会経済法	社会と法	1後		2		○			1						
	労働・社会保障と法	1後		2			○			1					
	企業と法2	1前		2			○		1						
	社会経済法特殊研究	1前・後		2				○	2	1					
	小計（4科目）	—	0	8	0		—		2	1	0	0	0		—
行政基礎法	国家と法1	1後		2		○				1					
	国家と法2	1前		2			○		1						
	国家と法4	1前		2			○			1					
	市民と法2	1後		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修	行政基礎法	1後		2		○				1					
	紛争処理科学と法	1後		2		○				1					
	地域社会と刑事法	1後		2		○				1					
	国際社会と法1	1後		2		○				1					
	行政基礎法特殊研究	1前・後		2			○			1	7				
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			1	7	0	0	0	—	
社会計画	地域社会と社会計画2	1前		2		○			1						
	地域社会と環境 I	1前		2		○				1					
	地域社会と環境 II	1後		2		○				1					
	地域社会と社会福祉2	1後		2		○			1						
	地域社会と社会調査	1前		2		○			1						
	社会の基礎理論	1前		2		○			1						
	地域社会総論	1後		2		○				1					
	地域社会とコミュニケーション	1後		2		○				1					
	社会計画特殊研究	1前・後		2			○		4	3					
小計 (9科目)	—	0	18	0	—			4	3	0	0	0	—		
地域文化	地域社会と歴史 I I	1前		2		○				1					
	地域社会と歴史 I II	1後		2		○				1					
	地域社会と歴史 2 I	1前		2		○			1						
	地域社会と歴史 2 II	1後		2		○			1						
	地域社会と歴史 3 I	1前		2		○			1						
	地域社会と歴史 3 II	1後		2		○			1						
	地域社会とジェンダー	1前		2		○			1						
	地域社会と教育1	1後		2		○			1						
	社会と情報1	1前		2		○			1						
	国際社会の言語と文化1	1後		2		○			1						
	国際社会の言語と文化2	1前		2		○			1						
	国際社会の言語と文化3	1後		2		○			1						
	国際社会の言語と文化6	1前		2		○			1						
	国際社会の言語と文化8	1後		2		○			1						
	地域文化特殊研究	1前・後		2			○		10	1					
小計 (15科目)	—	0	30	0	—			10	1	0	0	0	—		
応用科目	地域特別研究 I	1前		2			○		20	15					
	地域特別研究 II	1後		2			○		20	15					
	副演習 I	1前		2			○		20	15					
	副演習 II	1後		2			○		20	15					
	副演習 III	2前		2			○		20	15					
	副演習 IV	2後		2			○		20	15					
	演習 B I	1後		2			○		20	15					
	演習 B II	2前		2			○		20	15					
	演習 B III	2後		2			○		20	15					
	地方行政特殊研究	1前・後		2			○		3	3					
	社会経済法特殊研究	1前・後		2			○		2	1					
	行政基礎法特殊研究	1前・後		2			○		1	7					
	社会計画特殊研究	1前・後		2			○		4	3					
地域文化特殊研究	1前・後		2			○		10	1						
小計 (14科目)	—	0	28	0	—			20	15	0	0	0	—		
合計 (81科目)		—	0	162	0	—			20	15	0	0	0	—	
学位又は称号	修士 (地域政策)	学位又は学科の分野			法学関係、社会学・社会福祉学関係										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>○修了要件について</p> <ul style="list-style-type: none"> 科目区分「必修」から所属する履修分野の演習AⅠ～Ⅳ4科目【選択必修8単位】 科目区分「基盤科目」（「事前指導1」「事前指導2」を除く）から1科目以上【選択必修・自由2単位】 ただし、指導教員が認めた場合、基盤科目は自由科目で代替することができる。 科目区分「選択必修」から所属する履修分野の授業科目1科目【選択必修2単位】 科目区分「応用科目」（「地方行政特殊研究」「社会経済法特殊研究」「行政基礎法特殊研究」「社会計画特殊研究」「地域文化特殊研究」を除く）から1科目以上【選択必修・自由2単位】 その他すべてから8科目以上【自由16単位】 上記を修得し、本研究科が行う学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の審査及び最終試験に合格すること。 <p>○一年修了型の修了要件は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 科目区分「必修」から所属する履修分野の演習AⅠ～Ⅱ2科目【選択必修4単位】 科目区分「基盤科目」から1科目以上【選択必修・自由2単位】 科目区分「選択必修」から所属する履修分野の授業科目1科目【選択必修2単位】 科目区分「応用科目」から副演習Ⅰ～Ⅱ2科目【選択必修4単位】、それ以外の授業科目から1科目以上【選択必修・自由2単位】 その他すべてから8科目以上【自由16単位】 上記を修得し、本研究科が行う特定課題研究の審査及び最終試験に合格すること。 						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要														
(経済学研究科経済学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1				
	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
	産業連関論特殊研究	1後		2		○			1					
	国際金融論特殊研究	1前		2		○				1				
	環境経済学特殊研究	1前		2		○				1				
	公共経済学特殊研究	1後		2		○				1				
	計量経済学特殊研究	1後		2		○			1					
	国際経済学特殊研究	1前		2		○				1				
	産業組織論特殊研究	1前		2		○				1				
	法と経済学特殊研究	1後		2		○				1				
	財政学特殊研究	1前		2		○			1					
	租税政策特殊研究	1後		2		○			1					
	地域産業論特殊研究	1前		2		○								兼1
	地域経済論特殊研究	1前		2		○				1				
	地域交通論特殊研究	1後		2		○				1				
	経済地理学特殊研究	1前		2		○			1					
	社会政策論特殊研究	1前		2		○			1					
	労働と福祉特殊研究	1後		2		○			1					
	開発経済学特殊研究	1前		2		○			1					
	経済政策特殊研究	1後		2		○			1					
	現代資本主義特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1				
	現代資本主義特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
	地域政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1				
	地域政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1				
	経済思想史特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
	経済思想史特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
	日本経済史特殊研究	1前		2		○				1				
	日本経営史特殊研究	1後		2		○				1				
	日本経済論特殊研究	1前		2		○			1					
	世界経済論特殊研究	1後		2		○			1					
	比較経済史特殊研究	1前		2		○				1				
	ヨーロッパ経済論特殊研究	1後		2		○				1				
	アメリカ経済論特殊研究	1前		2		○			1					
	アジア経済論特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
	アジア経済論特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
	朝鮮近代史特殊研究	1後		2		○			1					
	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○			1					
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1					
比較社会論特殊研究	1前		2		○				1					
会計実務特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1	
会計実務特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1	
管理会計論特殊研究	1前		2		○								兼1	
コスト・マネジメント特殊研究	1後		2		○								兼1	
価値創造会計特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	価値創造会計特殊研究Ⅱ	1後		2		○										兼1	オムニバス・共同
	財務諸表論特殊研究Ⅰ	1前		2		○										兼1	
	財務諸表論特殊研究Ⅱ	1後		2		○										兼1	
	財務報告論特殊研究Ⅰ	1前		2		○										兼1	
	財務報告論特殊研究Ⅱ	1後		2		○										兼1	
	租税法特殊研究Ⅰ	1前		2		○										兼1	
	租税法特殊研究Ⅱ	1後		2		○										兼1	
	特講（実務租税法Ⅰ）	1前		2		○										兼1	
	特講（実務租税法Ⅱ）	1後		2		○										兼1	
	特講（現代経済の基礎問題）	1前		1		○				7	6					兼2	
	特講（循環型農業論Ⅰ）	1前		1		○										兼1	
	特講（循環型農業論Ⅱ）	1後		1		○										兼1	
	特講（食料経済Ⅰ）	1前		1		○										兼1	
	特講（食料経済Ⅱ）	1前		1		○										兼1	
	特講（里山管理・野生動物保護論Ⅰ）	1後		1		○										兼1	
	特講（里山管理・野生動物保護論Ⅱ）	1後		1		○										兼1	
	特講（復興計画論）	1後		2		○										兼1	
	特講（地域資源経済Ⅰ）	1後		1		○										兼1	
	特講（地域資源経済Ⅱ）	1後		1		○										兼1	
	特講（交通まちづくり論）	1後		1		○					1					兼1	
	特講（データ活用のための統計学Ⅰ）	1前		1		○				1						兼1	
	特講（データ活用のための統計学Ⅱ）	1前		1		○				1						兼1	
	特講（フードシステム分析）	1前		1		○										兼1	
	特講（競争戦略）	1前		1		○										兼1	
	特講（人的資源管理）	1前		1		○										兼1	
	特講（リーダーシップ）	1前		1		○										兼1	
	集中特講（消費者行動）	1後		1		○										兼1	
	集中特講（キャリア・デザイン）	1後		1		○										兼1	
	集中特講（マネジメント実践Ⅱ）	1後		1		○										兼1	
	集中特講（マーケティング実践Ⅲ）	1後		1		○										兼1	
	集中特講（マーケティング実践Ⅳ）	1後		1		○										兼1	
	特講（地域企業経営）	1後		1		○										兼1	
	特講（地域デザイン）	1後		1		○										兼1	
特講（組織行動）	1後		1		○										兼1		
特講（ビジネス統計）	1後		1		○										兼1		
特講（知的財産の基本）	1後		1		○										兼1		
特講（大正・昭和期日本の財政と経済）	1後		1		○										兼1		
小計（83科目）		—	0	139	0	—			11	10	0	0	0	0	兼23	—	
語学科目	特設外国語 英語Ⅰ	1前		2		○			1								
	特設外国語 英語Ⅱ	1前		2		○			1								
	特設外国語 英語Ⅲ	1後		2		○			1								
	特設外国語 英語Ⅳ	1後		2		○			1								
	特設外国語 ロシア語Ⅰ	1前		2		○				1							
	特設外国語 ロシア語Ⅱ	1後		2		○			1								
	特設外国語 中国語Ⅰ	1前		2		○			1								
	特設外国語 中国語Ⅱ	1後		2		○			1								
	特設外国語 韓国朝鮮語	1後		2		○			1								
	特設外国語 日本語（留学生対象）Ⅰ	1前		2		○			1								
	特設外国語 日本語（留学生対象）Ⅱ	1後		2		○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小計 (11科目)	—	0	22	0	—			8	1	0	0	0	0	—
演習科目 A	入門演習	1前	1				○		11	7				兼9	
	実践演習	1後	2				○		10	7				兼10	
	演習A (課題研究コース)	2前・後		2			○		11	7				兼13	
	演習A (修士論文コース)	1後～2後		2			○		9	7				兼7	
	小計 (4科目)	—	3	4	0	—			11	7	0	0	0	兼15	—
演習科目 B	演習B (課題研究コース)	2前・後		2			○		11	7				兼13	
	演習B (修士論文コース)	2前・後		2			○		9	7				兼7	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			11	7	0	0	0	兼15	—
合計 (100科目)		—	3	169	0	—			18	10	0	0	0	兼27	—
学位又は称号	修士(経済学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(修了要件)						1 学年の学期区分			2期						
修士論文コース、課題研究コース毎の要修了単位を修得し、本研究科が行う修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格すること。						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						
(履修科目の登録の上限：14単位 (半期))															
1. 修士論文コース															
専門科目・語学科目から【選択必修19単位】 (専門科目15単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目 A・B【必修11単位】 (入門演習1単位、演習 A6単位、演習 B4単位)															
2. 課題研究コース															
以下の①～③のうち、いずれかの組み合わせを選択する。															
①専門科目・語学科目から【選択必修19単位】 (専門科目15単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目 A・B【必修11単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習 A4単位、演習 B4単位)															
②専門科目・語学科目から【選択必修21単位】 (専門科目17単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目 A・B【必修9単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習 A4単位、演習 B2単位)															
③専門科目・語学科目から【選択必修23単位】 (専門科目19単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目 A・B【必修7単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習 A2単位、演習 B2単位)															

教育課程等の概要														
(経済学研究科経営学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	産業連関論特殊研究	1後		2		○								兼1
	国際金融論特殊研究	1前		2		○								兼1
	環境経済学特殊研究	1前		2		○								兼1
	公共経済学特殊研究	1後		2		○								兼1
	計量経済学特殊研究	1後		2		○								兼1
	国際経済学特殊研究	1前		2		○								兼1
	産業組織論特殊研究	1前		2		○								兼1
	法と経済学特殊研究	1後		2		○								兼1
	財政学特殊研究	1前		2		○								兼1
	租税政策特殊研究	1後		2		○								兼1
	地域産業論特殊研究	1前		2		○								兼1
	地域経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	地域交通論特殊研究	1後		2		○								兼1
	経済地理学特殊研究	1前		2		○								兼1
	社会政策論特殊研究	1前		2		○								兼1
	労働と福祉特殊研究	1後		2		○								兼1
	開発経済学特殊研究	1前		2		○								兼1
	経済政策特殊研究	1後		2		○								兼1
	現代資本主義特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	現代資本主義特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	地域政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	地域政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	経済思想史特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	経済思想史特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	日本経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
	日本経営史特殊研究	1後		2		○								兼1
	日本経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	世界経済論特殊研究	1後		2		○								兼1
	比較経済史特殊研究	1前		2		○								兼1
	ヨーロッパ経済論特殊研究	1後		2		○								兼1
	アメリカ経済論特殊研究	1前		2		○								兼1
	アジア経済論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	アジア経済論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
	朝鮮近代史特殊研究	1後		2		○								兼1
	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	1前		2		○								兼1
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	1後		2		○								兼1
比較社会論特殊研究	1前		2		○								兼1	
会計実務特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1					
会計実務特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1					
管理会計論特殊研究	1前		2		○				1					
コスト・マネジメント特殊研究	1後		2		○				1					
価値創造会計特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	価値創造会計特殊研究Ⅱ	1後		2		○			1							
	財務諸表論特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1						
	財務諸表論特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1						
	財務報告論特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1						
	財務報告論特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1						
	租税法特殊研究Ⅰ	1前		2		○				1						
	租税法特殊研究Ⅱ	1後		2		○				1						
	特講（実務租税法Ⅰ）	1前		2		○										兼1
	特講（実務租税法Ⅱ）	1後		2		○										兼1
	特講（現代経済の基礎問題）	1前		1		○										兼15
	特講（循環型農業論Ⅰ）	1前		1		○										兼1
	特講（循環型農業論Ⅱ）	1後		1		○										兼1
	特講（食料経済Ⅰ）	1前		1		○										兼1
	特講（食料経済Ⅱ）	1前		1		○										兼1
	特講（里山管理・野生動物保護論Ⅰ）	1後		1		○										兼1
	特講（里山管理・野生動物保護論Ⅱ）	1後		1		○										兼1
	特講（復興計画論）	1後		2		○										兼1
	特講（地域資源経済Ⅰ）	1後		1		○										兼1
	特講（地域資源経済Ⅱ）	1後		1		○										兼1
	特講（交通まちづくり論）	1後		1		○										兼1
	特講（データ活用のための統計学Ⅰ）	1前		1		○										兼1
	特講（データ活用のための統計学Ⅱ）	1前		1		○										兼1
	特講（フードシステム分析）	1前		1		○										兼1
	特講（競争戦略）	1前		1		○				1						
	特講（人的資源管理）	1前		1		○				1						
	特講（リーダーシップ）	1前		1		○				1						
	集中特講（消費者行動）	1後		1		○										兼1
	集中特講（キャリア・デザイン）	1後		1		○										兼1
	集中特講（マネジメント実践Ⅱ）	1後		1		○										兼1
	集中特講（マーケティング実践Ⅲ）	1後		1		○										兼1
	集中特講（マーケティング実践Ⅳ）	1後		1		○										兼1
	特講（地域企業経営）	1後		1		○					1					
	特講（地域デザイン）	1後		1		○					1					
	特講（組織行動）	1後		1		○					1					
特講（ビジネス統計）	1後		1		○					1						
特講（知的財産の基本）	1後		1		○					1						
特講（大正・昭和期日本の財政と経済）	1後		1		○										兼1	
小計（83科目）		—	0	139	0	—			5	5	0	0	0	兼34	—	
語学科目	特設外国語 英語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	特設外国語 英語Ⅱ	1前		2		○									兼1	
	特設外国語 英語Ⅲ	1後		2		○									兼1	
	特設外国語 英語Ⅳ	1後		2		○									兼1	
	特設外国語 ロシア語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	特設外国語 ロシア語Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	特設外国語 中国語Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	特設外国語 中国語Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	特設外国語 韓国朝鮮語	1後		2		○									兼1	
	特設外国語 日本語（留学生対象）Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	特設外国語 日本語（留学生対象）Ⅱ	1後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小計 (11科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
演習科目A	入門演習	1前	1				○		3	4				兼20	
	実践演習	1後	2				○		3	5				兼19	
	演習A (課題研究コース)	2前・後		2			○		6	7				兼18	
	演習A (修士論文コース)	1後～2後		2			○		2	3				兼18	
	小計 (4科目)	—	3	4	0	—			6	7	0	0	0	兼20	—
演習科目B	演習B (課題研究コース)	2前・後		2			○		6	7				兼18	
	演習B (修士論文コース)	2前・後		2			○		2	3				兼18	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			6	7	0	0	0	兼20	—
合計 (100科目)		—	3	169	0	—			7	7	0	0	0	兼41	—
学位又は称号	修士(経済学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
(修了要件)						1 学年の学期区分			2期						
修士論文コース、課題研究コース毎の要修了単位を修得し、本研究科が行う修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格すること。						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						
(履修科目の登録の上限：14単位 (半期))															
1. 修士論文コース															
専門科目・語学科目から【選択必修19単位】 (専門科目15単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目A・B【必修11単位】 (入門演習1単位、演習A6単位、演習B4単位)															
2. 課題研究コース															
以下の①～③のうち、いずれかの組み合わせを選択する。															
①専門科目・語学科目から【選択必修19単位】 (専門科目15単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目A・B【必修11単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習A4単位、演習B4単位)															
②専門科目・語学科目から【選択必修21単位】 (専門科目17単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目A・B【必修9単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習A4単位、演習B2単位)															
③専門科目・語学科目から【選択必修23単位】 (専門科目19単位以上、語学科目0～4単位まで)															
演習科目A・B【必修7単位】 (入門演習1単位、実践演習2単位、演習A2単位、演習B2単位)															

授 業 科 目 の 概 要			
（地域デザイン科学研究科人間文化専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 基盤 科目	イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを目指す。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていくことを目的としている。	
専攻 基盤 科目	人間文化創造特論	本講では人間文化専攻で研究を進めるための基礎となるリテラシーと研究倫理を身につけると共に、文化に関する研究や実践を進めるにあたっての基礎的な知識を身につけることを目的とする。講義においては、研究と実践を往還させながら双方を深めていくことを重視し、具体的な研究事例を基にした実践的な内容を中心とする。社会活動面における倫理なども重視し、プロジェクト研究における実践の基盤となる知識・理論・技能等を身につけることを目指す。 （オムニバス方式/全15回） （6 小野原雅夫/7回） 大学院における研究の在り方と方法及び研究倫理に関する内容（5回）、文化概念について（2回） （8 初澤敏生/8回） 文化の地域的存立基盤について神社の祭礼を中心に解説する。（4回） 文化を活用した地域づくりについて事例研究を行い、基礎的な技能の定着を図る。（4回）	オムニバス方式
専門 科目	イノベーション・コア	震災復興、地域・産業再生等いまだ多くの課題を抱えた福島県において、これらの課題を主体的に解決していくイノベーション人材が求められている。本講では人材を育成するための要件として必要不可欠となる多様な価値観の受容、主体性と高度な調整力といった変革のためのリーダーシップを醸成し、新たに修得するイノベーション及び専門知識を活用して、複雑な社会環境・組織の中で変革を主導するリーダー人材を育成することを目指す。	
	プロジェクト研究	本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。 Iでは、履修者が自らの分野や専門領域に基づいて異なる専門分野領域からなるグループを組織し、地域を選定する。そして、情報収集と分析を通して解決すべき具体的な課題を抽出する。ついで、課題解決のための実施計画・研究計画を検討し、立案する。そして、課題解決のための提案資料の整理や研究・調査に基づく現状分析結果の発表資料の準備、プレゼンテーションの演習を行う。結果や成果を地域を対象とした報告会で明らかにし、報告書にまとめるとともに、II以降の調査・研究活動に反映させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	プロジェクト研究	プロジェクト研究Ⅱ	<p>本プロジェクト研究ではI、Ⅱ、Ⅲをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探求し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。</p> <p>Ⅱでは、研究・調査対象やフィールドを訪問し、現況を確認し、意見を聴取しながら課題解決に向けた調査・研究等を実施する。学生それぞれの専門分野ごとに課題を整理し、調査・研究等を実施し、得られた結果を分析する。</p>	
		プロジェクト研究Ⅲ	<p>本プロジェクト研究ではI、Ⅱ、Ⅲをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探求し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。</p> <p>Ⅲでは、Ⅱまでで得られた調査・研究結果をもとに、課題解決に資する結果となり得るかを検証し、技術的課題や地域的課題を明らかにする。また、得られた結果の地域・社会実装手法を検討し点検して結果に反映させる。さらには、専門の立場から課題を再整理・再調査する。そして、イノベティブな成果を地域・社会実装するためのシミュレーション等によって検証する。最後に、現地やフィールド関係者等に成果を発表し、意見交換し、さらなる課題等を明らかにする。</p>	
		現代日本語特論	計量的な日本語研究の方法について考察する。日本語研究の中でこれまでに用いられた多変量解析の技法について概観するとともに、電子化された言語データを使用し、実際にアプリケーションソフトを用いて各技法の使用法を学ぶ。具体的には、記述統計、クロス集計、検定といった基礎的な技法のほか、因子分析、林の数量化理論、クラスター分析、重回帰分析、VARBRUL、パス解析、SEMなどを扱う。コンピュータリテラシーと一定の数学的素養が要求される。	
自専攻科目	言語文化コース科目	現代日本語特論演習Ⅰ	計量的日本語研究の実践。現代日本語特論の講義内容を踏まえ、受講者がそれぞれ、自己の興味関心にもとづいて、現代日本語に関するデータ収集のための調査を企画し、多変量解析を適用した分析を行う。日本語の音声、文法的変異に関する事象、待遇表現などの言語運用に関わる事象、日本語の世代的変異等が調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし、各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期にⅠを開講し、調査計画および実査を行う。調査の企画力および実査への貢献が重視される。	
		現代日本語特論演習Ⅱ	計量的日本語研究の実践。現代日本語特論の講義内容を踏まえ、受講者がそれぞれ、自己の興味関心にもとづいて、現代日本語に関するデータ収集のための調査を企画し、多変量解析を適用した分析を行う。日本語の音声、文法的変異に関する事象、待遇表現などの言語運用に関わる事象、日本語の世代的変異等が調査対象として想定される。後期にⅡを開講し、前期Ⅰで行ったオムニバス調査によって得られた受講者各自のデータを用い、分析結果について口頭発表を行う。前期Ⅰの履修を前提とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目		
		地域言語特論	方言研究の方法について考察する。社会言語学的な観点に基づく言語変化研究を扱う。諸文献の講読を通じて、戦後の国語研究所による言語生活研究、各地で実施された共通語化の研究、日本出自の技法であるグロットグラム法などの成果を概観し、方法を把握するとともに各研究の問題点についても考察する。日本語方言の研究にとどまらず、W. Labov, P. Trudgill, J. Chambersら欧米の研究者による研究にも目を配る。また随時コンピュータを用いて実際の方言データの分析実習も行う。	
		地域言語特論演習 I	方言研究の実践。受講者各自の研究テーマに基づいてそれぞれが方言調査を企画し、分析結果を発表する。音声、アクセント、文法、語彙の地理的な変異のほか、共通語化や方言意識なども調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし、各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期にIを開講し、調査計画および実査を行う。調査の企画力および実査への貢献が重視される。	
		地域言語特論演習 II	方言研究の実践。受講者各自の研究テーマに基づいてそれぞれが方言調査を企画し、分析結果を発表する。音声、アクセント、文法、語彙の地理的な変異のほか、共通語化や方言意識なども調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし、各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。後期にIIを開講し、前期Iで行ったオムニバス調査によって得られた受講者各自のデータを用い、分析結果について口頭発表を行う。前期Iの履修を前提とする。	
		日本近代文学特論	文体という観点から日本における近代文学の変遷を辿る。文語文体から言文一致を経て自然主義の隆盛へ向かう明治期、モダニズム的な様相を呈する大正期、関東大震災後から戦時下へ向かう昭和期、多様な様式が展開される戦後と、それぞれの時代の小説を文体という視角からアプローチすることで、小説の方法や様式を把握する。	
		日本近代文学特論演習 I	明治期から昭和までの日本の小説（あるいは日本語小説）を取り上げ、これらを「西洋と東洋」というテーマから論述する。明治期以来、文学において日本の外部である「西洋」という〈他者〉や「東洋」という〈自ら〉をどう表象するかについて様々な試みがなされてきた。この「自己と他者」という問題を洋の東西という視点から考える。	
		日本近代文学特論演習 II	昭和から令和に至る現代までの日本の小説（あるいは日本語小説）を取り上げ、これらを「外国と本国」というテーマから論述する。長い戦争期を経て、文学において日本の外にいる〈他者〉や日本にいる〈自ら〉をどう表象するかについて様々な試みがなされてきた。この「自己と他者」という問題を内と外の両面の視点から考える。	
		比較文学特論	西洋文学の受容を視野におさめながら、日本における文学の形成について論じる。具体的には、毎回1篇の小説や詩のテキストを取り扱い、文体や様式、掲載雑誌やジャンルなどに目配りしながら文学史的位置づけを行う。特に構造主義以降のポストコロニアリズムの状況を理解しながら、日本（語）文学のあり方を考え、より深く理解する。	
		比較文学特論演習 I	「比較文学・比較文化とはなにか」というテーマで比較文学という方法の多様性について考える。エリアスタディーズ（地域研究）、トランスレーションスタディーズ（翻訳研究）、絵画や写真、映画や演劇といった他ジャンルとの比較やアダプテーションの問題など最新の研究手法や動向も踏まえながら、文学・文化への方法的アプローチを取り上げ、その可能性の広がり理解する。	
比較文学特論演習 II	「比較文学・比較文化とはなにか」というテーマで引き続き比較文学という方法の多様性について考える。飛躍的に発展している翻訳研究をはじめ、フェミニズム、アダプテーションといった最新文学理論、エコクリティシズムやアニマルスタディーズといった研究手法・動向も踏まえながら、文学・文化への方法的アプローチを取り上げ、その可能性の広がり理解する。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	日本古典文学特論	相互に関係のある複数の日本古代文学作品について、それら諸作品が作られた時代の政治や文化、制度や社会、他の内外の作品との影響関係などの観点から、それぞれの特徴や意義、及び相互の関係性などについて考察する。授業の進め方としては、最初に日本古代文学史について概説し、講義中に取り上げた作品の中から主要なものを学生に選択させて、先行研究や独自の調査を織り込みつつ講読していく。	
			日本古典文学特論演習 I	日本古代文学の和文テキスト（古文のみで書かれている文章や作品）について、先行研究をふまえて独自に調査し、研究史を総括しつつ批判的に検討できるようになることを目標とする。具体的には、日本古代文学のなかから特定の作品を取り上げ、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し、その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。最終的には演習の成果をレポートとしてまとめる。	
			日本古典文学特論演習 II	日本古代文学の漢文テキスト（漢詩文のみで書かれている文章や作品）または和漢混在テキスト（漢詩文と古文が混在する文章や作品）について、先行研究をふまえて独自に調査し、批評できるようになることを目標とする。具体的には、日本古代文学のなかから特定の作品を取り上げ、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し、その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。研究の成果をレポートとしてまとめる。	
			日本文学特論	日本文学の形成過程及び特質について、伝統的な美意識の形成と展開を軸に据えて、言葉、作家、風土、社会、ジャンル、歴史、外国文化・文学・思想との関連など多面的な観点から講義する。また、日本文学がどのように享受されているかについて、学校教育における文学教材のあり方や特徴を軸に据えて、詩歌、物語・小説、随筆・エッセイ、日本文化論を取り上げ、文学研究の立場から講義する。	
			日本文学特論演習 I	学生が主体となって、時代や文化の異なる複数の日本文学作品を取り上げ、先行研究をふまえて独自に調査・分析・批評することを通して、日本文学の形成過程及び特質について明らかにする。具体的には、学生が取り上げた複数の作品について、校本、諸注釈書、主要な先行論文等の事前調査を学生に課し、その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。最終的には演習の課題と成果をレポートとしてまとめる。	
			日本文学特論演習 II	学生が主体となって、学校種や学年の異なる複数の文学教材を取り上げ、学校教育における文学教材のあり方や特徴を探ることを通じて、日本文学がどのように享受されているかについて探究する。具体的には、学生が取り上げた複数の文学教材について、その文学的意義や価値及び先行実践例の問題点などの事前調査を課し、その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。最終的には演習の課題と成果をレポートとしてまとめる。	
			漢文学特論	漢文学における中国古代神話は、従来、孤立断片的な「涸れたる神話」と見なされ、その体系性のなさがしばしば指摘されてきたが、もともと稀薄だったわけではない。授業の前半は枯渇の主因となった儒教の經典化や經典の歴史化について講述し、後半は豊饒な神話的世界を、主に『楚辞』をもとに読解し、巫祝文化との関係についても講述する。なお、理解の度合を確認するため毎時レポート提出を求める。	
			漢文学特論演習 I	漢文学における原典として『尚書』『山海経』を中心に読解・分析をすすめるが、演習に先立ち漢文学や漢字の特質、難解な古代漢語の特質（語彙・語法・音韻等）、及び各種工具書（特に古辞書類）についての概説を丁寧におこない、導入とする。また、読解の前には日中欧の神話研究法、及び研究史について概観する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。	
			漢文学特論演習 II	漢文学における原典として『淮南子』『莊子』『楚辞』を中心に読解・分析をすすめるが、演習に先立ち漢文学や漢字の特質、難解な古代漢語の特質（語彙・語法・音韻等）、及び各種工具書（特に古辞書類）についての概説を丁寧におこない、導入とする。また、『楚辞』読解の前には、古代歌謡の特質について楚地域における巫風と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	中国思想特論	漢文学の根底に流れる道家思想から、特に「混沌」「渾淪」の概念について、「老荘列」の三書から具体例を示しつつ講述する。特に『列子』における楽園説話成立の背景に、「昆侖」「空同」「華胥」「終北」に代表される混沌境地の地理的表象や至人描写があることを詳述する。なお、授業理解の度合を確認するため、毎時小レポートと短い漢文原典読解の提出を求める。	
			中国思想特論演習Ⅰ	漢文学における道家思想の原典として、『老子』と『荘子』を中心に読解分析をすすめるが、演習に先立ち難解な古代漢語の特質（語彙・語法・音韻等）、及び各種工具書（特に古辞書類）についての概説を丁寧におこない、導入とする。また、日中欧の研究法・研究史を概観するとともに、『荘子』読解の前には、古代思想の特質について真人・神人における異形の原像と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。	
			中国思想特論演習Ⅱ	漢文学における道家思想の原典として、『荘子』と『列子』を中心に読解分析をすすめるが、演習開始に先立ち難解な古代漢語の特質（語彙・語法・音韻等）、及び各種工具書（特に古辞書類）について簡単に確認し導入とする。また、『列子』読解の前には、古代思想の特質について先秦の諸子百家における寓話・寓言と関わらせて解説する。演習の際は、毎時レジュメを用意する。	
			国語科教育特論	国語科教育法には、様々な理論と方法が存在する。本特論では、「単元学習」「文芸研」「読み研」「分析批評」「一読総合法」「読者行為論」「読者反応論」「読書指導（ブックトーク・アニメーション等）」といった様々な理論と方法や、垣内松三、西尾實、芦田恵之助といった国語教育学の古典となっている研究について理解を深める。また、情報機器の扱いを含めたメディア・リテラシー教育の現況を知り、今後の国語科教育の展望を探る。	
			国語科カリキュラム特論演習	本特論演習では、「単元学習」「文芸研」「読み研」「分析批評」「読者行為論」「読者反応論」「読書指導（ブックトーク・アニメーション等）」といった様々な方法論に則ったカリキュラムを分析する。また、情報機器の扱いを含めたメディア・リテラシー教育のカリキュラムを分析する。そのうえで、小学校、中学校、高等学校の具体的な教材を基にそれぞれの方法論に沿ったカリキュラムを作成し、その可能性や問題点を整理する。	
			国語科教育実践研究Ⅰ	「実践報告」と「実践研究」の違いを理解したうえで、国語科教育学における質的研究と量的研究の方法を理解する。そのうえで、多くの教育実践論文を分析し、教育実践論文の書き方を習得する。具体的には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学的文章・説明的文章・古典）」「メディア・リテラシー教育」といった各領域を扱い、また、小学校、中学校、高等学校といった各校種の教育実践論文を取り上げる。	隔年
			国語科教育実践研究Ⅱ	先進的な研究授業を公開している教育現場に出向き、様々な情報機器を活用してその授業記録をとる。そのデータを基に、質的な分析と量的な分析の両方を試みる。その実践に対して、国語科教育特論や国語科カリキュラム特論演習で習得した理論と照らし合わせて、様々な視点から考察を加える。抽出兎に偏った分析にならないように統計処理をしながら客観性の高い分析をし、様々な理論に基づいた蓋然性の高い考察を加えることを期する。	隔年
			英語意味論特論	自然言語の意味に関する形式的な分析方法を概観する。本授業では、哲学や論理学の伝統を受け継ぎ、意味の数学・論理的側面を厳密な方法で分析する形式意味論のアプローチを主に取り上げる。意味研究の基盤となる古典的な命題論理、述語論理、様相論理の基本から学び、形式意味論における三つの基本的概念である真理条件・モデル・構成性の原理の理解を深めることを目的とする。授業は、文献講読を中心に進める。	
			英語意味論特論演習	生成文法理論における統語論、意味論、及び両インターフェイスに関わる具体的研究を取り上げ、言語における合成的側面と意味の対応関係について考察する。演習では、担当者が古典的研究論文や近年の重要研究論文を発表、または自身の研究テーマの調査結果を報告し、ディスカッションを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	英語意味研究Ⅰ	自然言語における意味の数学・論理的側面を概観する。授業では、意味研究の基盤となる命題論理と述語論理の基礎を学んだ後、イベントを基礎概念とする意味論の考え方を導入し、副詞の修飾、時制、アスペクトについて考察する。授業は、文献講読を中心に進める。	隔年
			英語意味研究Ⅱ	自然言語における意味の合成的側面について考察する。授業では、生成文法理論における意味部門（LF）に関わる言語現象（作用域、束縛関係等）を取り上げ、統語と意味の両側面から各現象に関する分析方法を考察する。授業は、文献講読を中心に進める。	隔年
			英語構造論特論	英語学の研究領域の中で、特に統語論を中心に生成文法のこれまでの理論的展開をいくつかの主要なトピックを通して概観することにより、生成文法の基本的概念と思考法を理解する。理論の変遷が個別現象の分析と生成文法の目標とどのように関わるかについて理解するとともに、必要に応じて関連分野における研究の進展なども考慮しながら、生成的言語研究における理論的展開がどのように動機づけられてきたかという問題や、部門間の関係における派生と対応の問題などを取り上げて検討する。	
			英語構造論特論演習	英語学領域の修士研究との関わりにおいて生成文法研究の中で特に重要と考えられる研究を取り上げ、文献講読を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。いくつかの研究テーマに関する個別の先行研究の持つ意義をその背景をふまえて理解する。また、その理解に基づいて、今日的な視点から派生と対応をめぐる形式と意味の関係について考察する。	
			英語構造研究Ⅰ	統語論を中心に、英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。特に不可視的要素および不可視的操作に基づく統語分析を精査することにより、生成言語研究における統語構造の精緻化に関する具体的な分析とその理論的背景を理解する。	隔年
			英語構造研究Ⅱ	形式と意味の対応を中心に、英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。特に統語構造と解釈の非対応の問題をめぐる、概念意味論に基づく研究や、構文・スキーマを用いた研究の成果をふまえて、意味構造の理論と意味分析の手法について理解する。	隔年
			社会言語学特論	「言語」「社会」「文化」「認識」の関係を、身近な問題と引き比べながら検討していく。社会的変数に焦点をあて、地域、階層や階級、性、年齢、役割などが、言語にどのような影響を与えているか、文化変容とどのような関係を持っているかなどの検討を行う。さまざまな言語変種がどのような過程を経て生まれ、現実社会の中でどのように扱われているかを考察する。とりわけ、「女ことば」に関する歴史的考察とそれに対する社会の姿勢を通時的にたどることによって、ジェンダーとことばの現代的解題を明らかにする。また、そうしたことばに対する社会的な姿勢の変遷が、歴史的、社会的、経済的な変容とどのように関わっているかを取り上げ、法律の改正、産業形態の変化、社会的意識の変容の関係を検討する。	
			社会言語学特論演習	「言語」と「社会」の関係について、共時的なパロールのありように注目し、談話分析および修辞学の基本を検討するとともに、文学や映画、日常会話などの具体的な言説の分析を行いながら、時代状況や社会との関係を検討する。これらの検討を踏まえた上で、談話における権力関係やポライトネスといった観点から、言語権の問題を考察する。談話分析においては、個々のテキストで移行する権力関係の問題を取り上げ、会話の中で交差する話者の関係のあり方を具体的に分析する。それに伴い、会話場の直喩、隠喩、換喩など、多様なレトリックの表象と効果を分析し、言語行為論の再検討を行う。それらの検討を踏まえて、SNSなどの現代社会における発話のありようを問いかける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	映像文化研究Ⅰ	映像文化の誕生と発展の黎明期に焦点を当て、リュミエール、エジソンの発明を検討しながら、複製技術の誕生とその意味について考察する。映画という存在が複数の科学的成果および従来の人文学的蓄積のもとに誕生したことを確認しながら、それが社会に対してどのような影響をもたらしたかを検討する。とりわけ、複製技術の誕生によって生まれた映画館という存在がどのような変遷を遂げ、人々の消費活動と関わっていったのかを論じる。さらに、グリフィス、エイゼンシュテインのモンタージュ理論が映画と映像文化にどのような影響をもたらしたのか、映画と社会の関係について理解を深める。	隔年
			映像文化研究Ⅱ	映像文化が現代社会に与える影響を、メディア、大衆文化のありかたと関連させて検討する。印刷技術、複製技術、写真や映画に関わる技術など科学技術の発達と重ね合わせながら、グローバル化の進行に伴う文化変容とその受容の現状を考察するとともに、現代社会の文化現象について具体的に検討する。テキスト、プロダクション、オーディエンスとの関係に焦点を当て、大衆文化がそれらの均衡によってどのように変容していくかを論じていく。とりわけ、近年注目されているアニメーション映画の聖地巡礼や原作とその映画化についてのアダプテーションの問題を取り上げる。	隔年
			現代アメリカ文化特論	アメリカ文学作品とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較検討してそれぞれのジャンルの特性を探究する。具体的には、アメリカ現代文学の源と言われる1925年の文学作品 <i>The Great Gatsby</i> を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家 F. Scott Fitzgerald や作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。	
			現代アメリカ文化特論演習	文学作品 <i>The Great Gatsby</i> 及び同作を原作とする映画作品を、批評購読を基に分析・評価した上で、両者を比較・検討してジャンルの特性を考察し、アメリカ文化の特徴を探る。文学作品 <i>The Great Gatsby</i> について20世紀アメリカ文化を分析する上で重要な視点からの批評を購読して作品の分析と評価を行う。また、本作を原作とした映画作品を、批評購読を基に分析・評価する。さらに両者を比較・検討してジャンルの特性とアメリカ文化の特徴を探る。	
			現代アメリカ文化研究Ⅰ	アメリカ文学作品（小説）とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較してそれぞれのジャンルの特性を探究する。アメリカの小説を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家の生い立ちや作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。	隔年
			現代アメリカ文化研究Ⅱ	文学作品（詩、演劇を含む）及び同作を原作とする映画作品を、批評購読を基に分析・評価した上で、両者を比較・検討してジャンルの特性を考察し、アメリカ文化の特徴を探る。文学作品について20世紀アメリカ文化を分析する上で重要な視点からの批評を購読して作品の分析と評価を行う。また本作を原作とした映画作品を、批評購読を基に分析・評価する。さらに両者を比較・検討してジャンルの特性とアメリカ文化の特徴を探る。	隔年
			初期近代英米文学特論	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文の文学テキストを用いて、文学テキストの意味作用を理解することを目的としている。とりわけ、ジェンダー、階級、人種などのカルチュラル・スタディーズなどの観点から考察を加える方法を教えるとともに、自分なりの英米文学に関する理解の方法論を身につけるための技法について明らかにする。	
			初期近代英米文学特論演習	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文などの文学テキストなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、文化理解を図ることを目的としている。授業時には原典テキストの精読と周辺資料の多読を同時に行う。そのような作業を通じて、文化的な観点からの英米文学理解を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	初期近代英米文化研究 I	15世紀から17世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、主に共時的な文化理解を図ることを目的としている。その際に、同時代における意味の関連性と広がり注目して読む力を、英米文学に関して、身につける。	隔年
			初期近代英米文化研究 II	15世紀から17世紀の英国初期近代における文学テキスト・歴史資料、政治、経済パンフレットなどを用いて、文学テキストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし、それを基盤として通時的な観点からの文化理解を図ることを目的としている。その際に、とりわけ、テキストの読解における解釈者のスタンスに気をつけながら英米文学を読む力を学ぶ。	隔年
			近代英米文学特論	英国を代表する文芸批評家 (F. R. Leavis, Raymond Williams, Terry Eagleton) のテキストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、それを読んだだけでは分かりにくい諸問題 (植民地主義, ナショナリズム, 資本主義, 帝国主義など) を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	
			近代英米文学特論演習	米国を代表する文芸批評家 (Edward W. Said, Fredric Jameson, Jed Esty) のテキストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、それを読んだだけでは分かりにくい諸問題 (植民地主義, ナショナリズム, 資本主義, 帝国主義など) を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	
			近代英米文化研究 I	19, 20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には、Peter J. Kalliney の <i>Cities of Affluence and Anger: A Literary Geography of Modern Englishness</i> (2007) を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は、19, 20世紀の英米を中心とした世界と、どのように断絶しまた連続しているのか。概観し、考察する。キーワードは「資本主義, 階級, ジェンダー, セクシュアリティ」となる。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	隔年
			近代英米文化研究 II	19, 20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には、Bruce Robbins の <i>Upward Mobility and the Common Good: Toward a Literary History of the Welfare State</i> (2007) を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は、19, 20世紀の英米を中心とした世界と、どのように断絶しまた連続しているのか。概観し、考察する。キーワードは「資本主義, 階級, ジェンダー, セクシュアリティ」となる。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	隔年
			英語教育学特論	教育的介入の効果 (教育効果) を検証するには、教育的介入の目的に照らして適切な評価が不可欠である。適切な評価を行うには、評価が目的に沿っていることに加え、様々な妥当性の根拠を示すことが求められる。本授業は英語教育における評価の意義と役割について理解を深めることを目的とする。言語テスト理論に関する文献講読を通して、目的に応じた適切なテストの作成、テストが学習者に与える影響 (波及効果) の検討、そしてテスト得点の処理方法について理論を身につける。	
			英語教育学特論演習	指導と評価の一体化を実現するためには評価の意義と役割について理解を深め、教育的介入の効果 (教育効果) の適切な測定や望ましい波及効果をもたらすフィードバックの実践が不可欠である。本授業は、英語教育における評価の意義と役割について理解を深め、妥当性の高い評価を実践する力を身につけることを目的とする。ペーパーテストおよびパフォーマンステストの作成、プロダクトの評価、そしてテスト得点の処理に関する演習を通して、言語テスト理論に根ざした評価を実践できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目	言語文化コース科目	英語教育学研究Ⅰ	英語教育学は学際的な分野であり、実験心理学に基づいたアプローチを中心に様々な研究領域の研究手法が応用されている。実験結果から確かな結果を主張するためには、内的妥当性などの条件を満たした研究デザインを採用する必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、研究目的に沿った研究デザインを検討する力を身につけることを目的とする。英語教育学および実験心理学の研究手法に関する文献講読を通して、先行研究に基づいてリサーチクエスチョンを設定し、内的妥当性の高い研究デザインを構想できるようにする。	隔年
		英語教育学研究Ⅱ	英語教育学研究のアプローチは多様化しており、従来の量的分析に加え、質的分析や混合研究法など様々な研究手法が用いられるようになってきている。そのため、研究の目的に照らして適切なアプローチを見極める必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、様々な研究デザインに適した分析手法の検討および実践する力を身につける。統計分析を中心とした量的分析と質的分析に関する文献講読および分析演習を通して、研究目的や研究デザインに照らして適切な分析を実施できるようにする。	隔年
		第二言語習得特論	外国語として英語を学習している日本人を対象に第一言語（日本語）と第二言語（外国語を含む）の習得過程の特徴（類似点と相違点）について理解を深める。また、日本語を母語とする学習者が様々な校種において外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）の言語事象の特徴とその要因について考察する。さらに、第二言語習得に関する数多くの文献をもとに様々な言語習得理論の特徴を理解し、外国語として英語を学習している日本人の言語習得の研究方法も身につける。	
		第二言語習得特論演習	日本語を母語とする学習者が外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）のプロセスの特徴について、心理言語学の研究調査に基づく演習を通して、言語の学習プロセスを微視的かつ巨視的な視点で理解できるようにする。また、心理言語学に基づく言語習得に関する数多くの文献等の具体的事例をもとに科学的証明方法（仮説の立て方、実験調査のデザイン、数量的データの統計分析及び考察方法等）を身につける。	
		第二言語習得研究Ⅰ	第二言語習得のメカニズムについて心理言語学の記憶研究の視点に基づく研究を理解する。特に言語習得に必要な不可欠な短期記憶であるワーキングメモリの働きに焦点を当てる。ワーキングメモリは、第一言語や第二言語等の音声言語及び文字言語の習得に重要な役割を果たしており、多様な機能を有している。この記憶機能と言語習得の多角的及び多面的関係性について、様々な実験調査研究を理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となる様々な要因について検討し、研究力を身につける。	隔年
		第二言語習得研究Ⅱ	第二言語習得のメカニズムの解明と第二言語学習の有効な指導方法等を模索する研究力を身につける。第二言語習得における記憶メカニズムに関して、ワーキングメモリの代表的な複数の仮説やモデルに基づく実証的記憶研究論文をもとに、その有効性や妥当性について深く理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となりうる要因（第一言語と第二言語の言語的距離、学習者の年齢や認知発達段階及び同年齢における個人差等）の解明とその要因に基づく有効な指導方法を考察する。	隔年
		英語教育実践特論	This class will draw from ideas and theories about the teaching of English, beginning with the instructor showing students how they look in practice. Students will then be encouraged to choose, from the variety of approaches learned (through readings, videos, and observations in this and other classes), those they feel most comfortable and confident in. They will be asked to demonstrate, critique, and adapt their approaches through follow-up discussions and readings. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies. この授業は英語で行われる。まず、授業担当者が様々な指導法の実践を示し、英語教育に関する考え方や理論について学ぶ。次に、受講生は文献講読や授業観察等を通して学んだ様々な指導法の中から、自身にとって最も自信があり適切だと考える方法を選ぶ。その上で、学習指導要領を含めた文献講読での解説やディスカッションを通して、その指導法の実践、批評そして改善を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	英語教育実践特論演習	Building on 英語教育実践特論, students will learn how to tackle and incorporate approaches about which they feel less confident, with the goal of becoming a more flexible and adaptable teacher. In addition, while reviewing studies in team-teaching related issues, we will consider how several types of team-teaching partners (both native and non-native English speakers) could be involved most effectively. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies. この授業では、英語教育実践特論で学修したことに基づき、より柔軟で適応力の高い教員になることを目指して、受講生にとって自信がない指導法を取り入れるための方法を学ぶ。さらに、チーム・ティーチングに関連する研究を概観し、英語母語話者および英語非母語話者を含めた様々なパートナーとの効果的な関わり方を検討する。また、これらの検討結果に基づき、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。	
			英語教育実践研究 I	Students will begin by explaining, reviewing, and (if possible) demonstrating areas of difficulty that they have noticed in their English-teaching practice. We will then summarise and discuss both articles and experiences that apply to those problems. Further, students will be encouraged to do their own research and lead in readings of articles on issues they believe are likely to arise in their future teaching contexts. この授業ではまず、自身が考える英語教育の授業実践における問題点について、受講生が説明や概観を行う（可能であれば授業実践の実演も行う）。次に、そこで指摘および検討された問題点について、学術文献や実践経験に基づいて整理とディスカッションを行っていく。その上で、将来的に教育現場で生じると考える問題点について、文献講読や研究の遂行を行う。	隔年
			英語教育実践研究 II	Students will begin by expressing particular concerns that they have noticed in their English-teaching practice and in realising Course of Study objectives. We will then look at teaching issues from a range of cross-cultural standpoints, while relating them to our own experiences as teachers, learners, and users of foreign languages. Further, they will be coached on how to follow-up on their research interests, and will have at least three opportunities to present on articles related to themes such as Pragmatics, Intelligibility, goal-achievement, and statistics in language-learning studies. この授業ではまず、受講生が自身の英語授業の実践を通して気づいた問題点について、英語の学習指導要領の目的と照らし合わせつつ説明を行う。次に、受講生の教師、学習者そして外国語使用者としての経験と関連づけつつ、それらの問題点を異文化の観点から検討する。さらに、自身の研究の関心を追究できる方法論を身につけるため、語用論、明瞭さ、到達目標の達成および言語習得研究における統計学などに関する研究テーマの文献発表を行う。	隔年
			外国文化特論	主にドイツ・ロマン主義の文学作品、および文学論を読み、ロマン主義運動の本質を探る。扱う作品としては、ノヴァーリス『青い花』『キリスト教世界あるいはヨーロッパ』、フリードリヒ・シュレーゲル『ロマン派文学論』『ルツィンデ』、ハインリヒ・フォン・クライスト『マリオンネット劇場について』などを予定している。ただし学生からの要望に応じて扱うテキストを変更することも可能である。ドイツ語の知識は問わないが、あるに越したことはない。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	言語文化コース科目	外国文化特論演習	特論で扱ったテキストに関して、さらに深く追求して分析することを試みる。学生による発表とそれに関する議論が授業の中心となる。テキスト分析と研究発表の技術向上を目指すことがこの授業の目的である。扱うテキストについては、受講者の希望もある程度考慮するが、担当者の専門のロマン主義を扱うことが多い。ドイツ語は必須ではないが、できることが望ましい。受講者には原文をおろそかにしないテキスト研究を心がけて頂きたい。	
		外国文化研究 I	ドイツ文学における「異文化理解」のモチーフについて、作品を読み考察を行う。ドイツ、およびヨーロッパにおける「異文化理解」の形の変遷を、時代を追って概観することが目的である。教材はコピーを配布する。教材を熟読し、問題点を明確にする作業が必須となる。扱う作品としては、クライスト『聖ドミンゴ島の婚約』、アヒム・フォン・アルニム『エジプトのイザベラ』などを予定しているが、受講者の希望にも応じる。ドイツ語の知識は問わないが、あるに越したことはない。	隔年	
		外国文化研究 II	外国文学研究 I を受講した学生が主な対象となる。未受講の学生の履修は個別に相談に応じる。ドイツ文学における「異文化理解」について、学生からも議論の題材となるテキストの提案が求められる。こちらで用意する題材としては、作者不詳『ニーベルンゲンの歌』、レッシング『賢者ナータン』、ヘルダーリン『ヒューペリオン』などを考えているが、受講者の希望にも応じる。ドイツ語の知識は必須ではないが、あるに越したことはない。	隔年	
	地域文化コース科目	日本社会文化史特論 I	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に在地社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年	
		日本社会文化史特論 II	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に都市社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年	
		日本地域文化史特論演習 I	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、村や町で作成された「御用留」を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年	
		日本地域文化史特論演習 II	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、百姓や町人の日記を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年	
		ヨーロッパ社会文化史特論 I	ヨーロッパの前近代は現代日本とはあらゆる点で前提が異なる社会であるが、この社会について学ぶことで、ヨーロッパ社会をより深く理解し現代日本の社会・文化を相対化することが可能となる。本講義では、近年の「社会史」・「文化史」の主要な研究成果を取り上げつつ、ヨーロッパの前近代の主要なトピックについて「社会史」・「文化史」の観点から講義する。主に、宗教と社会との関わり、身分制、異文化圏との接触・交流といったテーマを取り上げる。	隔年	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	地域文化コース科目		
		ヨーロッパ社会文化史特論Ⅱ	近現代のヨーロッパは、現代日本に直結する社会・文化的課題が登場した社会である。本講義では、近現代ヨーロッパの主要なトピックについて、「社会史」・「文化史」の観点から講義する。前近代に比して資史料が豊富に残されている近現代については、人々の社会文化的生活を個人レベルで再構成することも可能であることから、一次史料の読解なども取り入れて講義する。主に、ヨーロッパ近現代史における革命、民族、人種、ジェンダー、家族といったテーマを取り上げる。	隔年
		ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅰ	ヨーロッパにおける「地域文化」の歴史について日本で学ぶ意味は、われわれとは異なる「地域」概念や日常生活のあり方について知ることを通じて、われわれ自身の地域・生活観を反省的に見つめ直すことにある。本講義では、ヨーロッパ前近代における人々の地域における日常生活のあり方を、「日常生活史」の主要な研究成果を取り上げつつ講義する。主に、古代ギリシア・ローマ、および中世ヨーロッパにおける食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを取り上げる。	隔年
		ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅱ	本講義では、近現代ヨーロッパについて、「地域文化」の観点から講義する。食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを近現代について論じていくが、近現代においては「国民国家」の登場に伴い、「地域主義」の目覚めや「中央」と「地方」の相克など「地域」をめぐる諸問題が重要視されるようになる。本講義では、「日常生活史」に関わるトピックとともに、そのような「地域主義」の問題も取り上げていく。	隔年
		自然災害特論Ⅰ	本講義では自然災害のうち地震災害と火山災害について主に扱う。プレートテクトニクス運動によって地殻変動が著しい日本において、1. 日本周辺の地殻構造と地震発生と火山噴火の関係、2. 地震ならびに火山噴火の発生タイプとメカニズム、3. 地震/火山噴火観測の概要と予知の現状、4. これまでの主な地震災害・火山災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
		自然災害特論Ⅱ	本講義では自然災害のうち、風水害と土砂災害について主に扱う。台風の通り道になっており洪水や斜面災害が発生しやすい日本において、1. 日本周辺の気圧配置と気候の特徴について、2. 地球温暖化に伴う風水害被害拡大の概要、3. 気象観測の概要と予報の現状、4. これまでの主な豪雨災害・土砂災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文や専門書等を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
		環境地理学特論演習Ⅰ	地域防災に関わる土地環境要素（活断層・火山）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地断層帯における活断層地形や吾妻火山について、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年
環境地理学特論演習Ⅱ	地域防災に関わる土地環境要素（地すべり・軟弱地盤）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地内における地すべり地形や軟弱地盤を実際に把握するために、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	地域文化コース科目	地域と文化特論Ⅰ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から、主として地域における文化の存立基盤について検討を加える。具体的には、文化に関する概念や人間の文化習得についての理論的な検討と既存の研究の批判的検討の後に、「まつり」と「伝統工芸」を取り上げ検討を深める。まつりは地域社会と密接な関係を持って存在し、地域によって支えられるとともに、地域を支える役割も果たしている。本授業では地域の社会構造に注目しながら、その点を構造的にとらえていきたい。一方、伝統工芸はその地域の文化的な存在であるとともに経済的な存在でもある。ここでは主に製作に焦点を当て、その文化意識が産業にどのような影響を与えるのかを考察する。それにあたっては、文化的側面に注目しつつも、経済的側面にも視野を広げ、その存続基盤について検討する。	隔年
			地域と文化特論Ⅱ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から主として地域における新しい文化的事象について検討を加える。具体的には、地域の食文化（伝統的食文化だけではなく、B級グルメなどの現代的な食文化も含む）やそれらを活用した地域振興など、文化を活用した地域づくり・まちづくりなど、現代文化を中心に、現代の地域において文化が果たしている役割について検討する。	隔年
			地域復興・振興特論演習Ⅰ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部において主に経済的側面からの地域振興の現状と課題について考察を加える。ここでは、グローバルとローカルをつなげる視点を常に持ち、具体的な事例の検討を通して検討を深める。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、研究視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
			地域復興・振興特論演習Ⅱ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部においては主に地域づくりについて取りあげる。ここでは、Iで取り上げたような経済的な視点の他、社会・文化的視点、それを支える市民の視点なども必要になる。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、地域づくりに関する視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
			観光産業特論Ⅰ	本授業では、経済学的な観点からさまざまな観光産業や観光施設、観光政策などを取り上げ、分析を加える。観光産業・観光施設等は観光資源の特性によってその性質を大きく変化させるため、本授業を進めるに当たっては、特に観光資源に着目し、類型化しながら検討を進める。また、観光政策面に関しては、特に東日本大震災後のさまざまな観光復興政策やCOVID-19に対応した振興策が地域の観光産業にどのような影響を与えたか、などについて検討する。	隔年
			観光産業特論Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から、主に修学旅行を中心とする教育旅行を対象として、分析を加える。教育旅行は教育目的に沿って行われるため、観光旅行の中でも特徴的な性格を持つ。その一方で、団体旅行として規模が大きいことから、産業面からも無視できない市場を形成している。本授業では修学旅行に関する目的意識の変化が旅行先の選択に与える影響や東日本大震災後の被災地を対象とした修学旅行の変化、COVID-19が修学旅行の地域構造に与えた影響などを取り上げて分析を加える。	隔年
			地域経済特論演習Ⅰ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究方法をとらえた上で、主に第一次産業（農・漁業）と第三次産業（商業・サービス業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。農・漁業に関しては、産地形成や資源管理など、地域的な生産体制が重要な役割を果たす。地域的な支店から経済を分析する。また、商業・サービス業は産業と地域が密接に結びついており、地域の構造変化が直接産業の変化に結びつく。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	地域文化コース科目	地域経済特論演習Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に第二次産業（製造業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。製造業は各業種の生産構造的な特性と、地域の産業基盤の特性を組み合わせながら、その存立基盤を形成している。生産構造的な特性は全国レベル（あるいは世界レベル）の空間構造を形成し、地域的な産業基盤は市町村レベルでのローカルな構造を持つ。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年
			コミュニティ文化特論Ⅰ	高度成長期の工業化・都市化・大衆化、そして1980年代以降の情報化・高齢化・グローバリゼーションの進行によって、日本の地域社会は構造的な変化を経験し、一方で解体・再編が進むとともに、他方ではコミュニティとしての再形成の動向がみられるようになった。この授業では、社会学の視点と方法により、地域社会の変容を実態に即してあつづけるとともに、その社会・文化・意識構造の今日的特質を描出する。	隔年
			コミュニティ文化特論Ⅱ	この授業では、コミュニティの担い手（＝主体）に注目し、コミュニティ文化の日本の特質を明らかにする。具体的には、地縁型組織である地域住民組織とテーマ型組織であるNPO・市民活動団体の組織と活動の特徴を描出するとともに、これら2つの組織間の連携およびこれらと行政との協働の実態を論じ、形成途上にあるコミュニティの文化的特質を明らかにする。	隔年
			コミュニティ形成特論演習Ⅰ	この授業では、戦後日本における地域社会の解体・再編を踏まえつつ、これに対する再組織化の動向をコミュニティ形成の文脈で捉え、その主体的・構造的条件を社会学の視点と方法により明らかにする。具体的には、国によって提起されたコミュニティ政策の背景と展開過程、および地域での実践を捉え返し、その成果と課題を今日的視点から検証する。	隔年
			コミュニティ形成特論演習Ⅱ	この授業では、今日のコミュニティ形成および住民による主体的なまちづくりの動向に注目し、国内外の事例を紹介しつつ、まちづくりの意味と可能性について論じる。また、まちづくりをコミュニティ・レベルでの地域自治の実践として捉える立場から、これを制度的に保障するコミュニティ政策のありようについて検討を加える。	隔年
			人間開発の倫理学特論Ⅰ	「人間開発」とは、教育的な場面においては、人材育成や人間発達支援を意味する語である。育てる者と育てられる者という上下関係の中での営みにおいてはパターナリズムの危険性が生じる。パターナリズムとは、親が子どもの幸せを考え子どもにとっての最善を判断しやっつけてあげることであり、子どもが小さいうちは絶対に必要な営みであるが、子どもが大きくなるにつれて、子どもにとっては自由の侵害となる可能性も生じてくる。そもそも教育は、育てられる側が自立して自由な存在者となることを目的とするものと思われるが、教育という行為には多かれ少なかれ強制の要素が含まれており、そこには自由と強制のパラドクスが発生してしまう。自由な主体を育成する人間発達支援の難しさと、そのあるべき姿について、文献購読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年
			人間開発の倫理学特論Ⅱ	「人間開発」とは、倫理学や政治・経済学の場面においては、弱者（開発途上国なども含む）の援助・支援を意味する。援助や支援は長いあいだ不完全義務と位置づけられ、自立や自治の尊重という完全義務よりも優先度の低い課題とみなされてきたが、近年では構造的暴力が問題視されるようになってきたことに伴い、たんなる善意による不完全義務にのみ任せておけばよい問題ではなく、根本的な対処が必要な完全義務と見なされるようになってきている。弱者支援の問題点と、そのあるべき姿について、文献購読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	地域文化コース科目	共生の倫理学特論演習 I	人権について理解を深め、多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していくことの困難さと意義を実感してもらい、そのための具体的な手法を学んでもらう。人権には自由権、参政権、社会権、平等権や、その他の新しい人権など、様々な内容が時代とともに付け加わってきたが、それらは容易に両立しうるものではなく、互いに相克しあう複雑な関係を成している。対等な立場で語り合っていく哲学カフェの「対話のルール」を身に付けてもらった上で、人権に関わる様々なテーマについて哲学カフェを行いながら、理論と実践の両面から共生に向けたトレーニングを積んでいく。	隔年
			共生の倫理学特論演習 II	多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していく様々な手法を学んでもらうとともに、自ら新たに開発してもらい、具体的なトラブルが生じたときに非暴力コミュニケーション等を用いて紛争を解決していく平和的手法や平和的態度を身につけ、またそれらを指導するファシリテーションの技法についても学んでもらう。また、非暴力トレーニングなども学び、身近なところで生じる争いについてどう対処するか、あるいは紛争地帯における暴力的状況のなかでどんなことができるかなどをシミュレーションしてもらった上で、新たな共生の手法を協働的に開発していく。	隔年
			食品科学特論	食品には大きく3つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）がある。本授業では、それらに関わる食品成分の化学的性質、機能性について、その背景にある研究論文等を基に専門的な理解を深め、農産物から食品を科学的視点から捉えることを目的とする。具体的にそれぞれの機能を有する食品を例に取り上げ、社会的背景（消費者ニーズなど）、化学的性質、機能のメカニズム、その食品の意義（商品コンセプト）などに関連する文献等を活用しながら学ぶ。	
			食物学研究	食物学に関する研究の新しい知見や今後の課題を自ら見出ししながら、研究の全体像を捉えることをねらいとする。また、社会的な食品の課題へのつながりを見通すことをめざす。本授業では、食物学分野の文献、特に健康機能に関わるものを講読し、それをもとに内容についての解説と議論を行う。議論を通して、食物学分野の研究の背景や課題、手法などの理解を深めるとともに、現代の社会生活における食品に関する課題への関連や発展性を考える。	
			食生活特論	本授業では、受講生の興味や関心・修了研究のテーマ・修了後の進路などを勘案しながら、現代の日本の食生活における諸問題を授業テーマに設定する。最近の調理科学・食物学における話題等を入れながら、授業は主として講義形式ですすめるが、学生同士や教員とのディスカッションも適宜取り入れる。簡単な実習及び実験を取り入れる場合もある。	
			食生活支援研究 I	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。I では主として食事や健康に関する内容を扱う。	隔年
			食生活支援研究 II	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。II では主として、食文化や食育に関する内容を扱う。	隔年
			衣生活特論	現代社会には、一人ひとりの生活の質の向上のためには衣生活に関わる多くの課題があり、その解決が求められている。本授業ではそれらの課題解決に資する知識を習得することをめざす。明治時代以降、現代にいたるまでの衣生活の変容について、衣服生産、衣服の流行と選択、衣服産業の課題等を中心に解説する。さらに、持続可能社会の形成及びユニバーサル社会形成のために、これからの衣生活のあり方について検討する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	地域文化コース科目	衣生活支援研究Ⅰ	自立した生活をめざす上で、衣服の選択や着装などは個人のアイデンティティに深く関わっている。本授業では、自立した衣生活とそれを支援するために必要な知識・技術について習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。さらに子ども、高齢者及び障害者を対象として衣生活の実態をとらえて課題を分析し、具体的な支援の方策について検討する。それらを通して支援のための具体的なプラン作成をめざす。	隔年
			衣生活支援研究Ⅱ	本授業では、持続可能な社会形成に資する衣生活支援に必要な知識・技術を、基礎的なものから、より実践的なものとして展開させ習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。衣服生産～廃棄及び再利用・再利用における問題点を把握し、分析する。さらに、地域における衣生活の実態をとらえて課題を分析する。それらを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し、具体的な支援方法についてプランの作成をめざす。	隔年
			家庭科教育特論	小・中学校を主とした家庭科の授業実践研究を題材、指導、評価等の視点や家庭生活と地域・社会の関連から分析できるようにする。家庭科教育における自立・自律ならびに共生をテーマに、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導のあり方、教材、評価等について探究する。また、生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズへの対応と家庭科教育のあり方についても考察する。	
			家庭科カリキュラム特論演習	家庭科教育における自立・自律ならびに共生を中心としたカリキュラム研究を通して、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発を行う。生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズに対応するための家庭科教育の課題を明らかにし、児童・生徒の発達、生活の問題解決や地域との協働に即した教材が開発できるようにする。	
			家庭科教育実践研究Ⅰ	(概要) 小・中学校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用、小・中学校の系統性や接続性を含めて考察する。 (オムニバス方式/全15回) (23 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活の学習内容について) (3 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (10 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)	隔年、オムニバス方式
			家庭科教育実践研究Ⅱ	(概要) 中・高校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用、中・高校の系統性や接続性を含めて考察する。 (オムニバス方式/全15回) (23 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活領域の学習内容について) (3 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (10 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)	隔年、オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	目地域文化コース科	生涯生活マネジメント特論 人生100年時代を迎えた現代社会では、65歳以上を一律に受動的な弱者でありケアを受ける存在として捉えるのは妥当ではない。クリティカル思考により意思決定し、生活を主体的に選択・構築し、生涯にわたってアクティブ・エイジングが実現できる個人のあり方とその生活について追究する。自分らしく主体的に生きるためのライフロング・マネジメント・スキルを修得するとともに、そのスキルをもった人材の育成、他者の生活や地域・社会を支援する方法についても学ぶ。	隔年
		スポーツ・芸術文化コース科目	身体教育とスポーツ文化特論 本講義では、身体教育、スポーツ文化について理解を深めるとともに、身体教育とスポーツ文化との関連性について考察していく。スポーツを教材とした身体教育のあり方や、様々なスポーツ文化の教育的意義を踏まえたスポーツ指導のあり方について、テキストや資料をもとに論究する。具体的にはテキストや資料を読み進め、受講生が要点をまとめて説明した上で、教員からの内容確認の質問に答えていく形式で進める。	
		現代スポーツ特論演習	本演習では、現代社会におけるスポーツの様々な話題や問題について受講生がローテーションで話題提供し、現代スポーツに対する考え方についてディスカッションを行い理解を深める。現代社会におけるスポーツ指導のあり方や、各スポーツの現代の特徴、レクリエーションスポーツの今後の方向性など、できるだけ広い視野から現代スポーツの特徴を捉えていく。そして将来スポーツの現場に立ったときに、正しい判断と対処ができる指導者を育成していく。	
		スポーツ社会政策特論	現代のスポーツは、単にスポーツそのものの振興だけを担えばいいという時代は終わり、様々な社会問題の解決の一翼を担う、極めて社会的な存在へと進化した。そこで、国、都道府県、市区町村の三つのレベルから現代社会におけるスポーツ政策の重要性と理念を理解し、現代のスポーツ振興について解説していく。さらに、諸外国のスポーツ・健康政策についても触れ、今後、スポーツおよび健康政策を企画立案できる人材の養成を目指す。	
		スポーツクラブマネジメント特論演習	プロ・アマ問わず、スポーツクラブが自主独立し健全に発展するためには、人材、施設、財源、広報など、効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで、本演習では、国内外のスポーツクラブを事例に取り上げ、マネジメントするために、組織運営、経営方法、地域のマネジメント、マーケティング、施設管理、イベント管理、顧客管理等の知識を解説していく。そして、スポーツ組織・団体をマネジメントすることができる人材の養成を目指す。	
		スポーツ医科学特論	アスリートは自身の能力を最大限高めることで、高いパフォーマンスを発揮するために日々トレーニングしている。トレーニングにより疲労し、休養をとることで疲労が回復する。このサイクルが不適切になると、身体的諸問題が発生する。これは、アスリートのみならずスポーツ愛好家や健康の維持・増進を目的とした運動実践者においても起こりうる。本講義では、これらの身体的諸問題やその予防のための考え方などについて論究する。	
		健康科学と運動処方特論	健康の維持増進、および生活習慣病の予防にとって、日常生活における身体活動量の確保は非常に重要である。本講義では健康に対する考え方、身体活動量の評価、健康と運動（または身体活動）、生活習慣病と運動、健康の維持増進のための様々な取り組みについて、理解を深める。そして、健康の維持増進に欠かすことのできない運動をどのように処方すべきかについて、健康（健康科学）と運動の効果の観点から概説する。	
		スポーツバイオメカニクス特論	本講義では、バイオメカニクスの測定・分析方法を学ぶとともに、ヒトの運動を理解するためのバイオメカニクスの基本的知識および「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的な運動のメカニズムに関する知識を基に、データを理解する能力を習得することを目的として、実験実習を取り入れながら授業を展開する。さらに、実際のスポーツ現場への応用方法について、ICTの活用と関連づけて考えていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	スポーツ・芸術文化コース科目	運動学特論	本講義では、運動を習得し、修正し、自動化するまでの運動習得・習熟過程について理解することを目的として授業を展開する。受講学生自身の経験を振り返り、考えることで、理解を深める。さらに、運動指導においては、指導者は学習者の運動の微妙な違いを瞬時に評価するための「運動を見抜く力」や「運動共感能力」が求められるため、運動観察について知識を学ぶとともに、演習を通して運動観察力を身につけることを目指す。	
			運動生理学特論	本講義では、大学で学んだ（運動）生理学の知識を基礎として、より深化発展させた内容を行う。運動・トレーニングによる生体の反応、適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できるようになることを目的とする。具体的には、運動時の遺伝子・タンパク発現と情報伝達系の変化、健康や運動パフォーマンス向上に関係する細胞内情報伝達系、筋の萎縮と肥大、等のテーマについて学ぶ。講義は理論を基礎とするが、理解を助けるために必要に応じて実験実習を行う。	
			健康指導特論演習	本講義では、運動が生体に与える影響について基礎的知識を総括した後、運動パフォーマンス向上および健康の維持増進のためにどのような運動が適切であるのかについて学ぶ。最近の研究成果を知るために運動生理学を中心とした論文を読む。また実験実習を通じて運動に伴う生体の反応について測定し、健康運動指導やコーチングに必要なとされる測定方法、評価について学習する。講義、実習の成果をレポートにまとめ理解度を確認しながら進める。	
			武道文化特論	武道は闘争を起源にもつ伝統的日本の運動文化である。歴史の過程で仏教や神道、道教、儒教の影響を受け成立したものであり、独自の運動学習論が展開されている。その独自性を修行、道ととらえ、そこから派生した稽古や型の考え方等の独自の精神性を論じ、さらに、武道の国際化についてもふれる。これらを通して、武道の歴史や精神性等を学習し、武道の独自性を理解することを目的とする。	
			武道文化特論演習	本講義は、日本の伝統的運動文化である武道の伝書を中心に講読する。風姿花伝は能楽の伝書であるが、その運動学習理論は武道の源流をなす。不動智神妙録は、禅宗の考え方から剣術の技術をとらえたものである。兵法花伝書、五輪書、一刀斎先生剣法書は三大武芸伝書といわれ、流派の精神を説いたものである。猫の妙術と天狗芸術論は、剣術を老荘思想で説いたものである。これら伝書に加え、武道に関する論文を講読することによって、武道の特性を理解することを目的とする。	
			保健体育科教育特論	授業の「計画－実践－評価」という授業づくりの構成要素を理解する。計画段階では、教材づくり、単元計画ならびに1単位時間の指導計画の立案、学習資料の作成などを行う。実践段階では、立案した授業計画にもとづいてマイクロティーチング（仮想模擬授業）を実施し、授業運営や相互作用行動などの実践的に学習する。評価段階では、体育授業観察者チェックリスト及び形成的授業評価、授業場面の期間記録法などの組織的観察法を用いた授業分析にも取り組む。	
			保健体育授業づくり特論	学校（小学校・中学校・高等学校）現場での体育科・保健体育科の授業を参観し、組織的観察法などを用いながら授業分析を行うとともに、模擬授業を立案・実践することを通して、保健体育科教師としての指導力向上ならび実際の教科の授業や学級経営のあり方について学修する。また学校現場の先生方との交流を通して、学校現場の実態や保健体育教師とはどうあるべきかなどについて深く考えていく。	
			現代器楽演奏演習	器楽領域における楽器の発達史をふまえ、その時代的な楽器の様相や特徴をとらえるとともに、それらを演奏史の流れの中に位置づけながら理解する。西洋音楽の歴史における4つの代表的な時代様式について、その特徴を端的に理解するとともに、楽器の発達史に現れる事象との相関関係についても多角的に探究し、現代的な視点をとおして文化としての音楽芸術を鋭く探究する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	スポーツ・芸術文化コース科目	器楽演奏特論演習	「現代器楽演奏演習」で扱った理論的な内容をもとにしながら、音楽芸術における作品解釈法ならびに具体的な演奏表現技法について研究する。作品に記された音を手がかりに、作品の世界を探究しながら、器楽領域における具体的な解釈法・演奏法を検討する。また、アンサンブルの視点をまじえながら、伴奏法について探究する。	
			アンサンブル特論演習	音楽表現は感性のひらめきにより修飾されるが、その根幹では作品の姿と演奏表現・作品解釈との間に一定の相関関係が存在する。このことを理解するとともに、演奏表現法のみならず地域における芸術文化の振興育成にたざさわる指導者をそだてるべく、演奏指導法としてもとらえなおす。これらのことを通じて、アンサンブルにおける演奏家と教育家を育成することを目指す。	
			現代声楽演奏特論演習	本授業では、日本歌曲の演奏を通じて、日本語演奏の表現法を研究する。また、馴染みの薄い邦人作曲家の作品を演奏することを通して知見を深め、今日の我が国におけるクラシック音楽のあり方について考える。授業は演奏実践と作曲家および詩人についての研究および作品についての考察を発表し、ディスカッションを通じて理解と作品に対する洞察力を養い、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。	
			声楽演奏特論演習	本授業では、学類の科目で触れることのできなかった、ロマン派後期から近現代の声楽曲を、西欧諸国のものを中心に学ぶ。方法論としては演奏実践と作品・作曲家・詩人についての調査発表を授業の両輪とする。調査発表については授業内でディスカッションを行い、それを通して洞察力と知見を身に付け、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。教材については芸術歌曲を中心とするが、オペラアリアや宗教曲のアリアなども排除しない。	
			オペラ特論演習	本授業では、モーツァルトのオペラを中心に、オペラのアリアやアンサンブルの演唱法を学ぶ。西欧で生まれたオペラを演唱するためには、我が国とは異なる文化や生活様式の理解が不可欠である為、それを解明しつつ、演唱を構築する。劇音楽とは何かを体験しつつ、彼我の大きな差異を理解することで、異文化理解につなげてほしい。実践が中心となるが、映像の鑑賞も時間の許す限り行う。また声楽の盛んな福島県という地域の実態に鑑み、様々な方法で地域オペラについて研究する。	
			音楽メディア創造演習	本講義では、今日、音楽作品創作の専門的研究において求められる様々なメディア（楽器、電子メディア、情報機器、その他プレゼンテーション・発表に必要な多様なメディアなど）を利用し、作曲法（編曲法を含む）の研究を行う。時として、個々の受講生の能力・関心・必要性に応じた課題を設定する。また、この授業を通じて、多様なメディア利用による作品研究、またそれに関する著述なども、研究の対象とする。この研究によって、より現代の社会・文化に対応する表現のあり方を考察する。	
			作曲特論演習	本演習では、音楽メディア創造研究において強く関心を呼び起こした研究課題を更に深化させ、自らの作品に発展すべく、自己の音楽の語法の確立を指向する。その過程で過去の様々な作家の作品を研究し、また彼らの語法の研究も行う。また、音楽以外の幅広い領域への関心を広げ、作品の創作へ導入あるいは、そうした多領域の表現に置ける創作のあり方を研究し、幅広い視点に立った創造の世界への可能性を追求する。	
			現代指揮法演習	本講義では、指揮法における基礎的な技術の基盤の上に、古典から現代にまで至る様々な作品を指揮法の観点から、研究する。取り扱う編成としても、オーケストラ作品、合唱作品、アンサンブル、コンピュータを利用した現代的作品を含んだ幅広いものを扱う。また、欧米の作品のみならず、邦人による作品、伝統楽器などを含んだ作品を扱う。そのため、作品の内容野分析はもとより、楽器や使われるメディアに関する研究も行われる。また、指揮の活動として求められるアレンジも扱う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	スポーツ・芸術文化コース科目	音楽科教育特論	音楽科教育に関する研究方法論について、便宜上、哲学的・歴史的・記述的・実験的・民族誌的研究に区分けし、それぞれの梗概を把握する。また、音楽科の授業研究の方法について、質的・量的研究双方について学習する。次に音楽科教育の歴史、思想・哲学、教材論について、学術論文や著書を手掛かりとしつつ、批判的に検討する。音楽科学習指導要領について、ICTの活用やアクティブラーニングを中心に理解を深める。さらに、音楽科教育におけるポピュラー音楽の教材化を議論することで、今日的な学校音楽教育の有する可能性と課題について考究する。比較対象として、北欧の音楽教育やコミュニティ音楽療法も取り上げる。	
			音楽科カリキュラム特論演習	日本における音楽科カリキュラムの構成原理の変遷について俯瞰したうえで、現行の音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視角から検討する。とりわけ重視されている協働的な学習、ICTの活用について、実践事例を取り上げながら考察を深める。続いて欧米やアジアなど諸外国との比較を通し、日本の音楽科カリキュラムの特性を分析する。次に、音楽科教育におけるカリキュラム研究の系譜について概観する。近年主流となりつつある「多様な音楽」を扱う音楽科カリキュラムの意義と課題について検討する。前記「多様な音楽」を便宜上、西洋音楽、日本の伝統音楽、諸民族の音楽、ポピュラー音楽に区分し、各々について扱った音楽教育の実践研究等の文献講読を行い、カリキュラム開発のための基礎理念を修得する。	
			音楽科教育実践研究Ⅰ	音楽科授業の観察方法について授業映像を視聴しながら学習する。次に、本学の附属小学校・中学校の学校公開で扱われる楽曲について教材研究や分析を行う。研究授業の指導案を検討したうえで、参与観察を行う。その際、音楽科学習指導要領に基づき協働的な学習やICT機器がどのように効果的に活用されているかにも注目する。授業者を交えた事後検討会での意見交換、及び大学での議論を通して、音楽科授業実践の在り方や可能性、今後の課題について考察する。	隔年
			音楽科教育実践研究Ⅱ	本学附属小中学校の学校公開用の教材楽曲や指導案の分析、検討を行った上で、参与観察に臨む。授業者を交えた事後検討会に参加し、また大学での検討会の議論を通して、音楽科授業実践のあり方について、目的、内容、方法、評価の視角から検討する。さらに音楽科学習指導要領とも関連付けて授業を分析し、その意義や有効性について検証する。その際、協働的な学習やICTの効果的な活用にも着眼し、今後の音楽教育実践の在り方を考究する。	隔年
			絵画特論	絵画の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術科教育の視点からその構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における絵画表現と造形教育の関わりを深く追求する。具体的には、個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行い、絵画制作の主題、絵画の重層構造、技法や歴史的な問題について、現代の視点から再検討を行う。また絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。	
			絵画特論演習Ⅰ	絵画および現代美術に関して、個別に設定したテーマに沿って制作を行い、自身の制作について深く研究する。具体的には、テンペラを実制作する中で、材料の基本的な事項を獲得し、絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、制作学や美術教育学との関わりについても提起していく。	
			絵画特論演習Ⅱ	版表現の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術科教育の視点からその構想について分析、考察する。併せて版表現の特質を理解し、現代における版表現と造形教育の関わりを深く追求する。具体的には、個別に設定したテーマに沿って、版の制作理論に関する表現の技法や歴史的な問題について、現代の視点から再検討を行う。また、絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	スポーツ・芸術文化コース科目	絵画特論演習Ⅲ	絵画の主題（I）、材料（M）、表現技法（T）との関係から、自身の作品をブレインストーム等を用いて入念に検討し、自身の研究に最も適した作品と理論を確立する。絵画における国際的な現況や、絵画教育に関わる諸相、歴史的背景と重ねて、絵画の理論、背景を位置づけるとともに、制作学や美術教育学との関わりについても提起していく。	
			彫刻特論	彫刻特論の授業では、現代における彫刻の動向を学ぶとともに、パブリックアートに関する歴史的、物理的、社会的環境について学習を深めていく。前半では現代の彫刻の動向を複数の作家を取り上げて制作動機、表現、背景を理解していく。後半では明治大正期の彫刻設置と、1960年代以降の公共事業における1%システム事業に焦点を当て、各種環境との影響関係の概略を整理する。彫刻とその設置について調査研究することで、表現に活かすとともに、社会と芸術のありかたについて考察を深めていく。	
			彫刻特論演習Ⅰ	彫刻特論演習Ⅰでは、現代における彫刻表現の動向を踏まえ、制作を通して自身の表現の位置づけを探る。特に野外彫刻の具体的な作例をもとに、制作動機、表現、背景への理解を深め、自身の制作の振り返りを行う。パブリックスペースにおける彫刻設置は、数多くの課題を克服することが要求されている。授業では入念な検討をもとに、彫刻の本質的な造形技法を駆使しながら新たな提案に結び付けるとともに、図工・美術科の造形遊びや立体表現指導に活かせるよう学びを深める。	
			彫刻特論演習Ⅱ	彫刻特論演習Ⅱでは、演習Ⅰでのパブリックアートに関する成果をもとに自身の制作にフィードバックさせ表現の造形的側面をさらに高めていく。Ⅰで学んだパブリックアート成立の背景を表現に活かしながら表現の造形的側面を高めることで、表現としての普遍的な強さを得ることにつなげていく。特に材料の扱い、量、面の具体的イメージの醸成、比率、リズム、バランス、アクセント等の具体的効果を検証する力量を高めていくことで、自身の表現能力を高めるとともに図工・美術科の指導に活かす方法を考察する。	
			彫刻特論演習Ⅲ	彫刻特論演習Ⅲでは、現代美術の重要な表現であるサイトスペシフィックな表現を学び、自身の表現や社会と芸術の関係について考察を深めていく。今日のサイトスペシフィックの概念では、表現は必ずしも造形的側面ばかりが強調されていない。それを踏まえつつも授業では造形的良さを備えたサイトスペシフィック表現を、制作を通して模索することで、既習事項を活かす方策を探究する。それら探究を社会と芸術の関係や造形教育と芸術表現の関係を紐解く力量につなげていく。	
			日本美術史特論	海外でも人気が高い日本美術のジャンルといえば、それは浮世絵であろう。人々の生き生きとした姿を描写した浮世絵は、当時の社会・風俗を映し出す鏡でもある。また、その平面性や色づかい、斬新な構図はヨーロッパの印象派の画家たちに大きな影響を与えた。本講義では、17世紀から19世紀にわたる浮世絵の誕生と発展、ならびにそれぞれの絵師の特色を解説する。さらに、浮世絵版画の技法や販売方法について説明する。	
			西洋美術史特論	世界中から観光客を惹きつける「永遠の都」ローマは、17世紀にはすでに現在の姿に近いものとなっていた。本授業では、当時のローマを中心とした視覚芸術（絵画・彫刻・建築）を概観し、様式の特徴を解説する。同時に、それぞれの芸術家の活動の様態、ならびに彼らが生み出した作品と17世紀ローマの社会・文化・宗教との関わりについて考察していく。さらに、近代社会へ移行しつつあった時期のパトロネージ、美術市場の在り方に検討を加える。	
			美術科教育特論	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえながら、美術教育の表現領域の課題を明らかにし、幼稚園・小学校・中学校における授業実践研究を通して、表現性、題材性、指導と評価等の視点、及び、人間性、社会性、相互理解等の視点から「現代社会における教育の意義」を探る。具体的には、心象表現領域と適応表現領域の比較を通じた実践研究をもとに、主として幼稚園造形表現・小学校図画工作科や中学校美術科の「適応表現領域」を材料に系統的な「目指すべき資質・能力」を追求する。また、戦後の学習指導要領改訂の変遷やそれに伴う指導内容・方法の変遷、情報機器活用の可能性の考察を通して、近隣諸国や欧米の実践事例との比較研究などを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	スポーツ・芸術文化コース科目	美術科カリキュラム特論演習	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学び」の観点から美術科のカリキュラムに視点を当て、学校や地域、子供たちの発達課題に即した表現題材開発を行う。具体的には、教科書や美術資料等を中心に、「何が出来るようになるか」に向けた「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点で題材開発並びにカリキュラム開発を行う。主に「立体、工作」における発想・構想に関して、思い付いたアイデアを、用途や材料の特性を踏まえてどのように表すか組立てていく往還に着目し、育みたい資質・能力の視点からカリキュラムについて考察していく。その際、教育活動へのICT活用の実際についても考察を深めていく。	
		美術科教育実践研究Ⅰ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（心象表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を元にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年	
		美術科教育実践研究Ⅱ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（適用表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を基にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年	
	人間発達心理コース科目	教育心理学特論演習	教育現場において必須と思われる心理学的知識として、「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」について学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。特に、幼児・児童・及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）の視点を重視する。		
		認知教育方法特論	教効果的な教授技術の開発・教材作成のために必要な心理学的知識を学ぶ。特に、知識形成、問題解決能力、及び学習障害などのトピックスについて、認知心理学的視点を重視する。前半は認知心理学で教育に関連する代表的な文献を抄読する。後半では、各人が興味を持った研究について掘り下げ、自身の研究テーマとの関連を探る。		
		認知教育方法特論演習Ⅰ	知識形成、問題解決能力、及び学習障害についての知識を、どのように効果的な教授技術の開発・教材作成に活かせるか考えるために、認知心理学、発達心理学の手法を学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。基本的には各人の研究テーマ追求を支援するが、本演習では幼児・児童・青年期の認知機能・学習障害をテーマとすることが望まれる。		
		認知教育方法特論演習Ⅱ	認知教育方法特論演習Ⅰで得た先行研究の知見や方法論を基に、教授技術の開発・教材作成について具体的な実践案を立てる。そしてその効果について、実験や調査を実施する。また可能であれば、教育現場などで実践する。実験を実施する場合は、認知心理学的手法を用いることが望ましい。調査を行う場合は、多変量解析などの統計的知識を修得していることが望ましい。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理学コース科目	発達心理学特論	広い意味での発達心理学に関する理論と現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本特論の到達目標である。発達理論（主として成人になるまでを範囲とすることが多い）及び生涯発達理論（一生涯を範囲とする）について、また認知機能とパーソナリティ・社会機能の生涯発達に関する知見について幅広く概説する。これらの概説等に基づいて、講師と受講生とで討論を行う。	
		発達心理学特論演習Ⅰ	広い意味での発達心理学に関する理論について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期と大人期の発達過程の「繋ぎ目」となる青年期と新成人期、成人初期に注目し、この年齢期を含む生涯発達理論を中心に概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。		
		発達心理学特論演習Ⅱ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までの認知機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。		
		発達心理学特論演習Ⅲ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までのパーソナリティ・社会機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。		
		乳幼児・小学生の心理学特論	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。乳幼児および小学生の発達心理学における基礎的な知識について解説するとともに、言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る方法について、著名な研究を複数取り上げながら紹介していく。後半に取り上げる具体的な研究事例やトピックスの選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識して、最新の研究動向を紹介していく。		
		乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階についての理解を深める。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。		
		乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階について、それらの発達に影響を及ぼす可能性のある諸要因についての理解を深めていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。		
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期の健全な発達を促すために、保育や学校教育、地域でできることは何か、さらに家族の支援のあり方について考えていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。				

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目	中学生・高校生の心理学特論	基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。とりあげたいトピックは以下の通りである。 (1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程について専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
			人間理解特論演習Ⅰ	毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程についての専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
			人間理解特論演習Ⅱ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、次の3つの要素を織り交ぜながら授業を進める。基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。(1) 心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2) 事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3) ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などを検討するとともに、自己理解を深める。	
			人間理解特論演習Ⅲ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1) 心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2) 事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3) ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などについて検討するとともに、それらを通じて自己理解を深める。	
			実験心理学特論	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
			実験心理学特論演習Ⅰ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
			実験心理学特論演習Ⅱ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
			実験心理学特論演習Ⅲ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目	幼児心理学特論	幼児の姿をみていると、一見意味のないような行動にも意味がある。これを見ることができないと、子どもは未熟で、早く大人と同じような行動を身につけさせなければならないという考えになってしまう。本授業では、幼児期の行動をとくに、イメージの発達に焦点をあてながら、幼児の行動や保育におけるイメージの役割について考察する。また、発達に影響を及ぼす要因を出生体重や養育・保育環境という点から考えていきたい。	
			幼児心理学特論演習Ⅰ	幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考え、幼児期の発達と保育者や親の役割について考える。とくに幼児心理学特論演習Ⅰでは乳幼児期の子どもの養育や保育に関わる問題を通して、保育者や親の役割、支援について先行研究をもとに検討をすすめる。中でも、東日本大震災やコロナ禍での保育の実態や今後何が生かせるかを検討した研究に焦点をあてて、幼児期に必要な子どもの経験は何かを考えたい。	
			幼児心理学特論演習Ⅱ	「子どもの養育に心理学がいえること」やその他の幼児の発達と心理学関係の論文を読み、保育現場や小中学校の教育現場にこれらの研究がどう資するのか、また、これらの研究にどのような意味があるのかをディスカッションする。その上で保育者や教員が心理学的知見をもつことが保育・教育や子ども理解にどのような影響を与えるかについても考えることができるようにしたい。研究のための研究ではない研究とは何かを考えたい。	
			幼児心理学特論演習Ⅲ	消極性や引っ込み思案な特性をもつ子どもの実態やその発達について、出生時の体重といった出生時および身体的な要因、子どもの認知的側面、保育者の子どもへの対応や認識の仕方等保育側の要因を検討しながら、発達心理学の研究をすすめる視点や研究のすすめ方について考えていく。幼児を対象とした研究の方法にはどのようなものがあるかについても探っていき、結果および考察のまとめ方を先行研究にもとづき議論していきたい。	
			幼児教育学特論	本授業では、遊び論に関する複数の文献の講読を行う。『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で、遊びを通した総合的な指導（保育）が基本原理とされていることから分かるように、保育・幼児教育の実践で遊びは大きな比重を占めている。しかし、遊びを論じる切り口・理論は一様ではない。本授業では、幼児教育学や保育実践者にとどまらず、社会学、哲学といった極力毛色の異なる遊び論を題材に、各論者の異同を議論する。それにより、遊び論の拡がり、それぞれの保育・幼児教育実践とのつながりを検討する。	
			幼児教育学特論演習Ⅰ	本授業では、インタビューなど小規模な言語データの質的分析に適した方法である Steps for Coding and Theorization (SCAT; 大谷 2011 など) の習得を目指し、幼児教育学に関するテーマを設定した上で現役保育者（など）へのインタビューの実施・分析という一連の研究プロセスを経験する。	
			幼児教育学特論演習Ⅱ	幼児教育学特論演習Ⅰからの継続の科目である。本授業では、幼児教育学特論演習Ⅰでのインタビューデータの質的な分析を踏まえ、その分析結果や結果と考察の記述を行う。それらを通して、第1に、コーディング、概念化、再文脈化といった、質的研究の考え方への理解を深める。第2に、分析結果を、参与観察や文書の資料といった他の種類のデータと統合（トライアングレーション）したり、文章や図表で提示したりする方法を学習する。	
			幼児教育学特論演習Ⅲ	参与観察によるデータ収集は、幼稚園・保育所といった保育施設に関わる、子ども・保育者・保護者などの人々のリアルな生活世界をすくいとる研究の俎上に乗せるための、重要な方法である。本授業では、参与観察及び、参与観察を主要なデータ収集の方法とするエスノグラフィーの方法、考え方、観察調査やエスノグラフィーによってなし得ることが何かを、研究方法論のテキストや、参与観察及びエスノグラフィーによってなされた幼児教育学分野での研究を元に、理論的に学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目	幼児教育内容特論	我が国の乳幼児教育の制度やカリキュラムの歴史の変遷をたどりながら「保育とは何か」「幼児期とは」等の幼児教育の本質について考える。また、具体的な実践例をもとに幼児教育の内容と方法について幼児の発達や子どもの権利条約の視点から考える。現代の子どもの発達上の問題点を検討し、現代的視点から幼児教育における教育内容のあるべき姿を議論し、深める。	
			幼児教育内容特論演習 I	さまざまな幼児教育実践にふれ、子ども・保育者・保護者の関係性を学ぶ。幼児教育現場の課題を明らかにするとともに、幼児の豊かな育ちを保障する幼児教育の内容と方法について論議する。授業者の保育現場体験、保育実践記録を素材とし、保育内容を構造的にとらえていく。保育における人間関係発達論（嶋さな江）、親が参画する保育をつくる（池本美香）、発達する保育園大人編（平松知子）を参考テキストとする。	
			幼児教育内容特論演習 II	東日本大震災による原発事故後の福島の保育について、「それでも、さくらは咲く（さくら保育園編）」を中心とする関連実践記録や保育白書、関係書籍から振り返る。また、コロナ禍における保育の状況を探るなかで、子どもの育ちを保障する保育とは何かについて具体的に考える。想定外の困難が起こった時、保育に求められるものについて論議する。	
			幼児教育内容特論演習 III	子ども及び幼児教育内容について、テキスト「保育的発達論の始まり」をもとに子どもの「主体性」とは何か、子どもの「主体性」はどう育つのか、「子ども観」「発達観」の変遷、発達をみる目をひろげ、「保育」と「発達」を結びなおすという筆者の意図を読み解き、本質的なとらえ方を論議して深めていく。また、豊富な参考文献にもふれながら幼児教育を考える上での基本的知識を学ぶ。	
			幼稚園実践研究	幼稚園、保育園や子育て支援センターなどを観察し、子ども理解とそれに基づく保育の方法・内容についての理解を深める。幼稚園における教育を理解するとともに、幼稚園以外の多様な子どもや保護者を取りまく施設の役割や保育者の職務についての理解を深める。観察をした園や施設に関する設置基準等の関係法令や設置の歴史・経緯については事前の学習を必要とし、観察後にはレポートをまとめ、受講生の観察の視点を可視化する。 (オムニバス方式/全15回) (30 齋藤美智子/5回) 保育所や子育て支援センターを見学し、乳幼児の育つ環境について理解を深め保護者支援のあり方を考える。 (46 保木井啓史/5回) 乳児のいる保育施設を観察し、乳児の遊び、生活、人間関係、それらに対する援助などについて考える。 (13 原野明子/5回) 遊びを中心とした幼稚園や児童養護施設の子どもが通う幼稚園を観察し、幼児期の遊びの意義や愛着について考える。	オムニバス方式
人間発達心理コース科目（臨床心理領域）	基礎論	教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理特論）	学校と社会、学校と家庭、子どもの発達とその障害、学校の組織と体制等の理解について学際的な視点から学び、学校におけるスクールカウンセリングの在り方や基本的な方法を検討する。さらに、子どもの問題行動に対して、アセスメントの方法、支援方針、援助の実際にもふれて、個別援助計画の重要性を認識する。特に、子どもの問題行動として現れる心理を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (41 岸竜馬/11回) 学校臨床倫理に関する各分野の文献講読を行う。 (31 安部郁子/2回) いじめ、DVに関する講義を行う。 (123 高橋純一/2回) 特別支援教育に関する講義を行う。	オムニバス方式	
		臨床心理学特論 I	精神分析的心理療法をベースに、心理療法を始めるにあたって必要な知識を身に付ける。また、意識と無意識、症状と病理、人格の発達とその欠損、及び精神病理についての実践的理解、心理療法のエッセンスについて、諸家の理論を学ぶ。松木邦裕の『体系講義 対象関係論』上下巻を読み進め、精神分析の理論である対象関係論を包括的かつ相対的に理解する。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理学コース科目（臨床心理領域）	基礎論	臨床心理学特論Ⅱ	認知行動療法の技法習得に先立って、エビデンスに基づく医療、科学者－実践家モデル、共同の実証主義といった認知行動療法の土台となる発想を理解する。その上で、うつ病、不安症、および逆境体験に対して適用される認知行動療法のフォーミュレーション、認知論的、行動論的介入技法を体験的に習得する。フォーミュレーションにおいては、現在起こっている問題を維持させている悪循環についての仮説を立て、各問題がどのように発生し、発展して、現在に至っているかという点について検証できることを目指す。	
			福祉分野に関する理論と支援の展開（福祉心理特論）	福祉現場で生じる問題と背景について理解し、現場における心理社会的課題とその支援方法の知識を得る。社会的福祉の基本理念及び社会福祉制度や行政制度と現状と課題を理解するとともに、現場で生じている問題とその背景、社会的制度と専門職の役割、臨床心理学的援助の具体的課題や実践的技法についての基礎的知識を習得する。児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉の現場における心理社会的課題と必要な支援方策を理解を習得する。		
			幼児発達心理学特論	子どもたちの様々な問題に対し、幼児期の体験の重要性について言及されることが多い。本授業では、幼児の認知・思考の発達、自己意識の発達、社会性の発達、言語の発達等幼児期の発達の様子をたどりながら、発達の原理、発達課題に言及しつつ幼児期に必要な体験とは何か、また、それらを支える親や保育者など大人の役割、あるいは子どもの育ちを見る眼とはどのようなものであればよいかについて考えていきたい。		
			臨床発達心理学特論	①虐待やDV家庭という機能不全家庭で育った子どもたちのアセスメントと心理ケアについて学ぶ。愛着の発達と愛着の問題について知識を習得し心理療法について学ぶ。②広汎性発達学障害、注意欠陥／多動性障害など、中枢神経系の機能障害によって起こる発達障害の心理メカニズムや特性についての知識を習得し、認知特性に応じた治療教育の方法について考えることが出来るようにする。		
			保健医療分野に関する理論と支援の展開（神経生理学特論）	学校保健、特に精神保健の基礎となる神経科学、脳科学の進歩は著しい。「心」は脳の活動自体であること、脳の中で何が進行しているか、具体的な過程について最新の知見を学ぶことを目的としている。脳の部位の機能やその障害について、心理臨床との関わりの中で考察し、心理専門職ができる支援について、ともに考えていくことを目標とする。		
			保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	心理専門職にとって必要な精神医学の基本について学ぶ。様々な精神疾患（統合失調症・躁うつ病・不安障害・強迫性障害・摂食障害・トラウマ関連障害・認知症）についてその症状の特徴について理解を深める。さらに、病態の理解、患者との向き合い方、支援の在り方など、心理専門職ができる支援について、ともに考えていくことを目標とする。		
			保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神病理学特論）	心理臨床の現場で遭遇する精神障害の原因、分類、症状の現れ方など総論的な概観を行ったあと、いくつかの重要な精神障害を取り上げ、おのおのについて概念、頻度、症状、診断、治療、予後などの知識を深め、さらに精神障害に対する施策についても学習する。また、保健医療分野における心理支援職と他の専門職との協働関係についても理解を深める。		
			障害児心理学特論	主に知的障がいのある子どもたちの行動特性について学んでいく。障がいをもとにとらえるか、「精神遅滞」概念の変遷、知的障がいの原因・生理・病理、そのアセスメントと理解、知的障がいの知覚、基本的な生活行動の獲得、弁別学修・言語行動、行動上の障がいに対する理解と支援などについて文献・論文購読を含め学修していく。		
			障害児病理特論	学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性障害について、その注意・記憶・認知機能等の特性から、より効果的な教育プログラム（早期療育プログラム）について基本を修得する。さらに、被虐待やDV家庭で育った子どもたち等の心的外傷をアセスメントし、自殺・いじめ・ひきこもり等への対応も含めそのケア・治療法の基本を学ぶ。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	人間発達心理学コース科目（臨床心理領域）	臨床心理面接特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践）	臨床心理的処遇の枠組み、初回面接、アセスメント、ケースレポートの書き方、各種心理療法について講義する。また主に教育臨床に関わる臨床心理的支援のありかたについて自験例を提示しながら論じる。具体的には、相談室における児童生徒の相談の実際、スクールカウンセラーの仕事、学校教員とカウンセラーのコンサルテーションとコラボレーションなどについてふれる。	
			臨床心理面接特論Ⅱ	教育相談など学校臨床に不可欠な知見であるシステム論に基づいた家族療法を中心に講じる。 家族療法の歴史的展開を概観し、その諸学派の特徴的な技法を学ぶ。システム論に基づく家族療法を基本にして、近年注目を浴びているブリーフセラピー、ナラティブセラピー、解決志向アプローチについても詳述したい。 異なるアプローチに基づく家族療法の実際をビデオ教材などを活用して学び、家族療法の理論と技法を修得することを目的としている。	
			心理支援に関する理論と実践（心理学研究法特論）	心理臨床、学校臨床の中で行う、心理学的な研究方法について、特に質的なデータ分析および量的なデータ分析について、各教員の専門的立場から講じ、実際のデータ分析を行う。また、心理学における基礎的な研究法を踏まえた上で、実際の心理臨床場面における事例や事象を想定し、研究計画を立て、統計処理などのデータ分析の理論と技術を習得することを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （41 岸竜馬/6回） データ解析に関する文献講読。 （33 生島浩/3回） 質的研究法に関する講義。 （5 青木真理/3回） 質問紙調査法に関する講義。 （31 安部郁子/3回） 学校等における相談に関する事例研究。	オムニバス方式
			心理実験統計法特論	本講義では、各人の研究を進めるために必要な統計的知識について、基礎から応用にいたるまで明確な知識を得ることを目的とする。また、心理学・教育学において、実験や調査を行うのに必要なデータ処理・統計について基礎的な知識を身につける。さらに、多変量解析など特殊な目的に応じた統計分析手法についても知識を得る。	
			学習心理学特論	本演習では、学習場面で心理学的知識を有効に活用する方法について知識を得る。主に「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」分けて学ぶ。さらに後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。基本的には各人の研究テーマ追究を支援するが、本演習では幼児・児童・青年期の認知機能・学習障害をテーマとすることが望まれる。	
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族臨床心理学特論）	教育相談に不可欠な家族臨床心理学の理論と実際について演習形式を中心にして学ぶ。家族臨床と司法・矯正保護、精神保健、学校教育、児童福祉等との関連を整理した上で、家族臨床心理学の諸理論について紹介する。 家族構造や家族コミュニケーション、家族認知等に焦点を当てた技法の概要を述べ、ビデオ・モニター・システムを活用したライブ・スーパービジョンを体験し、問題を抱えた家族に対する心理的援助の実際についてロールプレイなどにより修得することを目的とする。	
			心理支援に関する理論と実践（精神分析学特論）	精神分析的な心理療法の治療に必要なこと、面接室の創り方、その面接空間で進められていくこと（見立て、治療契約）、体験し理解していくこと（聴くこと、伝えること、知ること、転移と逆転移など）を学ぶ。松木邦裕の『私説 対象関係論的心理療法入門』『対象関係論を学ぶ』を読み進め、心理面接の際に必要な基本的要素について、精神分析的な見解や技法を通して学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目（臨床心理領域）	方法論	投影法特論	人格のアセスメントとしての投影法の解釈を目指す。ここでは包括システムによるロールシャッハ・テストの施行や解釈を習得し、投影法からの心理的理解を学習する。特に、自己統制・ストレス耐性、情報処理、認知的媒介、思考、感情、自己知覚、対人知覚という側面から、パーソナリティを把握し、心理支援方法の同定ができるようにすることをねらいとする。	
			司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪・非行臨床特論）	非行少年の社会復帰過程を援助する心理臨床的諸活動である「非行臨床」を講じる。非行少年の定義、非行臨床機関の概要など非行少年処遇の流れを概観し、個人面接・家族面接・グループアプローチなどにより、非行少年・その家族・被害者（遺族）・コミュニティに対する援助実践について論じる。講義では、保護観察官としての教員の臨床経験の他、各非行臨床機関に勤める職員が臨床論文をもとに生徒指導・教育相談に必要な非行臨床の実際を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （33 生島浩/12回） 犯罪/非行臨床に関する概要とそれへの対応、支援 （198 半澤利一/3回） 司法臨床について	オムニバス方式	
			教育分野に関する理論と支援の展開（教育臨床学特論）	学校とその周辺における臨床心理学的援助について、講義とロールプレイングを通じて学ぶ。ロールプレイングは、ある学校を想定し、そこにおいてスクールカウンセラーと教員が協働しながら教育臨床的課題の解決にあたるストーリーを演じる。それを録画・録音し、逐語録に起こし、それらの資料をもとにふりかえりを行う。自身のカウンセリングの態度について検討し、講義で取り上げる問題について一定の知識と理解を得、対応を学ぶ。		
			心理的アセスメントに関する理論と実践（心理アセスメント特論）	発達検査、知能検査の意義を理解し、適切に実施・スコアリング・解釈を行い、教育・支援に役立つレポートの作成と本人、家族、関係者に対して役立つフィードバックのやり方を学ぶ。K-A-B-C心理教育アセスメントバッテリーの理論と実際、検査結果の特別支援教育への活用、新版K式の理論と実際、乳幼児の発達の見方と療育への活用、田中ビネーV知能検査の理論と実際、障害者手帳、年金等、障害者福祉での活用を理解する。授業では講義、小グループでの実技を行う。 （オムニバス方式/全15回） （31 安部郁子/10回） 田中ビネー検査とK-ABC検査法を担当 （5 青木真理/5回） 新版K式発達検査法を担当	オムニバス方式	
			福祉分野に関する理論と支援の展開（家族福祉臨床特論）	家族福祉の理念や社会福祉制度、行政の動向、今後起こりえる変化についての予測と対策、各関係機関等の社会的資源の役割と限界等について実践的な知識を得る。心理支援に必要な社会福祉制度の理解を児童・知的障害者・身体障害・精神障害者・母子・高齢者福祉の実情に沿って深め、その臨床心理的課題と支援方策について学ぶ。		
			臨床心理地域援助特論	地域社会や集団組織に働きかける心理的援助の理論と方法を習得する。具体的には危機介入、コンサルテーション、ケースマネジメント、社会生活技能訓練、家族心理教育、地域精神保健などの基礎的知識と技能並びに、臨床心理学的援助の役割と課題、各場面での具体的課題や実践的技法についての知識を習得する。このために専門相談機関を訪問し施設見学と専門職員から講義を受ける。		
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（グループ・アプローチ特論）	グループ・アプローチは、家庭や学校、職場などの人間関係をよくし、人々のメンタルヘルスに貢献するものとしてその広がりを見せている。授業では、「グループ・アプローチの理解と実践」をテーマに、グループ・アプローチの理解を深めるとともに、実践力を養うことを到達目標とする。特に、グループ・ダイナミクスについて学び、グループ・アプローチの1つとしてサイコドラマを学習する。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目（臨床心理領域）	方法論	心理支援に関する理論と実践（心理療法特論）	児童養護施設における被虐待児の心理的理解、外傷体験をもつ被虐待児への心理療法の理論と実践、専門職種の協働、コンサルテーションの重要性等を身に付ける。また、児童養護施設で起こる様々な問題と課題に対して、どのように心理療法を行っていくかについて学び、日常生活場面と心理臨床場面での心理的関わりを活用できるようにすることをねらいとする。	
				産業・労働分野に関する理論と支援の展開（産業・労働心理学特論）	人々の職業生活に関わる諸問題について産業・組織心理学を軸に、キャリア発達や安全衛生などを視野に入れながら研究と実践の立場からアプローチする。職業生活に関わる心理学について体系的に把握したうえで、職場における諸問題について先行研究や各種調査などに基づいて課題分析を行う。あわせて諸課題への対応や支援の在り方について学び検討する。	
				心の健康教育に関する理論と実践（心の健康教育特論）	心の健康教育とは、心の健康を維持するための知識を提供し、そのための力を育てることである。心理学に基づく知識や方法を提供する、「予防開発的な心理教育」が、心の健康教育の中核となる。ここでは、自殺予防やひきこもり支援、うつ病や発達・健康上の問題への対応の援助、また、緩和ケアやストレス対処、職場でのメンタルヘルスなどの心の健康の保持増進する教育的援助を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （41 岸竜馬/13回） 弁証法的行動療法、認知行動療法、病院臨床、心理教育、自殺予防、引きこもりの理解 （121 片山規央/2回） ストレスとメンタルヘルス	オムニバス方式
		実践論		臨床心理査定演習Ⅰ（心理学的アセスメントに関する理論と実践）	臨床心理学的支援の場で用いられることの多い心理アセスメントについて、テスター・テスト体験を通じて体験的に学ぶ。取り上げる技法は、YG法などの質問紙法、バウムテストなどの描画法、ロールシャッハ法などの投影法などのほか、箱庭療法などの表現療法についても学ぶ。一つの技法を学ぶごとに受講者はレポートを作成する。レポート作成を通じてアセスメント所見の書き方と、被検者へのフィードバックの仕方を学ぶ。	隔年
				臨床心理査定演習Ⅱ	発達検査・知能検査の意義を理解し、適切に実施・解釈を行い、検査結果を心理・教育的アプローチに活用できるための理解と技法を学ぶ。 授業ではWISC-IVを中心に取り上げ、発達検査・知能検査の基本的な考え方、知能と精神機能、WISC-IVの理論と実施方法、検査結果の生かし方、検査報告書の書き方などを実践的に習得させる。授業は、講義以外は、小グループに分かれて演習、実習形式で進める。	隔年
				臨床心理基礎実習	生徒指導・教育相談など学校臨床、心理臨床の専門職として面接を行うための基礎的技術の修得を目指す。ロールプレイによりカウンセラー及びクライアント双方を経験し、自己理解・他者理解を深め、臨床心理面接の基礎を徹底した体験学習により学ぶ。また、「教育臨床研修講座」での事例研究に参加して生徒指導・教育相談などの実際に触れる。また、病院、福祉臨床等の関係領域のアプローチを学んで、関連する専門機関と連携する視野を養うことも大きな目的である。 5 青木真理と41 岸竜馬、199 矢部博興、200 前田正治が共同で担当。	共同
	臨床心理実習Ⅱ	公認心理師や臨床心理士になるための技術とセンスを身に付けるための実習で、学内実習（相談室活動）と学外実習から成る。教員からスーパービジョンを受けながら心理臨床を体験する。実習を通して、自身の関わりや言動を振り返り、課題を整理しながら、被支援者やクライアントの心理状態の理解を深める。その上で、次の関わり方や活動の計画を立て、実施できるようになること目的とする。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、194 岡田乃利子、195 小野陽平、196 松本貴智、197 遠藤佳子が共同で担当。	共同			

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	自専攻科目	人間発達心理コース科目（臨床心理領域）	学校教育臨床研究ⅠA	6月と9月に集中講義の形態で行う。全院生が参加。各院生が学校教育臨床に関するテーマに沿って研究の意図と計画、中間段階での結果などについて報告し、集団討論、複数の教員の指導を受ける。なおこの授業は「学校教育臨床研究ⅡA」と隔年で開講する。こうすることによって、院生は2年かけてⅠとⅡの両方を履修でき、研究テーマを深化させることが期待される。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、31 安部郁子、36 市川英雄が共同で担当。	隔年・共同
			学校教育臨床研究ⅡA	6月と9月に集中講義の形態で行う。全院生が参加。各院生が学校教育臨床に関するテーマに沿って研究の意図と計画、中間段階での結果などについて報告し、集団討論、複数の教員の指導を受ける。なおこの授業は「学校教育臨床研究ⅠA」と隔年で開講する。こうすることによって、院生は2年かけてⅠとⅡの両方を履修でき、研究テーマを深化させることが期待される。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、31 安部郁子、36 市川英雄が共同で担当。	隔年・共同
			臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	公認心理師になるために欠かせない技術と理解を身に付ける。学内実習（相談室実習）と学外実習（医療、保健福祉、司法、教育など）から成り、大学教員と実習先指導者の両者から指導を受けながら、実習を行う。実習を通して、アセスメントと介入を行い、教員と実習指導者から指導を受けることを繰り返し、ケース・フォーミュレーションが行えるようになることを目的とする。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、31 安部郁子が共同で担当。	共同
			心理実践実習（カウンセリング実習Ⅰ）	隔週通年の授業であり、大学院1年生と2年生の両方が参加する。「臨床心理・教育相談室」のインターク報告、心理面接のケース報告、グループワークの活動などについて院生が報告し議論する。2年生の臨床活動から1年生が学ぶことが、臨床活動の一翼を担うための準備ともなる。 なお、「心理実践実習（カウンセリング実習Ⅱ）」と隔年で開講する。こうすることによって、院生は2年かけてⅠとⅡの両方を履修し、上述の授業の到達目標とテーマを深化させることが期待される。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、31 安部郁子が共同で担当。	隔年・共同
			心理実践実習（カウンセリング実習Ⅱ）	隔週通年の授業であり、大学院1年生と2年生の両方が参加する。「臨床心理・教育相談室」のインターク報告、心理面接のケース報告、グループワークの活動などについて院生が報告し議論する。2年生の臨床活動から1年生が学ぶことが、臨床活動の一翼を担うための準備ともなる。 なお、「心理実践実習（カウンセリング実習Ⅰ）」と隔年で開講する。こうすることによって、院生は2年かけてⅠとⅡの両方を履修し、上述の授業の到達目標とテーマを深化させることが期待される。 5 青木真理、41 岸竜馬、33 生島浩、31 安部郁子が共同で担当。	隔年・共同
他専攻科目	地域学専攻サイエンス科学研究科地域政策	憲法Ⅰ	憲法にかかわる諸問題を理論的に考察する。国家・市民社会の近代的二分法に加え、公共圏の観点も取り込みつつ、近代のRecht概念と国制をめぐる原理的な探究を行う。とりわけ、国制論としての憲法学から、政治哲学的な人権論へと変遷した現代の憲法学における法学的国家論の不在を自覚的に問直すことにより、統治機構論の照射としての人権論の深い理解へも繋がるような作業を進めたい。	隔年	
		憲法特論Ⅰ	憲法の原理的な探究を行う。①哲学・思想・政治学・社会学・歴史学・民俗学・文化人類学等々の隣接諸科学の知見を踏まえながら、法の支配と立憲主義の本質を解明する。②①のパスpekティブに基づいて、主要国の憲法・憲法学を比較検討する。1946年日本国憲法を検討する際には、「全世界の国民の平和的生存権」理念をその特質として重点的に考察することになる。以上により、人類史における日本国憲法の位置づけと体系的な再構成を行いたい。	隔年	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	憲法Ⅱ	憲法改正をめぐる諸問題について理論的に検討する。具体的には、①憲法改正の法的性格（憲法定正権と憲法改正権の関係など）、②憲法改正限界論と日本国憲法生誕の法理（八月革命説、制憲議会議説、追認説など）、③憲法改正手続規定の改正が理論上問題を含むか否か、④諸外国の立憲主義的憲法の改正手続と比較した際の日本国憲法の改正手続の特徴、⑤いわゆる憲法改正国民投票法にかんする具体的な法的問題、⑥憲法改正の違憲審査の可能性、の順に取り扱う。	隔年
			憲法特論Ⅱ	境界線を引くという行為は、法というもののあり方に深く関わっている。法は、管轄内／管轄外、適法／違法、など、無数の線を引く。このことによって、実際のところ法、多くの問題を対象外として必然的に排除することになる。本研究は、内部／外部、われわれ／彼ら、日常／非日常、正義／邪悪などの境界線を引いて事態を管理しようとする企てに着目することを通じて、法現象の特質を逆照射するとともに、境界線の存在を意識しそれを相対化する視座を獲得することを目的とする。	隔年
			刑事法学	刑法、刑事訴訟法、少年法、更生保護法、心神喪失者等医療観察法、再犯防止推進法、犯罪被害者基本法など、刑事法の解釈や刑事政策にかかわる分野について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。特に近年、刑事司法・刑事政策の各分野において、福祉、心理、教育等の多様な分野との連携・協働の重要性が指摘されていることにかんがみ、刑事法の体系的な知識の習得を基礎としつつ、狭義の「法解釈」にとどまらない多角的な視座の涵養を意図している。	隔年
			司法福祉政策	刑事法・刑事政策にかかわる諸分野のうち、特に「司法と福祉の連携」が重要となる問題について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。具体的には、高齢出所者等の地域生活支援、少年非行や児童虐待における児童福祉と司法の連携、出所者や触法精神障害者の居住・就労支援、犯罪被害者・遺族や加害者家族の生活支援などがある。当該分野に関する法・制度の体系的な知識を習得しつつ、「制度の狭間」を架橋する法・制度・実践について考察することを意図している。	隔年
			地方自治法Ⅰ	我が国の地方自治制度の根幹をなす「地方自治法」について、主に「住民自治」の領域と「団体自治」の領域に分けてそれぞれについて主要な論点の検討を行う。すなわち、「住民自治」の領域にあつては、住民と自治体との関係が、国家と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、住民の概念・権利・義務、直接請求、住民監査請求・住民訴訟、自治体の執行機関と議会の関係などを扱う。「団体自治」の領域にあつては、自治体と国（市町村と都道府県）の関係が、行政一般と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、自治体の処理する事務の区分、自治体に対する国の関与、自治体と国間の紛争処理の仕組み、自治体間連携、自治立法権などを扱う。	隔年
			地方自治法Ⅱ	「地方自治法Ⅰ」で、身につけた地方自治制度に関する基礎知識を踏まえて、この授業では、自治体政策法務の諸問題についての検討を行う。具体的には全国の自治体において制定されている「政策条例」を素材に、いかなる条例を制定するか（規制上乗せ条例を選択するか、規制別目的条例を選択するか）、条例の実効性確保の手段（刑事罰、過料、氏名公表のいずれを採用するか）、あるいは条例ではなく行政内規たる要綱に基づく行政手法を用いるか、といった問題について実現すべき政策の性質、自治体の種類（都道府県か市町村か）なども勘案しながら考察する。	隔年
			国際法Ⅰ	現在、国際社会では、グローバルな諸課題や国際的な摩擦が増大し、様々な分野において第二次世界大戦後に構築されてきた秩序、協力関係のあり方が改めて試されている。国際法は、国際紛争の防止・解決、および国際社会における共通の利益に資することが期待されている。この授業では、国際法の主体（国家、国際組織、個人）、法源論、国家責任、国際紛争解決など、基本的論点を踏まえた上で、法の形成、適用、執行の各場面で、国際法が国際社会で現に果たしている役割と特徴およびその変化の過程を分析する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	国際法Ⅱ	国境で困われ自律的存在である国家と国家の間を規律し、国家の共存を保障する役割を担ってきた国際法が、国境に関わりなく展開する諸活動や課題に対応する必要性は増大し続けている。グローバルな諸課題に関し、現在のところ国家の役割は低下することなく変化を余儀なくされ、また国際組織の数も役割も増大している。河川、海、空、宇宙などの空間やそこに存在する資源の利用、環境、経済、犯罪、武力紛争等に関わる分野で、国家と国際組織が織りなす協力関係が、具体的課題に直面してどのように機能しているか、その現実と限界、および新たな対応策を検討する。	隔年
			行政法Ⅰ	政策と法との関係について、具体的には、法律によって規定された政策を実際にどのように実現していくのかという問題について考えていく。その手掛かりとしては、法律の逐条解説を座右に置きながら、各種個別法を細かく読み、各回毎に章や節を単位として解釈・検討していくこととする。ある条文で法規命令への委任の文言が置かれていて、何か法規命令が制定されているときには、それと元の条文とを照らし合わせて検討する。ある条文の解釈や運用について行政が指針を作成しているときにはこれも条文と比較対象し検討する。	隔年
			行政法Ⅱ	行政活動と行政裁判権との関係という問題について考えていく。手始めに行政側が新規に立案した政策・条例について、裁判所が違法・無効と判断した事例を複数比較検討する。訴訟提起した原告を含め、裁判所に立ち現れてきた諸アクターの利益状況や、アクター間・行政主体間・行政・諸アクター間の利害関係についても事案に基づいた分析を加える。続いて、裁判所における行政裁量の尊重ないしは行政裁量の限界という問題の考究へと進んでいく。	隔年
			民法特論Ⅰ	本講では、民法のうち、財産法(契約法・不法行為法・物権法)および家族法(親族法・相続法)の発展的な内容を検討する。現在議論されている改正債権法、家族法の改正等について、立法論・解釈論の動向などに関する諸文献を購読し、これからの民法像を探究していく。公法・私法の協働が議論されて久しいが、民法のみならず、民事の特別法・公法等、他の諸法律についても、対象とする。	隔年
			民法特論Ⅱ	本講では、民法上の具体的なテーマ、例えば、取引・家族関係等の諸問題について、実定法学のみならず、法理学(法学方法論)・社会学等の基礎法学、あるいは、社会的な知見・手法も交えて、考察していく。それにより、教養としてのみならず、生ける法へアプローチするための法的思考を獲得することを目的とする。民事法学の多様性を知ってもらうよう努めたい。	隔年
			消費者法	現代社会では、事業者と消費者との取引が社会取引における地位を増しており、それに伴って消費者法の重要性も増している。この領域で問題とされる内容には、消費社会が活発化する中で絶えず指摘される事柄に加え、新たなサービスの誕生とともに認識されるものがあり、また、中には地域特有の問題も存在する。そうした中での本講の目的は、一般的に消費者法として取り上げられる諸問題を概観し、立法によって行われた対応や、その後の社会に影響を与えた裁判例などの学びを通して、あるべき消費社会とは何かを探究することである。	隔年
			財産法特論	財産法分野には、一般法である民法のほか、社会的要請に基づくさまざまな特別法が存在し、たとえば土地や家屋をめぐる現代的課題(所有権の在り方や賃貸借など)や、新たに活用範囲を広げる電子商取引に起因する課題などがある。そこで本講は、「法」が種々の現代的課題に対してどのように関与しているかを概観することで、原理的な理論のみならず、裁判例や学説に現れる新たな理論を知り、「法」の持つ普遍的価値観と柔軟性とを考究することを目的とする。	隔年

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	法社会学Ⅰ	現代国家は、その政策目標を達成するために、さまざまな社会領域に介入し、法の支配は拡大の一途を辿っている。しかし、その一方で、家庭、学校、職場、地域社会などのいわゆる部分社会にも、国家法とは異なる独自の論理と構造をもった「法」が存在し、「生ける法」として、われわれの実際の行動を規制している。本講では、社会に存在する各種の「法」を経験科学的手法を通して把握し、国家法とのかかわりの中で、その生成・発展・消滅のプロセスとメカニズムを探究していく。	隔年
			法社会学Ⅱ	法社会学は、社会現象の一つである法が、現代社会の中でどのような形で存在し、他の諸要因と絡み合って作用しているかを経験科学的方法で考察・分析することによって、『法とは何か』という課題に実証的に迫る学問である。本講では、量的調査、参与観察、フィールドワークなど、法社会学の経験科学的手法の基礎と理論を学ぶとともに、実際のテーマに合わせた応用と実践を探究していく。	隔年
			民事手続法	民法・会社法などの民事実体法によって定められた具体的権利を実現するための民事手続諸法（民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法、民事再生法、会社更生法、ADR基本法など）の日本における近年の立法・改正・判例などを基本題材とする。そのうえ、母法たるドイツ民事訴訟法(ZPO)および姉妹法たる韓国民事節次法などとの比較法・基礎的研究を行う。さらに、法圏を同じくする上記三カ国の次世代裁判制度(電子訴訟、映像裁判、仮想裁判、AI裁判)の構築などについて、有機的な連携を考察する。	隔年
			民事救済法	実体法上の権利の観念的実現過程である判決手続に引き続き、債権者の確定された実体法上の権利の内容（金銭支払、物の引渡し、作為・不作為等の請求権）を強制的に実現することを目的とする強制執行、その強制執行に着手するまで相手方の財産の現状等を保全しておくことを目的とする民事保全（仮差押え・仮処分）、さらに抵当権等担保権の実行手続としての競売等、これらの民事執行及び民事保全手続の全般を学修する。	隔年
			商法Ⅰ	本講では、会社法の法理論上の基本問題を研究する。現代社会では、あらゆる分野の法人による組織活動において、株式会社が利用されるようになった。従って、法人法を学ぶに当たっては、会社法の知識が基礎になる。商法Ⅰでは、そのような意味で、現代経済社会に必須の知識である会社法の基礎理論を扱う。会社法は現代化以来、その運用実績を重ねてきたが、様々な課題も明らかになってきた。そこで、現実の経済との関係を重視しながら、株式会社の組織や運用だけではなく、あり方や可能性を見直すことを目指したい。	隔年
			商法Ⅱ	本講では、保険契約の法理論上の基本問題を研究する。保険制度は、地域の福祉や各種の被害者の救済という面などで、あるいは補完的あるいは主体的に重要な役割を果たしている。特に巨大災害が頻発し、社会問題化している現代は、まさに保険の時代ともいえ、保険に対する消費者のニーズは、形を変えて高まっている。そして、このような事態に対して保険者は、様々な保険商品を開発・販売しているが、その約款は消費者との間に紛争を生じることもしばしばない。将来不安の現代において、保険契約の構造を理解し整理することは重要と考える。	隔年
			労働法・社会保障法Ⅰ	労働関係法令の対象となる「労働者」の範囲について検討する。労働基準法は、指揮命令を受けながら働き、働いたことの対価として報酬を得る者を「労働者」として定義し(9条)、この定義に当てはまる者には労働基準法をはじめとする各種の労働者保護法の適用を認める。一方、この定義に当てはまらない場合は、原則として労働法的な保護を受けられない。社会保障もこの労働者性概念(雇用概念)に依拠する制度が多い(雇用保険、労災保険等)。しかし、働き方の多様化のなかで、必ずしもこの定義に当てはまらない働き方が増えており、「雇用類似の働き方」をいかに保護するかが注目を集めている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、「労働法とは何か」、「労働者とは誰か」、「労働法による保護はどうあるべきか」を検討する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	労働法・社会保障法Ⅱ	労働法・社会保障法にかかわる諸問題のなかでも、雇用差別禁止法について検討する。日本の雇用慣行が変容し、女性や高齢者、障害者などのこれまで周辺的な労働力と考えられていた人達が労働力として中心的な役割を果たすようになってきた今日において、性、年齢又は障害などを理由とする雇用差別を規制する必要性が高まっている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、雇用差別禁止法についてその規制の在り方を検討する。	隔年
		地方行政	地方行政は、洋の東西を問わず、集権的統一国家が全国を有効に支配するために形作られてきた。したがって、地方行政ができあがっていく過程は、そのまま統一国家が集権化を達成していく過程でもあった。この講義では、明治期の日本を対象に、戸籍や徴税、さらには学校の設置などを題材として、その過程を検証したいと考えている。封建的な家制度などといわれるが、戸籍の導入により家制度は大きく変化しているし、税財政改革によって従来の貢租負担のあり方も変化した。それらはいずれも、目標とする統一国家像との関係で成立した仕組みであり、そこに日本の制度の特徴を読み取ることもできるだろう。	隔年
		地方制度	この講義では、地方行政の分野でもとくに、地方統治のための機構を中心に扱う。都道府県や郡、そして市町村といった機構が、どのように区画分けされ、そこにどのように権限配分されているか、財政的裏付けがどうなっているかなどについて、歴史的に検証したい。その結果、地方制度も安定的・不変のものではなく、時代によって作り変えられている様子がわかる。そして、その変遷を見れば、逆に時代的要請がどのように変化してきたのかもまた明らかになる。地方制度を通して社会の変遷をたどるといのがこの講義の狙いでもある。	隔年
		行政学Ⅰ	本講では、行政活動に関する実証研究における主要な理論と研究方法について学び、今日の行政活動を分析するためのアプローチを検討する。とくに、中央-地方関係、自治体間関係、自治体-住民間関係といった観点を踏まえ、行政活動の範囲や自治の様相を読み解き、制度・政策およびそれらの運用実態の諸問題と課題について検討を行う。	隔年
		行政学Ⅱ	本講では、行政活動に関する諸問題のなかでも、災害と行政に関する検討を行う。災害時行政の諸問題をレビューしたうえで、平時と非常時の行政には連続性がみられるという観点から、それがどのような連続性であるのかを分析する視点を学ぶ。行政および行政学についての基礎知識がある程度備わっていることを前提に、短期的、中長期的な災害対応の向上に資する方策を検討する。	隔年
		比較政治Ⅰ	世界各地での民主化へのうねり、日本など先進各国での「政治改革」の試み、福祉国家の再編や労働政治の変容、新しい社会運動の登場など、現代政治のカレントなテーマは、「政治変動」という視点から分析する手法が有効である。本講では、前半に「政治変動」に関する諸理論の綿密な検討を行った後、受講者が抱えるテーマにこうした理論を適用することで、実証分析の先鋭化と既存理論の精緻化を同時に試みることにする。	隔年
		比較政治Ⅱ	本講では、先進産業社会が抱える共通の課題とそれへの取り組みについて、比較の手法で具体的に明らかにする。担当者の専門であるドイツ・オーストリアを中心としたヨーロッパ各国を比較の対象としながら、廃炉・最終処分地の選定、エネルギー政策や中山間地域過疎対策といった、原子力災害被災地としての福島にとって重要な課題を取り上げたい。	隔年
		国際政治Ⅰ	本講では国際政治の実証研究（特に質的研究）に用いられる主要な理論と研究方法を学ぶ。国際政治研究では、様々な国際政治事象を分析、説明するために理論が用いられている。それは個別具体的な事例の研究にも役に立つ。そこで本講では国内外で出版された大学院レベルの教科書や学術書を教材として、国際政治の主要な理論であるリアリズム、リベラリズム、合理主義、コンストラクティヴィズムの理論の特色や意義、限界などについて検討する。また、研究論文のレビューを通じて、理論研究のスタイルや手法についても解説する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	国際政治Ⅱ	国際政治の実証研究は理論を用いた理論研究と歴史学的手法を用いた歴史研究に大別できる。本講の目的は、国際政治史研究と呼ばれる後者の研究アプローチについて学ぶことにある。そのために近年目覚ましく発展した冷戦史研究に焦点を合わせ、国内外で出版された冷戦史に関する学術書や研究論文を教材として、国際政治史研究の視角や研究手法について検討する。また、国際政治史研究で用いられる様々な史資料を教材として用い、オーラルヒストリーやアーカイブ調査の方法や史資料の利用方法についても解説する。	隔年
			政治学原論	政治問題、社会問題を理解するためには、現実が「どうなっているのか」という経験分析をすることに加えて、現実を評価しあるべき姿を考察する規範分析が不可欠である。本講では、まず政治哲学においてなされてきた規範的研究の代表的業績を取り上げ、規範分析の意義と課題を確認する。講義の後半では、国内外の最新のテキスト・論文のレビューを通じて、規範分析の方法を修得を目指す。	隔年
			現代政治論	本講では、現代の政治問題、社会問題を取り上げ、それらの解決策を規範的分析を含む学際的な観点から検討する。より具体的には人口減少と少子高齢化にともなう問題をとりあげる。地域の担い手不足に対応するため、地域運営への住民参加を進める自治体がある。そうした自治体の事例をとりあげ、民主主義理論の観点からその意義と課題を検討する。また、地方政治への女性の参加を阻む構造的要因についても論じる。人口減少への対応策として国外から労働力を受け入れる試みもなされている。本講義では日本の入管政策を諸外国との比較のなかに位置づけたのちに、政治哲学の観点から日本の政策の課題を明らかにする。	隔年
			社会計画Ⅰ	本講では、社会計画論の対象・学史的系譜について概観し、近代日本社会の形成過程において様々な社会計画が果たしてきた役割及び問題点を検討する。そして、社会計画論の今日的課題—例えば、ひとびとの価値意識が多様化した現代社会での社会計画の方向性、計画策定から実施に至るプロセスにおける市民参加の態様と問題点等—に焦点をあて、具体例に即して考察を加える。	隔年
			社会計画Ⅱ	本講では、持続可能な地域社会形成に向けた社会計画の役割と課題について検討することを目的とする。なかでも過疎・高齢化が進行する農山村集落に焦点を当て、地域の課題解決のために策定される地域社会計画の内容、その策定・実施・評価のプロセス、上位の行政機関の政策との関連性や影響等について具体的な事例をもとに考察する。計画過程における多様な主体の「参画」の在り方に重点を置き、地域住民、NPO、大学等の連携による地域マネジメントや行政支援の実態、今後に向けた課題について文献輪読や現地調査等を通して検討を加えていきたい。	隔年
			地域環境論Ⅰ	本講では、日本国内の公害・環境問題の事例を取り上げながら、環境社会学の基本的な理論やアプローチを講義する。第1に、公害事件で発生した被害の実態解明や問題解決を目指した被害構造論（加害-被害論）であり、これと同時に被害非認識や被害の矮小化・不可視化といった被害放置のメカニズムについても理解を深める。第2に、地域開発や環境問題をめぐる受益圏-受苦圏論、社会的ジレンマ論について学習し、問題解決の先に見据えた共存戦略の構想や持続可能な社会について検討する。	隔年
			地域環境論Ⅱ	本講は、大規模な地域開発やNIMBY問題に対する住民運動研究（環境運動研究）について講義する。事例として取り上げるのは、沖縄の地域開発による公害・環境問題であり、それに対する住民・市民側の反対運動である。本土復帰後に急速に進められた地域開発の背景にある沖縄の特殊事情や本土との格差問題を学習しながら、住民運動の展開過程やコミュニティ論について理解を深め、環境紛争の問題解決の方法とともに環境創出や地域のサステナビリティの構想について検討する。	隔年
			社会調査Ⅰ	社会調査とは、ある社会を対象とし、明確な問題意識に基づいてデータ収集・分析を行い、その記述から公表までを行う一連の過程である。すなわち、社会事象に対する問いの立て方、見え方という認識のあり方に始まり、その認識の手立てとして意図を持って適切に方法を使いこなす技量が求められる。本講では学類レベルのごく基礎的な社会調査に関する考え方、知識をおさらいした上で、社会調査の一連の過程を実際に設計・実施するための、一段上の能力を獲得することを目的とする。文献輪読や社会調査事例分析などを通じて、具体的に考えたい。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	社会調査Ⅱ	本講は社会調査Ⅰをふまえ、より地域社会、とりわけコミュニティデザインの現場における社会調査の実践を意識した、応用的な内容を取り扱う。地域社会における諸問題を各種計画により解決しようとするとき、社会調査はその基本的な視点を提示する手だてとなる。また、社会調査を通じて地域社会の構造的な理解を試みることは、より豊かな地域社会の形成に向けて実践すべき課題である。そこで本講では、地域政策への還元までを意図した社会調査の理論・方法について検討することを主な目的とする。各自の修士論文における社会調査のとりくみを念頭に置き、実際にその設計・実施を交えながら、実践的に考えたい。	隔年
		地域福祉論Ⅰ	本講では、我が国における地域に関与する福祉政策を俯瞰し、現代のコミュニティ形成の現状を分析評価していく。そして、多様化する福祉制度の運営や、それらの連携についても検討しながら、実践現場での諸課題を明らかにしていく。また、地域における生活問題の社会的要因と性格を明らかにし、福祉コミュニティの在り方を問うていく。そのために、本講では、主に文献・資料を使用しながら地域福祉の実践理論を学び、コミュニティの在り方論を議論するとともに、各種福祉分野の見識の深化を目指す。	隔年
		地域福祉論Ⅱ	本講では、地域福祉の実践を意識して、応用的な内容を講じていく。その中で、福祉コミュニティの形成をはかるための住民の組織化・住民参加活動の検討、当事者中心の福祉各分野の実態・実状分析・課題解決、具体的な福祉活動の運営、多分野連携を介した包括的な生活者のトータルサポートなどを一例として、地域福祉を展開する手法を学ぶ。さらには、地域福祉の観点を通したまちづくりや地域振興を考察する。そのために、本講では、主に地域福祉や地域づくりに関する実践事例や先行事例・課題解決事例を取り扱いながら研究を進める。	隔年
		社会と情報Ⅰ	本講は、情報社会を理論的な側面から把握するために、以下のような内容を検討する。①まず一つ目は、社会のあらゆる分野や領域等に情報化が浸透する現代を位置付ける出発点として、高度な情報メディアの発達を現実化しえた、人間という存在の特性を把握することである。②次に、人間が歴史的に形成するに至った現代の社会システムがいかにして情報メディアの発展を加速し、そのことが社会システムそのものに対してどのような意味を持つと考えられるかについて議論したい。③そのうえで、情報メディアの発展が社会に与える影響や意義について論じた様々な社会理論を批判的に検討する。	隔年
		社会と情報Ⅱ	本講は、現代社会の様々な分野や領域等に浸透するデジタル化の現状を把握した上で、その課題などを検討し、今後向かうべき方向性などを考えるものである。取り扱う内容はその時々々の社会状況や問題関心によって変化すると思われるが、①企業や行政を中心とした社会におけるデジタルトランスフォーメーションの進展、②災害時の情報伝達の現状と課題、③デジタル化による働き方や働く場所の変化、④デジタル化による地域課題の解決、⑤デジタル化が旧来のメディアに与える影響、⑥デジタル化が市民生活や市民の権利に与える影響などについて検討する予定である。	隔年
		地域社会とジェンダーⅠ	「地域社会とジェンダー」は比較的先行する議論が少ない領域である。しかし、〈性〉（ジェンダー及びセクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ）に関わる現象を理解するためには、現象の生じている〈場所〉の地域特性や時代といった、時間的・空間的変数を考慮に入れることが不可欠である。本講では、社会学、地理学、経済学、人類学、表象研究といった各学問領域の既存の議論に基づきながら、地域社会におけるジェンダーおよび〈性〉に関わる現象全般の解明に必要と思われる基礎的理論・概念等について、学際的な観点から検討する。	隔年
		地域社会とジェンダーⅡ	本講では、「地域社会とジェンダーⅠ」における議論を前提としつつ、地域社会における労働と家族の問題に焦点を当て、実証的な研究方法及び研究事例（ここでは主に質的な調査方法及び質的調査に基づいた実証研究）の検討を行う。対象となる地域は福島県や東北地方に限定しないが、可能な限り比較の対象として福島県内についての事例研究を置きながら議論を進める。また、検討対象となる具体的現象に応じて、表象にかかわる研究も取り扱う。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	地域社会と歴史Ⅰ	日本中世史を中心に、①前提となる古代社会の特質、②中世社会への移行をめぐる諸説、③中世の各時代区分とその特質について、Ⅰでは南北朝時代までを範囲に講義する。特に、これまでの学説史においてどのような議論が積み重ねられてきたのか、その根拠となる史料はどのように解釈されてきたのか、最近の学説ではどのように理解されるようになっているのかを整理しながら講義することで、個別研究が学説史の豊富な蓄積の上に立脚していることを十分に自覚し、先行研究に真摯に学びながら自ら学問的課題を発見し、的確な史料解釈に基づいて立論することの重要性を修得することを目標とする。	隔年
		地域社会と歴史Ⅱ	地域社会と歴史Ⅰに引き続き、Ⅱでは日本中世史のうち、①室町時代の特徴、②戦国時代の特徴、③中世社会から近世社会への移行をめぐる問題について取り上げたのち、④中世における地域社会論の成果と課題について、特に東国・東北に焦点を据えながら、その分析視角と方法論を中心に講義する。いずれもⅠと同様に、学説史の展開と立論の根拠となる史料解釈に重点を置くことにより、講義を通じて学説史の中で自らの研究課題を捉えなおし、新たな学問的課題を発見して追究できるようになることを目標とする。	隔年
		地域社会と歴史Ⅲ	地域社会の歴史を解明するには、根拠となる歴史資料が必要である。とりわけ古文書と言われる文書資料が歴史研究を行う上で重要となるが、人と地域社会との紐帯が弱体化している今日、古文書を後世に継承していくことが難しくなっている。また、たび重なる重大な災害の発生は、歴史資料そのものを物理的に消滅させており、歴史資料を災害から守るということも課題となっている。この授業では、地域社会の歴史を明らかにする古文書等の保全と継承について学ぶこととし、関連する論文講読を行う。また、地域に残る古文書を読み解き、歴史を明らかにする作業に取り組むことを通じて、地域史研究の方法を実践的に学ぶ。	隔年
		地域社会と歴史Ⅳ	日本では明治維新後、中央集権的な国家が形成され近代化が推し進められていった。政治的なシステムも、領主と領民という治者と被治者の関係から、議会制という代議制に基づく政治参加の時代へと変化していくこととなる。また、開港による海外貿易の本格化や文明開化に伴う近代技術の導入によって、日本の生産技術も大きな進歩を遂げインフラ整備も進展し経済活動も活発になっていく。こうした政治的・経済的変化は、地域社会の姿を大きく変えていくこととなったのである。こうした近代日本形成期において、地域社会がどのような課題を抱え、それにどのように対応しようとしたのかを考えることとし、関連する史料読解・論文講読等を行う。	隔年
		地域社会と考古学Ⅰ	遺跡・遺物に代表される考古資料の分析から、地域社会の歴史や文化の究明にいかに向かうかを考える。本講義の主要な対象は文献史料の乏しい時代までの日本列島とするが、受講者の関心によっては中近世や諸外国を取り上げることも考慮する。また、おもに考古学的手法による地域史研究を振り返ったうえでその妥当性と問題点を検証し、新たな地域像提起への可能性を探る。	隔年
		地域社会と考古学Ⅱ	日本においては、埋蔵文化財（「遺跡・遺物」をさす法律用語）が「国民共有の財産」と位置づけられ、これらに対する土木工事が行われる際には、発掘調査に代表される保護のための対応が行政により執行されている。このような「埋蔵文化財行政」は、世界的にみて優れた取り組みといえるが、そこには成果とともに課題も決して少なくない。本講では、各地における埋蔵文化財行政の具体例、成果、課題等を紹介するとともに、実際に各地方公共団体や遺跡に赴いてその実践例を学び、埋蔵文化財行政のあるべき姿を受講者自身が考える姿勢を身につけるようにする。	隔年
		地域社会と社会教育Ⅰ	地域の文化・健康・福祉・環境などの諸課題に対し、地域行政による住民への教育的働きかけ・援助と住民の主体的な学習活動との相乗効果のなかで、解決への展望をみいだすことが今日求められている。住民の主体的な学習活動と社会教育・生涯学習の行政や各分野の行政過程における教育的手法との関連について検討する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	地域社会と社会教育Ⅱ	近年の社会教育研究・成人教育研究・生涯学習研究においては、新たなパースペクティブからのアプローチや研究方法論の再検討が行われている。本講では、国際的動向も視野に入れて、そうした新たなアプローチや研究方法論をめぐる議論をとりあげ、検討する。	隔年
			地域社会の国際化と言語Ⅰ	20世紀初頭のイギリスに焦点を合わせ、言語と文化のありようについて検討する。とくに当時の文学作品を英語で読むことで、その作品が生まれ出された時代背景について考察する。また、なぜイギリスがEUからの離脱を行ったかについても検討し、世代別、地域別に離脱の意思が異なっていたことをあきらかにすることで、現在のイギリスが抱えている課題を明らかにする。 またEUの加盟国拡大が旧西欧圏の経済大国と旧東欧圏の新興加盟小国の間に深刻な経済格差を生じており、旧東欧圏からの出稼ぎ労働者が西側各国に流入し、移民排斥運動が強まっている。移民労働者の権利をどう守り旧東欧圏の少数使用言語や文化の保護施策についても考える。	隔年
			地域社会の国際化と言語Ⅱ	本講では、地域社会の国際化を理解する上でも近隣アジア諸国の現状についての理解を深める。とくに日本との歴史的関係でも重要な、中国、韓国、朝鮮、台湾と東南アジアのベトナム、ミャンマー、マレーシアなどについて現状を知り、今後の日本との対等な関係の構築の在り方を学ぶ。とくにイギリスが植民地支配を行っていた旧マラヤ植民地（現ミャンマー）へのスコットランドの関与を明らかにして、また、インドでのシェイクスピア作品教育が、イギリスの植民地支配を支える役割を果たしていたことを明らかにする。	隔年
			国際交流研究Ⅰ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に19世紀後半から1901年の豪州連邦結成に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成に与えた影響について考察していく。	隔年
			国際交流研究Ⅱ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に連邦結成後から太平洋戦争に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成後に与えた影響について考察していく。	隔年
			ヨーロッパ文化研究Ⅰ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、現在に至る芸術をめぐる状況を考察する。また、作品鑑賞や批評のあり方、作品の保護、展示、公開や作家尾育成などを行う文化政策的観点も含めて、今後の芸術の在り方の方向と問題点を探る。そして、個別の作家・作品や個々の事象の分析・考察ができる基礎となる知識を養うことを目的とする。	隔年
			ヨーロッパ文化研究Ⅱ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、作品鑑賞や批評のあり方や文化政策的観点も含めて、現在そして今後の芸術の在り方の方向と問題点を理解した上で、様々な研究手法や資料についての知識を深め、それらを用いて特定の作家・作品や事象の具体的で詳細な分析・考察を行える能力を得ることを目的とする。	隔年
			英米文化研究Ⅰ	アメリカにおける文化の多元性、多様性、多様性について学ぶ。また、それらと比較することで自分および自文化を取り巻く諸現象について考察する。まずは歴史的背景を概観してから、個々の問題を検討する。題材として、歴史資料や論文と併せて、文学作品と映像作品を、また必要に応じて、新聞・雑誌、まんが、TV番組、CM、音楽なども扱う。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	英米文化研究Ⅱ	アメリカおよびイギリスの文化について、フィクション（主として文学作品と映像作品）を題材に、ジェンダー、人種、民族、階級、世代、あるいは宗教の側面から、諸問題を考える。文学作品については19世紀以降に書かれたものを、映像作品は19世紀以降を舞台としたものを扱い、時代特有の社会・文化的背景と現代的視点との関係を意識しながら、分析を行う。小説を原作・原案とした映像作品を取り上げる際には、両者の関係性についても考察する。また、研究に用いる文芸批評理論も、必要に応じて取り上げる。	隔年
			社会の基礎理論Ⅰ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに東北農山村の地域研究への接続に焦点をあてる。	隔年
			社会の基礎理論Ⅱ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに災害による避難、そこからの復興に焦点をあてる。	隔年
			メディア論Ⅰ	本講では、メディアと地域の接合を図るために、まずはメディア研究の重要な理論と視座を中心的に学んでいく。今後もデジタル化の進展とともに様々なメディアが誕生していくであろうが、そうした変化は重要な理論と視座の変奏として捉えることが可能となるためである。特に重視したいのは、日常的な見方との違いが大きい、メディアの概念の捉え方とメディアの受容に関する理論と視座である。	隔年
			メディア論Ⅱ	本講では、メディアと地域の接合に関する研究の専門的探究を進めていく。メディアの発達、地域の枠を超えて情報の伝達を可能にするシステムを作り上げた。地域とメディアのこうした研究について、最新の研究成果を題材として、問いの設定・先行研究の知見の示し方・方法論の設定・明らかとなった知見を分析しつつ対象文献を読み、受講者自らもそうした構造化された視点と書き方を習得することを旨とする。	隔年
			地域社会学Ⅰ	地域社会学における「地域」の概念に影響を与えた農村社会学や都市社会学の隣接分野について、国内の研究を取り上げる。具体的には、地域を構成するイエや村、地区、町内会や自治会、コミュニティなどのそれぞれの概念について学ぶ。近年、地域社会学でも取り入れられている「モビリティ」の問題についても学び、地域社会を行き来する住民層の多様性を前提にした地域のあり方について検討する。大学院での今後の調査計画において、個々の学生がそれらの概念との関連を明確にできるように、代表的な文献とその内容の理解を促す。	隔年
			地域社会学Ⅱ	近年、地域包括ケアの推進にみるように、地域における一般住民による「支援やケア」が必要とされている。コミュニティカフェや「つながりづくり」や「通いの場」や高齢者サロンなど、専門職ではない地域住民相互の支え合いはその基盤として想定されている。それでは、どのようにしたら住民相互の「共助」が可能かについて、「支援やケアの社会学」と呼ばれる領域の基本文献をもとに検討する。適宜、地域での事例検討なども行い、大学院での研究テーマと関連を明確にできるように、講義を行う。	隔年
			都市計画特論Ⅰ	都市計画・まちづくりをめぐる環境は、人口増加・成長社会から人口減少・非成長社会への転換、災害多発化時代の到来などに伴って、大きく変化しつつある。本講義では、こうした背景のもとに、都市計画・まちづくりに関する歴史、現状、課題について、理論的および実務的な観点から講義を行う。都市計画・まちづくりにかかる多様な領域について探究するが、特に都市基本計画、土地利用計画、防災・復興計画などについて重点的に探究する。	隔年

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目	策学地 科研域 学究デ 専科ザ 攻地イ 科域ン 目政科	都市計画特論Ⅱ	本講義では、福島県をはじめとする国内の都市・農村や海外の都市・農村を対象として、土地利用、交通、防災・復興、水・緑、歴史・景観、観光、環境などの多様な観点から、文献講読、現地調査、ディスカッションなどを行うことによって、都市計画・まちづくりの実態と課題に関する理論的および実務的な探究を行う。これを通じて、都市計画・まちづくりの到達点を多面的に確認・検証し、今後の都市計画・まちづくりのあり方について展望する。	隔年
	地域デ ザイン 科学研 究科 経済 経営 専攻 科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学の基礎理論について、その基礎を修得するとともに、その応用として現実の経済事象を分析する力を身につける。 授業の概要 消費者行動理論、生産者行動理論、そして市場の理論について講義する。内容は中級レベル（一部上級レベル）の標準的なミクロ経済学の理論およびその応用分矢である。なお、毎回、簡単な練習問題を課し、それを解くことで学習成果を確認していく。	
		ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学を主とする指導を行う。履修希望者のミクロ経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。 授業の概要 様々なミクロ経済学の考え方を応用して、現実の諸課題について検討し、この過程で修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。	
		マクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 本講義では、大学院におけるマクロ経済学として標準的な内容である新古典派成長モデルに焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学（連立差分方程式の基礎、固有値問題の解法、ベルマンの最適原理）、②新古典派成長モデルの導出とその含意（オイラー方程式の導出、定常状態における黄金律、位相図を用いた鞍点経路の特定）、③新古典派成長モデルの応用（恒常所得仮説、トービンのQモデル、リカードの中立命題、モジリアーニ・ミラーの定理）、④新古典派成長モデルの実証分析（危険回避度の測定、ランダムウォーク仮説の検定、株価の変動範囲検定）などを習得することを目指す。 授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。	
		マクロ経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学は、一国全体の経済変数（GDP、金利、為替レートなど）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究する学問である。マクロ経済学を習得するにあたっては、マクロ経済を構成する実物・財政・（中央銀行を含む）金融・対外部門に対する理解を深めるとともに、それらの部門間の相互連関についても把握する必要がある。また、現実の経済政策を考えるにあたっては、国の発展段階（先進国、新興国、発展途上国）にも注意を払う必要がある。このような観点に基づき、この授業では、マクロ経済に関する専門知識を習得した上で、マクロ経済で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。 授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	産業連関論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域を論ずるための大前提は、なにより地域の経済的力を客観的に知ることである。たとえば、各都道府県の第一次産業がどれだけのGDPを生み出しているか、2次産業、3次産業の比率はどのように変化しているのか。</p> <p>このような基本的な情報をもっともわかりやすい形で与えてくれるのが、国連加盟各国ならびに日本のすべての都道府県、あるいは都道府県内の地域別に発表されている「産業連関表」という経済データである。これは当該地域の経済活動を産業レベルまで遡って記したもので、その地域の現状と未来を教えてくれる非常に有用なデータである。</p> <p>この授業では実際の産業連関表を用いて、各地域の現実の経済的特性を探り、また応用として経済的イベントの経済効果を予測するための基礎を学ぶ。これらは地域論を学ぶ上で、もっとも基本的な知識といえる。</p> <p>授業の概要</p> <p>各自の興味に応じて全国都道府県（もしくはその中の地域）のなかから一つを選び、その県の経済力を導出するためのいくつかの概念と手法を学ぶ。その次に、何らかの経済イベント（例：東京オリンピック2020など）がどれだけの経済効果を引き起こすか、その理論を紹介する。テレビや新聞などで紹介される経済効果の予測について、学んでもらおうということである。東日本大震災直後の産業連関表がすべての都道府県で出そろった段階にある。あるいは、都道府県によっては、東日本大震災からさらに数年経った段階での産業連関表を発表するところもいくつか出てきた。東日本大震災の影響や、その後の復旧復興の様子がデータにどう表れるのか、興味ある研究対象に取り組むチャンスである。なお、授業ではExcelを使う。Excel操作を通して理論と現実を学ぶ、あるいは理論・現実からExcel操作を学ぶ機会の、どちらともなる内容である。</p>	
			金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、大学院における金融論として標準的な内容となるマクロ経済学の応用分野としての資本資産価格モデル（CAPM）に焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学（確率分布、期待値、分散、共分散、制約付最適化問題）、②資本資産価格モデルを理解するための基礎知識（不確実性の導入、リスク回避的な効用関数、消費のオイラー方程式）、③資本資産価格モデルの導出とその含意（資産選択の平均・分散アプローチ、効率的フロンティア、分離定理、CAPMの導出）、④資本資産価格モデルの応用（シャープ比、ジェンセンのアルファ分析、マーケット・ベータ分析）を習得することを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	
			国際金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際金融論は、マクロ経済における対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究するマクロ経済学の応用分野です。国際金融論を習得するにあたっては、対外部門自身を理解することに加えて、国内の実物・財政（中央銀行を含む）金融部門が対外部門（特に国際収支）に与える影響を理解することが非常に重要になる。また、国際金融論は、実学志向が強い学問でもある。このような観点に基づき、この授業では、国際金融論に関する専門知識を習得した上で、対外部門で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。なお、国際金融論は実学志向が強い学問であることに鑑み、本授業はある特定の国に関するケース・スタディーの形をとる。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	環境経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：環境経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経済学の概要を把握した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>環境経済学は、環境問題を克服すべく、環境に優しい社会のあり方を考え、そのような状態を目指すための社会の仕組みを、経済学の観点から提起する学問です。この授業では、この環境経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
			公共経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：公共経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共経済学の概要を把握した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>公共経済学は、政府の果たすべき役割（市場の失敗）、政府がその役割を果たせるか（政府の失敗）を、経済学で考える学問です。この授業では、この公共経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
			計量経済学特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計量経済学の入門的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計量経済モデルについて理解している。 ・回帰分析とそれにもなう関連手法を実践することができる。 ・回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 <p>授業の概要</p> <p>経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的回帰モデルを中心とした手法について、理論的な背景を理解するとともに、実際のデータを用いて解析作業が行えることを目指す。</p>	
			計量経済学特殊研究 II	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計量経済学の応用的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用的な計量経済モデルについて理解している。 ・分析目的に合わせて適切な計量経済モデルを選択することができる。 ・回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 <p>授業の概要</p> <p>経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的回帰モデルの想定では処理できないケースへの対応を扱う。</p>	
			国際経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際経済学を主とする指導を行う。履修希望者の国際経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。</p> <p>授業の概要</p> <p>国際経済学の考え方をを用いて、現実の諸課題について検討する。この過程で、修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	産業組織論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学び、時間があれば規制影響分析にも触れる。費用便益分析の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を理解すること。 ・学んだ知識を現実の具体的課題に適用して考えることができること。 <p>授業の概要</p> <p>費用便益分析の事例を多数取り上げ、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学ぶ。時間があれば規制影響分析にも触れる。ミクロ経済学や統計学・計量経済学の基本的知識を復習した上で、論文や報告書などを紹介する。</p>	
			法と経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、経済学的視点から判例法的展開を分析して日本の競争政策を評価する。独禁法審判決の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争政策のバックボーンとなる経済学を理解している。 ・日本の競争政策を経済学的観点から評価できる。 <p>授業の概要</p> <p>法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、独禁法審判決の事例分析を行う。ミクロ経済学の基本的知識を復習した上で、独禁法審判決の事例を多数取り上げる。</p>	
			財政学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは現代日本財政の課題。今後の日本社会や世界を背負う受講生と不都合な財政的課題の真実に向き合い、何らかの答えを出す。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本財政の特殊性としては、例えば、租税と社会保障の関係が不透明で特別会計改革と言いながら、社会保障は職域で日本経済の格差がそのまま持ち込まれている状況である。統一国庫主義という予算原則からかなりかけ離れている状況を維持し続けている行政の縦割り主義にも切り込んでいきたい。</p> <p>最近の民間税調でも取り上げられた、予算情報の開示の不十分さにも目配りしたい。民間税調のメンバーである大学教授の方がBSの報道番組でも力説されていた「主権者＝納税者」であるという視点を大切にしていきたい。個人所得税だけが税ではなく、消費税もガソリン税も消費者が負担している。法人税も理論的には、下請け企業、従業員、消費者が実質的に負担しているとも言える。</p> <p>年代別の投票率がかなり異なり、18歳選挙権が確立すると、財政構造が選挙で問われる意味がますます重要となる。日本の財政学教育（有権者向けも含めて）も合わせて考えたい。</p>	
			租税政策特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英国マーリーズ・レビューから21世紀の租税政策を考察する。現代日本の租税政策のグランドデザインを構築するきっかけを得る。</p> <p>授業の概要</p> <p>2010・11年に刊行された英国マーリーズ・レビューは、有名な1978年のミード報告30周年を記念したもので、日本の租税政策の検討に有意義であると確信している。ここから今後の日本の租税政策を展望する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	地域経済論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標 「地域産業復興プログラム」および「グローバルプログラム」の一環として「復興の地域経済学」をテーマとする。災害復興と地域創生をキーワードに、地域の生活基盤である産業やインフラをどのように再生していけばよいのかを受講者とともに考える。</p> <p>本授業の到達目標 ①災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる現状と課題を理解すること ②災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる文献をレビューし、他の受講者に分かりやすく報告できること ③福島県をはじめとした地域産業の課題を的確に分析できること</p> <p>授業の概要 二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、災害復興まちづくりや地方都市再生の現状や課題を俯瞰するため、テキストのレビューと討議を行う。また、テキストのテーマに関連した論文や報告書のレビューも各自の関心にあわせて行う。第二部（第11～15回）は、福島県をはじめとした地域産業の課題に関して、各種統計の整理と分析を行い、レポートを作成する。</p>	
		地域交通論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標 地域交通や観光等の分野における高度な専門知識を身につけることが目的である。</p> <p>本授業の到達目標 ①地域交通もしくは観光に関する基礎理論や用語を体得していること ②交通や観光に関するデータを読み解き、地域の特徴や課題を把握し、政策提案もできること ③関心がある分野の先行研究を把握できていること</p> <p>授業の概要 二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、交通経済、交通計画、観光政策分野の文献を輪読し、受講者による討論を行う。専門知識を獲得・確認するとともに、プレゼンテーションの方法（学会発表でも役立つ）。討論の進め方（意見の伝え方）などを身につけることも重視する。第二部（第11～15回）は、地域交通や観光分野における学術論文のレビューを行い、各自の関心に応じて選定した論文の報告を行う。</p>		
		特講（交通まちづくり論）	<p>授業のテーマ及び到達目標 地域の交通や観光をツールとしたまちづくり施策の立案や現状分析を行うための技法を身につけることが目的である。地域課題を実務的に解決する手法を導き出すために必要な調査技法や分析手法（例：統計分析手法、空間解析技法の基礎）についてもあわせて獲得することを目指す。</p> <p>本授業の到達目標 ①地域の交通や観光に関わる国内の政策動向を理解すること ②地域交通や観光に関する調査企画を立案できること ③交通や観光に関するデータを分析し、現状や地域課題を把握するほか、施策の提案もできること</p> <p>授業の概要 第一部（初日の講義）は、地域の交通や観光に関する施策の最前線について概観した後、福島県内もしくは周辺の地方公共団体における交通や観光のデータ（例：交通産業の経営データ、地域経済分析システム（RESAS）掲載データ）の分析技法について演習形式で学ぶ。第二部（二日目の講義）は、第一部のデータ分析により設定した課題を解決するための施策（代替案）を検討、評価し、受講者とともに討議する。</p>		
		経済地理学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標 主要なテーマは、工業の立地・配置、地域経済、地域問題、地域開発に関する理論的、実証的な研究。</p> <p>到達目標は、自ら課題を設定し、説得的な議論を展開できる。経済地理学の基本概念を理解している。</p> <p>授業の概要 経済地理学は、経済学と地理学の学際的分野に位置づく科目である。この講義では、伝統的な立地論としてチューネン、A・ウェーバー、クリスタラーの理論を取り上げ、それぞれの理論とその応用について説明したうえで、現実の経済地理と地域問題の発生（地域間格差等）、それらを解決するための地域政策について取り上げる。地域政策については、その起源と日本における展開を具体的に取り上げる。</p>		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	社会政策論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要 この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	
			労働と福祉特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要 この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	
			開発経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、「開発途上国におけるSDGs」である。到達目標は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国の現状と課題を複数の視点から理解することができる。 2. 開発経済学の基本的な理論を理解することができる。 <p>授業の概要 開発経済学を用いて、開発途上国における経済成長と社会開発について学ぶ。本講義は、まず、文献の輪読、映像視聴、ディスカッションによって、アジアにおける開発途上国の現状を複数の視点から理解することを目的とする。次に、テキストの輪読とディスカッションにより、貧困と格差、貿易、海外直接投資、政府開発援助、農村金融など開発経済学の理論を身につける。さらに、SDGsの観点から、開発途上国がいかなる開発モデル、貧困削減戦略を採用すべきなのかについて研究する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	経済政策特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは、「災害復興政策の国際比較」である。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな災害について、その実態と原因を理解できる。 2. 大規模災害からの復興プロセスと諸アクターの役割について、国際比較の視点から理解できる。 3. 「より良い復興」について自分の考えを持つことができる。 <p>授業の概要</p> <p>大規模災害からの復興について、経済政策と国際比較の観点から学ぶ。大規模災害からの復興に関しては、ローカルな視点だけではなく、グローバルな視点が必要である。この講義では、文献の輪読とディスカッションによって、東日本大震災だけでなく、中国、アメリカ、インドネシアなどにおける大規模災害からの復興政策と諸アクターの役割について学ぶ。また、ディベートやブレイン・ストーミングなどにより、災害からの教訓をどう活かし、「より良い復興(Build Back Better)」を実現するかについて研究し、自分の考えを持つことを目標とする。</p>	
			現代資本主義特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1)先行研究を精査し、報告することができ、(2)自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本科目では、現代社会における以下の諸問題について、資本主義との関係において捉えることを目的に輪読を行う。輪読を通じて、上記の社会問題に関する認識、理論的な理解を深めることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働問題 ・気候変動 ・マイノリティ（女性や外国人など）への差別 	
			現代資本主義特殊研究 II	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1)先行研究を精査し、報告することができ、(2)自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。</p> <p>授業計画</p> <p>輪読文献は、履修者の希望に応じて変更する。文献によるが、半期の間に1～3冊を扱う予定である。加えて、各自の研究に関しては、先行研究のレビューを中心に報告してもらうこととする。</p>	
			地域政策論特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地域政策を考える」である。</p> <p>到達目標は、地域政策の歴史的変遷を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。</p> <p>授業の概要</p> <p>持続可能な社会に向けた地域政策および地方財政をテーマに受講生とともに議論することを目的とする。特に公害や自然災害からの地域再生に焦点をあて、持続可能な地域の再生を支える政策について検討をする。</p>	
			地域政策論特殊研究 II	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地方財政を考える」である。</p> <p>到達目標は、地方財政の特徴と問題点を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。</p> <p>授業の概要</p> <p>経済のグローバル化のもとで地域経済の置かれている現状と課題について議論するとともに、日本の地方財政の特徴と問題点を学び、今後の改革の方向性について考える。被災地域の再生を支える政策のあり方についても検討する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	経済思想史特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるジェームズ・スチュアートの名著『経済学原理』を、とくに第1編を重点にして講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 スチュアートの名著『経済学原理』(1767年)のとくに第1編を重点に解説する。テキストはスチュアート『経済の原理-第1・第2編』(名古屋大学出版会、1998年)を用い、参考資料として竹本洋『経済学体系の創生』(名古屋大学出版会、1995年)を用いる。	
			経済思想史特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるアダム・スミスの名著『国富論』を講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 アダム・スミス『国富論』の原典解説をする。テキストはアダム・スミス『国富論』1~4(水田他訳、岩波文庫、2000年)を用い、参考資料として高哲男『アダム・スミス』(講談社選書メチエ、2017年)を用いる。	
			日本経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経済史の領域から近世および明治維新期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経済史とりわけ近世近代移行期についての研究にとりくむ基盤ができていくこと 授業の概要：19世紀半ばの開港と外圧への対応から授業をはじめ19世紀末から20世紀初頭の産業革命期における日本の経済社会の変容に至るまでを授業の範囲とする。	
			日本経営史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経営史の領域から両大戦間期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経営史とりわけ両大戦間期についての研究にとりくむ基盤ができていくこと。 授業の概要：両大戦間期における日本経済の重工業化と経済成長そして経済政策の体系化のなかでおきた企業経営の著しい変化を追及する。	
			日本経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 ①戦後日本経済に関する主要な経済政策・用語を理解する。 ②経済学的な論理にしたがって、戦後日本経済の展開を理解する。 ③戦後における日本とアメリカとの経済的な関係を理解する。 ④グローバルな観点から日本経済について、自らの考えを説得的に展開する。 授業の概要 戦後復興期から高度成長期、1970年代以降の諸危機に至る過程を実証的に把握する。全体を通じて、「国家政策」「企業」「労働」をめぐる諸側面を局面・段階ごとに構造的に理解することを重視する。	
			世界経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 経常収支不均衡や財政収支不均衡など、負債をめぐる国家間の不均衡について理論的考察。 授業の概要 異端派国際経済論を学ぶ。テキストはHendrik Van Den Berg, International Economics: A Heterodox Approach, 3rd Edition, Routledge, 2017. を使用する。参考資料としてダニ・ロドリック『貿易戦争の政治経済学:資本主義を再構築する』白水社、2019年を使用する。	
			比較経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 歴史を経済から、経済を歴史から考察し、歴史を政治や文化のみならず経済の側面からの多面的に捉え、経済を理論や数式のみならず実際に生じた出来事から捉えられるようになることが到達目標である。取り上げる歴史は、担当者の専門領域が西洋近現代経済史であることから、ヨーロッパ史にウエイトを措くものの、比較検討のために日本、アメリカ、中国、中東地域も対象とする。 授業の概要 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	欧州経済論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ヨーロッパ経済を中心に、歴史的背景と社会文化的傾向を踏まえながら、現代というものを考察する。現代ヨーロッパ・EUは、日本とは大きく異なる制度を構築し、諸問題に対して私達からみると一見奇妙な対応を取ることもあるが、それには歴史的・社会文化的背景が存在している。翻って日本も欧州からすれば一見奇妙な行動を取っており、双方を比較検討することで、現代欧州経済に対する理解と共に現代日本に対する理解も深まるものと思われる。焦点は現代欧州に当てはまるものの、適宜、アメリカ合衆国、中国、中東地域からも事例を取り上げて視野を拡大したい。</p> <p>授業の概要</p> <p>講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。</p>	
			アメリカ経済論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アメリカの革新派経済学について学ぶ。研究倫理への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーション等を通じ、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>授業の概要</p> <p>英文原書からラディカル派政治経済学を学ぶ。参考資料として Howard Sherman (1987) Foundations of Radical Political Economy, M. E. Sharpe. を用いる。</p>	
			アジア経済論特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。</p> <p>(2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。</p>	
			アジア経済論特殊研究 II	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。</p> <p>(2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>アジア経済論特殊研究 I に続き、本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。</p>	
			朝鮮近代史特殊研究	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>主に日本と朝鮮半島の関係史を中心に東アジアにおける近現代史の展開過程を概観するとともに、現在の日韓・日朝関係の抱える問題点や今後の方向性について考える。授業はさまざまなテーマの論文を講読し、報告とディスカッションを中心に行う。</p> <p>授業の概要</p> <p>①東アジア近代史に対する理解を深めるのに必要となる専門的な知識を把握する。</p> <p>②日韓・日朝関係を軸に当時の中国やロシア、欧米などとの世界史的な国際関係の流れも理解する。</p>	
			国際公共政策論特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>転換期を迎えた世界の直面する諸課題について、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、グローバルな事象とローカルな事象の体系的把握を目指す「グローバル」の観点から、「東アジアのダイナミズム」、「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」、「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故」、「地方創生」、「男女共生」、「働き方改革」、「若者」などを事例研究として取り上げる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>イノベーションをめぐる主要国の取り組みについて、2040～50年の世界を念頭に置きつつ、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義の目的は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、「イノベーション」、「2040～50年の世界」、「グローバル」の3つのテーマに焦点を当てるものである。また、事例研究として、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の被災地福島の復興プロセスについても取り上げる予定である。</p>	
			比較社会論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ロシア社会と日本社会の比較</p> <p>到達目標：</p> <p>①比較の基準等に関する主要用語等を理解できる。比較社会論に関する比較社会学等の理論の考え方を理解できる。</p> <p>②比較の基準を基に、ロシアと日本の事情について自分なりの見解を持つ、論じることができる。</p> <p>③ロシアと日本の現状について自分なりの見解を論述することができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>現在、地球上には様々な国々が存在している。一方では、グローバル化が進んでいますが、他方では、各国がその独特さを身に付けている傾向も目立ちます。この授業では、比較社会論の分析方法に基づいて、ロシアと日本を中心に、主として社会構造（民族、階層等）、政治・経済体制（「…」主義等）、文化（宗教、教育、「食」等）について理解を深め、比較研究することを学習する。異国のことはすべて奇妙に見えるという常識を考え直し、自国と他国を比較する目が開かれることを期待する。</p>	
			管理会計論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>管理会計の理論と技法を学ぶ。15回の授業を通じて、管理会計の基本的なテーマについての理解を深めることを目標とします。</p> <p>授業の概要</p> <p>管理会計はマネジメントのための会計であり、財務諸表作成を目的とする財務会計と対比される。管理会計は、企業の経営管理活動と密接にかかわりながら20世紀初頭より学問として発展してきた。この講義では、履修者の管理会計基礎知識を確認しながら、比較的読みやすいテキストを用いて、企業活動のなかで管理会計の考え方や技法がどのように役立つかを学ぶ。</p>	
			コスト・マネジメント特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>管理会計の一分野である原価管理について学ぶ。伝統的な技法の理解のみならず現実の企業への適用についても理解することを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>コスト・マネジメントは、主として標準原価計算を用いて事後的な原価削減を意図してきた狭義の原価管理からはじまって、いまでは企業活動に不可欠な戦略や利益管理の領域にまで、その範囲を拡大している。この講義では、履修者の管理会計や原価管理に関する知識を確認しながら、コスト・マネジメントの理論的発展と、現実企業への適用について学ぶ。</p>	
			価値創造会計特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済組織の価値評価に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ財務会計アプローチを中心に研究する。</p> <p>企業や自治体を研究フィールドとして、実際の外部報告会計の財務データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つデータ改善手法を提案できることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の外部報告会計の財務データを用いて、組織に投下された資本の価値評価方法、組織と社会両方の価値共創化などについて研究する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	価値創造会計特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>価値増大を図ろうとする経済組織の戦略や管理に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ管理会計手法を中心に研究する。</p> <p>企業や自治体を研究フィールドとして、実際の内部報告データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つ実践的なマネジメント手法を提案できることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の内部報告データを用いて、購買・生産・販売・保守等の活動や各種行政サービスにおける価値分析、見える化などからの価値創出提案について研究する。</p>	
			財務諸表論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(授業のテーマ)</p> <p>受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。適切な考察を加えたうえで、論理的に意見を述べることができる。報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>自分自身の研究をしっかりとこなすことは当然だが、ほかの学生の報告を聴いたうえでのコメント(質問や提案など)はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。</p>	
			財務諸表論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(授業のテーマ)</p> <p>受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。適切な考察を加えたうえで、論理的に意見を述べることができる。報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>自分自身の研究をしっかりとこなすことは当然だが、ほかの学生の報告を聴いたうえでのコメント(質問や提案など)はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。</p>	
			財務報告論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来的に修士論文や特定課題レポートを執筆する上での基礎的な能力を養成することを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成を学ぶことを主眼に置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生の要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p>	
			財務報告論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来的に受講生の皆様が修士論文や特定課題レポートを執筆する上での素地を整えることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成などを学ぶことに主眼を置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p> <p>前期に開講する財務報告論特殊研究Ⅰよりも論文の精読の割合を増やし、具体的に研究計画(案)を練っていく。希望によっては外国文献及び英文による会計基準を精読し、主要国の先進的な潮流を確認することにも注力する。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	租税法特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税法の条文の読み方を理解している。 2. 租税法に関する判例の読み方を理解している。 3. 租税法の重要論点に関する判例・学説の動向を理解している。 <p>授業の概要</p> <p>租税法に関する重要判例を題材に、参加者が調査・報告し、議論することにより、租税法の基礎概念と、判例・学説の動向を理解することを目的とするものである。</p>	
			租税法特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 税制の現状を理解している。 2. 税制の課題を理解している。 3. 立法論の立場から税制を議論できる。 <p>授業の概要</p> <p>租税法に関する論文集等を読み、議論することを通じて、税制の現状と課題を理解することを目的とするものである。</p>	
			会計実務特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「財務会計及び管理会計の視点から考察する税法に規定する圧縮記帳」について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>税法の制度について理解するとともに、財務会計及び管理会計の視点から考察する。圧縮記帳の方法によって、財務諸表にどのような影響があるのか。また、その後の売価設定などの意思決定や目標利益額の設定などの意思決定ではどのような点を留意しなければならないか検討する。</p>	
			会計実務特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>税効果会計について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>『税効果に係る会計基準』では、繰延法ではなく資産負債法を採用している。『個別財務諸表における税効果会計に関する実務指針』でも資産負債法を前提に作成されている。しかし、『連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針』では、未実現損益の消去に関する税効果に関しては繰延法が例外的に採用されている。例外的に採用され、その後現在まで変わっていない。資産負債アプローチが定着して長いのがこのままでよいか検討する。</p>	
			特講（実務租税法Ⅰ）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主に所得税・法人税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。</p>	
			特講（実務租税法Ⅱ）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主に消費税・相続税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講（知的財産の応用）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、知的財産の応用として、特に知的財産権と租税法との関係について講義する。知的財産権に対する課税と、知的財産権を用いた租税回避への対応について理解することを到達目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>知的財産権に対する課税および租税回避への対応について講義する。</p> <p>資料として茶園成樹（2020）『知的財産法 第3版』有斐閣、金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂などを用いる。</p>	
			特講（マーケティング概論）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>マーケティングの基本概念と近年のデジタル・マーケティングの考え方に依拠しながら、データに基づいたマーケティング意思決定案をまとめられる。</p> <p>授業の概要</p> <p>「マーケティング」は、企業が市場に対して様々なはたらきかけを行って、ライバル企業よりも自社製品を顧客に選んでもらうための活動全体のことであり、企業と顧客との望ましい関係をデザインし実施する活動である。このように一口にマーケティングと言っても、その範囲は多岐にわたる。そのため、1つの講義だけでマーケティングに関わる様々な問題を網羅することはできない。そこでこの講義では、近年のインターネット技術の発展を踏まえて、デジタル社会を前提としたトピックや事例を取り上げ、それらを通じて基本的なマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。</p>	
			特講（社会課題とマーケティング）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年の事例を通じて社会課題とマーケティングとの関わりに関する基本的な考え方を学び、自身が所属する組織の問題に対して適用できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>近年、ソーシャルメディアの普及によって市場の評判がより短期間で可視化されやすくなっており、社会課題とマーケティングとの関わりは本格的に無視できない状況になりつつある。そこでこの授業では、具体的な事例を取り上げながら、社会課題とマーケティングに関する基本的な考え方について学ぶ。</p>	
			特講（マネジメント概論）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている</p> <p>2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている</p> <p>授業の概要</p> <p>現代社会において、人は様々な組織とかかわり、それらの組織の影響の下、生活を営んでいる。それは決して営利組織だけを対象とした議論ではなく、古くて新しい組織、非営利組織もその対象となる。組織において、人はいかなる視点を用い、マネジメントしていくのか。その視点を科学的な観点から検討する。</p>	
			特講（組織論）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている</p> <p>2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている</p> <p>授業の概要</p> <p>1900年代から始まる近代組織論の概略を確認しつつ、最新の理論についても議論を行う。</p> <p>世の中には経営学の話題となる事象が多く存在する。最新のニュースを見れば、ほとんどが企業や行政など組織に絡むニュースである。現代社会において、人は会社、行政機関、NPOなど、実に様々な組織とかかわり生活をしている。その構造や文化、変化のメカニズムを理解することを本講義の目的とする。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講（競争戦略）	<p>授業のテーマ及び到達目標 テーマ「急変する経営環境と経営戦略の在り方」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握できる分析力を鍛えること ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の理論と動的な展開パターンを理解すること 授業の概要 経営戦略論の中で、事業部戦略とも呼ばれる競争戦略に焦点をおいて講義する。具体的に、経営課題の解決に向けた多数企業の事例分析を通じて、 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握し、 ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の動的な展開パターンを学習する。 実際の講義では、2日間を6つのセッションに分け、講義と討論を行う。</p>	
			特講（ビジネス・イノベーション）	<p>授業のテーマ及び到達目標 テーマ「今日企業に求められるイノベーション」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められるイノベーションと関連した専門知識を理解すること ②イノベーションの創出を目指す経営戦略の関連理論と動的な展開パターンを理解すること。 授業の概要 経営戦略論の学問分野で特に注目されている第4次産業革命、デジタルトランスフォーメーションなどと関連したイノベーションをメインテーマにして講義を進める。 具体的に、日米企業をメインとしたグローバル企業のイノベーション事例を多数用いて、今日の企業におけるイノベーションの意味や効果、創出プロセスと動向などの諸点を学ぶ。</p>	
			特講（地域企業経営）	<p>授業のテーマ及び到達目標 地域企業経営に関連する基礎的知識や理論、今日的課題が理解できていること。 授業の概要 本講義では、地域経営で必須ともいえる地域企業や地域組織に着目する。その上で、関連する法制度やその変遷、継続的に経営していく上での経営・育成手法に関して、様々な事例から学ぶ。それにより、地域でみられる諸課題を経営の課題として捉えることができるようになり、今後の地域経営を考える上で必要となる視点を得ることを目指す。</p>	
			特講（地域デザイン）	<p>授業のテーマ及び到達目標 地域デザインに関連する基礎的知識や今日の課題が理解できおり、演習や発表時に実践できていること。 授業の概要 地域デザインの概略に関して理解を深めた上で、「参加・協働のまちづくり」などをキーワードに、地域をデザインし協働で進めていく手法や関連する組織、課題などを、実践例などから学ぶ。さらには、地域デザインで用いられる機会の多いワークショップを講義内で実施する予定であり、それらを通して実践的に学んでいく。</p>	
			特講（組織行動）	<p>授業のテーマ及び到達目標 本授業は社会科学の行動科学の下位分野である組織行動論をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 1. 組織行動論の基礎的知識や理論を理解できる 2. 組織行動論の基礎的知識や理論の間の関係性を理解できる 3. 組織行動論の基礎的知識や理論を実際の経営事例に適用し、分析できる 授業の概要 組織行動論の様々な理論が登場した時代的・理論的背景を理解して、各理論の仮定・観点・概念・仮説を学習することを目的とする。具体的には、組織の中で起こる個人・グループ・組織レベルの様々な人間行動について理論を適用し、理由を推論する「理論的因果推論」(theoretical causal inference)を身につけることを目指す。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講（ビジネス統計）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業はOLS回帰分析を用いた因果推論における仮説検定をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 因果推論に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を説明できる 実際の認識、態度、行動に関するデータをEXCELなどの分析ツールを用いて分析できる 分析結果の意味を社内外の利害関係者に分かりやすく説明できる <p>授業の概要</p> <p>情報化技術が発展する近年の企業経営環境においては、直観や経験に依存した意思決定を超えて、「エビデンス」に基づいたマネジメントが求めている。例えば、人事部が評価制度を設計することにあたって、自社が蓄積している従業員の意識、態度、行動に関するデータを分析して（HRアナリティクス）、得られた自明な「エビデンス」がないと、社内の利害関係者を説得することは難しいだろう。本科目では因果推論(causal inference)に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を学習することを目標とする。また、EXCELなどの分析ツールを用いて、統計解析を実務で応用できるようになることを目指す。</p>	
			特講(マーケティング・リサーチ)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者行動の理論的背景を理解する。 マーケティングに関するデータから消費者行動分析やリサーチの技術を身につける。 消費者行動モデルやマーケティングモデルに関する理解を深める。 <p>授業の概要</p> <p>インターネットや情報技術の発達に伴い、さまざまな消費者行動に関連する情報を比較的容易に取得可能になりました。それゆえ、学術だけでなく実務上においてもマーケティング活動の示唆を得るため、消費者行動に対するメカニズムやプロセスを体系的に理解することが求められる。本講義では、大きく2つのパートに分け、前半では消費者行動理論の理解を目的とし、後半では消費者行動やマーケティングをリサーチ・分析するための事例を学ぶ。終盤には消費者行動モデルやマーケティングモデルの最新の研究について紹介します。</p>	
			特講(データサイエンス基礎)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計的分析に関する統計理論を理解する。 様々なデータを用いて適切に分析し、分析結果を理論的に解釈できる。 因果関係と相関関係の違いや因果効果について理解する。 <p>授業の概要</p> <p>学術だけでなく実務においても経験や勘に基づく意思決定ではなく、データ解析から正しい結果を導き出すことで合理的な意思決定をすることが求められている。そこで本講義では、データ解析について実務上の観点から利用可能な手法を習得することが大きな目的である。特に近年注目されている効果検証の観点から、計量経済分析や多変量解析に加えて、統計的因果推論に関しても扱うこととする。修士論文、課題研究だけでなく、実務上誤って効果を測定してしまうような案件について、紹介する。</p>	
			特講(コーポレート・ファイナンス)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代ファイナンス理論のうち企業の投資意思決定に関して基礎から学ぶことにより、最終的に企業の投資意思決定における諸課題を認識する能力およびそれらの解決能力を身につけることを目標としている。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業では、とくに貨幣の時間価値、リスク、資本コストなどの概念に対する理解を深め、投資意思決定における諸課題を考える。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講（人的資源管理）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態：通常講義 ・到達目標：人的資源管理の概念や制度の動向について理解している。学んだことから実社会で起きている経営現象を理解できる。自分自身のキャリア形成に置き換えて考えられる。 <p>授業の概要</p> <p>企業の資源は「人」「モノ」「金」「情報」と言われる中で「人」の重要性はますます高まっており、企業が人を最も効果的に活用していくための仕組みとは何かについて学んでいく。また、授業を通じて自分自身のキャリア開発についても考える。</p>	
			特講（リーダーシップ）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標：多様なリーダーシップスタイルを理解した上で、自分自身のリーダーシップ体験を振り返り、今後の課題・取組みの方向についてどのようにリーダーシップスタイルを開発していくのかその方法論について説明、議論できる。 <p>授業の概要</p> <p>リーダーシップの基礎理論、実践的研究及び事例全般について講義すると同時に、ワークショップ形式で出席者自身の体験をベースに対話を通じて体感的にリーダーシップについて理解する。</p>	
			特設外国語 英語 I	<p>This seminar class for graduate students explores economic theories applied to real-life situations. Skills honed in this class are critical thinking, research methodology, academic reading, data evaluation and professional presentation. The first section of the class is spent discussing the major theme, incentives and how people are incentivized—from the textbook <i>Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything</i>, by Levitt and Dubner (2005). In the second part of this class students will work with the professor on their own research through writing, editing, practicing and presenting in a professional format—and in English.</p> <p>実生活の状況に当てはまる経済理論を検討する。このクラスで磨かれる技能には、批判的思考、研究方法論、アカデミックリーディング、データ評価、専門的プレゼンテーション能力が含まれる。前半は、レヴィット&ダブナー著「ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探検する」から主要テーマ「インセンティブおよび人はどうしたらやる気になるか」について議論する。後半では、教員との共同作業を通して、英語でのレポート執筆、編集、専門的プレゼンテーションを行い、学生自身の研究を進める。</p>	
			特設外国語 英語 II	<p>TOEICは大学生のみならず、社会人も多く受験している英語技能テストです。本授業では、TOEIC L&R対策用学習教材を使用して、英語聴解力、読解力、語彙力を総合的にレベルアップさせることを目標とします。受講者は、学内外で開催される実際のTOEICを積極的に受験して下さい。履修対象は、主として中級レベル（英検2級程度）の英語力を持つ学生です。</p>	
		特設外国語 英語 III	<p>リーディングを中心として、総合的で高度な英語力を養成することを目標とする。</p> <p>文化や旅、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなど幅広い分野を題材に、写真や映像を豊富に使い、五感を使って主として語彙力と読解力を伸ばす。また、オーラルコミュニケーション、ビデオ視聴、ライティングも練習する。授業では、原則的に訳読は行わず、できるだけ多く英語を使うことに重点を置く。</p> <p>その他、本科目には以下のような特長がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルのリーディングを扱う。アカデミック・イングリッシュを学ぶ準備にも好適である。 ・様々な国からのリアル・ストーリーを紹介する。学習者は英語とともに世界を学ぶ。 ・語彙力、読解力、アカデミック・イングリッシュおよびクリティカル・シンキング能力を養うための演習を豊富に行う。 ・IELTSやTOEFL試験対策に有益な質問形式の演習を行う。 ・関連サイトで、音声、ビデオ、ビデオスクリプト、語彙リストを利用できる。 		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特設外国語 英語Ⅳ	<p>This course is designed for non-native speakers of English who need to learn advanced writing strategies to succeed in the academic environment. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper. Students will be asked to develop individual research projects on a topic of their interest using the techniques and methods discussed during this lecture, with the final objective of demonstrating their skills in a final research paper at the end of the course.</p> <p>During the course, students will be strongly encouraged to work on developing their vocabulary, writing, listening, reading and speaking skills according to the average standards necessary to successfully comprehend the academic subjects under discussion.</p> <p>学問的環境で成功を収めるために高度な英語ライティング能力を必要とするノンネイティブ話者を対象としている。主要な目標は、論理的思考の段階的訓練を通じて、学生が明瞭で説得力のある学術論文を書くために必要な技能を獲得することである。学生は、講義を通じて身に付けた技術と方法論を用い、自身が関心のあるトピックに関して研究プロジェクトを進めていくことが求められ、最終的に研究論文を執筆する。</p> <p>講義全体を通じて、学生は議論しているテーマを理解するのに必要な語彙力および4技能を高めるよう努力することが求められる。</p>	
			特設外国語 ロシア語Ⅰ	<p>ロシア語力を多面的に高めていくことを目標とする。主として、露文のリーディング・ライティング、ロシア語のインターネット検索等を通じて、ロシア社会における諸問題の理解を深めることによって、研究に必要な知識を身につけてもらうことを目指す。受講生の興味・関心と語学力に応じて、授業のテーマとレベルを調整したテキストを使用する。</p>	
			特設外国語 ロシア語Ⅱ	<p>ロシア語の新聞・雑誌、あるいは近年において容易に閲覧できるようになったインターネット上の記事を、辞書など補助教材の一定のサポートを得ることにより、正確に読めるようになること——これが本授業の目標である。本授業には多様なロシア語学習歴を有する受講生諸君が来ることと予想されるため、それぞれの語学力に応じ、授業レベルを調整することとする。これまでの各自の学習歴において不足していた文法的知識についても補強する。</p>	
			特設外国語 中国語Ⅰ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）序文～第2集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	
			特設外国語 中国語Ⅱ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）第3集～第5集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特設外国語 韓国朝鮮語	主に東アジア地域の研究を目指し朝鮮半島に関心のある学生を対象に、研究動向の整理やインターネット検索など研究活動を進める上で求められる韓国朝鮮語の運用能力の養成を目指す。あわせて政治・経済・社会・文化などの時事問題に触れて朝鮮半島への理解を深める。 到達目標は次のとおりとする。 ・朝鮮半島の時事問題に理解と関心を持つ。 ・辞書や参考書を引きながら韓国朝鮮語の文献を読解できる。	
		特設外国語 日本語 I	[概要] この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。 [ねらい] 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)ハンドアウトと論文の書き分け、(3)口頭発表のスキル、(4)日本語待遇法の理解と習得などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについての習熟も図る。		
		特設外国語 日本語 II	[概要] この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。「特設外国語 日本語 I」からのさらなる熟達・発展をめざすクラスである。 [ねらい] 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)論文デアル体・語彙の習得、(3)ハンドアウトと論文の書き分け、(4)口頭発表のスキル、(5)レポート・論文・アカデミックプレゼンテーションの資料作成、などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについてのさらなる熟達も図る。		
	共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	生産システム最適化特論 I	本講義では、ものづくり(製造業)の業務における管理手法である「経営工学」手法の基礎的な知識、理論、手法を習得し、問題発見・問題解決のための実践的な能力習得を目的とする。具体的には、製造業を対象とした製品設計や生産管理業務に従事する実務者を想定し、製品企画から、製品設計、生産設計、工程管理、生産計画を含むエンジニアリングチェーンにおける各種業務に必要な経営工学分野の幅広い知識、理論や、実務で役立つ手法を対象とする。授業形式は、講義と演習や、輪講形式で進めていく。		
		物性物理学特論 I	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。学部レベルでの物理数学、力学、電磁気学、量子力学を基礎にして、モノの性質を考えていく。物性物理学で提示される物理モデルについて理解し、解析的に取り扱えることを目標とする。また、基本的な物性実験の手法について計測原理も含めて理解できるようにする。		
		メカトロニクス特論 I	本講義では、平易な英語で書かれたロボット工学の入門書を輪読し、メカトロニクス・ロボット工学に関する専門的知識を英語で学ぶことを通して、英語で書かれた論文やレポート等を読む力を涵養する。使用する教科書の内容は、学類時代の講義で学んだことを多く含んでおり、日本語で学んだ事項を英語で復習するということを通して授業のねらいを達成する。		
		物性物理学特論 II	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。特に光・放射線に関する物理的内容を題材として進め、物性物理学に基づいた光・放射線解析手法を理解し、また測定によって得られたデータを解析できることを目標とする。実践的な能力を高めるために、モンテカルロ法を用いた粒子輸送計算シミュレーションや丫線のエネルギースペクトル測定実習など具体的な課題に取り組むこととする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	メカトロニクス特論Ⅱ	<p>授業概要： メカトロニクス技術の重要な応用分野はロボットである。ロボットに関する最新の論文を読み解き、最新のロボット技術への理解を深める。</p> <p>授業内容： 1. 最新のロボットに関する論文を担当教員と相談して1編選ぶ。 2. 毎週、その論文の内容について少しずつ発表しながら討論し、内容の理解を進める。 3. 最終回では、論文内容をまとめた発表を行う。</p>	
			分析化学特論Ⅰ	<p>分析化学は大きく大別すると「分離化学」と「計測化学」とに分けることができる。本講義では、分離化学を重点的に講義する。一方、計測化学は、分析化学特論Ⅱで取り扱う。分離化学では、抽出、すなわち分配現象を中心に解説する。具体的には、溶媒抽出における液/液分配、固相抽出における固/液分配、界面活性剤によるミセル分配などの分配現象を取上げて、理論と実際の実験方法を踏まえて解説する。</p>	
			分析化学特論Ⅱ	<p>現代科学の著しい進歩は機器分析の発展によって支えられている。環境分析においても、環境動態を解明する上で、機器分析法は重要な役割を担っている。本授業では、学部で行われる機器分析より高度な機器分析科学を講義する。光分析、電磁気分析、電気分析、分離分析、その他の5種類に分類し、具体的には、サーマルレンズ吸光度法、ストップフロー分析、ゼーマン偏光型原子吸光度計、化学発光分析法、ICP-MS/MS、三次元NMR、CT法、カールフィッシュャー水分計、キャピラリー電気泳動法、質量分析法等のデータの解釈、具体的な測定例を中心に最新のトピックスを交えて解説する。</p>	
			環境微生物学特論Ⅰ	<p>微生物の代謝やその制御が現在の地球環境の形成に果たした役割を、地球史と微生物の進化・分化との関連から解説する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ： ・ 土壌、水環境、地下などの生物化学的プロセスに果たす微生物の役割を理解する。 ・ 農業、水産業、林業、畜産業の場としての地圏・水圏における物質循環や地球環境問題などの各分野・問題で、微生物学が、イノベーションや問題解決に貢献する題材を理解し、考えるための基礎知識を身につける。</p>	
			分子生態学特論Ⅰ	<p>本授業では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、適宜、報告・討論・ワークショップなどを混ぜながら進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野に関連した視野を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料を丁寧に読解するほか、論文の構造に着目した読解方法、自らの論文執筆に活かすためのデータの蓄積、批判的な論文読解、より効果的な文章の改善案の検討などについて解説する。</p>	
			流域水管理特論Ⅰ	<p>本授業では、降水から、蒸発、地下浸透、河川への流出の一連の水循環過程と、この水循環に関わる社会の影響を理解するとともに、具体事例を基に流域水マネジメントの対象となる水循環要素の出現頻度と治水、利水関連施設の役割を講述する。また、この流域水マネジメントの応用として、ディベートによる演習も行い、水管理、水循環に対する社会的な各立場からの視点を養うことにも取り組む。</p>	
			流域水循環特論Ⅰ	<p>この授業では、水循環システムのメカニズム、モデル化、プログラミングについて講義と演習を組み合わせ学習する。最終的には、地中の水移動現象の支配方程式である飽和・不飽和浸透流の数値モデルを自力で作成する力の獲得を目指す。これに向けて、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて移流方程式、拡散方程式、移流拡散方程式を順に数値的に解く力を身につける。また、計算結果を可視化・図化する能力の獲得を目指す。いずれも講義に演習形式を取り入れて、教員と対話しながら実践的に指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	地下水盆管理計画特論 I	<p>【授業概要】 地下水盆そのものと地下水盆を取り巻く諸条件について体系的・定量的に把握・評価するための専門技術を解説し、地下水盆を量・質両面から適切に管理するための方法論と実例を紹介する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に必要となる地下水盆構造の解明や帯水層特性の把握、涵養量や揚水量の算出方法、地下水観測記録の解析方法、許容揚水量の設定や最適揚水量配分の方法などについて理解し、地下水盆の評価を行うための専門技術を身につける。</p>	
			環境微生物学特論 II	<p>生物地球化学的な物質循環の中で人間活動による生物生産が持続可能なものとなるために重要な微生物学的過程に着目した研究論文等を紹介する。</p> <p>持続可能性のためには温室効果ガスの排出が少ない技術を選択する必要がある。この観点で、微生物による独立栄養と従属栄養とのバランス、温室効果ガスであるメタンや一酸化二窒素の発生やその消費を対象とした研究や、工業的窒素固定に依存しない生物生産に関わる窒素固定に関わる研究、微生物反応の制限要素となる元素の象徴に関わる研究等を対象とする。</p>	
			分子生態学特論 II	<p>本論では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、報告・討論・ワークショップなどをまじえつつ進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野の成果・手法を援用することを学び、行政等における実務家として十分な情報発信能力を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料の的確な読解に基づく、先行研究のレビューやその発表技術、先行研究を自らの論文執筆に活かすためのテクニックなどについても解説する。</p>	
			流域水管理特論 II	<p>水循環、水資源管理の一連の基礎的内容を踏まえ、社会の高度化や気候変動等の環境変化を促す外的要因を考慮することで、発展的に生じうる流域問題をシミュレーションするための理論を講義と演習を通じて学ぶ。また、シミュレーションを行うことで将来的に生じうる治水、利水対策の問題点を考察し、今後の安全かつ快適な社会創生において必要とされる流域の適応策、緩和策について具体的に計画できるマネジメント能力の育成に取り組む。</p>	
			流域水循環特論 II	<p>この講義では、流域内における水の動態に関するデータを計算機を用いて自在に解析し、価値ある知見を見い出すスキルを演習形式で体験的に習得することを目的とする。具体的には、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて、①水循環に関する数値データの収集・解析・結果の可視化、②流域の水文・地理データの収集・解析・結果の可視化、③数値データを解析するためのアプリケーション開発、のいずれかに取り組む。①～③の選択は、受講者の進路や希望などに応じて決定する。</p>	
			地下水盆管理計画特論 II	<p>【授業概要】 この演習では、地下水盆モデル化の基礎となる地下水盆の離散化の考え方や地下水シミュレーション技術の基礎、地下水モデルの種類、実際の地下水盆のモデル化、地下水シミュレーション解析技術の適用と応用までを扱い、地下水盆管理計画のための地下水シミュレーション解析技術を実践的に習得する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に欠かすことのできない地下水シミュレーション解析技術を習得し、地下水モデルを自ら作成し運用できるようにする。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	環境放射能学Ⅰ	<p>環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動ともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(161 脇山義史/3回)</p> <p>陸域の放射性核種動態について解説する。</p> <p>(159 高田兵衛/3回)</p> <p>海洋の放射性核種動態について解説する。</p> <p>(162 Maksym Gusyev/3回)</p> <p>放射性核種動態の数値解析について解説する。</p> <p>(103 Vasyly Yoschenko/2回)</p> <p>生態系の放射性核種循環・移行について解説する。</p> <p>(186 五十嵐康記/2回)</p> <p>水循環に関連する放射性核種動態について解説する。</p> <p>(185 石庭寛子/2回)</p> <p>陸生動物への移行・影響について解説する。</p>	オムニバス方式
			環境放射能学Ⅱ	<p>環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動ともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(157 和田敏裕/2回)</p> <p>水圏での放射性核種の移行・影響について解説する。</p> <p>(102 塚田祥文/2回)</p> <p>農業環境の放射能汚染について解説する。</p> <p>(104 Aleksei Konoplev/2回)</p> <p>過去の原因事故を含めた環境放射能研究について解説する。</p> <p>(158 Ismail Md. Mofizur Rahman/3回)</p> <p>放射能の除去技術・修復について解説する。</p> <p>(105 鳥居建男/4回)</p> <p>放射線量測定について解説を行う。</p> <p>(160 平尾茂一/2回)</p> <p>大気中の放射性核種の拡散・数値解析について解説する。</p>	オムニバス方式
			核種分析学	<p>天然および人工放射性核種の種類・起源・基礎的性質、放射線と物質の相互作用等の物理、その計測原理の理解を目的とする。天然放射性核種としては、ウラン・トリウム系列核種、長寿命放射性核種、宇宙線生成核種、更には天然原子炉による放射性核種を理解する。また、人工放射性核種については、大気圏核実験、原子炉、核燃料サイクルなどに由来する放射性核種について学習する。また、アルファ線、ベータ線、ガンマ線の計測原理と、放射線画像計測など基礎から応用までの放射線計測技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(102 塚田祥文/8回)</p> <p>天然・人工放射性核種とそれらの性質・分析について開設する。</p> <p>(160 平尾茂一/7回)</p> <p>放射線計測技術と関連する基礎理論を解説する。</p>	オムニバス形式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	原子力災害学	本講義では原子力災害に関する講義を行う。チェルノブイリ、スリーマイル、セラフィールド、福島で発生した原子力事故を題材として、災害の要因、緊急時対応、放射性物質の起源（ソースターム）や環境中での輸送と生態系への移行、そのモデル化と予測、環境修復を含む事故後の対策について解説を行う。受講者は、原子力施設が住民や環境に与える潜在的な影響や危険性を学び、原子力災害発生時の緊急時対応や環境修復策に関する基本原則等を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (104 Aleksei Konoplev/4回) 過去の原因事故、事後の対応、影響を概説する。 (161 脇山義史/4回) 陸域の放射性核種動態について解説する。 (159 高田兵衛/4回) 海洋の放射性核種動態について解説を行う。 (158 Ismail Md. Mofizur Rahman/2回) 事故後の環境修復について解説を行う。 (162 Maksym Gusyev/1回) 放射性核種を用いた環境動態解析について解説する。	オムニバス方式
			放射生態学	放射線が生物に及ぼす影響および生物を介した放射性物質の移行に関する講義を行う。各種放射線による生体への影響やその発現機構を解説するとともに、放射性物質の生態系内での生物を介した移行に関する研究事例を紹介し、それらの背景・理論・研究手法について教授する。 (オムニバス形式/全15回) (103 Vasyl Yoschenko/3回) 放射線影響・放射線防護の理論について解説する。 (157 和田敏裕/3回) 水圏における生物への放射線影響について解説する。 (98 難波謙二/3回) 生物と放射性核種の相互作用について解説する。 (185 石庭寛子/2回) 陸生生物への放射性核種の移行・影響を解説する。 (186 五十嵐康記/2回) 森林生態系における放射性核種の循環について解説する。 (155 兼子伸吾/2回) 放射線影響を分子生物学の観点から解説する。	オムニバス方式
			水圏放射生態学	水圏放射生態学の基礎となる水生生物（主に魚類）の生理生態や、震災前の福島県の海面・内水面漁業について説明するとともに、津波と原発事故による影響や、水生生物の放射性セシウム汚染実態とそのメカニズムについて海域と陸水域に分けて説明する。また、福島とチェルノブイリとの比較も示したうえで、福島県の漁業復興に向けた取り組みを紹介する。	
			森林放射能学	森林放射能学の基礎知識を習得するための講義です。講義では、植物体内における光合成と物質生産を学びます。これは、植物や森林における物質循環を理解するための必須項目です。講義では、無機栄養の利用、水分生理、成長と発達に及ぼす環境の影響、植物のストレスなどを順に学びます。その後、植物の物質輸送における放射性物質の動態のメカニズム、植物への放射線の影響、森林や林産物の放射能に関する実践的な課題などを明らかにします。	
			動物生態学	野生動物への放射性物質の動態や、影響を明らかにするために必要な動物生態学の基礎知識を習得する。前半は採餌理論、種内・関係、社会、進化など動物生態学の基礎となる理論と概念について概説を行う。後半は、研究論文や放射線防護の国際機関が発行する報告等を用いて、野生動物を対象とした放射線研究に関する事例や国際的な動向を学ぶ。	
			陸域放射能動態学	本科目では、陸域における水循環・土砂動態に関連した放射性物質の動態に関する講義を行う。陸域における放射性物質の再移動を規定する水循環・土砂動態の基礎を概説した後、大気核実験や福島原発由来の放射性物質の動態に関する観測事例を紹介する。受講者は、講義を通じて水・土砂動態や放射性物質の再移動プロセスを定量的に評価する手法や放射性物質をトレーサーとして活用する方法を学ぶ。また、文献購読を通じて他者の研究内容を理解・説明する能力を涵養する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	移動現象論	本科目では、放射性物質の環境動態を理解するための移動現象（運動量、熱、物質移動）を学び、基本的な方程式を理解し、その数値解析法を学ぶことを目的とする。移流拡散方程式を理解し説明できること、実環境中での物質輸送現象に応用できる能力を培う。前半は、理論的背景、方程式の導出等について概説する。後半は、現実の適用事例について理解を深めるとともに、大気中の物質輸送に関わる物理現象を学習し、研究論文等を用いて最新の動向を学ぶ。	
			放射能モデリング学特論	原子力発電所事故後の環境中での放射性物質の拡散予測や事故後の対策の効率性を分析するためには、モニタリングデータに基づく数値モデリングが主要なツールとなる。本科目では、表流水（池、貯水池、河川、沿岸域）、地下水（流域、沿岸域）を対象とした放射性核種移行モデルおよび食物網／線量解析モデルとそれらを活用するためのソフトウェアシステムについて概説する。また、チェルノブイリ原子力発電所、福島第一原子力発電所の事故により放射性降下物の影響を受けた地域における放射性核種輸送予測や事故後の対策評価の実例を挙げながら、モデリングツールの実装について説明する。	
			海洋放射能動態学特論	本科目では、海洋における放射性物質の動態に関する講義を行う。前半では海洋における物理・化学・生物についての基礎知識、更には海洋での物質循環に関して理解をする。中盤から後半にかけて、海洋での天然及び人工放射性物質の分析手法や動態、更には海水、生物、海底堆積物への移行の定量方法を修得することを目的とする。	
			陸域生物圏放射能動態学	農業環境から植物に移行する放射性核種の動態に関する講義を行う。土壌および灌漑水における放射性核種の挙動と存在形態変化、その要因について学習する。葉面吸収や経根吸収によって植物へ吸収する放射性核種について理解する。また、植物へ移行する放射性核種の類推手法を学び、作物中放射性核種濃度の評価を習得する。更に、作物摂取による内部被ばく線量についても学習する。	
			放射能等の分離技術	本科目では環境試料中の放射性物質の分離技術についての講義を行う。放射能汚染に関する研究の歴史・背景、対象となる核種の性質、放射性物質関連の規制ならびに放射化学の基礎的内容を概説したのち、放射能汚染に曝された土壌や水などの環境試料から、放射性物質を分離・除去する技術や課題について、研究事例を交えながら解説を行う。受講者はそれらの技術の背景となる物理的・化学的プロセスの基礎的理論および応用方法について修得する。	
		放射線計測工学特論	本科目では、環境中における放射性物質の分布、挙動を把握・評価する上で重要となる放射線の計測技術について理解を深めるため、前半は主要な放射線である α ・ β ・ γ 線の特徴と放射線挙動の物理、放射線の輸送解析技術、計測技術の基礎について理解を深める。特に、原子力分野、理工学分野、医学分野などで進められている放射線計測技術の現状とその利活用、また今後必要となる課題について理解を深める。後半は、放射線源を把握し環境中での放射線挙動を理解する上で重要となる放射線分布の可視化、イメージング技術に関する研究開発について理解を深めるとともに、放射線計測技術と異分野の技術との融合による計測技術、解析技術の高度化について学習し、さまざまな分野、領域への放射線計測手法の適用や応用の能力を高める。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目	先端食品科学	<p>食品科学分野における基盤技術、理論、応用開発事例などの現状と最新の動向および今後の展望について、各担当教員がそれぞれ専門とする以下の分野について講述する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(163 石川大太郎、165 吉永和明、107 平修、167 渡部潤 / 1回) (共同)</p> <p>第1回 食品の非破壊分析、脂溶性成分分析、食品網羅的分析および微生物ゲノムの基礎 (109 藤井力、110 西村順子、108 熊谷武久、106 松田幹 / 1回) (共同)</p> <p>第2回 微生物機能利用(真核微生物)、微生物機能利用(原核微生物)、乳酸菌機能論およびプレバイオ食品免疫論の基礎 (166 升本早枝子、164 尾形慎、163 石川大太郎 / 1回) (共同)</p> <p>第3回 ファイトケミカル機能論および糖質素材・酵素合成論の基礎、食品の非破壊分析の事例と動向 (165 吉永和明、107 平修 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 脂溶性成分分析および食品網羅的分析の事例と動向 (167 渡部潤、109 藤井力 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 微生物ゲノムおよび微生物機能利用(真核微生物)の事例と動向 (110 西村順子、108 熊谷武久 / 1回) (共同)</p> <p>第6回 微生物機能利用(原核微生物)および乳酸菌機能論の事例と動向 (106 松田幹、166 升本早枝子 / 1回) (共同)</p> <p>第7回 プレバイオ食品免疫論およびファイトケミカル機能論の事例と動向 (164 尾形慎 / 1回)</p> <p>第8回 糖質素材・酵素合成論の事例と動向、まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
			先端農業生産科学	<p>農業生産科学コースの各専門分野のテーマについて、社会的な背景、基盤技術、理論、応用事例などの現状、最新の研究動向および今後の展望について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(111 新田洋司 / 1回)</p> <p>第1回 作物学 (168 高橋秀和 / 1回)</p> <p>第2回 遺伝育種科学 (169 渡邊芳倫 / 1回)</p> <p>第3回 育土栽培学 (170 深山陽子、171 高田大輔 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 園芸学特論 (112 篠田徹郎、172 岡野夕香里 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 植物保護学特論 (113 大瀬健嗣 / 1回)</p> <p>第6回 土壌環境科学 (173 二瓶直登 / 1回)</p> <p>第7回 植物栄養学特論 (114 石川尚人 / 1回)</p> <p>第8回 畜産学</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目	先端生産環境科学	<p>国土管理の基盤である森林科学と農業工学を領域とする生産環境科学コースにおいて、持続可能性の観点から、環境調和型の農林業生産と、生態学的な機能の高度化を目指すことは重要な課題である。また、農村地域の特徴、あるいは課題解決・対策に必要とされるアプローチは多様である。本講義では、生産環境科学コースを構成する多方面の専門領域から、農村地域の課題を解く手がかりとなり得る先進的な話題について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(175 望月翔太 /1回) 第1回：生産環境科学の先進的な取組とは (180 窪田陽介、179 牧雅康 /1回) (共同) 第2回：農業技術における国内外の先端研究 (178 申文浩 /1回) 第3回：行政が展開している先進的な取組：農業農村整備 (174 福島慶太郎 /1回) 第4回：森林管理における国内外の先端研究 (176 藤野正也 /1回) 第5回：行政が展開している先進的な取組：森林管理 (116 神宮宇寛 /1回) 第6回：農村の生態系管理における国内外の先端研究 (117 原田茂樹、115 金子信博 /1回) (共同) 第7回：行政が展開している先進的な取組：気候変動と生物多様性保全 (177 石井秀樹、175 望月翔太 /1回) (共同) 第8回：行政が展開している先進的な取組：防災・減災</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
			先端農業経営科学	<p>本講義では、農業、食料、地域をめぐるイノベーションの動向を先進的な社会科学理論と分析視点から学修していく。持続的なフードシステムに向けた課題、世界の動向、産地の新展開に対して、それらを支えるイノベーションをキー概念として最新の知見を習得することをめざす。前半部分では、食料政策、農産物流通、マーケティングをめぐるイノベーションを取り上げ、後半部分では、福島県の原子力被災地域に焦点を当て、地域産業復興の最前線を支えるイノベーションを取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(182 則藤孝志 /2回) 第1回 食料の安定供給をめぐる社会動向とイノベーション 第8回 まとめ (181 原田英美 /1回) 第2回 農産物流通の新展開と農業経営戦略 (119 河野恵伸 /1回) 第3回 マーケティング・リサーチの最前線 (183 高山太輔 /1回) 第4回 GI (地理的表示) の評価分析 (120 小山良太 /1回) 第5回 風評問題とこれからの産地づくり (118 荒井聡 /1回) 第6回 地域農業システムのイノベーション (184 林薫平 /1回) 第7回 地域資源活用の新展開</p>	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目	復興知と農業・食料のイノベーション	<p>「食」と「農」におけるイノベーションの特質と課題を示しつつ、受講者各自の専門的スキルも基づいて、復興と持続可能な社会の構築に求められるイノベーションを考究する。また東日本大震災・原子力災害で被災した地域の復旧・復興を超えて、福島のみならず明らかとなった「復興知」、ひいては日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (111 新田洋司、177 石井秀樹 /2回) (共同) 第1回(講義)：人類社会とイノベーション 第15回(演習)：復興知の確立とイノベーションの社会的実装 (119 河野恵伸 /1回) 第2回(講義)：農業技術と食料・農林水産業 (111 新田洋司 /2回) 第3回(講義)：食料生産と農林水産業 第9回(講義)：福島イノベーションコースト構想と復興知 (177 石井秀樹 /1回) 第4回(講義)：東日本大震災と原子力災害の被害の特質 (120 小山良太 /1回) 第5回(講義)：農水産物の風評問題の社会的構造と協同組合間連携 (117 原田茂樹 /1回) 第6回(講義)：放射線の計測と対策技術 (173 二瓶直登 /1回) 第7回(講義)：農作物への放射性物質の移行メカニズムと吸収抑制対策 (108 熊谷武久 /1回) 第8回(講義)：お米のブランド化と販売面 及び 機能性表示食品制度(農産物、加工食品) (117 原田茂樹、177 石井秀樹 /1回) 第10回(演習)：環境共生とイノベーション (108 熊谷武久、119 河野恵伸、177 石井秀樹 /1回) (共同) 第11回(演習)：福島と食品産業のデザイン (120 小山良太、177 石井秀樹 /1回) (共同) 第12回(演習)：福島と新しい地域社会・市民社会のデザイン (111 新田洋司、173 二瓶直登、177 石井秀樹 /1回) (共同) 第13回(演習)：福島と新しい農業のデザイン (111 新田洋司、177 石井秀樹、119 河野恵伸 /1回) (共同) 第14回(演習)：イノベーション思考とデザイン思考</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目	アグロエコロジー	<p>「アグロエコロジー」の定義と最新の議論について総括し、世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。あわせて農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみを、認証制度を活用して構築する方法について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (115 金子信博 /3回) 第1回 近代農法の問題点とアグロエコロジーの必要性 第9回 小規模・家族農業と保全農法 第11回 保全農法による農生態系の多様化 (118 荒井聡 /1回) 第2回 環境保全型農業の展開条件 (170 深山陽子 /1回) 第3回 気候変動と一次生産への影響 (113 大瀬健嗣/1回) 第4回 土壌劣化とその影響 (168 高橋秀和 /1回) 第5回 作物の遺伝資源の多様性 (116 神宮字寛 /1回) 第6回 生物多様性と農業・農村整備 (112 篠田徹郎 /1回) 第7回 生物多様性を活用した害虫管理 (173 二瓶直登 /1回) 第8回 栽培様式の違いによる土壌微生物の多様性 (169 渡邊芳倫 /2回) 第10回 保全農法における土壌管理 第12回 保全的水田農業の技術開発 (115 金子信博、169 渡邊芳倫/1回) 共同 第13回 アグロエコロジーにおける栽培技術【演習】 (115 金子信博、116 神宮字寛/1回) 共同 第14回 アグロエコロジーによる環境保全【演習】 (115 金子信博、118 荒井聡/1回) 共同 第15回 農業を基盤とする社会システムの転換【演習】</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		特別演習	言語文化特別演習 I	<p>言語文化分野において、主指導教員のもとで、大学院における研究の進め方について理解する。自らの問題意識、興味関心、さらには地域が抱える課題などを加味しながら、研究テーマおよび研究方法の設定、実験・調査の計画立案、データの収集・分析方法および問題点の抽出等について習得する。領域に関連する過去の研究テーマ、先行研究の調査等を行いながら、研究テーマを絞り込み、研究構想を具体化していく。</p> <p>(16 井實 充史) 古代日本文学の研究、古典教育について指導する。 (44 高橋 由貴) 日本近代文学、比較文学研究について指導する。 (21 半沢 康) 日本の方言研究について指導する。 (25 澁澤 尚) 漢文学・漢字文化、古代思想・神話について指導する。 (12 佐藤 佐敏) 国語科教育学・学習指導論について指導する。 (19 川田 潤) ユートピア思想研究について指導する。 (28 高田 英和) イギリス文学・文化研究について指導する。 (40 高橋 優) ドイツ・ロマン主義の文学と思想について指導する。 (17 朝賀 俊彦) 統語と意味の語彙的インターフェイスについて指導する。 (48 佐藤 元樹) 言語の構造と意味に関する研究について指導する。 (9 佐久間 康之) 英語の文字及び音声言語情報処理について指導する。 (47 高木 修一) 英語教育学について指導する。 (11 久我 和巳) 社会言語学について指導する。 (32 後藤 史子) 現代アメリカ文化について指導する。 (38 真歩仁 しょうん) 第二言語習得、英語教育、文学について指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別 演習	<p>地域文化特別演習 I</p> <p>地域文化分野において、主指導教員のもとで、大学院における研究の進め方について理解する。自らの問題意識、興味関心、さらには地域が抱える課題などを加味しながら、研究テーマおよび研究方法の設定、実験・調査の計画立案、データの収集・分析方法および問題点の抽出等について習得する。領域に関連する過去の研究テーマ、先行研究の調査等を行いながら、研究テーマを絞り込み、研究構想を具体化していく。</p> <p>(43 小松 賢司) 日本近世社会史について指導する。 (45 鍵和田 賢) 近世ドイツ宗教社会史について指導する。 (8 初澤 敏生) 地域文化構造の調査と分析について指導する。 (29 中村 洋介) 自然災害科学・防災教育について指導する。 (6 小野原 雅夫) カントの実践哲学体系に関する研究について指導する。 (4 牧田 実) コミュニティとまちづくりについて指導する。 (10 中村 恵子) 食品の調理や食育に関する研究について指導する。 (3 千葉 桂子) 衣服の機能性や衣生活文化に関する研究について指導する。 (23 角間 陽子) 家庭科の学習指導や評価に関する研究について指導する。</p>	
		<p>スポーツ・芸術文化特別演習 I</p> <p>スポーツ・芸術文化分野において、主指導教員のもとで、大学院における研究の進め方について理解する。自らの問題意識、興味関心、さらには地域が抱える課題などを加味しながら、研究テーマおよび研究方法の設定、実験・調査の計画立案、データの収集・分析方法および問題点の抽出等について習得する。領域に関連する過去の研究テーマ、先行研究の調査等を行いながら、研究テーマを絞り込み、研究構想を具体化していく。</p> <p>(37 杉浦 弘一) スポーツにおけるコンディショニングについて指導する。 (14 小川 宏) 子どもの体力向上と身体教育について指導する。 (24 安田 俊広) 身体活動が生体に与える影響について指導する。 (39 蓮沼 哲哉) スポーツ政策と地域活性化に関する研究について指導する。 (49 本嶋 良恵) スポーツ動作分析について指導する。 (50 松本 健太) よい体育授業の研究について指導する。 (34 竹田 隆一) 武道文化について指導する。 (1 新井 浩) 彫刻制作・彫刻教材の研究について指導する。 (18 今尾 滋) 声楽・オペラについて指導する。 (2 横島 浩) 現代音楽、古典音楽理論、作品研究について指導する。 (7 中畑 淳) 器楽領域で演奏法 演奏解釈 アンサンブルについて指導する。 (27 杉田 政夫) 音楽教育学について指導する。 (35 渡部 憲生) 図画工作科・美術科教育について指導する。 (22 渡邊 晃一) 絵画の制作学、芸術企画の研究について指導する。 (42 加藤 奈保子) 西洋美術史研究について指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別 演習 人間発達心理特別演習 I	<p>人間発達心理分野において、主指導教員のもとで、大学院における研究の進め方について理解する。自らの問題意識、興味関心、さらには地域が抱える課題などを加味しながら、研究テーマおよび研究方法の設定、実験・調査の計画立案、データの収集・分析方法および問題点の抽出等について習得する。領域に関連する過去の研究テーマ、先行研究の調査等を行いながら、研究テーマを絞り込み、研究構想を具体化していく。</p> <p>(36 市川 英雄) 集団による問題解決と創造性について指導する。 (20 住吉 チカ) 統合失調症における認知機能障害について指導する。 (26 高谷 理恵子) ヒトの初期運動発達におけるU字型現象について指導する。 (123 高橋 純一) 障害理解に関する研究について指導する。 (46 保木井 啓史) 子どもと保育者の相互作用について指導する。 (30 齋藤 美智子) 保護者支援・保育内容に関する研究について指導する。 (13 原野 明子) 幼児の仲間関係に関する研究について指導する。 (33 生島 浩) 非行・犯罪臨床学、家族臨床学について指導する。 (5 青木 真理) 臨床心理学、教育臨床学について指導する。 (41 岸 竜馬) 臨床心理学、精神分析学について指導する。 (31 安部 郁子) 臨床心理学、被虐待児童等の支援について指導する。 (15 筒井 雄二) 実験心理学について指導する。 (122 木暮 照正) 認知心理学・成人教育について指導する。</p>	
	言語文化特別演習 II	<p>言語文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習 I」を経て決定した修了研究を展開する。近年までに得られた知見や研究・分析手法について理解し、研究動向をつかみ、自らの研究に関わる詳細な専門知識と技術を習得し、研究を進めていく。また、中間発表報告会等での発表により、知見のまとめ方や発表の技術を身に付ける。設定した修了研究のテーマおよび研究方法について吟味し問題点を点検するとともに、新たな研究の視点を検討する。</p> <p>(16 井貫 充史) 古代日本文学の研究、古典教育について指導する。 (44 高橋 由貴) 日本近代文学、比較文学研究について指導する。 (21 半沢 康) 日本の方言研究について指導する。 (25 澁澤 尚) 漢文学・漢字文化、古代思想・神話について指導する。 (12 佐藤 佐敏) 国語科教育学・学習指導論について指導する。 (19 川田 潤) ユートピア思想研究について指導する。 (28 高田 英和) イギリス文学・文化研究について指導する。 (40 高橋 優) ドイツ・ロマン主義の文学と思想について指導する。 (17 朝賀 俊彦) 統語と意味の語彙的インターフェイスについて指導する。 (48 佐藤 元樹) 言語の構造と意味に関する研究について指導する。 (9 佐久間 康之) 英語の文字及び音声言語情報処理について指導する。 (47 高木 修一) 英語教育学について指導する。 (11 久我 和巳) 社会言語学について指導する。 (32 後藤 史子) 現代アメリカ文化について指導する。 (38 真歩仁 しょうん) 第二言語習得、英語教育、文学について指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別演習	地域文化特別演習Ⅱ	<p>地域文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習Ⅰ」を経て決定した修了研究を展開する。近年までに得られた知見や研究・分析手法について理解し、研究動向をつかみ、自らの研究に関わる詳細な専門知識と技術を習得し、研究を進めていく。また、中間発表報告会等での発表により、知見のまとめ方や発表の技術を身に付ける。設定した修了研究のテーマおよび研究方法について吟味し問題点を点検するとともに、新たな研究の視点を検討する。</p> <p>(43 小松 賢司) 日本近世社会史について指導する。 (45 鍵和田 賢) 近世ドイツ宗教社会史について指導する。 (8 初澤 敏生) 地域文化構造の調査と分析について指導する。 (29 中村 洋介) 自然災害科学・防災教育について指導する。 (6 小野原 雅夫) カントの実践哲学体系に関する研究について指導する。 (4 牧田 実) コミュニティとまちづくりについて指導する。 (10 中村 恵子) 食品の調理や食育に関する研究について指導する。 (3 千葉 桂子) 衣服の機能性や衣生活文化に関する研究について指導する。 (23 角間 陽子) 家庭科の学習指導や評価に関する研究について指導する。</p>	
		スポーツ・芸術文化特別演習Ⅱ	<p>スポーツ・芸術文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習Ⅰ」を経て決定した修了研究を展開する。近年までに得られた知見や研究・分析手法について理解し、研究動向をつかみ、自らの研究に関わる詳細な専門知識と技術を習得し、研究を進めていく。また、中間発表報告会等での発表により、知見のまとめ方や発表の技術を身に付ける。設定した修了研究のテーマおよび研究方法について吟味し問題点を点検するとともに、新たな研究の視点を検討する。</p> <p>(37 杉浦 弘一) スポーツにおけるコンディショニングについて指導する。 (14 小川 宏) 子どもの体力向上と身体教育について指導する。 (24 安田 俊広) 身体活動が生体に与える影響について指導する。 (39 蓮沼 哲哉) スポーツ政策と地域活性化に関する研究について指導する。 (49 本嶋 良恵) スポーツ動作分析について指導する。 (50 松本 健太) よい体育授業の研究について指導する。 (34 竹田 隆一) 武道文化について指導する。 (1 新井 浩) 彫刻制作・彫刻教材の研究について指導する。 (18 今尾 滋) 声楽・オペラについて指導する。 (2 横島 浩) 現代音楽、古典音楽理論、作品研究について指導する。 (7 中畑 淳) 器楽領域で演奏法 演奏解釈 アンサンブルについて指導する。 (27 杉田 政夫) 音楽教育学について指導する。 (35 渡部 憲生) 図画工作科・美術科教育について指導する。 (22 渡邊 晃一) 絵画の制作学、芸術企画の研究について指導する。 (42 加藤 奈保子) 西洋美術史研究について指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別演習	人間発達心理特別演習 II	人間発達心理分野において、主指導教員のもとで、「特別演習 I」を経て決定した修了研究を展開する。近年までに得られた知見や研究・分析手法について理解し、研究動向をつかみ、自らの研究に関わる詳細な専門知識と技術を習得し、研究を進めていく。また、中間発表報告会等での発表により、知見のまとめ方や発表の技術を身に付ける。設定した修了研究のテーマおよび研究方法について吟味し問題点を点検するとともに、新たな研究の視点を検討する。 (36 市川 英雄) 集団による問題解決と創造性について指導する。 (20 住吉 チカ) 統合失調症における認知機能障害について指導する。 (26 高谷 理恵子) ヒトの初期運動発達におけるU字型現象について指導する。 (123 高橋 純一) 障害理解に関する研究について指導する。 (46 保木井 啓史) 子どもと保育者の相互作用について指導する。 (30 齋藤 美智子) 保護者支援・保育内容に関する研究について指導する。 (13 原野 明子) 幼児の仲間関係に関する研究について指導する。 (33 生島 浩) 非行・犯罪臨床学、家族臨床学について指導する。 (5 青木 真理) 臨床心理学、教育臨床学について指導する。 (41 岸 竜馬) 臨床心理学、精神分析学について指導する。 (31 安部 郁子) 臨床心理学、被虐待児童等の支援について指導する。 (15 筒井 雄二) 実験心理学について指導する。 (122 木暮 照正) 認知心理学・成人教育について指導する。	
	特別研究	言語文化特別研究 I	言語文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習 II」で展開した修了研究を深化・発展させる。自らの研究について、実験・分析を進め、データの収集・分析と問題点の抽出等を行う。また、研究の完成に向けた課題を明確にするとともに、研究計画の進捗状況を確認し、他教員のアドバイスを得ながら必要に応じて計画の見直しを図る。関連する基礎的内容および異なる分野や研究にも視野を広げ、修了研究を俯瞰的視点から点検し修正を加えていく。 (16 井實 充史) 古代日本文学の研究、古典教育について指導する。 (44 高橋 由貴) 日本近代文学、比較文学研究について指導する。 (21 半沢 康) 日本の方言研究について指導する。 (25 澁澤 尚) 漢文学・漢字文化、古代思想・神話について指導する。 (12 佐藤 佐敏) 国語科教育学・学習指導論について指導する。 (19 川田 潤) ユートピア思想研究について指導する。 (28 高田 英和) イギリス文学・文化研究について指導する。 (40 高橋 優) ドイツ・ロマン主義の文学と思想について指導する。 (17 朝賀 俊彦) 統語と意味の語彙的インターフェイスについて指導する。 (48 佐藤 元樹) 言語の構造と意味に関する研究について指導する。 (9 佐久間 康之) 英語の文字及び音声言語情報処理について指導する。 (47 高木 修一) 英語教育学について指導する。 (11 久我 和巳) 社会言語学について指導する。 (32 後藤 史子) 現代アメリカ文化について指導する。 (38 真歩仁 しょうん) 第二言語習得、英語教育、文学について指導する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	地域文化特別研究 I	<p>地域文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習Ⅱ」で展開した修了研究を深化・発展させる。自らの研究について、実験・分析を進め、データの収集・分析と問題点の抽出等を行う。また、研究の完成に向けた課題を明確にするとともに、研究計画の進捗状況を確認し、他教員のアドバイスを得ながら必要に応じて計画の見直しを図る。関連する基礎的内容および異なる分野や研究にも視野を広げ、修了研究を俯瞰的視点から点検し修正を加えていく。</p> <p>(43 小松 賢司) 日本近世社会史について指導する。 (45 鍵和田 賢) 近世ドイツ宗教社会史について指導する。 (8 初澤 敏生) 地域文化構造の調査と分析について指導する。 (29 中村 洋介) 自然災害科学・防災教育について指導する。 (6 小野原 雅夫) カントの実践哲学体系に関する研究について指導する。 (4 牧田 実) コミュニティとまちづくりについて指導する。 (10 中村 恵子) 食品の調理や食育に関する研究について指導する。 (3 千葉 桂子) 衣服の機能性や衣生活文化に関する研究について指導する。 (23 角間 陽子) 家庭科の学習指導や評価に関する研究について指導する。</p>	
	スポーツ・芸術文化特別研究 I	<p>スポーツ・芸術文化分野において、主指導教員のもとで、「特別演習Ⅱ」で展開した修了研究を深化・発展させる。自らの研究について、実験・分析を進め、データの収集・分析と問題点の抽出等を行う。また、研究の完成に向けた課題を明確にするとともに、研究計画の進捗状況を確認し、他教員のアドバイスを得ながら必要に応じて計画の見直しを図る。関連する基礎的内容および異なる分野や研究にも視野を広げ、修了研究を俯瞰的視点から点検し修正を加えていく。</p> <p>(37 杉浦 弘一) スポーツにおけるコンディショニングについて指導する。 (14 小川 宏) 子どもの体力向上と身体教育について指導する。 (24 安田 俊広) 身体活動が生体に与える影響について指導する。 (39 蓮沼 哲哉) スポーツ政策と地域活性化に関する研究について指導する。 (49 本嶋 良恵) スポーツ動作分析について指導する。 (50 松本 健太) よい体育授業の研究について指導する。 (34 竹田 隆一) 武道文化について指導する。 (1 新井 浩) 彫刻制作・彫刻教材の研究について指導する。 (18 今尾 滋) 声楽・オペラについて指導する。 (2 横島 浩) 現代音楽、古典音楽理論、作品研究について指導する。 (7 中畑 淳) 器楽領域で演奏法 演奏解釈 アンサンブルについて指導する。 (27 杉田 政夫) 音楽教育学について指導する。 (35 渡部 憲生) 図画工作科・美術科教育について指導する。 (22 渡邊 晃一) 絵画の制作学、芸術企画の研究について指導する。 (42 加藤 奈保子) 西洋美術史研究について指導する。</p>		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別 研究	<p>人間発達心理特別研究 I</p> <p>人間発達心理分野において、主指導教員のもとで、「特別演習Ⅱ」で展開した修了研究を深化・発展させる。自らの研究について、実験・分析を進め、データの収集・分析と問題点の抽出等を行う。また、研究の完成に向けた課題を明確にするとともに、研究計画の進捗状況を確認し、他教員のアドバイスを得ながら必要に応じて計画の見直しを図る。関連する基礎的内容および異なる分野や研究にも視野を広げ、修了研究を俯瞰的視点から点検し修正を加えていく。 (36 市川 英雄) 集団による問題解決と創造性について指導する。 (20 住吉 チカ) 統合失調症における認知機能障害について指導する。 (26 高谷 理恵子) ヒトの初期運動発達におけるU字型現象について指導する。 (123 高橋 純一) 障害理解に関する研究について指導する。 (46 保木井 啓史) 子どもと保育者の相互作用について指導する。 (30 齋藤 美智子) 保護者支援・保育内容に関する研究について指導する。 (13 原野 明子) 幼児の仲間関係に関する研究について指導する。 (33 生島 浩) 非行・犯罪臨床学、家族臨床学について指導する。 (5 青木 真理) 臨床心理学、教育臨床学について指導する。 (41 岸 竜馬) 臨床心理学、精神分析学について指導する。 (31 安部 郁子) 臨床心理学、被虐待児童等の支援について指導する。 (15 筒井 雄二) 実験心理学について指導する。 (122 木暮 照正) 認知心理学・成人教育について指導する。</p>	
		<p>言語文化特別研究Ⅱ</p> <p>言語文化分野において、主指導教員のもとで、「特別研究Ⅰ」で深化・発展させた修了研究をまとめる。知見のまとめ方について学修し、実験・調査結果の分析、論文執筆を行う。また、プレゼンテーション技術を習得し、研究成果を分かりやすくまとめて、「修了研究審査会」で発表する。発表会修了後は研究成果をどのように今後の実践に活かしていくかについてディスカッションし、高度専門職業人としての自覚を得る。 (16 井實 充史) 古代日本文学の研究、古典教育について指導する。 (44 高橋 由貴) 日本近代文学、比較文学研究について指導する。 (21 半沢 康) 日本の方言研究について指導する。 (25 澁澤 尚) 漢文学・漢字文化、古代思想・神話について指導する。 (12 佐藤 佐敏) 国語科教育学・学習指導論について指導する。 (19 川田 潤) ユートピア思想研究について指導する。 (28 高田 英和) イギリス文学・文化研究について指導する。 (40 高橋 優) ドイツ・ロマン主義の文学と思想について指導する。 (17 朝賀 俊彦) 統語と意味の語彙的インターフェイスについて指導する。 (48 佐藤 元樹) 言語の構造と意味に関する研究について指導する。 (9 佐久間 康之) 英語の文字及び音声言語情報処理について指導する。 (47 高木 修一) 英語教育学について指導する。 (11 久我 和巳) 社会言語学について指導する。 (32 後藤 史子) 現代アメリカ文化について指導する。 (38 真歩仁 しょうん) 第二言語習得、英語教育、文学について指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	地域文化特別研究Ⅱ	<p>地域文化分野において、主指導教員のもとで、「特別研究Ⅰ」で深化・発展させた修了研究をまとめる。知見のまとめ方について学修し、実験・調査結果の分析、論文執筆を行う。また、プレゼンテーション技術を習得し、研究成果を分かりやすくまとめて、「修了研究審査会」で発表する。発表会修了後は研究成果をどのように今後の実践に活かしていくかについてディスカッションし、高度専門職業人としての自覚を得る。</p> <p>(43 小松 賢司) 日本近世社会史について指導する。 (45 鍵和田 賢) 近世ドイツ宗教社会史について指導する。 (8 初澤 敏生) 地域文化構造の調査と分析について指導する。 (29 中村 洋介) 自然災害科学・防災教育について指導する。 (6 小野原 雅夫) カントの実践哲学体系に関する研究について指導する。 (4 牧田 実) コミュニティとまちづくりについて指導する。 (10 中村 恵子) 食品の調理や食育に関する研究について指導する。 (3 千葉 桂子) 衣服の機能性や衣生活文化に関する研究について指導する。 (23 角間 陽子) 家庭科の学習指導や評価に関する研究について指導する。</p>	
	スポーツ・芸術文化特別研究Ⅱ	<p>スポーツ・芸術文化分野において、主指導教員のもとで、「特別研究Ⅰ」で深化・発展させた修了研究をまとめる。知見のまとめ方について学修し、実験・調査結果の分析、論文執筆を行う。また、プレゼンテーション技術を習得し、研究成果を分かりやすくまとめて、「修了研究審査会」で発表する。発表会修了後は研究成果をどのように今後の実践に活かしていくかについてディスカッションし、高度専門職業人としての自覚を得る。</p> <p>(37 杉浦 弘一) スポーツにおけるコンディショニングについて指導する。 (14 小川 宏) 子どもの体力向上と身体教育について指導する。 (24 安田 俊広) 身体活動が生体に与える影響について指導する。 (39 蓮沼 哲哉) スポーツ政策と地域活性化に関する研究について指導する。 (49 本嶋 良恵) スポーツ動作分析について指導する。 (50 松本 健太) よい体育授業の研究について指導する。 (34 竹田 隆一) 武道文化について指導する。 (1 新井 浩) 彫刻制作・彫刻教材の研究について指導する。 (18 今尾 滋) 声楽・オペラについて指導する。 (2 横島 浩) 現代音楽、古典音楽理論、作品研究について指導する。 (7 中畑 淳) 器楽領域で演奏法 演奏解釈 アンサンブルについて指導する。 (27 杉田 政夫) 音楽教育学について指導する。 (35 渡部 憲生) 図画工作科・美術科教育について指導する。 (22 渡邊 晃一) 絵画の制作学、芸術企画の研究について指導する。 (42 加藤 奈保子) 西洋美術史研究について指導する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	人間発達心理特別研究Ⅱ	<p>人間発達心理分野において、主指導教員のもとで、「特別研究Ⅰ」で深化・発展させた修了研究をまとめる。知見のまとめ方について学修し、実験・調査結果の分析、論文執筆を行う。また、プレゼンテーション技術を習得し、研究成果を分かりやすくまとめて、「修了研究審査会」で発表する。発表会修了後は研究成果をどのように今後の実践に活かしていくかについてディスカッションし、高度専門職業人としての自覚を得る。</p> <p>(36 市川 英雄) 集団による問題解決と創造性について指導する。 (20 住吉 チカ) 統合失調症における認知機能障害について指導する。 (26 高谷 理恵子) ヒトの初期運動発達におけるU字型現象について指導する。 (123 高橋 純一) 障害理解に関する研究について指導する。 (46 保木井 啓史) 子どもと保育者の相互作用について指導する。 (30 齋藤 美智子) 保護者支援・保育内容に関する研究について指導する。 (13 原野 明子) 幼児の仲間関係に関する研究について指導する。 (33 生島 浩) 非行・犯罪臨床学、家族臨床学について指導する。 (5 青木 真理) 臨床心理学、教育臨床学について指導する。 (41 岸 竜馬) 臨床心理学、精神分析学について指導する。 (31 安部 郁子) 臨床心理学、被虐待児童等の支援について指導する。 (15 筒井 雄二) 実験心理学について指導する。 (122 木暮 照正) 認知心理学・成人教育について指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 基盤 科目	イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを目指す。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取り組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取り組みに繋げていくことを目的としている。	
専攻 基盤 科目	地域政策科学入門	地域政策科学入門は、地域政策科学専攻で研究を進めていくうえでの「導入科目」として位置づけられる。具体的には情報・文献検索の方法や、論文作成の基礎的リテラシー、研究のさまざまな方法について学び、修士課程における研究の基礎を上げることが目的とする。またこれらの学習を通して、地域社会、地域文化、地域政策についての理解を深めることを目指す。	
専門 科目	イノベーション・コア	震災復興、地域・産業再生等いまだ多くの課題を抱えた福島県において、これらの課題を主体的に解決していくイノベーション人材が求められている。本講では人材要件として必要不可欠となる多様な価値観の受容、主体性と高度な調整力といった変革のためのリーダーシップを醸成し、新たに修得するイノベーション及び専門知識を活用して、複雑な社会環境・組織の中で変革を主導するリーダー人材の育成を目指す。	
	プロジェクト研究 I	本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で行う。(1) 現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。(2) 現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。(3) 得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の順序で学修する。 Iでは、履修者が自らの分野や専門領域に基づいて異なる専門分野領域からなるグループを組織し、地域を選定する。そして、情報収集と分析を通して解決すべき具体的な課題を抽出する。ついで、課題解決のための実施計画・研究計画を検討し、立案する。そして、課題解決のための提案資料の整理や研究・調査に基づく現状分析結果の発表資料の準備、プレゼンテーションの演習を行う。結果や成果を地域を対象とした報告会で明らかにし、報告書にまとめるとともに、II以降の調査・研究活動に反映させる。	
	プロジェクト研究 II	本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で行う。(1) 現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。(2) 現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。(3) 得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の順序で学修する。 IIでは、研究・調査対象やフィールドを訪問し、現況を確認し、意見を聴取しながら課題解決に向けた調査・研究等を実施する。学生それぞれの専門分野ごとに課題を整理し、調査・研究等を実施して、得られた結果を分析する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	プロジェクト研究Ⅲ	<p>本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の順序で学修する。</p> <p>IIIでは、IIまでで得られた調査・研究結果をもとに、課題解決に資する結果となり得るかを検証し、技術的課題や地域的課題を明らかにする。また、得られた結果の地域・社会実装手法を検討し点検して結果に反映させる。さらには、専門の立場から課題を再整理・再調査する。そして、イノベティブな成果を地域・社会実装するためのシミュレーション等によって検証する。最後に、現地やフィールド関係者等に成果を発表し、意見交換し、さらなる課題等を明らかにする。</p>	
自専攻科目	特殊研究Ⅰ	特殊研究Ⅰ・Ⅱは、地域政策科学専攻の共通科目として位置づけられる。地域社会の諸課題に取り組み、自治やコミュニティのあり方を再デザインするためには、課題の解決方途を具体的に研究することも必要である。そこで特殊研究Ⅰでは、講義科目を担当する教員が、各々学修を進める中で学生が具体的に知覚する、行政や法制度、社会・文化等の課題を研究対象とし、特殊なテーマに絞った学びを展開する。	
	特殊研究Ⅱ	特殊研究Ⅰ・Ⅱは、地域政策科学専攻の共通科目として位置づけられる。地域社会の諸課題に取り組み、自治やコミュニティのあり方を再デザインするためには、課題の解決方途を具体的に研究することも必要である。特殊研究Ⅱでは、特殊研究Ⅰで扱われた研究対象を通じた学びによって得た知識・技法で、行政や法制度、社会・文化等の諸課題の解決方途をさらに深く学修することを目的とする。	
法・政策コース科目	憲法Ⅰ	憲法にかかわる諸問題を理論的に考察する。国家・市民社会の近代的二分法に加え、公共圏の観点も取り込みつつ、近代のRecht概念と国制をめぐる原理的な探究を行う。とりわけ、国制論としての憲法学から、政治哲学的な人権論へと変遷した現代の憲法学における法学的国家論の不在を自覚的に問い直すことにより、統治機構論の照射としての人権論の深い理解へも繋がるような作業を進めたい。	隔年
	憲法特論Ⅰ	憲法の原理的な探究を行う。①哲学・思想・政治学・社会学・歴史学・民俗学・文化人類学等々の隣接諸科学の知見を踏まえながら、法の支配と立憲主義の本質を解明する。②①のバースペクティブに基づいて、主要国の憲法・憲法学を比較検討する。1946年日本国憲法を検討する際には、「全世界の国民の平和的生存権」理念をその特質として重点的に考察することになる。以上により、人類史における日本国憲法の位置づけと体系的な再構成を行いたい。	隔年
	憲法Ⅱ	憲法改正をめぐる諸問題について理論的に検討する。具体的には、①憲法改正の法的性格（憲法制定権と憲法改正権の関係など）、②憲法改正限界論と日本国憲法生誕の法理（八月革命説、制憲議会説、追認説など）、③憲法改正手続規定の改正が理論上問題を含むか否か、④諸外国の立憲主義的憲法の改正手続と比較した際の日本国憲法の改正手続の特徴、⑤いわゆる憲法改正国民投票法にかんする具体的な法的問題、⑥憲法改正の違憲審査の可能性、の順に取り扱う。	隔年
	憲法特論Ⅱ	境界線を引くという行為は、法というもののあり方に深く関わっている。法は、管轄内／管轄外、適法／違法、など、無数の線を引く。このことによって、実際のところ法、多くの問題を対象外として必然的に排除することになる。本研究は、内部／外部、われわれ／彼ら、日常／非日常、正義／邪悪などの境界線を引いて事態を管理しようとする企てに着目することを通じて、法現象の特質を逆照射するとともに、境界線の存在を意識しそれを相対化する視座を獲得することを目的とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 法・政策コース科目	刑事法学	刑法、刑事訴訟法、少年法、更生保護法、心神喪失者等医療観察法、再犯防止推進法、犯罪被害者基本法など、刑事法の解釈や刑事政策にかかわる分野について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。特に近年、刑事司法・刑事政策の各分野において、福祉、心理、教育等の多様な分野との連携・協働の重要性が指摘されていることにかんがみ、刑事法の体系的な知識の習得を基礎としつつ、狭義の「法解釈」にとどまらない多角的な視座の涵養を意図している。	隔年
	司法福祉政策	刑事法・刑事政策にかかわる諸分野のうち、特に「司法と福祉の連携」が重要となる問題について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。具体的には、高齢出所者等の地域生活支援、少年非行や児童虐待における児童福祉と司法の連携、出所者や触法精神障害者の居住・就労支援、犯罪被害者・遺族や加害者家族の生活支援などがある。当該分野に関する法・制度の体系的な知識を習得しつつ、「制度の狭間」を架橋する法・制度・実践について考察することを意図している。	隔年
	地方自治法Ⅰ	我が国の地方自治制度の根幹をなす「地方自治法」について、主に「住民自治」の領域と「団体自治」の領域に分けてそれぞれについて主要な論点の検討を行う。すなわち、「住民自治」の領域にあつては、住民と自治体との関係が、国家と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、住民の概念・権利・義務、直接請求、住民監査請求・住民訴訟、自治体の執行機関と議会の関係などを扱う。「団体自治」の領域にあつては、自治体と国（市町村と都道府県）の関係が、行政一般と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、自治体の処理する事務の区分、自治体に対する国の関与、自治体と国の間の紛争処理の仕組み、自治体間連携、自治立法権などを扱う。	隔年
	地方自治法Ⅱ	「地方自治法Ⅰ」で、身につけた地方自治制度に関する基礎知識を踏まえて、この授業では、自治体政策法務の諸問題についての検討を行う。具体的には全国の自治体において制定されている「政策条例」を素材に、いかなる条例を制定するか（規制上乗せ条例を選択するか、規制別目的条例を選択するか）、条例の実効性確保の手段（刑事罰、過料、氏名公表のいずれを採用するか）、あるいは条例ではなく行政内規たる要綱に基づく行政手法を用いるか、といった問題について実現すべき政策の性質、自治体の種類（都道府県か市町村か）なども勘案しながら考察する。	隔年
	国際法Ⅰ	現在、国際社会では、グローバルな諸課題や国際的な摩擦が増大し、様々な分野において第二次世界大戦後に構築されてきた秩序、協力関係のあり方が改めて試されている。国際法は、国際紛争の防止・解決、および国際社会における共通の利益に資することが期待されている。この授業では、国際法の主体（国家、国際組織、個人）、法源論、国家責任、国際紛争解決など、基本的論点を踏まえた上で、法の形成、適用、執行の各場面で、国際法が国際社会で現に果たしている役割と特徴およびその変化の過程を分析する。	隔年
	国際法Ⅱ	国境で囲われ自律的存在である国家と国家の間を規律し、国家の共存を保障する役割を担ってきた国際法が、国境に関わりなく展開する諸活動や課題に対応する必要性は増大し続けている。グローバルな諸課題に関し、現在のところ国家の役割は低下することなく変化を余儀なくされ、また国際組織の数も役割も増大している。河川、海、空、宇宙などの空間やそこに存在する資源の利用、環境、経済、犯罪、武力紛争等に関わる分野で、国家と国際組織が織りなす協力関係が、具体的課題に直面してどのように機能しているか、その現実と限界、および新たな対応策を検討する。	隔年
	行政法Ⅰ	政策と法との関係について、具体的には、法律によって規定された政策を実際にどのように実現していくのかという問題について考えていく。その手掛かりとしては、法律の逐条解説を座右に置きながら、各種個別法を細かく読み、各回毎に章や節を単位として解釈・検討していくこととする。ある条文で法規命令への委任の文言が置かれていて、何か法規命令が制定されているときには、それと元の条文とを照らし合わせて検討する。ある条文の解釈や運用について行政が指針を作成しているときにはこれも条文と比較対象し検討する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 法・政策コース科目	行政法Ⅱ	行政活動と行政裁判権との関係という問題について考えていく。手始めに行政側が新規に立案した政策・条例について、裁判所が違法・無効と判断した事例を複数比較検討する。訴訟提起した原告を含め、裁判所に立ち現れてきた諸アクターの利益状況や、アクター間・行政主体間・行政・諸アクター間の利害関係についても事案に基づいた分析を加える。続いて、裁判所における行政裁量の尊重ないしは行政裁量の限界という問題の考究へと進んでいく。	隔年
	民法特論Ⅰ	本講では、民法のうち、財産法(契約法・不法行為法・物権法)および家族法(親族法・相続法)の発展的な内容を検討する。現在議論されている改正債権法、家族法の改正等について、立法論・解釈論の動向などに関する諸文献を購読し、これからの民法像を探究していく。公法・私法の協働が議論されて久しいが、民法のみならず、民事の特別法・公法等、他の諸法律についても、対象とする。	隔年
	民法特論Ⅱ	本講では、民法上の具体的なテーマ、例えば、取引・家族関係等の諸問題について、実定法学のみならず、法理学(法学方法論)・法社会学等の基礎法学、あるいは、社会学的な知見・手法も交えて、考察していく。それにより、教養としてのみならず、生ける法へアプローチするための法的思考を獲得することを目的とする。民事法学の多様性を知ってもらうよう努めたい。	隔年
	消費者法	現代社会では、事業者と消費者との取引が社会取引における地位を増しており、それに伴って消費者法の重要性も増している。この領域で問題とされる内容には、消費社会が活発化する中で絶えず指摘される事柄に加え、新たなサービスの誕生とともに認識されるものがあり、また、中には地域特有の問題も存在する。そうした中での本講の目的は、一般的に消費者法として取り上げられる諸問題を概観し、立法によって行われた対応や、その後の社会に影響を与えた裁判例などの学びを通して、あるべき消費社会とは何かを探究することである。	隔年
	財産法特論	財産法分野には、一般法である民法のほか、社会的要請に基づくさまざまな特別法が存在し、たとえば土地や家屋をめぐる現代的課題(所有権の在り方や賃貸借など)や、新たに活用範囲を広げる電子商取引に起因する課題などがある。そこで本講は、「法」が種々の現代的課題に対してどのように関与しているかを概観することで、原理的な理論のみならず、裁判例や学説に現れる新たな理論を知り、「法」の持つ普遍的価値観と柔軟性とを考究することを目的とする。	隔年
	法社会学Ⅰ	現代国家は、その政策目標を達成するために、さまざまな社会領域に介入し、法の支配は拡大の一途を辿っている。しかし、その一方で、家庭、学校、職場、地域社会などのいわゆる部分社会にも、国家法とは異なる独自の論理と構造をもった「法」が存在し、「生ける法」として、われわれの実際の行動を規制している。本講では、社会に存在する各種の「法」を経験科学的な手法を通して把握し、国家法とのかかわりの中で、その生成・発展・消滅のプロセスとメカニズムを探究していく。	隔年
	法社会学Ⅱ	法社会学は、社会現象の一つである法が、現代社会の中でどのような形で存在し、他の諸要因と絡み合って作用しているかを経験科学的方法で考察・分析することによって、『法とは何か』という課題に実証的に迫る学問である。本講では、量的調査、参与観察、フィールドワークなど、法社会学の経験科学的手法の基礎と理論を学ぶとともに、実際のテーマに合わせた応用と実践を探究していく。	隔年
	民事手続法	民法・会社法などの民事実体法によって定められた具体的権利を実現するための民事手続諸法(民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法、民事再生法、会社更生法、ADR基本法など)の日本における近年の立法・改正・判例などを基本題材とする。そのうえ、母法たるドイツ民事訴訟法(ZPO)および姉妹法たる韓国民事節次法などとの比較法・基礎的研究を行う。さらに、法圏を同じくする上記三カ国の次世代裁判制度(電子訴訟、映像裁判、仮想裁判、AI裁判)の構築などについて、有機的な連携を考察する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 法・政策コース科目	民事救済法	実体法上の権利の観念的実現過程である判決手続に引き続き、債権者の確定された実体法上の権利の内容（金銭支払、物の引渡し、作為・不作為等の請求権）を強制的に実現することを目的とする強制執行、その強制執行に着手するまで相手方の財産の現状等を保全しておくことを目的とする民事保全（仮差押え・仮処分）、さらに抵当権等担保権の実行手続としての競売等、これらの民事執行及び民事保全手続の全般を学修する。	隔年
	商法Ⅰ	本講では、会社法の法理論上の基本問題を研究する。現代社会では、あらゆる分野の法人による組織活動において、株式会社が利用されるようになった。従って、法人法を学ぶに当たっては、会社法の知識が基礎になる。商法Ⅰでは、そのような意味で、現代経済社会に必須の知識である会社法の基礎理論を扱う。会社法は現代化以来、その運用実績を重ねてきたが、様々な課題も明らかになってきた。そこで、現実の経済との関係を重視しながら、株式会社の組織や運用だけではなく、あり方や可能性を見直すことを目指したい。	隔年
	商法Ⅱ	本講では、保険契約の法理論上の基本問題を研究する。保険制度は、地域の福祉や各種の被害者の救済という面などで、あるいは補完的にあるいは主体的に重要な役割を果たしている。特に巨大災害が頻発し、社会問題化している現代は、まさに保険の時代ともいえ、保険に対する消費者のニーズは、形を変えて高まっている。そして、このような事態に対して保険者は、様々な保険商品を開発・販売しているが、その約款は消費者との間に紛争を生じることが少なくない。将来不安の現代において、保険契約の構造を理解し整理することは重要と考える。	隔年
	労働法・社会保障法Ⅰ	労働関係法令の対象となる「労働者」の範囲について検討する。労働基準法は、指揮命令を受けながら働き、働いたことの対価として報酬を得る者を「労働者」として定義し（9条）、この定義に当てはまる者には労働基準法をはじめとする各種の労働者保護法の適用を認める。一方、この定義に当てはまらない場合は、原則として労働法的な保護を受けられない。社会保障もこの労働者性概念（雇用概念）に依拠する制度が多い（雇用保険、労災保険等）。しかし、働き方の多様化のなかで、必ずしもこの定義に当てはまらない働き方が増えており、「雇用類似の働き方」をいかに保護するかが注目を集めている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、「労働法とは何か」、「労働者とは誰か」、「労働法による保護はどうあるべきか」を検討する。	隔年
	労働法・社会保障法Ⅱ	労働法・社会保障法にかかわる諸問題のなかでも、雇用差別禁止法について検討する。日本的雇用慣行が変容し、女性や高齢者、障害者などのこれまで周辺的な労働力と考えられていた人達が労働力として中心的な役割を果たすようになってきた今日において、性、年齢又は障害などを理由とする雇用差別を規制する必要性が高まっている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、雇用差別禁止法についてその規制の在り方を検討する。	隔年
	地方行政	地方行政は、洋の東西を問わず、集権的統一国家が全国を有効に支配するために形作られてきた。したがって、地方行政ができあがっていく過程は、そのまま統一国家が集権化を達成していく過程でもあった。この講義では、明治期の日本を対象に、戸籍や徴税、さらには学校の設置などを題材として、その過程を検証したいと考えている。封建的な家制度などといわれるが、戸籍の導入により家制度は大きく変化しているし、税財政改革によって従来の貢租負担のあり方も変化した。それらはいずれも、目標とする統一国家像との関係で成立した仕組みであり、そこに日本の制度の特徴を読み取ることもできるだろう。	隔年
	地方制度	この講義では、地方行政の分野でもとくに、地方統治のための機構を中心に扱う。都道府県や郡、そして市町村といった機構が、どのように区分けされ、そこにどのように権限配分されているか、財政的裏付けがどうなっているかなどについて、歴史的に検証したい。その結果、地方制度も安定的・不変のものではなく、時代によって作り変えられている様子がわかる。そして、その変遷を見れば、逆に時代的要請がどのように変化してきたのかもまた明らかになる。地方制度を通して社会の変遷をたどるといえるのがこの講義の狙いでもある。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 法・政策コース科目	行政学Ⅰ	本講では、行政活動に関する実証研究における主要な理論と研究方法について学び、今日の行政活動を分析するためのアプローチを検討する。とくに、中央-地方関係、自治体間関係、自治体-住民間関係といった観点を踏まえ、行政活動の範囲や自治の様相を読み解き、制度・政策およびそれらの運用実態の諸問題と課題について検討を行う。	隔年
	行政学Ⅱ	本講では、行政活動に関する諸問題のなかでも、災害と行政に関する検討を行う。災害時行政の諸問題をレビューしたうえで、平時と非常時の行政には連続性がみられるという観点から、それがどのような連続性であるのかを分析する視点を学ぶ。行政および行政学についての基礎知識がある程度備わっていることを前提に、短期的、中長期的な災害対応の向上に資する方策を検討する。	隔年
	比較政治Ⅰ	世界各地での民主化へのうねり、日本など先進各国での「政治改革」の試み、福祉国家の再編や労働政治の変容、新しい社会運動の登場など、現代政治のカレントなテーマは、「政治変動」という視点から分析する手法が有効である。本講では、前半に「政治変動」に関する諸理論の綿密な検討を行った後、受講者が抱えるテーマにこうした理論を適用することで、実証分析の先鋭化と既存理論の精緻化を同時に試みることにする。	隔年
	比較政治Ⅱ	本講では、先進産業社会が抱える共通の課題とそれへの取り組みについて、比較の手法で具体的に明らかにする。担当者の専門であるドイツ・オーストリアを中心としたヨーロッパ各国を比較の対象としながら、廃炉・最終処分地の選定、エネルギー政策や中山間地域過疎対策といった、原子力災害被災地としての福島にとって重要な課題を取り上げたい。	隔年
	国際政治Ⅰ	本講では国際政治の実証研究（特に質的研究）に用いられる主要な理論と研究方法を学ぶ。国際政治研究では、様々な国際政治事象を分析、説明するために理論が用いられている。それは個別具体的な事例の研究にも役に立つ。そこで本講では国内外で出版された大学院レベルの教科書や学術書を教材として、国際政治の主要な理論であるリアリズム、リベラリズム、合理主義、コンストラクティヴィズムの理論の特色や意義、限界などについて検討する。また、研究論文のレビューを通じて、理論研究のスタイルや手法についても解説する。	隔年
	国際政治Ⅱ	国際政治の実証研究は理論を用いた理論研究と歴史学的手法を用いた歴史研究に大別できる。本講の目的は、国際政治史研究と呼ばれる後者の研究アプローチについて学ぶことにある。そのために近年目覚ましく発展した冷戦史研究に焦点を合わせ、国内外で出版された冷戦史に関する学術書や研究論文を教材として、国際政治史研究の視角や研究手法について検討する。また、国際政治史研究で用いられる様々な史資料を教材として使い、オーラルヒストリーやアーカイブ調査の方法や史資料の利用方法についても解説する。	隔年
	政治学原論	政治問題、社会問題を理解するためには、現実が「どうなっているのか」という経験分析をすることに加えて、現実を評価しあるべき姿を考察する規範分析が不可欠である。本講では、まず政治哲学においてなされてきた規範的研究の代表的業績を取り上げ、規範分析の意義と課題を確認する。講義の後半では、国内外の最新のテキスト・論文のレビューを通じて、規範分析の方法を修得を目指す。	隔年
	現代政治論	本講では、現代の政治問題、社会問題を取り上げ、それらの解決策を規範的分析を含む学際的な観点から検討する。より具体的には人口減少と少子高齢化にともなう問題をとりあげる。地域の担い手不足に対応するため、地域運営への住民参加を進める自治体がある。そうした自治体の事例をとりあげ、民主主義理論の観点からその意義と課題を検討する。また、地方政治への女性の参加を阻む構造的要因についても論じる。人口減少への対応策として国外から労働力を受け入れる試みもなされている。本講義では日本の入管政策を諸外国との比較のなかに位置づけたのちに、政治哲学の観点から日本の政策の課題を明らかにする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コミュニティ探究コース科目	社会計画Ⅰ	本講では、社会計画論の対象・学史的系譜について概観し、近代日本社会の形成過程において様々な社会計画が果たしてきた役割及び問題点を検討する。そして、社会計画論の今日的課題—例えば、ひとびとの価値意識が多分化した現代社会での社会計画の方向性、計画策定から実施に至るプロセスにおける市民参加の態様と問題点等—に焦点をあて、具体例に即して考察を加える。	隔年
	社会計画Ⅱ	本講では、持続可能な地域社会形成に向けた社会計画の役割と課題について検討することを目的とする。なかでも過疎・高齢化が進行する農山村集落に焦点を当て、地域の課題解決のために策定される地域社会計画の内容、その策定・実施・評価のプロセス、上位の行政機関の政策との関連性や影響等について具体的な事例をもとに考察する。計画過程における多様な主体の「参画」の在り方に重点を置き、地域住民、NPO、大学等の連携による地域マネジメントや行政支援の実態、今後に向けた課題について文献輪読や現地調査等を通して検討を加えていきたい。	隔年
	地域環境論Ⅰ	本講では、日本国内の公害・環境問題の事例を取り上げながら、環境社会学の基本的な理論やアプローチを講義する。第1に、公害事件で発生した被害の実態解明や問題解決を目指した被害構造論（加害-被害論）であり、これと同時に被害非認識や被害の矮小化・不可視化といった被害放置のメカニズムについても理解を深める。第2に、地域開発や環境問題をめぐる受益圏-受苦圏論、社会的ジレンマ論について学習し、問題解決の先に見据えた共存戦略の構想や持続可能な社会について検討する。	隔年
	地域環境論Ⅱ	本講は、大規模な地域開発やNIMBY問題に対する住民運動研究（環境運動研究）について講義する。事例として取り上げるのは、沖縄の地域開発による公害・環境問題であり、それに対する住民・市民側の反対運動である。本土復帰後に急速に進められた地域開発の背景にある沖縄の特殊事情や本土との格差問題を学習しながら、住民運動の展開過程やコミュニティ論について理解を深め、環境紛争の問題解決の方法とともに環境創出や地域のサステナビリティの構想について検討する。	隔年
	社会調査Ⅰ	社会調査とは、ある社会を対象とし、明確な問題意識に基づいてデータ収集・分析を行い、その記述から公表までを行う一連の過程である。すなわち、社会事象に対する問いの立て方、見え方という認識のあり方に始まり、その認識の手立てとして意図を持って適切に方法を使いこなす技量が求められる。本講では学類レベルのごく基礎的な社会調査に関する考え方、知識をおさらいした上で、社会調査の一連の過程を実際に設計・実施するための、一段上の能力を獲得することを目的とする。文献輪読や社会調査事例分析などを通じて、具体的に考えたい。	隔年
	社会調査Ⅱ	本講は社会調査Ⅰをふまえ、より地域社会、とりわけコミュニティデザインの現場における社会調査の実践を意識した、応用的な内容を取り扱う。地域社会における諸問題を各種計画により解決しようとするとき、社会調査はその基本的な視点を提示する手だてとなる。また、社会調査を通じて地域社会の構造的な理解を試みることは、より豊かな地域社会の形成に向けて実践すべき課題である。そこで本講では、地域政策への還元までを意図した社会調査の理論・方法について検討することを主な目的とする。各自の修士論文における社会調査のとりくみを念頭に置き、実際にその設計・実施を交えながら、実践的に考えたい。	隔年
	地域福祉論Ⅰ	本講では、我が国における地域に関与する福祉政策を俯瞰し、現代のコミュニティ形成の現状を分析評価していく。そして、多様化する福祉制度の運営や、それらの連携についても検討しながら、実践現場での諸課題を明らかにしていく。また、地域における生活問題の社会的要因と性格を明らかにし、福祉コミュニティの在り方を問うていく。そのために、本講では、主に文献・資料を使用しながら地域福祉の実践理論を学び、コミュニティの在り方論を議論するとともに、各種福祉分野の見識の深化を目指す。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目	コミュニティ探究コース科目 地域福祉論Ⅱ	本講では、地域福祉の実践を意識して、応用的な内容を講じていく。その中で、福祉コミュニティの形成をはかるための住民の組織化・住民参加活動の検討、当事者中心の福祉各分野の実態・実状分析・課題解決、具体的な福祉活動の運営、多分野連携を介した包括的な生活者のトータルサポートなどを一例として、地域福祉を展開する手法を学ぶ。さらには、地域福祉の観点を通したまちづくりや地域振興を考察する。そのために、本講では、主に地域福祉や地域づくりに関する実践事例や先行事例・課題解決事例を取り扱いながら研究を進める。	隔年
	社会と情報Ⅰ	本講は、情報社会を理論的な側面から把握するために、以下のような内容を検討する。①まず一つ目は、社会のあらゆる分野や領域等に情報化が浸透する現代を位置付ける出発点として、高度な情報メディアの発達を現実化しえた、人間という存在の特性を把握することである。②次に、人間が歴史的に形成するに至った現代の社会システムがいかにして情報メディアの発展を加速し、そのことが社会システムそのものに対してどのような意味を持つと考えられるかについて議論したい。③そのうえで、情報メディアの発展が社会に与える影響や意義について論じた様々な社会理論を批判的に検討する。	隔年
	社会と情報Ⅱ	本講は、現代社会の様々な分野や領域等に浸透するデジタル化の現状を把握した上で、その課題などを検討し、今後向かうべき方向性などを考えるものである。取り扱う内容はその時々々の社会状況や問題関心によって変化すると思われるが、①企業や行政を中心とした社会におけるデジタルトランスフォーメーションの進展、②災害時の情報伝達の現状と課題、③デジタル化による働き方や働く場所の変化、④デジタル化による地域課題の解決、⑤デジタル化が旧来のメディアに与える影響、⑥デジタル化が市民生活や市民の権利に与える影響などについて検討する予定である。	隔年
	地域社会とジェンダーⅠ	「地域社会とジェンダー」は比較的先行する議論が少ない領域である。しかし、〈性〉（ジェンダー及びセクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ）に関わる現象を理解するためには、現象の生じている〈場所〉の地域特性や時代といった、時間的・空間的変数を考慮に入れることが不可欠である。本講では、社会学、地理学、経済学、人類学、表象研究といった各学問領域の既存の議論に基づきながら、地域社会におけるジェンダーおよび〈性〉に関わる現象全般の解明に必要と思われる基礎的理論・概念等について、学際的な観点から検討する。	隔年
	地域社会とジェンダーⅡ	本講では、「地域社会とジェンダーⅠ」における議論を前提としつつ、地域社会における労働と家族の問題に焦点を当て、実証的な研究方法及び研究事例（ここでは主に質的な調査方法及び質的調査に基づいた実証研究）の検討を行う。対象となる地域は福島県や東北地方に限定しないが、可能な限り比較の対象として福島県内についての事例研究を置きながら議論を進める。また、検討対象となる具体的現象に応じて、表象にかかわる研究も取り扱う。	隔年
	地域社会と歴史Ⅰ	日本中世史を中心に、①前提となる古代社会の特質、②中世社会への移行をめぐる諸説、③中世の各時代区分とその特質について、Ⅰでは南北朝時代までを範囲に講義する。特に、これまでの学説史においてどのような議論が積み重ねられてきたのか、その根拠となる史料はどのように解釈されてきたのか、最近の学説ではどのように理解されるようになってきているのかを整理しながら講義することで、個別研究が学説史の豊富な蓄積の上に立脚していることを十分に自覚し、先行研究に真摯に学びながら自ら学問的課題を発見し、的確な史料解釈に基づいて立論することの重要性を修得することを目標とする。	隔年
	地域社会と歴史Ⅱ	地域社会と歴史Ⅰに引き続き、Ⅱでは日本中世史のうち、①室町時代の特質、②戦国時代の特質、③中世社会から近世社会への移行をめぐる問題について取り上げたのち、④中世における地域社会論の成果と課題について、特に東国・東北に焦点を据えながら、その分析視角と方法論を中心に講義する。いずれもⅠと同様に、学説史の展開と立論の根拠となる史料解釈に重点を置くことにより、講義を通じて学説史の中で自らの研究課題を捉えなおし、新たな学問的課題を発見して追究できるようになることを目標とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コミュニティ探究コース科目	地域社会と歴史Ⅲ	地域社会の歴史を解明するには、根拠となる歴史資料が必要である。とりわけ古文書と言われる文書資料が歴史研究を行う上で重要となるが、人と地域社会との紐帯が弱体化している今日、古文書を後世に継承していくことが難しくなっている。また、たび重なる重大な災害の発生は、歴史資料そのものを物理的に消滅させており、歴史資料を災害から守るということも課題となっている。この授業では、地域社会の歴史を明らかにする古文書等の保全と継承について学ぶこととし、関連する論文講読を行う。また、地域に残る古文書を読み解き、歴史を明らかにする作業に取り組むことを通じて、地域史研究の方法を実践的に学ぶ。	隔年
	地域社会と歴史Ⅳ	日本では明治維新後、中央集権的な国家が形成され近代化が推し進められていった。政治的なシステムも、領主と領民という治者と被治者の関係から、議会制という代議制に基づく政治参加の時代へと変化していくこととなる。また、開港による海外貿易の本格化や文明開化に伴う近代技術の導入によって、日本の生産技術も大きな進歩を遂げインフラ整備も進展し経済活動も活発になっていく。こうした政治的・経済的变化は、地域社会の姿を大きく変えていくこととなったのである。こうした近代日本形成期において、地域社会がどのような課題を抱え、それにどのように対応しようとしたのかを考えることとし、関連する史料読解・論文講読等を行う。	隔年
	地域社会と考古学Ⅰ	遺跡・遺物に代表される考古資料の分析から、地域社会の歴史や文化の究明にいかに向かうかを考える。本講義の主要な対象は文献史料の乏しい時代までの日本列島とするが、受講者の関心によっては中近世や諸外国を取り上げることも考慮する。また、おもに考古学的手法による地域史研究を振り返ったうえでその妥当性と問題点を検証し、新たな地域像提起への可能性を探る。	隔年
	地域社会と考古学Ⅱ	日本においては、埋蔵文化財（「遺跡・遺物」をさす法律用語）が「国民共有の財産」と位置づけられ、これらに対する土木工事が行われる際には、発掘調査に代表される保護のための対応が行政により執行されている。このような「埋蔵文化財行政」は、世界的にみて優れた取り組みといえるが、そこには成果とともに課題も決して少なくない。本講では、各地における埋蔵文化財行政の具体例、成果、課題等を紹介するとともに、実際に各地方公共団体や遺跡に赴いてその実践例を学び、埋蔵文化財行政のあるべき姿を受講者自身が考える姿勢を身につけるようにする。	隔年
	地域社会と社会教育Ⅰ	地域の文化・健康・福祉・環境などの諸課題に対し、地域行政による住民への教育的働きかけ・援助と住民の主体的な学習活動との相乗効果のなかで、解決への展望をみいだすことが今日求められている。住民の主体的な学習活動と社会教育・生涯学習の行政や各分野の行政過程における教育的手法との関連について検討する。	隔年
	地域社会と社会教育Ⅱ	近年の社会教育研究・成人教育研究・生涯学習研究においては、新たなパースペクティブからのアプローチや研究方法論の再検討が行われている。本講では、国際的動向も視野に入れて、そうした新たなアプローチや研究方法論をめぐる議論をとりあげ、検討する。	隔年
	地域社会の国際化と言語Ⅰ	20世紀初頭のイギリスに焦点を合わせ、言語と文化のありようについて検討する。とくに当時の文学作品を英語で読むことで、その作品が生み出された時代背景について考察する。また、なぜイギリスがEUからの離脱を行ったかについても検討し、世代別、地域別に離脱の意思が異なっていたことをあきらかにすることで、現在のイギリスが抱えている課題を明らかにする。 またEUの加盟国拡大が旧西欧圏の経済大国と旧東欧圏の新興加盟小国の間に深刻な経済格差を生じており、旧東欧圏からの出稼ぎ労働者が西側各国に流入し、移民排斥運動が強まっている。移民労働者の権利をどう守り旧東欧圏の少数使用言語や文化の保護施策についても考える。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コミュニティ探究コース科目	地域社会の国際化と言語Ⅱ	本講では、地域社会の国際化を理解する上でも近隣アジア諸国の現状についての理解を深める。とくに日本との歴史的関係でも重要な、中国、韓国、朝鮮、台湾と東南アジアのベトナム、ミャンマー、マレーシアなどについて現状を知り、今後の日本との対等な関係の構築の在り方を学ぶ。とくにイギリスが植民地支配を行っていた旧マラヤ植民地（現ミャンマー）へのスコットランドの関与を明らかにして、また、インドでのシェイクスピア作品教育が、イギリスの植民地支配を支える役割を果たしていたことを明らかにする。	隔年
	国際交流研究Ⅰ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に19世紀後半から1901年の豪州連邦結成に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成に与えた影響について考察していく。	隔年
	国際交流研究Ⅱ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に連邦結成後から太平洋戦争に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成後に与えた影響について考察していく。	隔年
	ヨーロッパ文化研究Ⅰ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、現在に至る芸術をめぐる状況を考察する。また、作品鑑賞や批評のあり方、作品の保護、展示、公開や作家尾育成などを行う文化政策的観点も含めて、今後の芸術の在り方の方向と問題点を探る。そして、個別の作家・作品や個々の事象の分析・考察ができる基礎となる知識を養うことを目的とする。	隔年
	ヨーロッパ文化研究Ⅱ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、作品鑑賞や批評のあり方や文化政策的観点も含めて、現在そして今後の芸術の在り方の方向と問題点を理解した上で、様々な研究手法や資料についての知識を深め、それらを用いて特定の作家・作品や事象の具体的で詳細な分析・考察を行える能力を得ることを目的とする。	隔年
	英米文化研究Ⅰ	アメリカにおける文化の多元性、多様性、多様性について学ぶ。また、それらと比較することで自分および自文化を取り巻く諸現象について考察する。まずは歴史的背景を概観してから、個々の問題を検討する。題材として、歴史資料や論文と併せて、文学作品と映像作品を、また必要に応じて、新聞・雑誌、まんが、TV番組、CM、音楽なども扱う。	隔年
	英米文化研究Ⅱ	アメリカおよびイギリスの文化について、フィクション（主として文学作品と映像作品）を題材に、ジェンダー、人種、民族、階級、世代、あるいは宗教の側面から、諸問題を考える。文学作品については19世紀以降に書かれたものを、映像作品は19世紀以降を舞台としたものを扱い、時代特有の社会・文化的背景と現代的視点との関係を意識しながら、分析を行う。小説を原作・原案とした映像作品を取り上げる際には、両者の関係性についても考察する。また、研究に用いる文芸批評理論も、必要に応じて取り上げる。	隔年
	社会の基礎理論Ⅰ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに東北農山村の地域研究への接続に焦点をあてる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コミュニティ探究コース科目	社会の基礎理論Ⅱ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに災害による避難、そこからの復興に焦点をあてる。	隔年
	メディア論Ⅰ	本講では、メディアと地域の接合を図るために、まずはメディア研究の重要な理論と視座を中心的に学んでいく。今後もデジタル化の進展とともに様々なメディアが誕生していくであろうが、そうした変化は重要な理論と視座の変奏として捉えることが可能となるためである。特に重視したいのは、日常的な見方との違いが大きい、メディアの概念の捉え方とメディアの受容に関する理論と視座である。	隔年
	メディア論Ⅱ	本講では、メディアと地域の接合に関する研究の専門的探究を進めていく。メディアの発達、地域の枠を超えて情報の伝達を可能にするシステムを作り上げた。地域とメディアのこうした研究について、最新の研究成果を題材として、問いの設定・先行研究の知見の示し方・方法論の設定・明らかとなった知見を分析しつつ対象文献を読み、受講者自らもそうした構造化された視点と書き方を習得することを目指す。	隔年
	地域社会学Ⅰ	地域社会学における「地域」の概念に影響を与えた農村社会学や都市社会学の隣接分野について、国内の研究を取り上げる。具体的には、地域を構成するイエや村、地区、町内会や自治会、コミュニティなどのそれぞれの概念について学ぶ。近年、地域社会学でも取り入れられている「モビリティ」の問題についても学び、地域社会を行き来する住民層の多様性を前提にした地域のあり方について検討する。大学院での今後の調査計画において、個々の学生がそれらの概念との関連を明確にできるように、代表的な文献とその内容の理解を促す。	隔年
	地域社会学Ⅱ	近年、地域包括ケアの推進にみるように、地域における一般住民による「支援やケア」が必要とされている。コミュニティカフェや「つながりづくり」や「通いの場」や高齢者サロンなど、専門職ではない地域住民相互の支え合いはその基盤として想定されている。それでは、どのようにしたら住民相互の「共助」が可能かについて、「支援やケアの社会学」と呼ばれる領域の基本文献をもとに検討する。適宜、地域での事例検討なども行い、大学院での研究テーマと関連を明確にできるように、講義を行う。	隔年
	都市計画特論Ⅰ	都市計画・まちづくりをめぐる環境は、人口増加・成長社会から人口減少・非成長社会への転換、災害多発化時代の到来などに伴って、大きく変化しつつある。本講義では、こうした背景のもとに、都市計画・まちづくりに関する歴史、現状、課題について、理論的および実務的な観点から講義を行う。都市計画・まちづくりにかかわる多様な領域について探究するが、特に都市基本計画、土地利用計画、防災・復興計画などについて重点的に探究する。	隔年
	都市計画特論Ⅱ	本講義では、福島県をはじめとする国内の都市・農村や海外の都市・農村を対象として、土地利用、交通、防災・復興、水・緑、歴史・景観、観光、環境などの多様な観点から、文献講読、現地調査、ディスカッションなどを行うことによって、都市計画・まちづくりの実態と課題に関する理論的および実務的な探究を行う。これを通じて、都市計画・まちづくりの到達点を多面的に確認・検証し、今後の都市計画・まちづくりのあり方について展望する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 人間文化専攻科目	人間文化創造特論	本講では人間文化専攻で研究を進めるための基礎となるリテラシーと研究倫理を身につけると共に、文化に関する研究や実践を進めるにあたっての基礎的な知識を身につけることを目的とする。講義においては、研究と実践を往還させながら双方を深めていくことを重視し、具体的な研究事例を基にした実践的な内容を中心とする。社会活動面における倫理なども重視し、プロジェクト研究における実践の基盤となる知識・理論・技能等を身につけることを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (40 小野原雅夫/7回) 大学院における研究の在り方と方法及び研究倫理に関する内容(5回)、文化概念について(2回) (41 初澤敏生/8回) 文化の地域的存立基盤について神社の祭礼を中心に解説する。(4回) 文化を活用した地域づくりについて事例研究を行い、基礎的な技能の定着を図る。(4回)	オムニバス方式
	現代日本語特論	計量的な日本語研究の方法について考察する。日本語研究の中でこれまでに用いられた多変量解析の技法について概観するとともに、電子化された言語データを使用し、実際にアプリケーションソフトを用いて各技法の使用法を学ぶ。具体的には、記述統計、クロス集計、検定といった基礎的な技法のほか、因子分析、林の数量化理論、クラスター分析、重回帰分析、VARBRUL、パス解析、SEMなどを扱う。コンピュータリテラシーと一定の数学的素養が要求される。	
	地域言語特論	方言研究の方法について考察する。社会言語学的な観点に基づく言語変化研究を扱う。諸文献の講読を通じて、戦後の国語研究所による言語生活研究、各地で実施された共通語化の研究、日本出自の技法であるグロットグラム法などの成果を概観し、方法を把握するとともに各研究の問題点についても考察する。日本語方言の研究にとどまらず、W. Labov, P. Trudgill, J. Chambersら欧米の研究者による研究にも目を配る。また随時コンピュータを用いて実際の方言データの分析実習も行う。	
	日本近代文学特論	文体という観点から日本における近代文学の変遷を辿る。文語文体から言文一致を経て自然主義の隆盛へ向かう明治期、モダニズム的な様相を呈する大正期、関東大震災後から戦時下へ向かう昭和期、多様な様式が展開される戦後と、それぞれの時代の小説を文体という視角からアプローチすることで、小説の方法や様式を把握する。	
	比較文学特論	西洋文学の受容を視野におさめながら、日本における文学の形成について論じる。具体的には、毎回1篇の小説や詩のテキストを取り扱い、文体や様式、掲載雑誌やジャンルなどに目配りしながら文学史的な位置づけを行う。特に構造主義以降のポストコロニアリズムの状況を理解しながら、日本(語)文学のあり方を考え、より深く理解する。	
	日本古典文学特論	相互に関係のある複数の日本古代文学作品について、それら諸作品が作られた時代の政治や文化、制度や社会、他の内外の作品との影響関係などの観点から、それぞれの特徴や意義、及び相互の関係性などについて考察する。授業の進め方としては、最初に日本古代文学史について概説し、講義中に取り上げた作品の中から主要なものを学生に選択させて、先行研究や独自の調査を織り込みつつ講読していく。	
	日本文学特論	日本文学の形成過程及び特質について、伝統的な美意識の形成と展開を主軸に据えて、言葉、作家、風土、社会、ジャンル、歴史、外国文化・文学・思想との関連など多面的な観点から講義する。また、日本文学がどのように享受されているかについて、学校教育における文学教材のあり方や特徴を主軸に据えて、詩歌、物語・小説、随筆・エッセイ、日本文化論を取り上げ、文学研究の立場から講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	漢文学特論	漢文学における中国古代神話は、従来、孤立断片的な「涸れたる神話」と見なされ、その体系性のなさがしばしば指摘されてきたが、もともと稀薄だったわけではない。授業の前半は枯渇の主因となった儒教の經典化や經典の歴史化について講述し、後半は豊かな神話的世界を、主に『楚辞』をもとに読解し、巫祝文化との関係についても講述する。なお、理解の度合を確認するため毎時レポート提出を求める。	
	中国思想特論	漢文学の根底に流れる道家思想から、特に「混沌」「渾淪」の概念について、「老荘列」の三書から具体例を示しつつ講述する。特に『列子』における楽園説話成立の背景に、「昆侖」「空同」「華胥」「終北」に代表される混沌境地の地理的表象や至人描写があることを詳述する。なお、授業理解の度合を確認するため、毎時小レポートと短い漢文原典読解の提出を求める。	
	国語科教育特論	国語科教育法には、様々な理論と方法が存在する。本特論では、「単元学習」「文芸研」「読み研」「分析批評」「一読総合法」「読者行為論」「読者反応論」「読書指導（ブックトーク・アニメシオン等）」といった様々な理論と方法や、垣内松三、西尾實、芦田恵之助といった国語教育学の古典となっている研究について理解を深める。また、情報機器の扱いを含めたメディア・リテラシー教育の現況を知り、今後の国語科教育の展望を探る。	
	国語科教育実践研究 I	「実践報告」と「実践研究」の違いを理解したうえで、国語科教育学における質的研究と量的研究の方法を理解する。そのうえで、多くの教育実践論文を分析し、教育実践論文の書き方を習得する。具体的には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学的文章・説明的文章・古典）」「メディア・リテラシー教育」といった各領域を扱い、また、小学校、中学校、高等学校といった各校種の教育実践論文を取り上げる。	隔年
	英語意味論特論	自然言語の意味に関する形式的な分析方法を概観する。本授業では、哲学や論理学の伝統を受け継ぎ、意味の数学・論理的側面を厳密な方法で分析する形式意味論のアプローチを主に取り上げる。意味研究の基盤となる古典的な命題論理、述語論理、様相論理の基本から学び、形式意味論における三つの基本的概念である真理条件・モデル・構成性の原理の理解を深めることを目的とする。授業は、文献講読を中心に進める。	
	英語構造論特論	英語学の研究領域の中で、特に統語論を中心に生成文法のこれまでの理論的展開をいくつかの主要なトピックを通して概観することにより、生成文法の基本的概念と思考法を理解する。理論の変遷が個別現象の分析と生成文法の目標とどのように関わるかについて理解するとともに、必要に応じて関連分野における研究の進展なども考慮しながら、生成的言語研究における理論的展開がどのように動機づけられてきたかという問題や、部門間の関係における派生と対応の問題などを取り上げて検討する。	
社会言語学特論	「言語」「社会」「文化」「認識」の関係を、身近な問題と引き比べながら検討していく。社会的変数に焦点をあて、地域、階層や階級、性、年齢、役割などが、言語にどのような影響を与えているか、文化変容とどのような関係を持っているかなどの検討を行う。さまざまな言語変種がどのような過程を経て生まれ、現実社会の中でどのように扱われているかを考察する。とりわけ、「女ことば」に関する歴史的考察とそれに対する社会の姿勢を通時的にたどることによって、ジェンダーとことばの現代的解題を明らかにする。また、そうしたことばに対する社会的な姿勢の変遷が、歴史的、社会的、経済的な変容とどのように関わっているかを取り上げ、法律の改正、産業形態の変化、社会的意識の変容の関係を検討する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	現代アメリカ文化特論	アメリカ文学作品とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較検討してそれぞれのジャンルの特性を探究する。具体的には、アメリカ現代文学の源と言われる1925年の文学作品 <i>The Great Gatsby</i> を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家 F. Scott Fitzgerald や作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。	
	初期近代英米文学特論	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文の文学テキストを用いて、文学テキストの意味作用を理解することを目的としている。とりわけ、ジェンダー、階級、人種などのカルチュラル・スタディーズなどの観点から考察を加える方法を教えるとともに、自分なりの英米文学に関する理解の方法論を身につけるための技法について明らかにする。	
	近代英米文学特論	英国を代表する文芸批評家 (F. R. Leavis, Raymond Williams, Terry Eagleton) のテキストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、それを読んだだけでは分かりにくい諸問題 (植民地主義, ナショナリズム, 資本主義, 帝国主義など) を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	
	英語教育学特論	教育的介入の効果 (教育効果) を検証するには、教育的介入の目的に照らして適切な評価が不可欠である。適切な評価を行うには、評価が目的に沿っていることに加え、様々な妥当性の根拠を示すことが求められる。本授業は英語教育における評価の意義と役割について理解を深めることを目的とする。言語テスト理論に関する文献講読を通して、目的に応じた適切なテストの作成、テストが学習者に与える影響 (波及効果) の検討、そしてテスト得点の処理方法について理論を身につける。	
	英語教育学特論演習	指導と評価の一体化を実現するためには評価の意義と役割について理解を深め、教育的介入の効果 (教育効果) の適切な測定や望ましい波及効果をもたらすフィードバックの実践が不可欠である。本授業は、英語教育における評価の意義と役割について理解を深め、妥当性の高い評価を実践する力を身につけることを目的とする。ペーパーテストおよびパフォーマンステストの作成、プロダクトの評価、そしてテスト得点の処理に関する演習を通して、言語テスト理論に根ざした評価を実践できるようにする。	
	英語教育学研究 I	英語教育学は学際的な分野であり、実験心理学に基づいたアプローチを中心に様々な研究領域の研究手法が応用されている。実験結果から確かな結果を主張するためには、内的妥当性などの条件を満たした研究デザインを採用する必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、研究目的に沿った研究デザインを検討する力を身につけることを目的とする。英語教育学および実験心理学の研究手法に関する文献講読を通して、先行研究に基づいてリサーチクエスチョンを設定し、内的妥当性の高い研究デザインを構想できるようにする。	隔年
	英語教育学研究 II	英語教育学研究のアプローチは多様化しており、従来の量的分析に加え、質的分析や混合研究法など様々な研究手法が用いられるようになってきている。そのため、研究の目的に照らして適切なアプローチを見極める必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソドロジーについて理解を深め、様々な研究デザインに適した分析手法の検討および実践する力を身につける。統計分析を中心とした量的分析と質的分析に関する文献講読および分析演習を通して、研究目的や研究デザインに照らして適切な分析を実施できるようにする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 人間文化 専攻科目	第二言語習得特論	外国語として英語を学習している日本人を対象に第一言語（日本語）と第二言語（外国語を含む）の習得過程の特徴（類似点と相違点）について理解を深める。また、日本語を母語とする学習者が様々な校種において外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）の言語事象の特徴とその要因について考察する。さらに、第二言語習得に関する数多くの文献をもとに様々な言語習得理論の特徴を理解し、外国語として英語を学習している日本人の言語習得の研究手法も身につける。	
	第二言語習得特論演習	日本語を母語とする学習者が外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）のプロセスの特徴について、心理言語学の研究調査に基づく演習を通して、言語の学習プロセスを徹底的かつ巨視的な視点で理解できるようにする。また、心理言語学に基づく言語習得に関する数多くの文献等の具体的事例をもとに科学的証明方法（仮説の立て方、実験調査のデザイン、数量的データの統計分析及び考察方法等）を身につける。	
	第二言語習得研究Ⅰ	第二言語習得のメカニズムについて心理言語学の記憶研究の視点に基づく研究を理解する。特に言語習得に必要な不可欠な短期記憶であるワーキングメモリの働きに焦点を当てる。ワーキングメモリは、第一言語や第二言語等の音声言語及び文字言語の習得に重要な役割を果たしており、多様な機能を有している。この記憶機能と言語習得の多角的及び多面的関係性について、様々な実験調査研究を理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となる様々な要因について検討し、研究力を身につける。	隔年
	第二言語習得研究Ⅱ	第二言語習得のメカニズムの解明と第二言語学習の有効な指導方法等を模索する研究力を身につける。第二言語習得における記憶メカニズムに関して、ワーキングメモリの代表的な複数の仮説やモデルに基づく実証的記憶研究論文をもとに、その有効性及び妥当性について深く理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となりうる要因（第一言語と第二言語の言語的距離、学習者の年齢や認知発達段階及び同年齢における個人差等）の解明とその要因に基づく有効な指導方法を考察する。	隔年
	英語教育実践特論	This class will draw from ideas and theories about the teaching of English, beginning with the instructor showing students how they look in practice. Students will then be encouraged to choose, from the variety of approaches learned (through readings, videos, and observations in this and other classes), those they feel most comfortable and confident in. They will be asked to demonstrate, critique, and adapt their approaches through follow-up discussions and readings. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies. この授業は英語で行われる。まず、授業担当者が様々な指導法の実践を示し、英語教育に関する考え方や理論について学ぶ。次に、受講生は文献講読や授業観察等を通して学んだ様々な指導法の中から、自身にとって最も自信があり適切だと考える方法を選ぶ。その上で、学習指導要領を含めた文献講読での解説やディスカッションを通して、その指導法の実践、批評そして改善を行う。	
	英語教育実践特論演習	Building on 英語教育実践特論, students will learn how to tackle and incorporate approaches about which they feel less confident, with the goal of becoming a more flexible and adaptable teacher. In addition, while reviewing studies in team-teaching related issues, we will consider how several types of team-teaching partners (both native and non-native English speakers) could be involved most effectively. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies. この授業では、英語教育実践特論で学修したことに基づき、より柔軟で適応力の高い教員になることを目指して、受講生にとって自信がない指導法を取り入れるための方法を学ぶ。さらに、チーム・ティーチングに関連する研究を概観し、英語母語話者および英語非母語話者を含めた様々なパートナーとの効果的な関わり方を検討する。また、これらの検討結果に基づき、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	英語教育実践研究Ⅰ	Students will begin by explaining, reviewing, and (if possible) demonstrating areas of difficulty that they have noticed in their English-teaching practice. We will then summarise and discuss both articles and experiences that apply to those problems. Further, students will be encouraged to do their own research and lead in readings of articles on issues they believe are likely to arise in their future teaching contexts. この授業ではまず、自身が考える英語教育の授業実践における問題点について、受講生が説明や概観を行う（可能であれば授業実践の実演も行う）。次に、そこで指摘および検討された問題点について、学術文献や実践経験に基づいて整理とディスカッションを行っていく。その上で、将来的に教育現場で生じると考える問題点について、文献講読や研究の遂行を行う。	隔年
	英語教育実践研究Ⅱ	Students will begin by expressing particular concerns that they have noticed in their English-teaching practice and in realising Course of Study objectives. We will then look at teaching issues from a range of cross-cultural standpoints, while relating them to our own experiences as teachers, learners, and users of foreign languages. Further, they will be coached on how to follow-up on their research interests, and will have at least three opportunities to present on articles related to themes such as Pragmatics, Intelligibility, goal-achievement, and statistics in language-learning studies. この授業ではまず、受講生が自身の英語授業の実践を通して気づいた問題点について、英語の学習指導要領の目的と照らし合わせつつ説明を行う。次に、受講生の教師、学習者そして外国語使用者としての経験と関連づけつつ、それらの問題点を異文化の観点から検討する。さらに、自身の研究の関心を追究できる方法論を身につけるため、語用論、明瞭さ、到達目標の達成および言語習得研究における統計学などに関する研究テーマの文献発表を行う。	隔年
	外国文化特論	主にドイツ・ロマン主義の文学作品、および文学論を読み、ロマン主義運動の本質を探る。扱う作品としては、ノヴァーリス『青い花』『キリスト教世界あるいはヨーロッパ』、フリードリヒ・シュレーゲル『ロマン派文学論』『ルツィンデ』、ハインリヒ・フォン・クライスト『マリオンネット劇場について』などを予定している。ただし学生からの要望に応じて扱うテキストを変更することも可能である。ドイツ語の知識は問わないが、あるに越したことはない。	
	日本社会文化史特論Ⅰ	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に在地社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年
	日本社会文化史特論Ⅱ	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に都市社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年
	日本地域文化史特論演習Ⅰ	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、村や町で作成された「御用留」を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	日本地域文化史特論演習Ⅱ	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、百姓や町人の日記を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論Ⅰ	ヨーロッパの前近代は現代日本とはあらゆる点で前提が異なる社会であるが、この社会について学ぶことで、ヨーロッパ社会をより深く理解し現代日本の社会・文化を相対化することが可能となる。本講義では、近年の「社会史」・「文化史」の主要な研究成果を取り上げつつ、ヨーロッパの前近代の主要なトピックについて「社会史」・「文化史」の観点から講義する。主に、宗教と社会との関わり、身分制、異文化圏との接触・交流といったテーマを取り上げる。	隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論Ⅱ	近現代のヨーロッパは、現代日本に直結する社会・文化的課題が登場した社会である。本講義では、近現代ヨーロッパの主要なトピックについて、「社会史」・「文化史」の観点から講義する。前近代に比して資史料が豊富に残されている近現代については、人々の社会文化的生活を個人レベルで再構成することも可能であることから、一次史料の読解なども取り入れて講義する。主に、ヨーロッパ近現代史における革命、民族、人種、ジェンダー、家族といったテーマを取り上げる。	隔年
	ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅰ	ヨーロッパにおける「地域文化」の歴史について日本で学ぶ意味は、われわれとは異なる「地域」概念や日常生活のあり方について知ることを通じて、われわれ自身の地域・生活観を反省的に見つめ直すことにある。本講義では、ヨーロッパ前近代における人々の地域における日常生活のあり方を、「日常生活史」の主要な研究成果を取り上げつつ講義する。主に、古代ギリシア・ローマ、および中世ヨーロッパにおける食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを取り上げる。	隔年
	ヨーロッパ地域文化史特論演習Ⅱ	本講義では、近現代ヨーロッパについて、「地域文化」の観点から講義する。食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを近現代について論じていくが、近現代においては「国民国家」の登場に伴い、「地域主義」の目覚めや「中央」と「地方」の相克など「地域」をめぐる諸問題が重要視されるようになる。本講義では、「日常生活史」に関わるトピックとともに、そのような「地域主義」の問題も取り上げていく。	隔年
	自然災害特論Ⅰ	本講義では自然災害のうち地震災害と火山災害について主に扱う。プレートテクトニクス運動によって地殻変動が著しい日本において、1. 日本周辺の地殻構造と地震発生と火山噴火の関係、2. 地震ならびに火山噴火の発生タイプとメカニズム、3. 地震/火山噴火観測の概要と予知の現状、4. これまでの主な地震災害・火山災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
	自然災害特論Ⅱ	本講義では自然災害のうち、風水害と土砂災害について主に扱う。台風の通り道になっており洪水や斜面災害が発生しやすい日本において、1. 日本周辺の気圧配置と気候の特徴について、2. 地球温暖化に伴う風水害被害拡大の概要、3. 気象観測の概要と予報の現状、4. これまでの主な豪雨災害・土砂災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文や専門書等を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
	環境地理学特論演習Ⅰ	地域防災に関わる土地環境要素（活断層・火山）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地断層帯における活断層地形や吾妻火山について、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	環境地理学特論演習Ⅱ	地域防災に関わる土地環境要素（地すべり・軟弱地盤）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地内における地すべり地形や軟弱地盤を実際に把握するために、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年
	地域と文化特論Ⅰ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から、主として地域における文化の存立基盤について検討を加える。具体的には、文化に関する概念や人間の文化習得についての理論的な検討と既存の研究の批判的検討の後に、「まつり」と「伝統工芸」を取り上げ検討を深める。まつりは地域社会と密接な関係を持って存在し、地域によって支えられるとともに、地域を支える役割も果たしている。本授業では地域の社会構造に注目しながら、その点を構造的にとらえていきたい。一方、伝統工芸はその地域の文化的な存在であるとともに経済的な存在でもある。ここでは主に製作に焦点を当て、その文化意識が産業にどのような影響を与えるのかを考察する。それにあたっては、文化的側面に注目しつつも、経済的側面にも視野を広げ、その存続基盤について検討する。	隔年
	地域と文化特論Ⅱ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から主として地域における新しい文化的事象について検討を加える。具体的には、地域の食文化（伝統的食文化だけではなく、B級グルメなどの現代的な食文化も含む）やそれらを活用した地域振興など、文化を活用した地域づくり・まちづくりなど、現代文化を中心に、現代の地域において文化が果たしている役割について検討する。	隔年
	地域復興・振興特論演習Ⅰ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部において主に経済的側面からの地域振興の現状と課題について考察を加える。ここでは、グローバルとローカルをつなげる視点を常に持ち、具体的な事例の検討を通して検討を深める。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、研究視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
	地域復興・振興特論演習Ⅱ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部においては主に地域づくりについて取りあげる。ここでは、Iで取り上げたような経済的な視点の他、社会・文化的視点、それを支える市民の視点なども必要になる。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、地域づくりに関する視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
	観光産業特論Ⅰ	本授業では、経済学的な観点からさまざまな観光産業や観光施設、観光政策などを取り上げ、分析を加える。観光産業・観光施設等は観光資源の特性によってその性質を大きく変化させるため、本授業を進めるに当たっては、特に観光資源に着目し、類型化しながら検討を進める。また、観光政策面に関しては、特に東日本大震災後のさまざまな観光復興政策やCOVID-19に対応した振興策が地域の観光産業にどのような影響を与えたか、などについて検討する。	隔年
	観光産業特論Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から、主に修学旅行を中心とする教育旅行を対象として、分析を加える。教育旅行は教育目的に沿って行われるため、観光旅行の中でも特徴的な性格を持つ。その一方で、団体旅行として規模が大きいことから、産業面からも無視できない市場を形成している。本授業では修学旅行に関する目的意識の変化が旅行先の選択に与える影響や東日本大震災後の被災地を対象とした修学旅行の変化、COVID-19が修学旅行の地域構造に与えた影響などを取り上げて分析を加える。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 人間文化専攻科目	地域経済特論演習Ⅰ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に第一次産業（農・漁業）と第三次産業（商業・サービス業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。農・漁業に関しては、産地形成や資源管理など、地域的な生産体制が重要な役割を果たす。地域的な支店から経済を分析する。また、商業・サービス業は産業と地域が密接に結びついており、地域の構造変化が直接産業の変化に結びつく。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年
	地域経済特論演習Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に第二次産業（製造業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。製造業は各業種の生産構造的な特性と、地域の産業基盤の特性を組み合わせながら、その存立基盤を形成している。生産構造的な特性は全国レベル（あるいは世界レベル）の空間構造を形成し、地域的な産業基盤は市町村レベルでのローカルな構造を持つ。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年
	コミュニティ文化特論Ⅰ	高度成長期の工業化・都市化・大衆化、そして1980年代以降の情報化・高齢化・グローバル化の進行によって、日本の地域社会は構造的な変化を経験し、一方で解体・再編が進むとともに、他方ではコミュニティとしての再形成の動向がみられるようになった。この授業では、社会学の視点と方法により、地域社会の変容を実態に即してあつづけるとともに、その社会・文化・意識構造の今日的特質を描出する。	隔年
	コミュニティ文化特論Ⅱ	この授業では、コミュニティの担い手（＝主体）に注目し、コミュニティ文化の日本的特質を明らかにする。具体的には、地縁型組織である地域住民組織とテーマ型組織であるNPO・市民活動団体の組織と活動の特徴を描出するとともに、これら2つの組織間の連携およびこれらと行政との協働の実態を論じ、形成途上にあるコミュニティの文化的特質を明らかにする。	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅰ	この授業では、戦後日本における地域社会の解体・再編を踏まえつつ、これに対する再組織化の動向をコミュニティ形成の文脈で捉え、その主体的・構造的条件を社会学の視点と方法により明らかにする。具体的には、国によって提起されたコミュニティ政策の背景と展開過程、および地域での実践を捉え返し、その成果と課題を今日的視点から検証する。	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅱ	この授業では、今日のコミュニティ形成および住民による主体的なまちづくりの動向に注目し、国内外の事例を紹介しつつ、まちづくりの意味と可能性について論じる。また、まちづくりをコミュニティ・レベルでの地域自治の実践として捉える立場から、これを制度的に保障するコミュニティ政策のありようについて検討を加える。	隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅰ	「人間開発」とは、教育的な場面においては、人材育成や人間発達支援を意味する語である。育てる者と育てられる者という上下関係の中での営みにおいてはパターナリズムの危険性が生じる。パターナリズムとは、親が子どもの幸せを考え子どもにとっての最善を判断しやっけることであり、子どもが小さいうちは絶対に必要な営みであるが、子どもが大きくなるにつれて、子どもにとっては自由の侵害となる可能性も生じてくる。そもそも教育は、育てられる側が自立して自由な存在者となることを目的とするものと思われるが、教育という行為には多かれ少なかれ強制の要素が含まれており、そこには自由と強制のパラドクスが発生してしまう。自由な主体を育成する人間発達支援の難しさと、そのあるべき姿について、文献講読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	人間開発の倫理学特論Ⅱ	「人間開発」とは、倫理学や政治・経済学の場面においては、弱者（開発途上国なども含む）の援助・支援を意味する。援助や支援は長いあいだ不完全義務と位置づけられ、自立や自治の尊重という完全義務よりも優先度の低い課題とみなされてきたが、近年では構造的暴力が問題視されるようになってきたことに伴い、たんなる善意による不完全義務にのみ任せておけばよい問題ではなく、根本的な対処が必要な完全義務と見なされるようになってきている。弱者支援の問題点と、そのあるべき姿について、文献講読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅰ	人権について理解を深め、多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していくことの困難さと意義を実感してもらい、そのための具体的な手法を学んでもらう。人権には自由権、参政権、社会権、平等権や、その他の新しい人権など、様々な内容が時代とともに付け加わってきたが、それらは容易に両立しうるものではなく、互いに相克しあう複雑な関係を成している。対等な立場で語り合っていく哲学カフェの「対話のルール」を身に付けてもらった上で、人権に関わる様々なテーマについて哲学カフェを行いながら、理論と実践の両面から共生に向けたトレーニングを積んでいく。	隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅱ	多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していく様々な手法を学んでもらうとともに、自ら新たに開発してもらおう。具体的なトラブルが生じたときに非暴力コミュニケーション等を用いて紛争を解決していく平和的手法や平和的態度を身につけ、またそれらを指導するファシリテーションの技法についても学んでもらう。また、非暴力トレーニングなども学び、身近なところで生じる争いにもどう対処するか、あるいは紛争地帯における暴力的状況のなかでどんなことができるかなどをシミュレーションしてもらった上で、新たな共生の手法を協働的に開発していく。	隔年
	食品科学特論	食品には大きく3つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）がある。本授業では、それらに関わる食品成分の化学的性質、機能性について、その背景にある研究論文等を基に専門的な理解を深め、農産物から食品を科学的視点から捉えることを目的とする。具体的にそれぞれの機能を有する食品を例に取り上げ、社会的背景（消費者ニーズなど）、化学的性質、機能のメカニズム、その食品の意義（商品コンセプト）などに関連する文献等を活用しながら学ぶ。	
	食物学研究	食物学に関する研究の新しい知見や今後の課題を自ら見出ししながら、研究の全体像を捉えることをねらいとする。また、社会的な食品の課題へのつながりを見通すことをめざす。本授業では、食物学分野の文献、特に健康機能に関わるものを講読し、それをもとに内容についての解説と議論を行う。議論を通して、食物学分野の研究の背景や課題、手法などの理解を深めるとともに、現代の社会生活における食品に関する課題への関連や発展性を考える。	
	食生活特論	本授業では、受講生の興味や関心・修了研究のテーマ・修了後の進路などを勘案しながら、現代の日本の食生活における諸問題を授業テーマに設定する。最近の調理科学・食物学における話題等を入れながら、授業は主として講義形式ですすめるが、学生同士や教員とのディスカッションも適宜取り入れる。簡単な実習及び実験を取り入れる場合もある。	
	食生活支援研究Ⅰ	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。Ⅰでは主として食事や健康に関する内容を扱う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	食生活支援研究Ⅱ	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。Ⅱでは主として、食文化や食育に関する内容を扱う。	隔年
	衣生活特論	現代社会には、一人ひとりの生活の質の向上のためには衣生活に関わる多くの課題があり、その解決が求められている。本授業ではそれらの課題解決に資する知識を習得することをめざす。明治時代以降、現代にいたるまでの衣生活の変容について、衣服生産、衣服の流行と選択、衣服産業の課題等を中心に解説する。さらに、持続可能な社会の形成及びユニバーサル社会形成のために、これからの衣生活のあり方について検討する。	
	衣生活支援研究Ⅰ	自立した生活をめざす上で、衣服の選択や着装などは個人のアイデンティティに深く関わっている。本授業では、自立した衣生活とそれを支援するために必要な知識・技術について習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。さらに子ども、高齢者及び障害者を対象として衣生活の実態をとらえて課題を分析し、具体的な支援の方策について検討する。それらを通して支援のための具体的なプラン作成をめざす。	隔年
	衣生活支援研究Ⅱ	本授業では、持続可能な社会形成に資する衣生活支援に必要な知識・技術を、基礎的なものから、より実践的なものとして展開させ習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。衣服生産～廃棄及び再利用・再利用における問題点を把握し、分析する。さらに、地域における衣生活の実態をとらえて課題を分析する。それらを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し、具体的な支援方法についてプランの作成をめざす。	隔年
	家庭科教育特論	小・中学校を主とした家庭科の授業実践研究を題材、指導、評価等の視点や家庭生活と地域・社会の関連から分析できるようにする。家庭科教育における自立・自律ならびに共生をテーマに、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導のあり方、教材、評価等について探究する。また、生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズへの対応と家庭科教育のあり方についても考察する。	
	家庭科カリキュラム特論演習	家庭科教育における自立・自律ならびに共生を中心としたカリキュラム研究を通して、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発を行う。生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズに対応するための家庭科教育の課題を明らかにし、児童・生徒の発達、生活の問題解決や地域との協働に即した教材が開発できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	他専攻科目	地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	家庭科教育実践研究Ⅰ	<p>(概要) 小・中学校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用、小・中学校の系統性や接続性を含めて考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (56 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活の学習内容について) (37 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (43 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)</p>	隔年、オムニバス方式
			家庭科教育実践研究Ⅱ	<p>(概要) 中・高校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用、中・高校の系統性や接続性を含めて考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (56 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活領域の学習内容について) (37 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (43 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)</p>	隔年、オムニバス方式
			生涯生活マネジメント特論	<p>人生100年時代を迎えた現代社会では、65歳以上を一律に受動的な弱者でありケアを受ける存在として捉えるのは妥当ではない。クリティカル思考により意思決定し、生活を主体的に選択・構築し、生涯にわたってアクティブ・エイジングが実現できる個人のあり方とその生活について追究する。自分らしく主体的に生きるためのライフフロンテイング・マネジメント・スキルを修得するとともに、そのスキルをもった人材の育成、他者の生活や地域・社会を支援する方法についても学ぶ。</p>	隔年
			身体教育とスポーツ文化特論	<p>本講義では、身体教育、スポーツ文化について理解を深めるとともに、身体教育とスポーツ文化との関連性について考察していく。スポーツを教材とした身体教育のあり方や、様々なスポーツ文化の教育的意義を踏まえたスポーツ指導のあり方について、テキストや資料をもとに論究する。具体的にはテキストや資料を読み進め、受講生が要点をまとめて説明した上で、教員からの内容確認の質問に答えていく形式で進める。</p>	
			現代スポーツ特論演習	<p>本演習では、現代社会におけるスポーツの様々な話題や問題について受講生がローテーションで話題提供し、現代スポーツに対する考え方についてディスカッションを行い理解を深める。現代社会におけるスポーツ指導のあり方や、各スポーツの現代的特徴、レクリエーションスポーツの今後の方向性など、できるだけ広い視野から現代スポーツの特徴を捉えていく。そして将来スポーツの現場に立ったときに、正しい判断と対処ができる指導者を育成していく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	スポーツ社会政策特論	現代のスポーツは、単にスポーツそのものの振興だけを担えばいいという時代は終わり、様々な社会問題の解決の一翼を担う、極めて社会的な存在へと進化した。そこで、国、都道府県、市区町村の三つのレベルから現代社会におけるスポーツ政策の重要性と理念を理解し、現代のスポーツ振興について解説していく。さらに、諸外国のスポーツ・健康政策についても触れ、今後、スポーツおよび健康政策を企画立案できる人材の養成を目指す。	
	スポーツクラブマネジメント特論演習	プロ・アマ問わず、スポーツクラブが自主独立し健全に発展するためには、人材、施設、財源、広報など、効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで、本演習では、国内外のスポーツクラブを事例に取り上げ、マネジメントするために、組織運営、経営方法、地域のマネジメント、マーケティング、施設管理、イベント管理、顧客管理等の知識を解説していく。そして、スポーツ組織・団体をマネジメントすることができる人材の養成を目指す。	
	スポーツ医科学特論	アスリートは自身の能力を最大限高めることで、高いパフォーマンスを発揮するために日々トレーニングしている。トレーニングにより疲労し、休養をとることで疲労が回復する。このサイクルが不適切になると、身体的諸問題が発生する。これは、アスリートのみならずスポーツ愛好家や健康の維持・増進を目的とした運動実践者においても起こりうる。本講義では、これらの身体的諸問題やその予防のための考え方などについて論究する。	
	健康科学と運動処方特論	健康の維持増進、および生活習慣病の予防にとって、日常生活における身体活動量の確保は非常に重要である。本講義では健康に対する考え方、身体活動量の評価、健康と運動（または身体活動）、生活習慣病と運動、健康の維持増進のための様々な取り組みについて、理解を深める。そして、健康の維持増進に欠かすことのできない運動をどのように処方すべきかについて、健康（健康科学）と運動の効果の観点から概説する。	
	スポーツバイオメカニクス特論	本講義では、バイオメカニクスの測定・分析方法を学ぶとともに、ヒトの運動を理解するためのバイオメカニクスの基本的知識および「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的な運動のメカニズムに関する知識を基に、データを理解する能力を習得することを目的として、実験実習を取り入れながら授業を展開する。さらに、実際のスポーツ現場への応用方法について、ICTの活用と関連づけて考えていく。	
	運動学特論	本講義では、運動を習得し、修正し、自動化するまでの運動習得・習熟過程について理解することを目的として授業を展開する。受講学生自身の経験を振り返り、考えることで、理解を深める。さらに、運動指導においては、指導者は学習者の運動の微妙な違いを瞬時に評価するための「運動を見抜く力」や「運動共感能力」が求められるため、運動観察について知識を学ぶとともに、演習を通して運動観察力を身につけることを目指す。	
	運動生理学特論	本講義では、大学で学んだ（運動）生理学の知識を基礎として、より深化発展させた内容を行う。運動・トレーニングによる生体の反応、適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できるようになることを目的とする。具体的には、運動時の遺伝子・タンパク発現と情報伝達系の変化、健康や運動パフォーマンス向上に関係する細胞内情報伝達系、筋の萎縮と肥大、等のテーマについて学ぶ。講義は理論を基礎とするが、理解を助けるために必要に応じて実験実習を行う。	
	健康指導特論演習	本講義では、運動が生体に与える影響について基礎的知識を総括した後、運動パフォーマンス向上および健康の維持増進のためにどのような運動が適切であるのかについて学ぶ。最近の研究成果を知るために運動生理学を中心とした論文を読む。また実験実習を通じて運動に伴う生体の反応について測定し、健康運動指導やコーチングに必要とされる測定方法、評価について学習する。講義、実習の成果をレポートにまとめ理解度を確認しながら進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	武道文化特論	武道は闘争を起源にもつ伝統的日本の運動文化である。歴史の過程で仏教や神道、道教、儒教の影響を受け成立したものであり、独自の運動学習論が展開されている。その独自性を修行、道ととらえ、そこから派生した稽古や型の考え方等の独自の精神性を論じ、さらに、武道の国際化についてもふれる。これらを通して、武道の歴史や精神性等を学習し、武道の独自性を理解することを目的とする。	
	武道文化特論演習	本講義は、日本の伝統的運動文化である武道の伝書を中心に講読する。風姿花伝は能楽の伝書であるが、その運動学習理論は武道の源流をなす。不動智神妙録は、禅宗の考え方から剣術の技術をとらえたものである。兵法花伝書、五輪書、一刀斎先生剣法書は三大武芸伝書といわれ、流派の精神を説いたものである。猫の妙術と天狗芸術論は、剣術を老荘思想で説いたものである。これら伝書に加え、武道に関する論文を講読することによって、武道の特性を理解することを目的とする。	
	保健体育科教育特論	授業の「計画－実践－評価」という授業づくりの構成要素を理解する。計画段階では、教材づくり、単元計画ならびに1単位時間の指導計画の立案、学習資料の作成などを行う。実践段階では、立案した授業計画にもとづいてマイクロティーチング（仮想模擬授業）を実施し、授業運営や相互作用行動などの実践的に学習する。評価段階では、体育授業観察者チェックリスト及び形成的授業評価、授業場面の期間記録法などの組織的観察法を用いた授業分析にも取り組む。	
	保健体育授業づくり特論	学校（小学校・中学校・高等学校）現場での体育科・保健体育科の授業を参観し、組織的観察法などを用いながら授業分析を行うとともに、模擬授業を立案・実践することを通して、保健体育科教師としての指導力向上ならび実際の教科の授業や学級経営のあり方について学修する。また学校現場の先生方との交流を通して、学校現場の実態や保健体育教師とはどうあるべきかなどについて深く考えていく。	
	現代声楽演奏特論演習	本授業では、日本歌曲の演奏を通じて、日本語演奏の表現法を研究する。また、馴染みの薄い邦人作曲家の作品を演奏することを通して知見を深め、今日の我が国におけるクラシック音楽のあり方について考える。授業は演奏実践と作曲家および詩人についての研究および作品についての考察を発表し、ディスカッションを通じて理解と作品に対する洞察力を養い、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。	
	声楽演奏特論演習	本授業では、学類の科目で触れることのできなかつた、ロマン派後期から近現代の声楽曲を、西欧諸国のものを中心に学ぶ。方法論としては演奏実践と作品・作曲家・詩人についての調査発表を授業の両輪とする。調査発表については授業内でディスカッションを行い、それを通して洞察力と知見を身に着け、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。教材については芸術歌曲を中心とするが、オペラアリアや宗教曲のアリアなども排除しない。	
	オペラ特論演習	本授業では、モーツァルトのオペラを中心に、オペラのアリアやアンサンブルの演唱法を学ぶ。西欧で育まれたオペラを演唱するためには、我が国とは異なる文化や生活様式の理解が不可欠である為、それを解明しつつ、演唱を構築する。劇音楽とは何かを体験しつつ、彼我の大きな差異を理解することで、異文化理解につなげてほしい。実践が中心となるが、映像の鑑賞も時間の許す限り行う。また声楽の盛んな福島県という地域の実態に鑑み、様々な方法で地域オペラについて研究する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	音楽科教育特論	音楽科教育に関する研究方法論について、便宜上、哲学的・歴史的・記述的・実験的・民族誌的研究に区別し、それぞれの梗概を把握する。また、音楽科の授業研究の方法について、質的・量的研究双方について学習する。次に音楽科教育の歴史、思想・哲学、教材論について、学術論文や著書を手掛かりとしつつ、批判的に検討する。音楽科学習指導要領について、ICTの活用やアクティブラーニングを中心に理解を深める。さらに、音楽科教育におけるポピュラー音楽の教材化を議論することで、今日的な学校音楽教育の有する可能性と課題について考究する。比較対象として、北欧の音楽教育やコミュニティ音楽療法も取り上げる。	
	音楽科カリキュラム特論演習	日本における音楽科カリキュラムの構成原理の変遷について俯瞰したうえで、現行の音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視点から検討する。とりわけ重視されている協働的な学習、ICTの活用について、実践事例を取り上げながら考察を深める。続いて欧米やアジアなど諸外国との比較を通し、日本の音楽科カリキュラムの特有性を分析する。次に、音楽科教育におけるカリキュラム研究の系譜について概観する。近年主流となりつつある「多様な音楽」を扱う音楽科カリキュラムの意義と課題について検討する。前記「多様な音楽」を便宜上、西洋音楽、日本の伝統音楽、諸民族の音楽、ポピュラー音楽に区分し、各々について扱った音楽教育の実践研究等の文献講読を行い、カリキュラム開発のための基礎理念を修得する。	
	音楽科教育実践研究 I	音楽科授業の観察方法について授業映像を視聴しながら学習する。次に、本学の附属小学校・中学校の学校公開で扱われる楽曲について教材研究や分析を行う。研究授業の指導案を検討したうえで、参与観察を行う。その際、音楽科学習指導要領に基づき協働的学習やICT機器がどのように効果的に活用されているかにも注目する。授業者を交えた事後検討会での意見交換、及び大学での議論を通して、音楽科授業実践の在り方や可能性、今後の課題について考察する。	隔年
	音楽科教育実践研究 II	本学附属小中学校の学校公開用の教材楽曲や指導案の分析、検討を行った上で、参与観察に臨む。授業者を交えた事後検討会に参加し、また大学での検討会の議論を通して、音楽科授業実践のあり方について、目的、内容、方法、評価の視点から検討する。さらに音楽科学習指導要領とも関連付けて授業を分析し、その意義や有効性について検証する。その際、協働的な学習やICTの効果的な活用にも着目し、今後の音楽教育実践の在り方を考究する。	隔年
	絵画特論	絵画の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術科教育の視点からその構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における絵画表現と造形教育の関わりを深く追求する。具体的には、個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行い、絵画制作の主題、絵画の重層構造、技法や歴史的な問題について、現代の視点から再検討を行う。また絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。	
	絵画特論演習 I	絵画および現代美術に関して、個別に設定したテーマに沿って制作を行い、自身の制作について深く研究する。具体的には、テンペラを実制作する中で、材料の基本的な事項を獲得し、絵画のタブラー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、制作学や美術教育学との関わりについても提起していく。	
	彫刻特論	彫刻特論の授業では、現代における彫刻の動向を学ぶとともに、パブリックアートに関する歴史的、物理的、社会的環境について学習を深めていく。前半では現代の彫刻の動向を複数の作家を取り上げて制作動機、表現、背景を理解していく。後半では明治大正期の彫刻設置と、1960年代以降の公共事業における1%システム事業に焦点を当て、各種環境との影響関係の概略を整理する。彫刻とその設置について調査研究することで、表現に活かすとともに、社会と芸術のありかたについて考察を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	彫刻特論演習Ⅰ	彫刻特論演習Ⅰでは、現代における彫刻表現の動向を踏まえ、制作を通して自身の表現の位置づけを探る。特に野外彫刻の具体的作例をもとに、制作動機、表現、背景への理解を深め、自身の制作の振り返りを行う。パブリックスペースにおける彫刻設置は、数多くの課題を克服することが要求されている。授業では入念な検討をもとに、彫刻の本質的な造形技法を駆使しながら新たな提案に結び付けるとともに、図工・美術科の造形遊びや立体表現指導に活かせるよう学びを深める。	
	日本美術史特論	海外でも人気が高い日本美術のジャンルといえば、それは浮世絵であろう。人々の生き生きとした姿を描写した浮世絵は、当時の社会・風俗を映し出す鏡でもある。また、その平面性や色づかい、斬新な構図はヨーロッパの印象派の画家たちに大きな影響を与えた。本講義では、17世紀から19世紀にわたる浮世絵の誕生と発展、ならびにそれぞれの絵師の特色を解説する。さらに、浮世絵版画の技法や販売方法について説明する。	
	西洋美術史特論	世界中から観光客を惹きつける「永遠の都」ローマは、17世紀にはすでに現在の姿に近いものとなっていた。本授業では、当時のローマを中心とした視覚芸術（絵画・彫刻・建築）を概観し、様式の特徴を解説する。同時に、それぞれの芸術家の活動の形態、ならびに彼らが生み出した作品と17世紀ローマの社会・文化・宗教との関わりについて考察していく。さらに、近代社会へ移行しつつあった時期のパトロネージ、美術市場の在り方に検討を加える。	
	美術科教育特論	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえながら、美術教育の表現領域の課題を明らかにし、幼稚園・小学校・中学校における授業実践研究を通して、表現性、題材性、指導と評価等の視点、及び、人間性、社会性、相互理解等の視点から〔現代社会における教育の意義〕を探る。具体的には、心象表現領域と適応表現領域の比較を通じた実践研究をもとに、主として幼稚園造形表現・小学校図画工作科や中学校美術科の「適応表現領域」を材料に系統的な〔目指すべき資質・能力〕を追求する。また、戦後の学習指導要領改訂の変遷やそれに伴う指導内容・方法の変遷、情報機器活用の可能性の考察を通して、近隣諸国や欧米の実践事例との比較研究などを行う。	
	美術科カリキュラム特論演習	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学び」の観点から美術科のカリキュラムに視点を当て、学校や地域、子供たちの発達課題に即した表現題材開発を行う。具体的には、教科書や美術資料等を中心に、「何が出来るようになるか」に向けた「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点で題材開発並びにカリキュラム開発を行う。主に「立体、工作」における発想・構想に関して、思い付いたアイデアを、用途や材料の特性を踏まえてどのように表すか組立てていく往還に着目し、育みたい資質・能力の観点からカリキュラムについて考察していく。その際、教育活動へのICT活用の実際についても考察を深めていく。	
	美術科教育実践研究Ⅰ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（心象表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を元にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年
	美術科教育実践研究Ⅱ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（適用表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を基にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	教育心理学特論演習	教育現場において必須と思われる心理学的知識として、「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」について学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。特に、幼児・児童・及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）の視点を重視する。	
	認知教育方法特論	教効果的な教授技術の開発・教材作成のために必要な心理学的知識を学ぶ。特に、知識形成、問題解決能力、及び学習障害などのトピックスについて、認知心理学的視点を重視する。前半は認知心理学で教育に関連する代表的な文献を抄読する。後半では、各人が興味を持った研究について掘り下げ、自身の研究テーマとの関連を探る。	
	認知教育方法特論演習Ⅰ	知識形成、問題解決能力、及び学習障害についての知識を、どのように効果的な教授技術の開発・教材作成に活かせるか考えるために、認知心理学、発達心理学の手法を学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。基本的には各人の研究テーマ追究を支援するが、本演習では幼児・児童・青年期の認知機能・学習障害をテーマとすることが望まれる。	
	認知教育方法特論演習Ⅱ	認知教育方法特論演習Ⅰで得た先行研究の知見や方法論を基に、教授技術の開発・教材作成について具体的な実践案を立てる。そしてその効果について、実験や調査を実施する。また可能であれば、教育現場などで実践する。実験を実施する場合は、認知心理学的手法を用いることが望ましい。調査を行う場合は、多変量解析などの統計的知識を修得していることが望ましい。	
	発達心理学特論	広い意味での発達心理学に関する理論と現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本特論の到達目標である。発達理論（主として成人になるまでを範囲とすることが多い）及び生涯発達理論（一生涯を範囲とする）について、また認知機能とパーソナリティ・社会機能の生涯発達に関する知見について幅広く概説する。これらの概説等に基づいて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅰ	広い意味での発達心理学に関する理論について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期と大人期の発達過程の「繋ぎ目」となる青年期と新成人期、成人初期に注目し、この年齢期を含む生涯発達理論を中心に概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅱ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までの認知機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅲ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までのパーソナリティ・社会機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	乳幼児・小学生の心理学特論	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。乳幼児および小学生の発達心理学における基礎的な知識について解説するとともに、言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る方法について、著名な研究を複数取り上げながら紹介していく。後半に取り上げる具体的な研究事例やトピックの選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識して、最新の研究動向を紹介していく。	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階についての理解を深める。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階について、それらの発達に影響を及ぼす可能性のある諸要因についての理解を深めていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期の健全な発達を促すために、保育や学校教育、地域でできることは何か、さらに家族の支援のあり方について考えていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	
	中学生・高校生の心理学特論	基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。とりあげたいトピックは以下の通りである。 (1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程について専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
	人間理解特論演習Ⅰ	毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程についての専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
	人間理解特論演習Ⅱ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、次の3つの要素を織り交ぜながら授業を進める。基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。(1) 心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2) 事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3) ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などを検討するとともに、自己理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	人間理解特論演習Ⅲ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1)心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2)事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3)ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などについて検討するとともに、それらを通じて自己理解を深める。	
	実験心理学特論	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	実験心理学特論演習Ⅰ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	実験心理学特論演習Ⅱ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	実験心理学特論演習Ⅲ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	幼児心理学特論	幼児の姿をみていると、一見意味のないような行動にも意味がある。これを見ることができないと、子どもは未熟で、早く大人と同じような行動を身につけさせなければならないという考えになってしまう。本授業では、幼児期の行動をとくに、イメージの発達に焦点をあてながら、幼児の行動や保育におけるイメージの役割について考察する。また、発達に影響を及ぼす要因を出生体重や養育・保育環境という点から考えていきたい。	
	幼児心理学特論演習Ⅰ	幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考え、幼児期の発達と保育者や親の役割について考える。とくに幼児心理学特論演習Ⅰでは乳幼児期の子どもの養育や保育に関わる問題を通して、保育者や親の役割、支援について先行研究をもとに検討をすすめる。中でも、東日本大震災やコロナ禍での保育の実態や今後何が生かせるかを検討した研究に焦点をあてて、幼児期に必要な子どもの経験は何かを考えたい。	
	幼児教育学特論	本授業では、遊び論に関する複数の文献の講読を行う。『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で、遊びを通じた総合的な指導（保育）が基本原理とされていることから分かるように、保育・幼児教育の実践で遊びは大きな比重を占めている。しかし、遊びを論じる切り口・理論は様々ではない。本授業では、幼児教育学や保育実践者にとどまらず、社会学、哲学といった極力毛色の異なる遊び論を題材に、各論者の異同を議論する。それにより、遊び論の広がり、それぞれの保育・幼児教育実践とのつながりを検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科人間文化専攻科目	幼児教育学特論演習Ⅰ	本授業では、インタビューなど小規模な言語データの質的分析に適した方法である Steps for Coding and Theorization (SCAT; 大谷2011など) の習得を目指し、幼児教育学に関するテーマを設定した上で現役保育者(など)へのインタビューの実施・分析という一連の研究プロセスを経験する。	
	幼児教育内容特論	我が国の乳幼児教育の制度やカリキュラムの歴史的変遷をたどりながら「保育とは何か」「幼児期とは」等の幼児教育の本質について考える。また、具体的な実践例をもとに幼児教育の内容と方法について幼児の発達や子どもの権利条約の視点から考える。現代の子どもの発達上の問題点を検討し、現代的視点から幼児教育における教育内容のあるべき姿を議論し、深める。	
	幼児教育内容特論演習Ⅰ	さまざまな幼児教育実践にふれ、子ども・保育者・保護者の関係性を学ぶ。幼児教育現場の課題を明らかにするとともに、幼児の豊かな育ちを保障する幼児教育の内容と方法について論議する。授業者の保育現場体験、保育実践記録を素材とし、保育内容を構造的にとらえていく。保育における人間関係発達論(嶋さな江)、親が参画する保育をつくる(池本美香)、発達する保育園大人編(平松知子)を参考テキストとする。	
	幼児教育内容特論演習Ⅱ	東日本大震災による原発事故後の福島の子育てについて、「それでも、さくらは咲く(さくら保育園編)」を中心とする関連実践記録や保育白書、関係書籍から振り返る。また、コロナ禍における保育の状況を探るなかで、子どもの育ちを保障する保育とは何かについて具体的に考える。想定外の困難が起こった時、保育に求められるものについて論議する。	
地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学の基礎理論について、その基礎を修得するとともに、その応用として現実の経済事象を分析する力を身につける。 授業の概要 消費者行動理論、生産者行動理論、そして市場の理論について講義する。内容は中級レベル(一部上級レベル)の標準的なミクロ経済学の理論およびその応用分矢である。なお、毎回、簡単な練習問題を課し、それを解くことで学習成果を確認していく。	
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学を主とする指導を行う。履修希望者のミクロ経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。 授業の概要 様々なミクロ経済学の考え方を応用して、現実の諸課題について検討し、この過程で修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。	
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 本講義では、大学院におけるマクロ経済学として標準的な内容である新古典派成長モデルに焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学(連立差分方程式の基礎、固有値問題の解法、ベルマンの最適原理)、②新古典派成長モデルの導出とその含意(オイラー方程式の導出、定常状態における黄金律、位相図を用いた鞍点経路の特定)、③新古典派成長モデルの応用(恒常所得仮説、トービンのQモデル、リカードの中立命題、モジリアーニ・ミラーの定理)、④新古典派成長モデルの実証分析(危険回避度の測定、ランダムウォーク仮説の検定、株価の変動範囲検定)などを習得することを目指す。 授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告(プレゼンテーション)を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するチーム・ペーパーを執筆する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>マクロ経済学は、一国全体の経済変数（GDP、金利、為替レートなど）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究する学問である。マクロ経済学を習得するにあたっては、マクロ経済を構成する実物・財政・（中央銀行を含む）金融・対外部門に対する理解を深めるとともに、それらの部門間の相互連関についても把握する必要がある。また、現実の経済政策を考えるにあたっては、国の発展段階（先進国、新興国、発展途上国）にも注意を払う必要がある。このような観点に基づき、この授業では、マクロ経済に関する専門知識を習得した上で、マクロ経済で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	
	産業連関論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域を論ずるための大前提は、なにより地域の経済的力を客観的に知ることである。たとえば、各都道府県の第一次産業がどれだけのGDPを生み出しているか、2次産業、3次産業の比率はどのように変化しているのか。</p> <p>このような基本的な情報をもっともわかりやすい形で与えてくれるのが、国連加盟各国ならびに日本のすべての都道府県、あるいは都道府県内の地域別に発表されている「産業連関表」という経済データである。これは当該地域の経済活動を産業レベルまで遡って記したもので、その地域の現状と未来を教えてくれる非常に有用なデータである。</p> <p>この授業では実際の産業連関表を用いて、各地域の現実の経済的特性を探り、また応用として経済的イベントの経済効果を予測するための基礎を学ぶ。これらは地域論を学ぶ上で、もっとも基本的な知識といえる。</p> <p>授業の概要</p> <p>各自の興味に応じて全国都道府県（もしくはその中の地域）のなかから一つを選び、その県の経済力を導出するためのいくつかの概念と手法を学ぶ。その次に、何らかの経済イベント（例：東京オリンピック2020など）がどれだけの経済効果を引き起こすか、その理論を紹介する。テレビや新聞などで紹介される経済効果の予測について、学んでもらおうということである。東日本大震災直後の産業連関表がすべての都道府県で出そろった段階にある。あるいは、都道府県によっては、東日本大震災からさらに数年経った段階での産業連関表を発表するところもいくつか出てきた。東日本大震災の影響や、その後の復旧復興の様子がデータにどう表れるのか、興味ある研究対象に取り組むチャンスである。なお、授業ではExcelを使う。Excel操作を通して理論と現実を学ぶ、あるいは理論・現実からExcel操作を学ぶ機会の、どちらともなる内容である。</p>	
	金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、大学院における金融論として標準的な内容となるマクロ経済学の応用分野としての資本資産価格モデル（CAPM）に焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学（確率分布、期待値、分散、共分散、制約付最適化問題）、②資本資産価格モデルを理解するための基礎知識（不確実性の導入、リスク回避的な効用関数、消費のオイラー方程式）、③資本資産価格モデルの導出とその含意（資産選択の平均・分散アプローチ、効率的フロンティア、分離定理、CAPMの導出）、④資本資産価格モデルの応用（シャープ比、ジェンセンのアルファ分析、マーケット・ベータ分析）を習得することを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	国際金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際金融論は、マクロ経済における対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究するマクロ経済学の応用分野です。国際金融論を習得するにあたっては、対外部門自身を理解することに加えて、国内の実物・財政・（中央銀行を含む）金融部門が同対外部門（特に国際収支）に与える影響を理解することが非常に重要になる。また、国際金融論は、実学志向が強い学問でもある。このような観点に基づき、この授業では、国際金融論に関する専門知識を習得した上で、対外部門で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。なお、国際金融論は実学志向が強い学問であることに鑑み、本授業はある特定の国に関するケース・スタディーの形をとる。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	
	環境経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：環境経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経済学の概要を把握した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>環境経済学は、環境問題を克服すべく、環境に優しい社会のあり方を考え、そのような状態を目指すための社会の仕組みを、経済学の観点から提起する学問です。この授業では、この環境経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
	公共経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：公共経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共経済学の概要を把握した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>公共経済学は、政府の果たすべき役割（市場の失敗）、政府がその役割を果たせるか（政府の失敗）を、経済学で考える学問です。この授業では、この公共経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
	計量経済学特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計量経済学の入門的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計量経済モデルについて理解している。 ・回帰分析とそれともなう関連手法を実践することができる。 ・回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 <p>授業の概要</p> <p>経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的回帰モデルを中心とした手法について、理論的な背景を理解するとともに、実際のデータを用いて解析作業が行えることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	計量経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 計量経済学の応用的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。 ・応用的な計量経済モデルについて理解している。 ・分析目的に合わせて適切な計量経済モデルを選択することができる。 ・回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 授業の概要 経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的な回帰モデルの想定では処理できないケースへの対応を扱う。	
	国際経済学特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 国際経済学を主とする指導を行う。履修希望者の国際経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。 授業の概要 国際経済学の考え方をを用いて、現実の諸課題について検討する。この過程で、修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。	
	産業組織論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 本授業では、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学び、時間があれば規制影響分析にも触れる。費用便益分析の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。 ・費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を理解すること。 ・学んだ知識を現実の具体的課題に適用して考えることができること。 授業の概要 費用便益分析の事例を多数取り上げ、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学ぶ。時間があれば規制影響分析にも触れる。ミクロ経済学や統計学・計量経済学の基本的知識を復習した上で、論文や報告書などを紹介する。	
	法と経済学特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 本授業は、法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、経済学的視点から判例法的展開を分析して日本の競争政策を評価する。独禁法審判決の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。 ・競争政策のバックボーンとなる経済学を理解している。 ・日本の競争政策を経済学的観点から評価できる。 授業の概要 法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、独禁法審判決の事例分析を行う。ミクロ経済学の基本的知識を復習した上で、独禁法審判決の事例を多数取り上げる。	
	財政学特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 テーマは現代日本財政の課題。今後の日本社会や世界を背負う受講生と不都合な財政的課題の真実に向き合い、何らかの答えを出す。 授業の概要 日本財政の特殊性としては、例えば、租税と社会保障の関係が不透明で特別会計改革と言いつつ、社会保障は職域で日本経済の格差がそのまま持ち込まれている状況である。統一国庫主義という予算原則からかなりかけ離れている状況を維持し続けている行政の縦割り主義にも切り込んでいきたい。 最近の民間税調でも取り上げられた、予算情報の開示の不十分さにも目配りしたい。民間税調のメンバーである大学教授の方がBSの報道番組でも力説されていた「主権者＝納税者」であるという視点を大切にしていきたい。個人所得税だけが税ではなく、消費税もガソリン税も消費者が負担している。法人税も理論的には、下請け企業、従業員、消費者が実質的に負担しているとも言える。 年代別の投票率がかなり異なり、18歳選挙権が確立すると、財政構造が選挙で問われる意味がますます重要となる。日本の財政学教育（有権者向けも含めて）も合わせて考えたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 経済経営専攻科目	租税政策特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英国マリーズ・レビューから21世紀の租税政策を考察する。現代日本の租税政策のグランドデザインを構築するきっかけを得る。</p> <p>授業の概要</p> <p>2010・11年に刊行された英国マリーズ・レビューは、有名な1978年のミード報告30周年を記念したもので、日本の租税政策の検討に有意義であると確信している。ここから今後の日本の租税政策を展望する。</p>	
	地域経済論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「地域産業復興プログラム」および「グローバルプログラム」の一環として「復興の地域経済学」をテーマとする。災害復興と地域創生をキーワードに、地域の生活基盤である産業やインフラをどのように再生していけばよいのかを受講者とともに考える。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる現状と課題を理解すること</p> <p>②災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる文献をレビューし、他の受講者に分かりやすく報告できること</p> <p>③福島県をはじめとした地域産業の課題を的確に分析できること</p> <p>授業の概要</p> <p>二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、災害復興まちづくりや地方都市再生の現状や課題を俯瞰するため、テキストのレビューと討議を行う。また、テキストのテーマに関連した論文や報告書のレビューも各自の関心にあわせて行う。第二部（第11～15回）は、福島県をはじめとした地域産業の課題に関して、各種統計の整理と分析を行い、レポートを作成する。</p>	
	地域交通論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域交通や観光等の分野における高度な専門知識を身につけることが目的である。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①地域交通もしくは観光に関する基礎理論や用語を体得していること</p> <p>②交通や観光に関するデータを読み解き、地域の特徴や課題を把握し、政策提案もできること</p> <p>③関心がある分野の先行研究を把握できていること</p> <p>授業の概要</p> <p>二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、交通経済、交通計画、観光政策分野の文献を輪読し、受講者による討議を行う。専門知識を獲得・確認するとともに、プレゼンテーションの方法（学発発表でも役立つ）。討論の進め方（意見の伝え方）などを身につけることも重視する。第二部（第11～15回）は、地域交通や観光分野における学術論文のレビューを行い、各自の関心に応じて選定した論文の報告を行う。</p>	
	特講（交通まちづくり論）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域の交通や観光をツールとしたまちづくり施策の立案や現状分析を行うための技法を身につけることが目的である。地域課題を実務的に解決する手法を導き出すために必要な調査技法や分析手法（例：統計分析手法、空間解析技法の基礎）についてもあわせて獲得することを目指す。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①地域の交通や観光に関わる国内の政策動向を理解すること</p> <p>②地域交通や観光に関する調査企画を立案できること</p> <p>③交通や観光に関するデータを分析し、現状や地域課題を把握するほか、施策の提案もできること</p> <p>授業の概要</p> <p>第一部（初日の講義）は、地域の交通や観光に関する施策の最前線について概観した後、福島県内もしくは周辺の地方公共団体における交通や観光のデータ（例：交通産業の経営データ、地域経済分析システム（RESAS）掲載データ）の分析技法について演習形式で学ぶ。第二部（二日目の講義）は、第一部のデータ分析により設定した課題を解決するための施策（代替案）を検討、評価し、受講者とともに討議する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営 専攻科目	経済地理学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主要なテーマは、工業の立地・配置、地域経済、地域問題、地域開発に関する理論的、実証的な研究。</p> <p>到達目標は、自ら課題を設定し、説得的な議論を展開できる。経済地理学の基本概念を理解している。</p> <p>授業の概要</p> <p>経済地理学は、経済学と地理学の学際的分野に位置づく科目である。この講義では、伝統的な立地論としてチューネン、A・ウェーバー、クリスタラーの理論を取り上げ、それぞれの理論とその応用について説明したうえで、現実の経済地理と地域問題の発生（地域間格差等）、それらを解決するための地域政策について取り上げる。地域政策については、その起源と日本における展開を具体的に取り上げる。</p>	
	社会政策論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要</p> <p>この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	
	労働と福祉特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要</p> <p>この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 経済経営専攻科目	開発経済学特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「開発途上国におけるSDGs」である。到達目標は、次の通りである。 1. 開発途上国の現状と課題を複数の視点から理解することができる。 2. 開発経済学の基本的な理論を理解することができる。 授業の概要 開発経済学を用いて、開発途上国における経済成長と社会開発について学ぶ。本講義は、まず、文献の輪読、映像視聴、ディスカッションによって、アジアにおける開発途上国の現状を複数の視点から理解することを目的とする。次に、テキストの輪読とディスカッションにより、貧困と格差、貿易、海外直接投資、政府開発援助、農村金融など開発経済学の理論を身につける。さらに、SDGsの観点から、開発途上国がいかなる開発モデル、貧困削減戦略を採用すべきなのかについて研究する。	
	経済政策特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 テーマは、「災害復興政策の国際比較」である。到達目標は以下のとおりである。 1. グローバルな災害について、その実態と原因を理解できる。 2. 大規模災害からの復興プロセスと諸アクターの役割について、国際比較の視点から理解できる。 3. 「より良い復興」について自分の考えを持つことができる。 授業の概要 大規模災害からの復興について、経済政策と国際比較の観点から学ぶ。大規模災害からの復興に関しては、ローカルな視点だけではなく、グローバルな視点が必要である。この講義では、文献の輪読とディスカッションによって、東日本大震災だけでなく、中国、アメリカ、インドネシアなどにおける大規模災害からの復興政策と諸アクターの役割について学ぶ。また、ディベートやブレイン・ストーミングなどにより、災害からの教訓をどう活かし、「より良い復興(Build Back Better)」を実現するかについて研究し、自分の考えを持つことを目標とする。	
	現代資本主義特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1) 先行研究を精査し、報告することができ、(2) 自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。 授業の概要 本科目では、現代社会における以下の諸問題について、資本主義との関係において捉えることを目的に輪読を行う。輪読を通じて、上記の社会問題に関する認識、理論的な理解を深めることを目指す。 ・労働問題 ・気候変動 ・マイノリティ（女性や外国人など）への差別	
	現代資本主義特殊研究 II	授業のテーマ及び到達目標 本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1) 先行研究を精査し、報告することができ、(2) 自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。 授業計画 輪読文献は、履修者の希望に応じて変更する。文献によるが、半期間に1～3冊を扱う予定である。加えて、各自の研究に関しては、先行研究のレビューを中心に報告してもらうこととする。	
	地域政策論特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地域政策を考える」である。 到達目標は、地域政策の歴史的変遷を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。 授業の概要 持続可能な社会に向けた地域政策および地方財政をテーマに受講生とともに議論をすることを目的とする。特に公害や自然災害からの地域再生に焦点をあて、持続可能な地域の再生を支える政策について検討をする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 経済経営専攻科目	地域政策論特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地方財政を考える」である。 到達目標は、地方財政の特徴と問題点を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。 授業の概要 経済のグローバル化のもとで地域経済の置かれている現状と課題について議論するとともに、日本の地方財政の特徴と問題点を学び、今後の改革の方向性について考える。被災地域の再生を支える政策のあり方についても検討する。	
	経済思想史特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるジェームズ・スチュアートの主著『経済学原理』を、とくに第1編を重点にして講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 スチュアートの主著『経済学原理』（1767年）のとくに第1編を重点に解説する。テキストはスチュアート『経済の原理—第1・第2編』（名古屋大学出版会、1998年）を用い、参考資料として竹本洋『経済学体系の創生』（名古屋大学出版会、1995年）を用いる。	
	経済思想史特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるアダム・スミスの主著『国富論』を講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 アダム・スミス『国富論』の原典解説をする。テキストはアダム・スミス『国富論』1～4（水田他訳、岩波文庫、2000年）を用い、参考資料として高哲男『アダム・スミス』（講談社選書メチエ、2017年）を用いる。	
	日本経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経済史の領域から近世および明治維新期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経済史とりわけ近世近代移行期についての研究にとりくむ基盤ができていくこと 授業の概要：19世紀半ばの開港と外圧への対応から授業をはじめ19世紀末から20世紀初頭の産業革命期における日本の経済社会の変容に至るまでを授業の範囲とする。	
	日本経営史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経営史の領域から両大戦間期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経営史とりわけ両大戦間期についての研究にとりくむ基盤ができていくこと。 授業の概要：両大戦間期における日本経済の重工業化と経済成長そして経済政策の体系化のなかでおきた企業経営の著しい変化を追究する。	
	日本経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 ①戦後日本経済に関する主要な経済政策・用語を理解する。 ②経済学的な論理にしたがって、戦後日本経済の展開を理解する。 ③戦後における日本とアメリカとの経済的な関係を理解する。 ④グローバルな観点から日本経済について、自らの考えを説得的に展開する。 授業の概要 戦後復興期から高度成長期、1970年代以降の諸危機に至る過程を実証的に把握する。全体を通じて、「国家政策」「企業」「労働」をめぐる諸側面を局面・段階ごとに構造的に理解することを重視する。	
	世界経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 経常収支不均衡や財政収支不均衡など、負債をめぐる国家間の不均衡について理論的考察。 授業の概要 異端派国際経済論を学ぶ。テキストはHendrik Van Den Berg, International Economics: A Heterodox Approach, 3rd Edition, Routledge, 2017. を使用する。参考資料としてダニ・ロドリック『貿易戦争の政治経済学: 資本主義を再構築する』白水社、2019年を使用する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	比較経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 歴史を経済から、経済を歴史から考察し、歴史を政治や文化のみならず経済の側面からの多面的に捉え、経済を理論や数式のみならず実際に生じた出来事から捉えられるようになることが到達目標である。取り上げる歴史は、担当者の専門領域が西洋近現代経済史であることから、ヨーロッパ史にウエイトを置くものの、比較検討のために日本、アメリカ、中国、中東地域も対象とする。 授業の概要 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。	
	欧州経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ経済を中心に、歴史的背景と社会文化的傾向を踏まえながら、現代というものを考察する。現代ヨーロッパ・EUは、日本とは大きく異なる制度を構築し、諸問題に対して私達からみると一見奇妙な対応を取ることもあるが、それには歴史的・社会文化的背景が存在している。翻って日本も欧州からすれば一見奇妙な行動を取っており、双方を比較検討することで、現代欧州経済に対する理解と共に現代日本に対する理解も深まるものと思われる。焦点は現代欧州に当てるものの、適宜、アメリカ合衆国、中国、中東地域からも事例を取り上げて視野を拡大したい。 授業の概要 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。	
	アメリカ経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 アメリカの革新派経済学について学ぶ。研究倫理への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーション等を通じ、コミュニケーション能力を高める。 授業の概要 英文原書からラディカル派政治経済学を学ぶ。参考資料として Howard Sherman (1987) Foundations of Radical Political Economy, M. E. Sharpe. を用いる。	
	アジア経済論特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 (1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 (2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。 授業の概要 本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。	
	アジア経済論特殊研究 II	授業のテーマ及び到達目標 (1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 (2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。 授業の概要 アジア経済論特殊研究 I に続き、本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。	
	朝鮮近代史特殊研究	授業の到達目標及びテーマ 主に日本と朝鮮半島の関係史を中心に東アジアにおける近現代史の展開過程を概観するとともに、現在の日韓・日朝関係の抱える問題点や今後の方向性について考える。授業はさまざまなテーマの論文を講読し、報告とディスカッションを中心に行う。 授業の概要 ①東アジア近代史に対する理解を深めるのに必要となる専門的な知識を把握する。 ②日韓・日朝関係を軸に当時の中国やロシア、欧米などとの世界的な国際関係の流れも理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営 専攻科目	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>転換期を迎えた世界の直面する諸課題について、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、グローバルな事象とローカルな事象の体系的把握を目指す「グローバル」の観点から、「東アジアのダイナミズム」、「国連持続可能な開発目標（SDGs）」「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故」「地方創生」、「男女共生」、「働き方改革」、「若者」などを事例研究として取り上げる。</p>	
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>イノベーションをめぐる主要国の取り組みについて、2040～50年の世界を念頭に置きつつ、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義の目的は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、「イノベーション」、「2040～50年の世界」、「グローバル」の3つのテーマに焦点を当てるものである。また、事例研究として、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の被災地福島の復興プロセスについても取り上げる予定である。</p>	
	比較社会論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ロシア社会と日本社会の比較</p> <p>到達目標：</p> <p>①比較の基準等に関する主要用語等を理解できる。比較社会論に関する比較社会学等の理論の考え方を理解できる。</p> <p>②比較の基準を基に、ロシアと日本の事情について自分なりの見解を持つ、論じることができる。</p> <p>③ロシアと日本の現状について自分なりの見解を論述することができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>現在、地球上には様々な国々が存在している。一方では、グローバル化が進んでいますが、他方では、各国がその独特さを身に付けている傾向も目立ちます。この授業では、比較社会論の分析方法に基づいて、ロシアと日本を中心に、主として社会構造（民族、階層等）、政治・経済体制（「…」主義等）、文化（宗教、教育、「食」等）について理解を深め、比較研究することを学習する。異国のことはすべて奇妙に見えるという常識を考え直し、自国と他国を比較する目が開かれることを期待する。</p>	
	管理会計論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>管理会計の理論と技法を学ぶ。15回の授業を通じて、管理会計の基本的なテーマについての理解を深めることを目標とします。</p> <p>授業の概要</p> <p>管理会計はマネジメントのための会計であり、財務諸表作成を目的とする財務会計と対比される。管理会計は、企業の経営管理活動と密接にかかわりながら20世紀初頭より学問として発展してきた。この講義では、履修者の管理会計基礎知識を確認しながら、比較的読みやすいテキストを用いて、企業活動のなかで管理会計の考え方や技法がどのように役立つかを学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	コスト・マネジメント特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 管理会計の一分野である原価管理について学ぶ。伝統的な技法の理解のみならず現実の企業への適用についても理解することを目標とする。 授業の概要 コスト・マネジメントは、主として標準原価計算を用いて事後的な原価削減を意図してきた狭義の原価管理からはじまって、いまでは企業活動に不可欠な戦略や利益管理の領域にまで、その範囲を拡大している。この講義では、履修者の管理会計や原価管理に関する知識を確認しながら、コスト・マネジメントの理論的発展と、現実企業への適用について学ぶ。	
	価値創造会計特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 経済組織の価値評価に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ財務会計アプローチを中心に研究する。 企業や自治体を研究フィールドとして、実際の外部報告会計の財務データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つデータ改善手法を提案できることを目標とする。 授業の概要 企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の外部報告会計の財務データを用いて、組織に投下された資本の価値評価方法、組織と社会両方の価値共創化などについて研究する。	
	価値創造会計特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 価値増大を図ろうとする経済組織の戦略や管理に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ管理会計手法を中心に研究する。 企業や自治体を研究フィールドとして、実際の内部報告データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つ実践的なマネジメント手法を提案できることを目標とする。 授業の概要 企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の内部報告データを用いて、購買・生産・販売・保守等の活動や各種行政サービスにおける価値分析、見える化などからの価値創出提案について研究する。	
	財務諸表論特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。 (到達目標) 先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。適切な考察を加えたいうえで、論理的に意見を述べることができる。報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。 授業の概要 自分自身の研究をしっかりとこなすことは当然だが、ほかの学生の報告を聴いたうえでのコメント(質問や提案など)はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営 専攻科目	財務諸表論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。</p> <p>(到達目標) 先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。 適切な考察を加えたうえで、論理的に意見を述べるができる。 報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。</p> <p>授業の概要 自分自身の研究をしっかりとこなすことは当然だが、ほかの学生の報告を聴いたうえでのコメント(質問や提案など)はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。</p>	
	財務報告論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標 将来的に修士論文や特定課題レポートを執筆する上での基礎的な能力を養成することを目標とする。</p> <p>授業の概要 日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成を学ぶことを主眼に置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生の要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p>	
	財務報告論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 将来的に受講生の皆様が修士論文や特定課題レポートを執筆する上での素地を整えることを目標とする。</p> <p>授業の概要 日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成などを学ぶことに主眼を置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p> <p>前期に開講する財務報告論特殊研究Ⅰよりも論文の精読の割合を増やし、具体的に研究計画(案)を練っていく。希望によっては外国文献及び英文による会計基準を精読し、主要国の先進的な潮流を確認することにも注力する。</p>	
	租税法特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標 租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税法の条文の読み方を理解している。 2. 租税法に関する判例の読み方を理解している。 3. 租税法の重要論点に関する判例・学説の動向を理解している。 <p>授業の概要 租税法に関する重要判例を題材に、参加者が調査・報告し、議論することにより、租税法の基礎概念と、判例・学説の動向を理解することを目的とするものである。</p>	
	租税法特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 税制の現状を理解している。 2. 税制の課題を理解している。 3. 立法論の立場から税制を議論できる。 <p>授業の概要 租税法に関する論文集等を読み、議論することを通じて、税制の現状と課題を理解することを目的とするものである。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	会計実務特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 「財務会計及び管理会計の視点から考察する税法に規定する圧縮記帳」について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。 授業の概要 税法の制度について理解するとともに、財務会計及び管理会計の視点から考察する。圧縮記帳の方法によって、財務諸表にどのような影響があるのか。また、その後の売価設定などの意思決定や目標利益額の設定などの意思決定ではどのような点を留意しなければならないか検討する。	
	会計実務特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 税効果会計について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。 授業の概要 『税効果に係る会計基準』では、繰延法ではなく資産負債法を採用している。『個別財務諸表における税効果会計に関する実務指針』でも資産負債法を前提に作成されている。しかし、『連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針』では、未実現損益の消去に関する税効果に関しては繰延法が例外的に採用されている。例外的に採用され、その後現在まで変わっていない。資産負債アプローチが定着して長いがこのままでよいのか検討する。	
	特講（実務租税法Ⅰ）	授業のテーマ及び到達目標 主に所得税・法人税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。 授業の概要 日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。	
	特講（実務租税法Ⅱ）	授業のテーマ及び到達目標 主に消費税・相続税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。 授業の概要 日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。	
	特講（知的財産の応用）	授業のテーマ及び到達目標 本講義では、知的財産の応用として、特に知的財産権と租税法との関係について講義する。知的財産権に対する課税と、知的財産権を用いた租税回避への対応について理解することを到達目標とする。 授業の概要 知的財産権に対する課税および租税回避への対応について講義する。 資料として茶園成樹（2020）『知的財産法 第3版』有斐閣、金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂などを用いる。	
	特講（マーケティング概論）	授業のテーマ及び到達目標 マーケティングの基本概念と近年のデジタル・マーケティングの考え方に依拠しながら、データに基づいたマーケティング意思決定案をまとめられる。 授業の概要 「マーケティング」は、企業が市場に対して様々なはたらきかけを行って、ライバル企業よりも自社製品を顧客に選んでもらうための活動全体のことであり、企業と顧客との望ましい関係をデザインし実施する活動である。このように一口にマーケティングと言っても、その範囲は多岐にわたる。そのため、1つの講義だけでマーケティングに関わる様々な問題を網羅することはできない。そこでこの講義では、近年のインターネット技術の発展を踏まえて、デジタル社会を前提としたトピックや事例を取り上げ、それらを通じて基本的なマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	特講（社会課題とマーケティング）	授業のテーマ及び到達目標 近年の事例を通じて社会課題とマーケティングとの関わりに関する基本的な考え方を学び、自身が所属する組織の問題に対して適用できる。 授業の概要 近年、ソーシャルメディアの普及によって市場の評判がより短期間で可視化されやすくなっており、社会課題とマーケティングとの関わりは本格的に無視できない状況になりつつある。そこでこの授業では、具体的な事例を取り上げながら、社会課題とマーケティングに関する基本的な考え方について学ぶ。	
	特講（マネジメント概論）	授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができていない 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしていない 授業の概要 現代社会において、人は様々な組織とかかわり、それらの組織の影響の下、生活を営んでいる。それは決して営利組織だけを対象とした議論ではなく、古くて新しい組織、非営利組織もその対象となる。組織において、人はいかなる視点を用い、マネジメントしていくのか。その視点を科学的な観点から検討する。	
	特講（組織論）	授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができていない 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしていない 授業の概要 1900年代から始まる近代組織論の概略を確認しつつ、最新の理論についても議論を行う。 世の中には経営学の話題となる事象が多く存在する。最新のニュースを見れば、ほとんどが企業や行政など組織に絡むニュースである。現代社会において、人は会社、行政機関、NPOなど、実に様々な組織とかかわり生活をしている。その構造や文化、変化のメカニズムを理解することを本講義の目的とする。	
	特講（競争戦略）	授業のテーマ及び到達目標 テーマ「急変する経営環境と経営戦略の在り方」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握できる分析力を鍛えること ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の理論と動的な展開パターンを理解すること 授業の概要 経営戦略論の中で、事業部戦略とも呼ばれる競争戦略に焦点をおいて講義する。具体的に、経営課題の解決に向けた多数企業の事例分析を通じて、 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握し、 ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の動的な展開パターンを学習する。 実際の講義では、2日間を6つのセッションに分け、講義と討論を行う。	
	特講（ビジネス・イノベーション）	授業のテーマ及び到達目標 テーマ「今日企業に求められるイノベーション」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められるイノベーションと関連した専門知識を理解すること ②イノベーションの創出を目指す経営戦略の関連理論と動的な展開パターンを理解すること。 授業の概要 経営戦略論の学問分野で特に注目されている第4次産業革命、デジタルトランスフォーメーションなどと関連したイノベーションをメインテーマにして講義を進める。 具体的に、日米企業をメインとしたグローバル企業のイノベーション事例を多数用いて、今日の企業におけるイノベーションの意味や効果、創出プロセスと動向などの諸点を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	特講（地域企業経営）	授業のテーマ及び到達目標 地域企業経営に関連する基礎的知識や理論、今日的課題が理解できていること。 授業の概要 本講義では、地域経営で必須ともいえる地域企業や地域組織に着目する。その上で、関連する法制度やその変遷、継続的に経営していく上での経営・育成手法に関して、様々な事例から学ぶ。それにより、地域でみられる諸課題を経営の課題として捉えることができるようになり、今後の地域経営を考える上で必要となる視点を獲得することを目指す。	
	特講（地域デザイン）	授業のテーマ及び到達目標 地域デザインに関連する基礎的知識や今日的課題が理解できおり、演習や発表時に実践できていること。 授業の概要 地域デザインの概略に関して理解を深めた上で、「参加・協働のまちづくり」などをキーワードに、地域をデザインし協働を進めていく手法や関連する組織、課題などを、実践例などから学ぶ。さらには、地域デザインで用いられる機会の多いワークショップを講義内で実施する予定であり、それらを通して実践的に学んでいく。	
	特講（組織行動）	授業のテーマ及び到達目標 本授業は社会科学の行動科学の下位分野である組織行動論をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 1. 組織行動論の基礎的知識や理論を理解できる 2. 組織行動論の基礎的知識や理論の間の関係性を理解できる 3. 組織行動論の基礎的知識や理論を実際の経営事例に適用し、分析できる 授業の概要 組織行動論の様々な理論が登場した時代的・理論的背景を理解して、各理論の仮定・観点・概念・仮説を学習することを目的とする。具体的には、組織の中で起こる個人・グループ・組織レベルの様々な人間行動について理論を適用し、理由を推論する「理論的因果推論」(theoretical causal inference)を身につけることを目指す。	
	特講（ビジネス統計）	授業のテーマ及び到達目標 本授業はOLS回帰分析を用いた因果推論における仮説検証をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。 1. 因果推論に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を説明できる 2. 実際の認識、態度、行動に関するデータをEXCELなどの分析ツールを用いて分析できる 3. 分析結果の意味を社内外の利害関係者に分かりやすく説明できる 授業の概要 情報化技術が発展する近年の企業経営環境においては、直観や経験に依存した意思決定を超えて、「エビデンス」に基づいたマネジメントが求めている。例えば、人事部が評価制度を設計することにあたって、自社が蓄積している従業員の意識、態度、行動に関するデータを分析して(HRアナリティクス)、得られた自明な「エビデンス」がないと、社内の利害関係者を説得することは難しいだろう。本科目では因果推論(causal inference)に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を学習することを目標とする。また、EXCELなどの分析ツールを用いて、統計解析を実務で応用できるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特講(マーケティング・リサーチ)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動の理論的背景を理解する。 ・マーケティングに関するデータから消費者行動分析やリサーチの技術を身につける。 ・消費者行動モデルやマーケティングモデルに関する理解を深める。 <p>授業の概要</p> <p>インターネットや情報技術の発達に伴い、さまざまな消費者行動に関連する情報を比較的容易に取得可能になりました。それゆえ、学術だけでなく実務上においてもマーケティング活動の示唆を得るため、消費者行動に対するメカニズムやプロセスを体系的に理解することが求められる。本講義では、大きく2つのパートに分け、前半では消費者行動理論の理解を目的とし、後半では消費者行動やマーケティングをリサーチ・分析するための事例を学ぶ。終盤には消費者行動モデルやマーケティングモデルの最新の研究について紹介します。</p>	
	特講(データサイエンス基礎)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的分析に関する統計理論を理解する。 ・様々なデータを用いて適切に分析し、分析結果を理論的に解釈できる。 ・因果関係と相関関係の違いや因果効果について理解する。 <p>授業の概要</p> <p>学術だけでなく実務においても経験や勘に基づく意思決定ではなく、データ解析から正しい結果を導き出すことで合理的な意思決定をすることが求められている。そこで本講義では、データ解析について実務上の観点から利用可能な手法を習得することが大きな目的である。特に近年注目されている効果検証の観点から、計量経済分析や多変量解析に加えて、統計的因果推論に関しても扱うこととする。修士論文、課題研究だけでなく、実務上誤って効果を測定してしまうような案件について、紹介する。</p>	
	特講(コーポレート・ファイナンス)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代ファイナンス理論のうち企業の投資意思決定に関して基礎から学ぶことにより、最終的に企業の投資意思決定における諸課題を認識する能力およびそれらの解決能力を身につけることを目標としている。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業では、とくに貨幣の時間価値、リスク、資本コストなどの概念に対する理解を深め、投資意思決定における諸課題を考える。</p>	
	特講(人的資源管理)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態：通常講義 ・到達目標：人的資源管理の概念や制度の動向について理解している。学んだことから実社会で起きている経営現象を理解できる。自分自身のキャリア形成に置き換えて考えられる。 <p>授業の概要</p> <p>企業の資源は「人」「モノ」「金」「情報」と言われる中で「人」の重要性はますます高まっており、企業が人を最も効果的に活用していくための仕組みとは何かについて学んでいく。また、授業を通じて自分自身のキャリア開発についても考える。</p>	
	特講(リーダーシップ)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標：多様なリーダーシップスタイルを理解した上で、自分自身のリーダーシップ体験を振り返り、今後の課題・取組みの方向についてどのようにリーダーシップスタイルを開発していくのかその方法論について説明、議論できる。 <p>授業の概要</p> <p>リーダーシップの基礎理論、実践的研究及び事例全般について講義すると同時に、ワークショップ形式で出席者自身の体験をベースに対話を通じて体感的にリーダーシップについて理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特設外国語 英語Ⅰ	<p>This seminar class for graduate students explores economic theories applied to real-life situations. Skills honed in this class are critical thinking, research methodology, academic reading, data evaluation and professional presentation. The first section of the class is spent discussing the major theme, incentives and how people are incentivized—from the textbook <i>Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything</i>, by Levitt and Dubner (2005). In the second part of this class students will work with the professor on their own research through writing, editing, practicing and presenting in a professional format—and in English.</p> <p>実生活の状況に当てはまる経済理論を検討する。このクラスで磨かれる技能には、批判的思考、研究方法論、アカデミックリーディング、データ評価、専門的プレゼンテーション能力が含まれる。前半は、レヴィット&ダブナー著「ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探検する」から主要テーマ「インセンティブおよび人はどうしたらやる気になるか」について議論する。後半では、教員との共同作業を通して、英語でのレポート執筆、編集、専門的プレゼンテーションを行い、学生自身の研究を進める。</p>	
	特設外国語 英語Ⅱ	<p>TOEICは大学生のみならず、社会人も多く受験している英語技能テストです。本授業では、TOEIC L&R対策用学習教材を使用して、英語聴解力、読解力、語彙力を総合的にレベルアップさせることを目標とします。受講者は、学内外で開催される実際のTOEICを積極的に受験して下さい。履修対象は、主として中級レベル（英検2級程度）の英語力を持つ学生です。</p>	
	特設外国語 英語Ⅲ	<p>リーディングを中心として、総合的で高度な英語力を養成することを目標とする。</p> <p>文化や旅、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなど幅広い分野を題材に、写真や映像を豊富に使い、五感を使って主として語彙力と読解力を伸ばす。また、オーラルコミュニケーション、ビデオ視聴、ライティングも練習する。授業では、原則的に訳読は行わず、できるだけ多く英語を使うことに重点を置く。</p> <p>その他、本科目には以下のような特長がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルのリーディングを扱う。アカデミック・イングリッシュを学ぶ準備にも好適である。 ・様々な国からのリアル・ストーリーを紹介する。学習者は英語とともに世界を学ぶ。 ・語彙力、読解力、アカデミック・イングリッシュおよびクリティカル・シンキング能力を養うための演習を豊富に行う。 ・IELTSやTOEFL試験対策に有益な質問形式の演習を行う。 ・関連サイトで、音声、ビデオ、ビデオスクリプト、語彙リストを利用できる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 経済経営専攻科目	特設外国語 英語Ⅳ	<p>This course is designed for non-native speakers of English who need to learn advanced writing strategies to succeed in the academic environment. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper. Students will be asked to develop individual research projects on a topic of their interest using the techniques and methods discussed during this lecture, with the final objective of demonstrating their skills in a final research paper at the end of the course.</p> <p>During the course, students will be strongly encouraged to work on developing their vocabulary, writing, listening, reading and speaking skills according to the average standards necessary to successfully comprehend the academic subjects under discussion.</p> <p>学問的環境で成功を収めるために高度な英語ライティング能力を必要とするノンネイティブ話者を対象としている。主要な目標は、論理的思考の段階的訓練を通じて、学生が明瞭で説得力のある学術論文を書くために必要な技能を獲得することである。学生は、講義を通じて身に付けた技術と方法論を用い、自身が関心のあるトピックに関して研究プロジェクトを進めていくことが求められ、最終的に研究論文を執筆する。 講義全体を通じて、学生は議論しているテーマを理解するのに必要な語彙力および4技能を高めるよう努力することが求められる。</p>	
	特設外国語 ロシア語Ⅰ	<p>ロシア語力を多面的に高めていくことを目標とする。主として、露文のリーディング・ライティング、ロシア語のインターネット検索等を通じて、ロシア社会における諸問題の理解を深めることにより、研究に必要な知識を身につけてもらうことを目指す。受講生の興味・関心と語学力に応じて、授業のテーマとレベルを調整したテキストを使用する。</p>	
	特設外国語 ロシア語Ⅱ	<p>ロシア語の新聞・雑誌、あるいは近年において容易に閲覧できるようになったインターネット上の記事を、辞書など補助教材の一定のサポートを得ることにより、正確に読めるようになること——これが本授業の目標である。本授業には多様なロシア語学習歴を有する受講生諸君が来ることと予想されるため、それぞれの語学力に応じ、授業レベルを調整することとする。これまでの各自の学習歴において不足していた文法的知識についても補強する。</p>	
	特設外国語 中国語Ⅰ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）序文～第2集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	
	特設外国語 中国語Ⅱ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）第3集～第5集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科経済経営専攻科目	特設外国語 韓国朝鮮語	主に東アジア地域の研究を目指し朝鮮半島に関心のある学生を対象に、研究動向の整理やインターネット検索など研究活動を進める上で求められる韓国朝鮮語の運用能力の養成を目指す。あわせて政治・経済・社会・文化などの時事問題に触れて朝鮮半島への理解を深める。 到達目標は次のとおりとする。 ・朝鮮半島の時事問題に理解と関心を持つ。 ・辞書や参考書を引きながら韓国朝鮮語の文献を読解できる。	
	特設外国語 日本語 I	〔概要〕 この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。 〔ねらい〕 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)ハンドアウトと論文の書き分け、(3)口頭発表のスキル、(4)日本語待遇法の理解と習得などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについての習熟も図る。	
	特設外国語 日本語 II	〔概要〕 この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。「特設外国語 日本語 I」からのさらなる熟達・発展をめざすクラスである。 〔ねらい〕 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)論文デアル体・語彙の習得、(3)ハンドアウトと論文の書き分け、(4)口頭発表のスキル、(5)レポート・論文・アカデミックプレゼンテーションの資料作成、などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについてのさらなる熟達も図る。	
共生システム理工学専攻科目 共生システム理工学専攻科目	生産システム最適化特論 I	本講義では、ものづくり(製造業)の業務における管理手法である「経営工学」手法の基礎的な知識、理論、手法を習得し、問題発見・問題解決のための実践的な能力習得を目的とする。具体的には、製造業を対象とした製品設計や生産管理業務に従事する実務者を想定し、製品企画から、製品設計、生産設計、工程管理、生産計画を含むエンジニアリングチェーンにおける各種業務に必要な経営工学分野の幅広い知識、理論や、実務で役立つ手法を対象とする。授業形式は、講義と演習や、輪講形式で進めていく。	
	物性物理学特論 I	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。学部レベルでの物理数学、力学、電磁気学、量子力学を基礎にして、モノの性質を考えていく。物性物理学で提示される物理モデルについて理解し、解析的に取り扱えることを目標とする。また、基本的な物性実験の手法について計測原理も含めて理解できるようにする。	
	メカトロニクス特論 I	本講義では、平易な英語で書かれたロボット工学の入門書を輪読し、メカトロニクス・ロボット工学に関する専門的知識を英語で学ぶことを通じて、英語で書かれた論文やレポート等を読む力を涵養する。使用する教科書の内容は、学類時代の講義で学んだことを多く含んでおり、日本語で学んだ事項を英語で復習するということを通じて授業のねらいを達成する。	
	物性物理学特論 II	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。特に光・放射線に関する物理的内容を題材として進め、物性物理学に基づいた光・放射線解析手法を理解し、また測定によって得られたデータを解析できることを目標とする。実践的な能力を高めるために、モンテカルロ法を用いた粒子輸送計算シミュレーションやγ線のエネルギースペクトル測定実習など具体的な課題に取り組むこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	メカトロニクス特論Ⅱ	授業概要： メカトロニクス技術の重要な応用分野はロボットである。ロボットに関する最新の論文を読み解き、最新のロボット技術への理解を深める。 授業内容： 1. 最新のロボットに関する論文を担当教員と相談して1編選ぶ。 2. 毎週、その論文の内容について少しずつ発表しながら討論し、内容の理解を進める。 3. 最終回では、論文内容をまとめた発表を行う。	
	分析化学特論Ⅰ	分析化学は大きく大別すると「分離化学」と「計測化学」とに分けることができる。本講義では、分離化学を重点的に講義する。一方、計測化学は、分析化学特論Ⅱで取り扱う。分離化学では、抽出、すなわち分配現象を中心に解説する。具体的には、溶媒抽出における液／液分配、固相抽出における固／液分配、界面活性剤によるミセル分配などの分配現象を取上げて、理論と実際の実験方法を踏まえて解説する。	
	分析化学特論Ⅱ	現代科学の著しい進歩は機器分析の発展によって支えられている。環境分析においても、環境動態を解明する上で、機器分析法は重要な役割を担っている。本授業では、学部で行われる機器分析より高度な機器分析科学を講義する。光分析、電磁気分析、電気分析、分離分析、その他の5種類に分類し、具体的には、サーマルレンズ吸光度法、ストップフロー分析、ゼーマン偏光型原子吸光度計、化学発光分析法、ICP-MS/MS、三次元NMR、CT法、カールフィッシュャー水分計、キャピラリー電気泳動法、質量分析法等のデータの解釈、具体的な測定例を中心に最新のトピックスを交えて解説する。	
	環境微生物学特論Ⅰ	微生物の代謝やその制御が現在の地球環境の形成に果たした役割を、地球史と微生物の進化・分化との関連から解説する。 授業の到達目標及びテーマ： ・ 土壌、水環境、地下などの生物化学的プロセスに果たす微生物の役割を理解する。 ・ 農業、水産業、林業、畜産業の場としての地圏・水圏における物質循環や地球環境問題などの各分野・問題で、微生物学が、イノベーションや問題解決に貢献する題材を理解し、考えるための基礎知識を身につける。	
	分子生態学特論Ⅰ	本授業では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、適宜、報告・討論・ワークショップなどを混ぜながら進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野に関連した視野を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料を丁寧に読解するほか、論文の構造に着目した読解方法、自らの論文執筆に活かすためのデータの蓄積、批判的な論文読解、より効果的な文章の改善案の検討などについて解説する。	
	流域水管理特論Ⅰ	本授業では、降水から、蒸発、地下浸透、河川への流出の一連の水循環過程と、この水循環に関わる社会の影響を理解するとともに、具体事例を基に流域水マネジメントの対象となる水循環要素の出現頻度と治水、利水関連施設の役割を講述する。また、この流域水マネジメントの応用として、ディベートによる演習も行い、水管理、水循環に対する社会的な各立場からの視点を養うことにも取り組む。	
	流域水循環特論Ⅰ	この授業では、水循環システムのメカニズム、モデル化、プログラミングについて講義と演習を組み合わせ学習する。最終的には、地中の水移動現象の支配方程式である飽和・不飽和浸透流の数値モデルを自力で作成する力の獲得を目指す。これに向けて、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて移流方程式、拡散方程式、移流拡散方程式を順に数値的に解く力を身につける。また、計算結果を可視化・図化する能力の獲得を目指す。いずれも講義に演習形式を取り入れて、教員と対話しながら実践的に指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学専攻科目 環境微生物学特論Ⅱ 分子生態学特論Ⅱ 流域水管理特論Ⅱ 流域水循環特論Ⅱ 地下水盆管理計画特論Ⅱ	地下水盆管理計画特論Ⅰ	<p>【授業概要】 地下水盆そのものと地下水盆を取り巻く諸条件について体系的・定量的に把握・評価するための専門技術を解説し、地下水盆を量・質両面から適切に管理するための方法論と実例を紹介する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に必要な地下水盆構造の解明や帯水層特性の把握、涵養量や揚水量の算出方法、地下水観測記録の解析方法、許容揚水量の設定や最適揚水量配分の方法などについて理解し、地下水盆の評価を行うための専門技術を身につける。</p>	
	環境微生物学特論Ⅱ	<p>生物地球化学的な物質循環の中で人間活動による生物生産が持続可能なものとなるために重要な微生物学的過程に着目した研究論文等を紹介する。</p> <p>持続可能性のためには温室効果ガスの排出が少ない技術を選択する必要がある。この観点で、微生物による独立栄養と従属栄養とのバランス、温室効果ガスであるメタンや一酸化二窒素の発生やその消費を対象とした研究や、工業的窒素固定に依存しない生物生産に関わる窒素固定に関わる研究、微生物反応の制限要素となる元素の象徴に関わる研究等を対象とする。</p>	
	分子生態学特論Ⅱ	<p>本論では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、報告・討論・ワークショップなどをまじえつつ進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野の成果・手法を援用することを学び、行政等における実務家として十分な情報発信能力を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料の的確な読解に基づく、先行研究のレビューやその発表技術、先行研究を自らの論文執筆に活かすためのテクニックなどについても解説する。</p>	
	流域水管理特論Ⅱ	<p>水循環、水資源管理の一連の基礎的内容を踏まえ、社会の高度化や気候変動等の環境変化を促す外的要因を考慮することで、発展的に生じうる流域問題をシミュレーションするための理論を講義と演習を通じて学ぶ。また、シミュレーションを行うことで将来的に生じうる治水、利水対策の問題点を考察し、今後の安全かつ快適な社会創生において必要とされる流域の適応策、緩和策について具体的に計画できるマネジメント能力の育成に取り組む。</p>	
	流域水循環特論Ⅱ	<p>この講義では、流域内における水の動態に関するデータを計算機を用いて自在に解析し、価値ある知見を見出すスキルを演習形式で体験的に習得することを目的とする。具体的には、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて、①水循環に関する数値データの収集・解析・結果の可視化、②流域の水文・地理データの収集・解析・結果の可視化、③数値データを解析するためのアプリケーション開発、のいずれかに取り組む。①～③の選択は、受講者の進路や希望などに応じて決定する。</p>	
	地下水盆管理計画特論Ⅱ	<p>【授業概要】 この演習では、地下水盆モデル化の基礎となる地下水盆の離散化の考え方や地下水シミュレーション技術の基礎、地下水モデルの種類、実際の地下水盆のモデル化、地下水シミュレーション解析技術の適用と応用までを扱い、地下水盆管理計画のための地下水シミュレーション解析技術を実践的に習得する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に欠かすことのできない地下水シミュレーション解析技術を習得し、地下水モデルを自ら作成し運用できるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	環境放射能学Ⅰ	環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動にともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (153 脇山義史/3回) 陸域の放射性核種動態について解説する。 (151 高田兵衛/3回) 海洋の放射性核種動態について解説する。 (154 Maksym Gusyev/3回) 放射性核種動態の数値解析について解説する。 (99 Vasyl Yoschenko/2回) 生態系の放射性核種循環・移行について解説する。 (179 五十嵐康記/2回) 水循環に関連する放射性核種動態について解説する。 (178 石庭寛子/2回) 陸生動物への移行・影響について解説する。	オムニバス方式
	環境放射能学Ⅱ	環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動にともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (149 和田敏裕/2回) 水圏での放射性核種の移行・影響について解説する。 (98 塚田祥文/2回) 農業環境の放射能汚染について解説する。 (100 Aleksei Konoplev/2回) 過去の原発事故を含めた環境放射能研究について解説する。 (150 Ismail Md. Mofizur Rahman/3回) 放射能の除去技術・修復について解説する。 (101 鳥居建男/4回) 放射線量測定について解説を行う。 (152 平尾茂一/2回) 大気中の放射性核種の拡散・数値解析について解説する。	オムニバス方式
	核種分析学	天然および人工放射性核種の種類・起源・基礎的性質、放射線と物質の相互作用等の物理、その計測原理の理解を目的とする。天然放射性核種としては、ウラン・トリウム系列核種、長寿命放射性核種、宇宙線生成核種、更には天然原子炉による放射性核種を理解する。また、人工放射性核種については、大気圏核実験、原子炉、核燃料サイクルなどに由来する放射性核種について学習する。また、アルファ線、ベータ線、ガンマ線の計測原理と、放射線画像計測など基礎から応用までの放射線計測技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (98 塚田祥文/8回) 天然・人工放射性核種とそれらの性質・分析について開設する。 (152 平尾茂一/7回) 放射線計測技術と関連する基礎理論を解説する。	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	原子力災害学	<p>本講義では原子力災害に関する講義を行う。チェルノブイリ、スリーマイル、セラフィールド、福島で発生した原子力事故を題材として、災害の要因、緊急時対応、放射性物質の起源（ソースターム）や環境中での輸送と生態系への移行、そのモデル化と予測、環境修復を含む事故後の対策について解説を行う。受講者は、原子力施設が住民や環境に与える潜在的な影響や危険性を学び、原子力災害発生時の緊急時対応や環境修復策に関する基本原則等を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （100 Aleksei Konoplev/4回） 過去の原因事故、事後の対応、影響を概説する。 （153 脇山義史/4回） 陸域の放射性核種動態について解説する。 （151 高田兵衛/4回） 海洋の放射性核種動態について解説を行う。 （150 Ismail Md. Mofizur Rahman/2回） 事故後の環境修復について解説を行う。 （154 Maksym Gusyev/1回） 放射性核種を用いた環境動態解析について解説する。</p>	オムニバス方式
	放射生態学	<p>放射線が生物に及ぼす影響および生物を介した放射性物質の移行に関する講義を行う。各種放射線による生体への影響やその発現機構を解説するとともに、放射性物質の生態系内での生物を介した移行に関する研究事例を紹介し、それらの背景・理論・研究手法について教授する。</p> <p>（オムニバス形式/全15回） （99 Vasyl Yoschenko/3回） 放射線影響・放射線防護の理論について解説する。 （149 和田敏裕/3回） 水圏における生物への放射線影響について解説する。 （94 難波謙二/3回） 生物と放射性核種の相互作用について解説する。 （178 石庭寛子/2回） 陸生生物への放射性核種の移行・影響を解説する。 （179 五十嵐康記/2回） 森林生態系における放射性核種の循環について解説する。 （147 兼子伸吾/2回） 放射線影響を分子生物学の観点から解説する。</p>	オムニバス方式
	水圏放射生態学	<p>水圏放射生態学の基礎となる水生生物（主に魚類）の生理生態や、震災前の福島県の海面・内水面漁業について説明するとともに、津波と原発事故による影響や、水生生物の放射性セシウム汚染実態とそのメカニズムについて海域と陸水域に分けて説明する。また、福島とチェルノブイリとの比較も示したうえで、福島県の漁業復興に向けた取り組みを紹介する。</p>	
	森林放射能学	<p>森林放射能学の基礎知識を習得するための講義です。講義では、植物体内における光合成と物質生産を学びます。これは、植物や森林における物質循環を理解するための必須項目です。講義では、無機栄養の利用、水分生理、成長と発達に及ぼす環境の影響、植物のストレスなどを順に学びます。その後、植物の物質輸送における放射性物質の動態のメカニズム、植物への放射線の影響、森林や林産物の放射能に関する実践的な課題などを明らかにします。</p>	
	動物生態学	<p>野生動物への放射性物質の動態や、影響を明らかにするために必要な動物生態学の基礎知識を習得する。前半は採餌理論、種内・間関係、社会、進化など動物生態学の基礎となる理論と概念について概説を行う。後半は、研究論文や放射線防護の国際機関が発行する報告等を用いて、野生動物を対象とした放射線研究に関する事例や国際的な動向を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	陸域放射能動態学	本科目では、陸域における水循環・土砂動態に関連した放射性物質の動態に関する講義を行う。陸域における放射性物質の再移動を規定する水循環・土砂動態の基礎を概説した後、大気核実験や福島原発由来の放射性物質の動態に関する観測事例を紹介する。受講者は、講義を通じて水・土砂動態や放射性物質の再移動プロセスを定量的に評価する手法や放射性物質をトレーサーとして活用する方法を学ぶ。また、文献購読を通じて他者の研究内容を理解・説明する能力を涵養する。	
	移動現象論	本科目では、放射性物質の環境動態を理解するための移動現象（運動量、熱、物質移動）を学び、基本的な方程式を理解し、その数値解析法を学ぶことを目的とする。移流拡散方程式を理解し説明できること、実環境中での物質輸送現象に応用できる能力を培う。前半は、理論的背景、方程式の導出等について概説する。後半は、現実の適用事例について理解を深めるとともに、大気中の物質輸送に関わる物理現象を学習し、研究論文等を用いて最新の動向を学ぶ。	
	放射能モデリング学特論	原子力発電所事故後の環境中での放射性物質の拡散予測や事故後の対策の効率性を分析するためには、モニタリングデータに基づく数値モデリングが主要なツールとなる。本科目では、表流水（池、貯水池、河川、沿岸域）、地下水（流域、沿岸域）を対象とした放射性核種移行モデルおよび食物網／線量解析モデルとそれらを活用するためのソフトウェアシステムについて概説する。また、チェルノブイリ原子力発電所、福島第一原子力発電所の事故により放射性降下物の影響を受けた地域における放射性核種輸送予測や事故後の対策評価の実例を挙げながら、モデリングツールの実装について説明する。	
	海洋放射能動態学特論	本科目では、海洋における放射性物質の動態に関する講義を行う。前半では海洋における物理・化学・生物についての基礎知識、更には海洋での物質循環に関して理解をする。中盤から後半にかけて、海洋での天然及び人工放射性物質の分析手法や動態、更には海水、生物、海底堆積物への移行の定量方法を修得することを目的とする。	
	陸域生物圏放射能動態学	農業環境から植物に移行する放射性核種の動態に関する講義を行う。土壌および灌漑水における放射性核種の挙動と存在形態変化、その要因について学習する。葉面吸収や根根吸収によって植物へ吸収する放射性核種について理解する。また、植物へ移行する放射性核種の類推手法を学び、作物中放射性核種濃度の評価を習得する。更に、作物摂取による内部被ばく線量についても学習する。	
	放射能等の分離技術	本科目では環境試料中の放射性物質の分離技術についての講義を行う。放射能汚染に関する研究の歴史・背景、対象となる核種の性質、放射性物質関連の規制ならびに放射化学の基礎的内容を概説したのち、放射能汚染に曝された土壌や水などの環境試料から、放射性物質を分離・除去する技術や課題について、研究事例を交えながら解説を行う。受講者はそれらの技術の背景となる物理的・化学的プロセスの基礎的理論および応用方法について修得する。	
	放射線計測工学特論	本科目では、環境中における放射性物質の分布、挙動を把握・評価する上で重要となる放射線の計測技術について理解を深めるため、前半は主要な放射線である α ・ β ・ γ 線の特徴と放射線挙動の物理、放射線の輸送解析技術、計測技術の基礎について理解を深める。特に、原子力分野、理工学分野、医学分野などで進められている放射線計測技術の現状とその利活用、また今後必要となる課題について理解を深める。後半は、放射線源を把握し環境中での放射線挙動を理解する上で重要となる放射線分布の可視化、イメージング技術に関する研究開発について理解を深めるとともに、放射線計測技術と異分野の技術との融合による計測技術、解析技術の高度化について学習し、さまざまな分野、領域への放射線計測手法の適用や応用の能力を高める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	先端食品科学	<p>食品科学分野における基盤技術、理論、応用開発事例などの現状と最新の動向および今後の展望について、各担当教員がそれぞれ専門とする以下の分野について講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 石川大太郎、157 吉永和明、103 平修、159 渡部潤 / 1回) (共同)</p> <p>第1回 食品の非破壊分析、脂溶性成分分析、食品網羅的分析および微生物ゲノムの基礎 (105 藤井力、106 西村順子、104 熊谷武久、102 松田幹 / 1回) (共同)</p> <p>第2回 微生物機能利用(真核微生物)、微生物機能利用(原核微生物)、乳酸菌機能論およびプレバイオ食品免疫論の基礎 (158 升本早枝子、156 尾形慎、155 石川大太郎 / 1回) (共同)</p> <p>第3回 ファイトケミカル機能論および糖質素材・酵素合成論の基礎、食品の非破壊分析の事例と動向 (157 吉永和明、103 平修 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 脂溶性成分分析および食品網羅的分析の事例と動向 (159 渡部潤、105 藤井力 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 微生物ゲノムおよび微生物機能利用(真核微生物)の事例と動向 (106 西村順子、104 熊谷武久 / 1回) (共同)</p> <p>第6回 微生物機能利用(原核微生物)および乳酸菌機能論の事例と動向 (102 松田幹、158 升本早枝子 / 1回) (共同)</p> <p>第7回 プレバイオ食品免疫論およびファイトケミカル機能論の事例と動向 (156 尾形慎 / 1回)</p> <p>第8回 糖質素材・酵素合成論の事例と動向、まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		先端農業生産科学	<p>農業生産科学コースの各専門分野のテーマについて、社会的な背景、基盤技術、理論、応用事例などの現状、最新の研究動向および今後の展望について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(107 新田洋司 / 1回)</p> <p>第1回 作物学 (160 高橋秀和 / 1回)</p> <p>第2回 遺伝育種科学 (161 渡邊芳倫 / 1回)</p> <p>第3回 育土栽培学 (162 深山陽子、163 高田大輔 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 園芸学特論 (108 篠田徹郎、164 岡野夕香里 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 植物保護学特論 (109 大瀬健嗣 / 1回)</p> <p>第6回 土壌環境科学 (165 二瓶直登 / 1回)</p> <p>第7回 植物栄養学特論 (110 石川尚人 / 1回)</p> <p>第8回 畜産学</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目	先端生産環境科学	<p>国土管理の基盤である森林科学と農業工学を領域とする生産環境科学コースにおいて、持続可能性の観点から、環境調和型の農林業生産と、生態学的な機能の高度化を目指すことは重要な課題である。また、農村地域の特徴、あるいは課題解決・対策に必要とされるアプローチは多様である。本講義では、生産環境科学コースを構成する多方面の専門領域から、農村地域の課題を解く手がかりとなり得る先進的な話題について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(167 望月翔太 /1回) 第1回：生産環境科学の先進的な取組とは (172 窪田陽介、171 牧雅康 /1回) (共同) 第2回：農業技術における国内外の先端研究 (170 申文浩 /1回) 第3回：行政が展開している先進的な取組：農業農村整備 (166 福島慶太郎 /1回) 第4回：森林管理における国内外の先端研究 (168 藤野正也 /1回) 第5回：行政が展開している先進的な取組：森林管理 (112 神宮字寛 /1回) 第6回：農村の生態系管理における国内外の先端研究 (113 原田茂樹、111 金子信博 /1回) (共同) 第7回：行政が展開している先進的な取組：気候変動と生物多様性保全 (169 石井秀樹、167 望月翔太 /1回) (共同) 第8回：行政が展開している先進的な取組：防災・減災</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	先端農業経営科学	<p>本講義では、農業、食料、地域をめぐるイノベーションの動向を先進的な社会科学理論と分析視角から学修していく。持続的なフードシステムに向けた課題、世界の動向、産地の新展開に対して、それらを支えるイノベーションをキー概念として最新の知見を習得することをめざす。前半部分では、食料政策、農産物流通、マーケティングをめぐるイノベーションを取り上げ、後半部分では、福島県の原子力被災地域に焦点を当て、地域産業復興の最前線を支えるイノベーションを取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(174 則藤孝志 /2回) 第1回 食料の安定供給をめぐる社会動向とイノベーション 第8回 まとめ (173 原田英美 /1回) 第2回 農産物流通の新展開と農業経営戦略 (115 河野恵伸 /1回) 第3回 マーケティング・リサーチの最前線 (175 高山太輔 /1回) 第4回 GI (地理的表示) の評価分析 (116 小山良太 /1回) 第5回 風評問題とこれからの産地づくり (114 荒井聡 /1回) 第6回 地域農業システムのイノベーション (176 林薫平 /1回) 第7回 地域資源活用の新展開</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 食農科学研究科食農科学専攻科目	復興知と農業・食料のイノベーション	<p>「食」と「農」におけるイノベーションの特質と課題を示しつつ、受講者各自の専門的スキルも基づいて、復興と持続可能な社会の構築に求められるイノベーションを考究する。また東日本大震災・原子力災害で被災した地域の復旧・復興を超えて、福島の地から明らかとなった「復興知」、ひいては日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (107 新田洋司、169 石井秀樹 /2回) (共同) 第1回(講義)：人類社会とイノベーション 第15回(演習)：復興知の確立とイノベーションの社会的実装 (115 河野恵伸 /1回) 第2回(講義)：農業技術と食料・農林水産業 (107 新田洋司/2回) 第3回(講義)：食料生産と農林水産業 第9回(講義)：福島イノベーションコースト構想と復興知 (169 石井秀樹/1回) 第4回(講義)：東日本大震災と原子力災害の被害の特質 (116 小山良太 /1回) 第5回(講義)：農水産物の風評問題の社会的構造と協同組合間連携 (113 原田茂樹/1回) 第6回(講義)：放射線の計測と対策技術 (165 二瓶直登/1回) 第7回(講義)：農作物への放射性物質の移行メカニズムと吸収抑制対策 (104 熊谷武久/1回) 第8回(講義)：お米のブランド化と販売面 及び 機能性表示食品制度(農産物、加工食品) (113 原田茂樹、169 石井秀樹/1回) 第10回(演習)：環境共生とイノベーション (104 熊谷武久、115 河野恵伸、169 石井秀樹/1回) (共同) 第11回(演習)：福島と食品産業のデザイン (116 小山良太、169 石井秀樹/1回) (共同) 第12回(演習)：福島と新しい地域社会・市民社会のデザイン (107 新田洋司、165 二瓶直登、169 石井秀樹/1回) (共同) 第13回(演習)：福島と新しい農業のデザイン (107 新田洋司、169 石井秀樹、115 河野恵伸/1回) (共同) 第14回(演習)：イノベーション思考とデザイン思考</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目 アグロエコロジー	<p>「アグロエコロジー」の定義と最新の議論について総括し、世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。あわせて農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみを、認証制度を活用して構築する方法について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(111 金子信博 /3回)</p> <p>第1回 近代農法の問題点とアグロエコロジーの必要性</p> <p>第9回 小規模・家族農業と保全農法</p> <p>第11回 保全農法による農生態系の多様化</p> <p>(114 荒井聡 /1回)</p> <p>第2回 環境保全型農業の展開条件</p> <p>(162 深山陽子 /1回)</p> <p>第3回 気候変動と一次生産への影響</p> <p>(109 大瀬健嗣 /1回)</p> <p>第4回 土壌劣化とその影響</p> <p>(160 高橋秀和 /1回)</p> <p>第5回 作物の遺伝資源の多様性</p> <p>(112 神宮字寛 /1回)</p> <p>第6回 生物多様性と農業・農村整備</p> <p>(108 篠田徹郎 /1回)</p> <p>第7回 生物多様性を活用した害虫管理</p> <p>(165 二瓶直登 /1回)</p> <p>第8回 栽培様式の違いによる土壌微生物の多様性</p> <p>(161 渡邊芳倫 /2回)</p> <p>第10回 保全農法における土壌管理</p> <p>第12回 保全的水田農業の技術開発</p> <p>(111 金子信博、161 渡邊芳倫 /1回) 共同</p> <p>第13回 アグロエコロジーにおける栽培技術【演習】</p> <p>(111 金子信博、112 神宮字寛 /1回) 共同</p> <p>第14回 アグロエコロジーによる環境保全【演習】</p> <p>(111 金子信博、114 荒井聡 /1回) 共同</p> <p>第15回 農業を基盤とする社会システムの転換【演習】</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 特別演習	地域政策科学特別演習 I	<p>本演習は、複合的な視点に立って、地域社会における諸課題を解決するための基礎的な知見を学ぶとともに、受講生のプレゼンテーション技術の習得を目的とする。教員と受講生との間のより専門的な対話を重視する観点から、少人数制で複数のクラスに分けて実施する。</p> <p>(1 塩谷弘康) 法の動態をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (2 鈴木典夫) 各種福祉課題の解決、福祉コミュニティ・地域づくりを探求するための演習を行う。 (3 田村奈保子) フランスを中心としたヨーロッパにおける文化・芸術をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (4 浅野かおる) 社会教育研究の観点で演習を行う。 (5 福島雄一) 商法及びその運用実務などをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (6 垣見隆禎) 自治体行政法や自治体政策法務をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (7 加藤真義) 社会学理論の基本を確認する観点でを行う。 (8 坂本恵) 地域社会の国際化に関する演習を行う。 (9 高橋準) 地域社会とジェンダーの問題を探求するための研究方法および実例に関わる演習を行う。 (10 岩崎由美子) 農村計画や農村コミュニティをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (11 菊地芳朗) 考古学にもとづく日本列島および世界の諸課題に関する演習を行う。 (12 阿部浩一) 日本中世史に関する論文講読を通じて演習を行う。 (13 照沼かほる) アメリカあるいはイギリスの諸課題について文化研究の観点から演習を行う。 (14 今西一男) 社会調査の手立てを通じて、コミュニティデザインの現場を探求するための演習を行う。 (15 村上雄一) 国際交流に関する演習を行う。 (16 荒木田岳) 地方行政をめぐる諸課題についての演習を行う。 (17 佐々木康文) 社会における情報化の現状と課題に関する演習を行う。 (18 川崎興太) 都市計画やまちづくりをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (19 黒崎輝) 国際政治の理論研究や歴史研究に関する演習を行う。 (20 金井光生) 法の支配と立憲主義をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (21 鈴木めぐみ) 国際法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (22 大黒太郎) 先進産業社会の比較政治、とりわけ政党政治の理論的動向を検討する。 (23 金炳学) 民事手続をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (24 西田奈保子) 行政学の理論的動向と行政実態に関する演習を行う。 (25 長谷川珠子) 労働法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (26 中里真) 消費者法や財産取引をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (27 山崎暁彦) 民法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (28 徳竹剛) 日本近現代史に関する演習を行う。 (29 板倉有紀) 地域における支援やケアについて、社会学の観点からの演習を行う。 (30 新藤雄介) メディア研究に視座を置いた演習を行う。 (31 高橋有紀) 刑事法・刑事政策（司法福祉を含む）をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (32 阪本尚文) 憲法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (33 上床悠) 行政法や政策法務にかかわる諸課題に関する演習を行う。 (34 岸見太一) 政治哲学における諸課題に関する演習を行う。 (35 廣本由香) ローカルな環境問題の解決方法と課題に関する演習を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	地域政策科学特別演習Ⅱ	<p>本演習では、地域政策科学特別演習Ⅰで得た基礎的な知見を基に、最新の研究動向についての理解を深め、受講生のプレゼンテーション技術の向上を目的とする。引き続き教員と受講生との間のより専門的な対話を重視する観点に立って、少人数制で複数のクラスに分けて実施する。</p> <p>(1 塩谷弘康) 法の動態をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (2 鈴木典夫) 各種福祉課題の解決、福祉コミュニティ・地域づくりを探究するための演習を行う。 (3 田村奈保子) フランスを中心としたヨーロッパにおける文化・芸術をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (4 浅野かおる) 社会教育研究の観点で演習を行う。 (5 福島雄一) 商法及びその運用実務などをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (6 垣見隆禎) 自治体行政法や自治体政策法務をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (7 加藤眞義) 社会学理論の基本を確認する観点でを行う。 (8 坂本恵) 地域社会の国際化に関する演習を行う。 (9 高橋準) 地域社会とジェンダーの問題を探究するための研究方法および実例に関わる演習を行う。 (10 岩崎由美子) 農村計画や農村コミュニティをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (11 菊地芳朗) 考古学にもとづく日本列島および世界の諸課題に関する演習を行う。 (12 阿部浩一) 日本中世史に関する論文講読を通じて演習を行う。 (13 照沼かほる) アメリカあるいはイギリスの諸問題について文化研究の観点から演習を行う。 (14 今西一男) 社会調査の手立てを通じて、コミュニティデザインの現場を探究するための演習を行う。 (15 村上雄一) 国際交流に関する演習を行う。 (16 荒木田岳) 地方行政をめぐる諸問題についての演習を行う。 (17 佐々木康文) 社会における情報化の現状と課題に関する演習を行う。 (18 川崎興太) 都市計画やまちづくりをめぐる諸課題に関する演習を行う。 (19 黒崎輝) 国際政治の理論研究や歴史研究に関する演習を行う。 (20 金井光生) 法の支配と立憲主義をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (21 鈴木めぐみ) 国際法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (22 大黒太郎) 先進産業社会の比較政治、とりわけ政党政治の理論的動向を検討する。 (23 金炳学) 民事手続をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (24 西田奈保子) 行政学の理論的動向と行政実態に関する演習を行う。 (25 長谷川珠子) 労働法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (26 中里真) 消費者法や財産取引をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (27 山崎暁彦) 民法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (28 徳竹剛) 日本近現代史に関する演習を行う。 (29 板倉有紀) 地域における支援やケアについて、社会学の観点からの演習を行う。 (30 新藤雄介) メディア研究に視座を置いた演習を行う。 (31 高橋有紀) 刑事法・刑事政策（司法福祉を含む）をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (32 阪本尚文) 憲法をめぐる諸課題に関する演習を行う。 (33 上床悠) 行政法や政策法務にかかわる諸課題に関する演習を行う。 (34 岸見太一) 政治哲学における諸課題に関する演習を行う。 (35 廣本由香) ローカルな環境問題の解決方法と課題に関する演習を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	地域政策科学特別研究 I	<p>本特別研究では、その分野における専門的知見をもった教員が具体的な研究テーマについての研究指導を行う。受講生の学術論文の作成につながるような指導を特に重視し、少人数制で複数のクラスに分けて実施する。</p> <p>(1 塩谷弘康) 法の動態をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 鈴木典夫) 各種福祉課題の解決、福祉コミュニティ・地域づくりを探究するための研究指導を行う。</p> <p>(3 田村奈保子) フランスを中心としたヨーロッパにおける文化・芸術をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 浅野かおる) 社会教育研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(5 福島雄一) 商法及びその運用実務などをめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 垣見隆禎) 自治体行政法や自治体政策法務をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 加藤眞義) 社会学理論の基本を確認しつつ、研究指導を行う。</p> <p>(8 坂本恵) 地域社会の国際化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 高橋準) 地域社会とジェンダーの問題を探究するための研究手法および実例に関わる研究指導を行う。</p> <p>(10 岩崎由美子) 農村計画や農村コミュニティをめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 菊地芳朗) 考古学にもとづく日本列島および世界の諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 阿部浩一) 日本中世史に関する論文講読を通じて研究指導を行う。</p> <p>(13 照沼かほる) アメリカあるいはイギリスの諸問題について文化研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(14 今西一男) 社会調査の手立てを通じて、コミュニティデザインの現場を探究するための研究指導を行う。</p> <p>(15 村上雄一) 国際交流に関する研究指導を行う。</p> <p>(16 荒木田岳) 地方行政をめぐる諸問題についての研究指導を行う。</p> <p>(17 佐々木康文) 社会における情報化の現状と課題に関する研究指導を行う。</p> <p>(18 川崎興太) 都市計画やまちづくりをめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 黒崎輝) 国際政治の理論研究や歴史研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 金井光生) 法の支配と立憲主義をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(21 鈴木めぐみ) 国際法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(22 大黒太郎) 参加者と定めたテーマについて、比較政治分野における既存研究のレビューを行いつつ、オリジナルな研究への展開に向けた指導を行う。</p> <p>(23 金炳学) 民事手続をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 西田奈保子) 行政学の理論研究や行政実態に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 長谷川珠子) 労働法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 中里真) 消費者法や財産取引をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 山崎曉彦) 民法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(28 徳竹剛) 日本近現代史に関する研究指導を行う。</p> <p>(29 板倉有紀) 地域における支援やケアについて、社会学の観点からの研究指導を行う。</p> <p>(30 新藤雄介) メディア研究に視座を置いた研究指導を行う。</p> <p>(31 高橋有紀) 刑事法・刑事政策（司法福祉を含む）をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(32 阪本尚文) 憲法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(33 上床悠) 行政法や政策法務にかかわる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(34 岸見太一) 政治哲学における諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 廣本由香) ローカルな環境問題の解決方法と課題に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別 研究	<p>地域政策科学特別研究Ⅱ</p> <p>本特別研究では、受講生の学術論文の完成に特に必要な研究能力を身につけるための研究指導を行う。個々の研究内容に合わせたより具体的な指導を重視する観点から、少人数制で複数のクラスに分けて実施する。</p> <p>(1 塩谷弘康) 法の動態をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (2 鈴木典夫) 各種福祉課題の解決、福祉コミュニティ・地域づくりを探究するための研究指導を行う。 (3 田村奈保子) フランスを中心としたヨーロッパにおける文化・芸術をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (4 浅野かおる) 社会教育研究の観点から研究指導を行う。 (5 福島雄一) 商法及びその運用実務などをめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (6 垣見隆禎) 自治体行政法や自治体政策法務をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (7 加藤真義) 社会学理論の基本を確認しつつ、研究指導を行う。 (8 坂本恵) 地域社会の国際化に関する研究指導を行う。 (9 高橋準) 地域社会とジェンダーの問題を探究するための研究方法および実例に関わる研究指導を行う。 (10 岩崎由美子) 農村計画や農村コミュニティをめぐる諸問題に関する研修指導を行う。 (11 菊地芳朗) 考古学にもとづく日本列島および世界の諸問題に関する研究指導を行う。 (12 阿部浩一) 日本中世史に関する論文講読を通じて研究指導を行う。 (13 照沼かほる) アメリカあるいはイギリスの諸問題について文化研究の観点から研究指導を行う。 (14 今西一男) 社会調査の手立てを通じて、コミュニティデザインの現場を探究するための研究指導を行う。 (15 村上雄一) 国際交流に関する研究指導を行う。 (16 荒木田岳) 地方行政をめぐる諸問題についての研究指導を行う。 (17 佐々木康文) 社会における情報化の現状と課題に関する研究指導を行う。 (18 川崎興太) 都市計画やまちづくりをめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (19 黒崎輝) 国際政治の理論研究や歴史研究に関する研究指導を行う。 (20 金井光生) 法の支配と立憲主義をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (21 鈴木めぐみ) 国際法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (22 大黒太郎) 参加者と定めたテーマについて、比較政治分野における既存研究のレビューを行いつつ、オリジナルな研究への展開に向けた指導を行う。 (23 金炳学) 民事手続をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 西田奈保子) 行政学の理論研究や行政実態に関する研究指導を行う。 (25 長谷川珠子) 労働法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (26 中里真) 消費者法や財産取引をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (27 山崎暁彦) 民法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (28 徳竹剛) 日本近現代史に関する研究指導を行う。 (29 板倉有紀) 地域における支援やケアについて、社会学の観点からの研究指導を行う。 (30 新藤雄介) メディア研究に視座を置いた研究指導を行う。 (31 高橋有紀) 刑事法・刑事政策(司法福祉を含む)をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (32 阪本尚文) 憲法をめぐる諸問題に関する研究指導を行う。 (33 上床悠) 行政法や政策法務にかかわる諸問題に関する研究指導を行う。 (34 岸見太一) 政治哲学における諸問題に関する研究指導を行う。 (35 廣本由香) ローカルな環境問題の解決方法と課題に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学研究科経済経営専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 基盤 科目	イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを目指す。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていくことを目的としている。	
専攻 基盤 科目	経済経営入門演習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術振興会の [eL CoRE] の受講等を通じて研究倫理教育の基礎を身につける。 ・論文・レポートの書き方、文献検索方法、研究方法の基礎など社会科学系の研究活動に必要な基礎的知識や考え方を身につける。 ・ディスカッションおよびプレゼンテーション等を通じてコミュニケーション能力を高める。 (1 奥山修司) マネジメント会計、取引デザインについて指導を行う。 (3 岩井秀樹) 人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザインについて指導を行う。 (5 岩本吉弘) 経済学史について指導を行う。 (7 貴田岡信) 管理会計、原価計算について指導を行う。 (9 佐野孝治) 開発経済学、アジア経済について指導を行う。 (10 末吉健治) 経済地理学について指導を行う。 (11 十河利明) アメリカ経済論、世界経済論、景気循環論について指導を行う。 (12 吉高神明) 国際公共政策、国際関係論について指導を行う。 (13 奥本英樹) ファイナンスについて指導を行う。 (14 井上健) 統計学、計量経済学について指導を行う。 (15 熊澤透) 労働経済、社会政策、社会保障について指導を行う。 (16 尹卿烈) 経営戦略について指導を行う。 (19 遠藤明子) マクロ・マーケティングについて指導を行う。 (20 朱永浩) アジア経済論、中国経済論について指導を行う。 (21 伊藤俊介) 朝鮮近代史について指導を行う。 (22 佐藤寿博) 経済学（近代経済学）について指導を行う。 (25 大川裕嗣) 日本経済史について指導を行う。 (26 KUZNETSOVA MARINA) 社会論について指導を行う。 (28 稲村健太郎) 租税法について指導を行う。 (29 沼田大輔) 環境経済学について指導を行う。 (30 菊池智裕) 西洋経済史、ドイツ経済史・社会経済史について指導を行う。 (31 吉田樹) 都市・地域計画、地域交通政策、観光政策について指導を行う。 (32 荒知宏) 国際経済学について指導を行う。 (33 野口寛樹) 組織論、非営利組織論について指導を行う。 (34 佐藤英司) 産業組織論について指導を行う。 (35 金善照) 組織行動論について指導を行う。 (36 根建品寛) 財務会計、企業評価分析について指導を行う。 (37 平野智久) 会計学（財務会計論）について指導を行う。 (38 三家本里実) 労働過程論、労働社会学について指導を行う。 (39 村上早紀子) 地域づくり、住居学、都市計画について指導を行う。 (40 藤原遥) 地域経済学、地方財政論、環境経済学について指導を行う。 	
専門 科目	イノベーション・コア	震災復興、地域・産業再生等いまだ多くの課題を抱えた福島県において、これらの課題を主体的に解決していくイノベーション人材が求められている。本講では人材要件として必要不可欠となる多様な価値観の受容、主体性と高度な調整力といった変革のためのリーダーシップを醸成し、新たに修得するイノベーション及び専門知識を活用して、複雑な社会環境・組織の中で変革を主導するリーダー人材の育成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	プロジェクト研究Ⅰ	<p>本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。</p> <p>Iでは、履修者が自らの分野や専門領域に基づいて異なる専門分野領域からなるグループを組織し、地域を選定する。そして、情報収集と分析を通して解決すべき具体的な課題を抽出する。ついで、課題解決のための実施計画・研究計画を検討し、立案する。そして、課題解決のための提案資料の整理や研究・調査に基づく現状分析結果の発表資料の準備、プレゼンテーションの演習を行う。結果や成果を地域を対象とした報告会で明らかにし、報告書にまとめるとともに、II以降の調査・研究活動に反映させる。</p>	
	プロジェクト研究Ⅱ	<p>本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。</p> <p>IIでは、研究・調査対象やフィールドを訪問し、現況を確認し、意見を聴取しながら課題解決に向けた調査・研究等を実施する。学生それぞれの専門分野ごとに課題を整理し、調査・研究等を実施して、得られた結果を分析する。</p>	
	プロジェクト研究Ⅲ	<p>本プロジェクト研究ではI、II、IIIをとおして、履修者（学生）が協働して課題解決のための調査・研究等を実施する。対象となるプロジェクトや調査・研究は、東日本大震災・原子力災害被災地における地域おこし・まちおこし、営農再開、6次産業化を含む農業振興、特産品開発、地域活性化などであり、設定するプロジェクトにより、学生組織型と教員組織型に大別される。いずれも履修者がグループを組織して、課題解決のための調査・研究等を以下の手順で進め学修する。（1）現地の現況分析と情報収集、課題解決と分析を行う。（2）現地やフィールドを訪問しながら課題解決に向けて、専門技法や履修者各自の専門的方法を用いて具体的な調査・研究や分析等を実施する。（3）得られた成果の地域・社会実装手法を探索し、研究発表等により現地に提供・還元する、の手順で学修する。</p> <p>IIIでは、IIまでで得られた調査・研究結果をもとに、課題解決に資する結果となり得るかを検証し、技術的課題や地域的課題を明らかにする。また、得られた結果の地域・社会実装手法を検討し点検して結果に反映させる。さらには、専門の立場から課題を再整理・再調査する。そして、イノベティブな成果を地域・社会実装するためのシミュレーション等によって検証する。最後に、現地やフィールド関係者等に成果を発表し、意見交換し、さらなる課題等を明らかにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	ミクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学の基礎理論について、その基礎を修得するとともに、その応用として現実の経済事象を分析する力を身につける。 授業の概要 消費者行動理論、生産者行動理論、そして市場の理論について講義する。内容は中級レベル（一部上級レベル）の標準的なミクロ経済学の理論およびその応用分矢である。なお、毎回、簡単な練習問題を課し、それを解くことで学習成果を確認していく。	
	ミクロ経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 ミクロ経済学を主とする指導を行う。履修希望者のミクロ経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。 授業の概要 様々なミクロ経済学の考え方を応用して、現実の諸課題について検討し、この過程で修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。	
	マクロ経済学特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 本講義では、大学院におけるマクロ経済学として標準的な内容である新古典派成長モデルに焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①新古典派成長モデルを理解するために必要となる数学（連立差分方程式の基礎、固有値問題の解法、ベルマンの最適原理）、②新古典派成長モデルの導出とその含意（オイラー方程式の導出、定常状態における黄金律、位相図を用いた鞍点経路の特定）、③新古典派成長モデルの応用（恒常所得仮説、トービンのQモデル、リカードの中立命題、モズリアーニ・ミラーの定理）、④新古典派成長モデルの実証分析（危険回避度の測定、ランダムウォーク仮説の検定、株価の変動範囲検定）などを習得することを目指す。 授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行います。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。	
	マクロ経済学特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 マクロ経済学は、一国全体の経済変数（GDP、金利、為替レートなど）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究する学問である。マクロ経済学を習得するにあたっては、マクロ経済を構成する実物・財政・（中央銀行を含む）金融・対外部門に対する理解を深めるとともに、それらの部門間の相互連関についても把握する必要がある。また、現実の経済政策を考えるにあたっては、国の発展段階（先進国、新興国、発展途上国）にも注意を払う必要がある。このような観点に基づき、この授業では、マクロ経済に関する専門知識を習得した上で、マクロ経済で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。 授業の概要 上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	産業連関論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域を論ずるための大前提は、なにより地域の経済的力を客観的に知ることである。たとえば、各都道府県の第一次産業がどれだけのGDPを生み出しているか、2次産業、3次産業の比率はどのように変化しているのか。</p> <p>このような基本的な情報をもっともわかりやすい形で与えてくれるのが、国連加盟各国ならびに日本のすべての都道府県、あるいは都道府県内の地域別に発表されている「産業連関表」という経済データである。これは当該地域の経済活動を産業レベルまで遡って記したもので、その地域の現状と未来を教えてくれる非常に有用なデータである。</p> <p>この授業では実際の産業連関表を用いて、各地域の現実の経済的特性を探り、また応用として経済的イベントの経済効果を予測するための基礎を学ぶ。これらは地域論を学ぶ上で、もっとも基本的な知識といえる。</p> <p>授業の概要</p> <p>各自の興味に応じて全国都道府県（もしくはその中の地域）のなかから一つを選び、その県の経済力を導出するためのいくつかの概念と手法を学ぶ。その次に、何らかの経済イベント（例：東京オリンピック2020など）がどれだけの経済効果を引き起こすか、その理論を紹介する。テレビや新聞などで紹介される経済効果の予測について、学んでもらおうということである。東日本大震災直後の産業連関表がすべての都道府県で出そろった段階にある。あるいは、都道府県によっては、東日本大震災からさらに数年経った段階での産業連関表を発表するところもいくつか出てきた。東日本大震災の影響や、その後の復旧復興の様子がデータにどう表れるのか、興味ある研究対象に取り組むチャンスである。なお、授業ではExcelを使う。Excel操作を通して理論と現実を学ぶ、あるいは理論・現実からExcel操作を学ぶ機会の、どちらともなる内容である。</p>	
	金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、大学院における金融論として標準的な内容となるマクロ経済学の応用分野としての資本資産価格モデル（CAPM）に焦点を当てて学習を進めていく。具体的には、①資本資産価格モデルを理解するために必要となる数学（確率分布、期待値、分散、共分散、制約付最適化問題）、②資本資産価格モデルを理解するための基礎知識（不確実性の導入、リスク回避的な効用関数、消費のオイラー方程式）、③資本資産価格モデルの導出とその含意（資産選択の平均・分散アプローチ、効率的フロンティア、分離定理、CAPMの導出）、④資本資産価格モデルの応用（シャープ比、ジェンセンのアルファ分析、マーケット・ベータ分析）を習得することを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	国際金融論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際金融論は、マクロ経済における対外部門（貿易、為替レート、国際収支など）の決定メカニズムや、それらに関連する経済政策を研究するマクロ経済学の応用分野です。国際金融論を習得するにあたっては、対外部門自身を理解することに加えて、国内の実物・財政・（中央銀行を含む）金融部門が同対外部門（特に国際収支）に与える影響を理解することが非常に重要になる。また、国際金融論は、実学志向が強い学問でもある。このような観点に基づき、この授業では、国際金融論に関する専門知識を習得した上で、対外部門で発生し得る経済問題の根本的な原因を特定し、それを解決するためにはどのような処方箋（経済政策）を与えるのが望ましいのかを、自らの力で考えることができることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>上記の到達目標を達成するために、関連する文献の輪読を行う。なお、国際金融論は実学志向が強い学問であることに鑑み、本授業はある特定の国に関するケース・スタディーの形をとる。受講生は毎回の授業で文献内容の報告（プレゼンテーション）を行い、それをベースとして、実際の経済政策への応用について議論を深める。従って、受講生には十分な時間をとった予習と準備が求められる。さらに学期末には、授業の集大成として、受講生は指定されたテーマに関するターム・ペーパーを執筆する。</p>	
	環境経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：環境経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境経済学の概要を把握した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・環境経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>環境経済学は、環境問題を克服すべく、環境に優しい社会のあり方を考え、そのような状態を目指すための社会の仕組みを、経済学の観点から提起する学問です。この授業では、この環境経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
	公共経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：公共経済学</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共経済学の概要を把握した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所を輪読し議論した。 ・公共経済学に関する文献のうち、受講生の関心のある箇所について理解を深めた。 <p>授業の概要</p> <p>公共経済学は、政府の果たすべき役割（市場の失敗）、政府がその役割を果たせるか（政府の失敗）を、経済学で考える学問です。この授業では、この公共経済学を、受講生の関心に合わせて、主にテキストの輪読を通じて学ぶ。</p>	
	計量経済学特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計量経済学の入門的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計量経済モデルについて理解している。 ・回帰分析とそれにとまなう関連手法を実践することができる。 ・回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 <p>授業の概要</p> <p>経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的回帰モデルを中心とした手法について、理論的な背景を理解するとともに、実際のデータを用いて解析作業が行えることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	計量経済学特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>計量経済学の応用的な内容について学ぶ。到達目標は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応用的な計量経済モデルについて理解している。 ・ 分析目的に合わせて適切な計量経済モデルを選択することができる。 ・ 回帰分析の結果を適切に解釈することができる。 <p>授業の概要</p> <p>経済学によって提示される仮説が現実と整合的であるかどうかを検証したり、経済学の理論を利用して予測を行ったりすることが計量経済学の目的である。計量経済学の標準的な内容のうち、古典的な回帰モデルの想定では処理できないケースへの対応を扱う。</p>	
	国際経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国際経済学を主とする指導を行う。履修希望者の国際経済学の基礎知識を考慮しつつ、できるだけ受講者の興味に沿ったテーマの経済学的研究に取り組む。</p> <p>授業の概要</p> <p>国際経済学の考え方を用いて、現実の諸課題について検討する。この過程で、修了までの研究の方向性を決定する。なお、本演習では、参考文献の輪読によって研究への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力を高めていく。</p>	
	産業組織論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学び、時間があれば規制影響分析にも触れる。費用便益分析の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を理解すること。 ・ 学んだ知識を現実の具体的課題に適用して考えることができること。 <p>授業の概要</p> <p>費用便益分析の事例を多数取り上げ、費用便益分析に必要な経済学的概念や分析手法を学ぶ。時間があれば規制影響分析にも触れる。ミクロ経済学や統計学・計量経済学の基本的知識を復習した上で、論文や報告書などを紹介する。</p>	
	法と経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、経済学的視点から判例法的展開を分析して日本の競争政策を評価する。独禁法審判決の事例を多数取り上げ、受講生自ら次の2点ができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競争政策のバックボーンとなる経済学を理解している。 ・ 日本の競争政策を経済学的観点から評価できる。 <p>授業の概要</p> <p>法の経済分析の中でも比較的蓄積の多い独占禁止法に焦点をあてて、独禁法審判決の事例分析を行う。ミクロ経済学の基本的知識を復習した上で、独禁法審判決の事例を多数取り上げる。</p>	
	財政学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは現代日本財政の課題。今後の日本社会や世界を背負う受講生と不都合な財政的課題の真実に向き合い、何らかの答えを出す。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本財政の特殊性としては、例えば、租税と社会保障の関係が不透明で特別会計改革と言いつつ、社会保障は職域で日本経済の格差がそのまま持ち込まれている状況である。統一国庫主義という予算原則からかなりかけ離れている状況を維持し続けている行政の縦割り主義にも切り込んでいきたい。</p> <p>最近の民間税調でも取り上げられた、予算情報の開示の不十分さにも目配りしたい。民間税調のメンバーである大学教授の方がBSの報道番組でも力説されていた「主権者＝納税者」であるという視点を大切にしていきたい。個人所得税だけが税ではなく、消費税もガソリン税も消費者が負担している。法人税も理論的には、下請け企業、従業員、消費者が実質的に負担しているとも言える。</p> <p>年代別の投票率がかなり異なり、18歳選挙権が確立すると、財政構造が選挙で問われる意味がますます重要となる。日本の財政学教育（有権者向けも含めて）も合わせて考えたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	租税政策特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英国マーリーズ・レビューから21世紀の租税政策を考察する。現代日本の租税政策のグランドデザインを構築するきっかけを得る。</p> <p>授業の概要</p> <p>2010・11年に刊行された英国マーリーズ・レビューは、有名な1978年のミード報告30周年を記念したもので、日本の租税政策の検討に有意義であると確信している。ここから今後の日本の租税政策を展望する。</p>	
	地域経済論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「地域産業復興プログラム」および「グローバルプログラム」の一環として「復興の地域経済学」をテーマとする。災害復興と地域創生をキーワードに、地域の生活基盤である産業やインフラをどのように再生していけばよいのかを受講者とともに考える。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる現状と課題を理解すること</p> <p>②災害復興まちづくりや地方都市再生に関わる文献をレビューし、他の受講者に分かりやすく報告できること</p> <p>③福島県をはじめとした地域産業の課題を的確に分析できること</p> <p>授業の概要</p> <p>二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、災害復興まちづくりや地方都市再生の現状や課題を俯瞰するため、テキストのレビューと討議を行う。また、テキストのテーマに関連した論文や報告書のレビューも各自の関心にあわせて行う。第二部（第11～15回）は、福島県をはじめとした地域産業の課題に関して、各種統計の整理と分析を行い、レポートを作成する。</p>	
	地域交通論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域交通や観光等の分野における高度な専門知識を身につけることが目的である。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①地域交通もしくは観光に関する基礎理論や用語を体得していること</p> <p>②交通や観光に関するデータを読み解き、地域の特徴や課題を把握し、政策提案もできること</p> <p>③関心がある分野の先行研究を把握できていること</p> <p>授業の概要</p> <p>二部構成の授業とする。第一部（第1～10回）は、交通経済、交通計画、観光政策分野の文献を輪読し、受講者による討論を行う。専門知識を獲得・確認するとともに、プレゼンテーションの方法（学会発表でも役立つ）。討論の進め方（意見の伝え方）などを身につけることも重視する。第二部（第11～15回）は、地域交通や観光分野における学術論文のレビューを行い、各自の関心に応じて選定した論文の報告を行う。</p>	
	特講（交通まちづくり論）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域の交通や観光をツールとしたまちづくり施策の立案や現状分析を行うための技法を身につけることが目的である。地域課題を実務的に解決する手法を導き出すために必要な調査技法や分析手法（例：統計分析手法、空間解析技法の基礎）についてもあわせて獲得することを旨とする。</p> <p>本授業の到達目標</p> <p>①地域の交通や観光に関わる国内の政策動向を理解すること</p> <p>②地域交通や観光に関する調査企画を立案できること</p> <p>③交通や観光に関するデータを分析し、現状や地域課題を把握するほか、施策の提案もできること</p> <p>授業の概要</p> <p>第一部（初日の講義）は、地域の交通や観光に関する施策の最前線について概観した後、福島県内もしくは周辺の地方公共団体における交通や観光のデータ（例：交通産業の経営データ、地域経済分析システム（RESAS）掲載データ）の分析技法について演習形式で学ぶ。第二部（二日目の講義）は、第一部のデータ分析により設定した課題を解決するための施策（代替案）を検討、評価し、受講者とともに討議する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	経済地理学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>主要なテーマは、工業の立地・配置、地域経済、地域問題、地域開発に関する理論的、実証的な研究。 到達目標は、自ら課題を設定し、説得的な議論を展開できる。経済地理学の基本概念を理解している。</p> <p>授業の概要</p> <p>経済地理学は、経済学と地理学の学際的分野に位置づく科目である。この講義では、伝統的な立地論としてチューネン、A・ウェーバー、クリスタラーの理論を取り上げ、それぞれの理論とその応用について説明したうえで、現実の経済地理と地域問題の発生（地域間格差等）、それらを解決するための地域政策について取り上げる。地域政策については、その起源と日本における展開を具体的に取り上げる。</p>	
	社会政策論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要</p> <p>この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	
	労働と福祉特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働経済、社会政策・社会保障分野に関して、授業を通じて獲得した学問的認識を整理できること。 ・理論的、歴史的な思考方法を身につけながら、当該分野に関する今日の問題の所在を知ること。 ・授業内容と自身の研究を関連づけて把握できること。 ・学術研究の基本的な方法と作法を身につけること。 ・論文、レポートになりうる文章を作成する基礎的な素養を身につけること。 <p>授業の概要</p> <p>この授業が取り扱うテーマは、「社会政策」「社会保障」「労働経済学」として分類される領域に属するもの。概ね以下のような問題を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働市場（雇用、失業の状況） ・賃金、労働時間といった労働条件 ・社会保障制度 ・労使関係制度 ・労働者の働き方、生活者の暮らし <p>特に、「地域の生活保障システム」というサブタイトルのもとでは、震災後の全国と地域におけるさまざまな生活保障システムの可能性と課題を考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	開発経済学特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、「開発途上国におけるSDGs」である。到達目標は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国の現状と課題を複数の視点から理解することができる。 2. 開発経済学の基本的な理論を理解することができる。 <p>授業の概要</p> <p>開発経済学を用いて、開発途上国における経済成長と社会開発について学ぶ。本講義は、まず、文献の輪読、映像視聴、ディスカッションによって、アジアにおける開発途上国の現状を複数の視点から理解することを目的とする。次に、テキストの輪読とディスカッションにより、貧困と格差、貿易、海外直接投資、政府開発援助、農村金融など開発経済学の理論を身につける。さらに、SDGsの観点から、開発途上国がいかなる開発モデル、貧困削減戦略を採用すべきなのかについて研究する。</p>	
	経済政策特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマは、「災害復興政策の国際比較」である。到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな災害について、その実態と原因を理解できる。 2. 大規模災害からの復興プロセスと諸アクターの役割について、国際比較の視点から理解できる。 3. 「より良い復興」について自分の考えを持つことができる。 <p>授業の概要</p> <p>大規模災害からの復興について、経済政策と国際比較の観点から学ぶ。大規模災害からの復興に関しては、ローカルな視点だけではなく、グローバルな視点が必要である。この講義では、文献の輪読とディスカッションによって、東日本大震災だけでなく、中国、アメリカ、インドネシアなどにおける大規模災害からの復興政策と諸アクターの役割について学ぶ。また、ディベートやブレイン・ストーミングなどにより、災害からの教訓をどう活かし、「より良い復興 (Build Back Better)」を実現するかについて研究し、自分の考えを持つことを目標とする。</p>	
	現代資本主義特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1) 先行研究を精査し、報告することができ、(2) 自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。</p> <p>授業の概要</p> <p>本科目では、現代社会における以下の諸問題について、資本主義との関係において捉えることを目的に輪読を行う。輪読を通じて、上記の社会問題に関する認識、理論的な理解を深めることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働問題 ・気候変動 ・マイノリティ（女性や外国人など）への差別 	
	現代資本主義特殊研究 II	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、現代資本主義社会において発生する社会問題について、理論的に把握することをテーマとする。(1) 先行研究を精査し、報告することができ、(2) 自ら設定したテーマ・課題について、他の受講者とともに議論することができることを求める。</p> <p>授業計画</p> <p>輪読文献は、履修者の希望に応じて変更する。文献によるが、半期の間に1～3冊を扱う予定である。加えて、各自の研究に関しては、先行研究のレビューを中心に報告してもらうこととする。</p>	
	地域政策論特殊研究 I	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地域政策を考える」である。</p> <p>到達目標は、地域政策の歴史の変遷を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。</p> <p>授業の概要</p> <p>持続可能な社会に向けた地域政策および地方財政をテーマに受講生とともに議論することを目的とする。特に公害や自然災害からの地域再生に焦点をあて、持続可能な地域の再生を支える政策について検討をする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	地域政策論特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマは、「持続可能な社会に向けた地方財政を考える」である。 到達目標は、地方財政の特徴と問題点を理解したうえで、被災地域の再生のあり方について考えることである。 授業の概要 経済のグローバル化のもとで地域経済の置かれている現状と課題について議論するとともに、日本の地方財政の特徴と問題点を学び、今後の改革の方向性について考える。被災地域の再生を支える政策のあり方についても検討する。	
	経済思想史特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるジェームズ・ステュアートの主著『経済学原理』を、とくに第1編を重点にして講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 ステュアートの主著『経済学原理』(1767年)のとくに第1編を重点に解説する。テキストはステュアート『経済の原理-第1・第2編』(名古屋大学出版会、1998年)を用い、参考資料として竹本洋『経済学体系の創生』(名古屋大学出版会、1995年)を用いる。	
	経済思想史特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 経済学の源流たるアダム・スミスの主著『国富論』を講義し、経済学の基本性格について歴史的に考察する能力を養う。 授業の概要 アダム・スミス『国富論』の原典解説をする。テキストはアダム・スミス『国富論』1～4(水田他訳、岩波文庫、2000年)を用い、参考資料として高哲男『アダム・スミス』(講談社選書メチエ、2017年)を用いる。	
	日本経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経済史の領域から近世および明治維新期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経済史とりわけ近世近代移行期についての研究にとりくむ基盤ができてきていること 授業の概要：19世紀半ばの開港と外圧への対応から授業をはじめ19世紀末から20世紀初頭の産業革命期における日本の経済社会の変容に至るまでを授業の範囲とする。	
	日本経営史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標： テーマ：日本経営史の領域から両大戦間期に絞って講義と討論を行う。 目標：日本経営史とりわけ両大戦間期についての研究にとりくむ基盤ができてきていること。 授業の概要：両大戦間期における日本経済の重工業化と経済成長そして経済政策の体系化のなかでおきた企業経営の著しい変化を追究する。	
	日本経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 ①戦後日本経済に関する主要な経済政策・用語を理解する。 ②経済学的な論理にしたがって、戦後日本経済の展開を理解する。 ③戦後における日本とアメリカとの経済的な関係を理解する。 ④グローバルな観点から日本経済について、自らの考えを説得的に展開する。 授業の概要 戦後復興期から高度成長期、1970年代以降の諸危機に至る過程を実証的に把握する。全体を通じて、「国家政策」「企業」「労働」をめぐる諸側面を局面・段階ごとに構造的に理解することを重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	世界経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 経常収支不均衡や財政収支不均衡など、負債をめぐる国家間の不均衡について理論的考察。 授業の概要 異端派国際経済論を学ぶ。テキストはHendrik Van Den Berg, International Economics: A Heterodox Approach, 3rd Edition, Routledge, 2017.を使用する。参考資料としてダニ・ロドリック『貿易戦争の政治経済学:資本主義を再構築する』白水社、2019年を使用する。	
	比較経済史特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 歴史を経済から、経済を歴史から考察し、歴史を政治や文化のみならず経済の側面からの多面的に捉え、経済を理論や数式のみならず実際に生じた出来事から捉えられるようになることが到達目標である。取り上げる歴史は、担当者の専門領域が西洋近現代経済史であることから、ヨーロッパ史にウェイトを置くものの、比較検討のために日本、アメリカ、中国、中東地域も対象とする。 授業の概要 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。	
	欧州経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ経済を中心に、歴史的背景と社会文化的傾向を踏まえながら、現代というものを考察する。現代ヨーロッパ・EUは、日本とは大きく異なる制度を構築し、諸問題に対して私達からみると一見奇妙な対応を取ることもあるが、それには歴史的・社会文化的背景が存在している。翻って日本も欧州からすれば一見奇妙な行動を取っており、双方を比較検討することで、現代欧州経済に対する理解と共に現代日本に対する理解も深まるものと思われる。焦点は現代欧州に当ててるものの、適宜、アメリカ合衆国、中国、中東地域からも事例を取り上げて視野を拡大したい。 授業の概要 講義とディスカッション。概ね、各回の1時間ほどを講義として、残り時間を受講者からの質疑応答・ディスカッションとして理解を深めたい。	
	アメリカ経済論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 アメリカの革新派経済学について学ぶ。研究倫理への理解を深めるとともに、ディスカッションおよびプレゼンテーション等を通じ、コミュニケーション能力を高める。 授業の概要 英文原書からラディカル派政治経済学を学ぶ。参考資料としてHoward Sherman (1987) Foundations of Radical Political Economy, M. E. Sharpe.を用いる。	
	アジア経済論特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 (1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 (2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。 授業の概要 本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。	
	アジア経済論特殊研究 II	授業のテーマ及び到達目標 (1) 東アジア経済の成長メカニズムおよびその展開を理解できる。 (2) 東アジア地域の特徴と課題を、複数の視点から把握できる。 授業の概要 アジア経済論特殊研究 I に続き、本講義では、東アジア諸国の経済相互依存の現実と地域協力の重要性を認識しつつ、グローバリゼーション下の繁栄と挫折を経験してきた東アジア経済を題材として取り上げる。東アジア経済がおかれた現状と直面する課題を考察し、今後向かうべき方向性を探ることが本講義の目的である。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経済学コース科目	朝鮮近代史特殊研究	<p>授業の到達目標及びテーマ 主に日本と朝鮮半島の関係史を中心に東アジアにおける近現代史の展開過程を概観するとともに、現在の日韓・日朝関係の抱える問題点や今後の方向性について考える。授業はさまざまなテーマの論文を講読し、報告とディスカッションを中心に行う。</p> <p>授業の概要 ①東アジア近代史に対する理解を深めるのに必要となる専門的な知識を把握する。 ②日韓・日朝関係を軸に当時の中国やロシア、欧米などとの世界史的な国際関係の流れも理解する。</p>	
	国際公共政策論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標 転換期を迎えた世界の直面する諸課題について、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要 本講義は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、グローバルな事象とローカルな事象の体系的把握を目指す「グローバル」の観点から、「東アジアのダイナミズム」、「国連持続可能な開発目標（SDGs）」「東日本大震災・東京電力福島第一原発事故」「地方創生」、「男女共生」、「働き方改革」、「若者」などを事例研究として取り上げる。</p>	
	国際公共政策論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 イノベーションをめぐる主要国の取り組みについて、2040～50年の世界を念頭に置きつつ、国際公共政策の観点から理解を深める。</p> <p>授業の概要 本講義の目的は、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、平和・安全、経済社会開発、人権保護、環境保全、資源・エネルギーなどの問題領域におけるグローバルなレベルで展開される政策決定プロセスを、主権国家、国際機関、民間企業、NGO/NPOの相互作用に焦点を当てつつ、理論的、実証的に考察することを目的としている。この場合、「イノベーション」、「2040～50年の世界」、「グローバル」の3つのテーマに焦点を当てるものである。また、事例研究として、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の被災地福島の復興プロセスについても取り上げる予定である。</p>	
	比較社会論特殊研究	<p>授業のテーマ及び到達目標 テーマ：ロシア社会と日本社会の比較 到達目標： ①比較の基準等に関する主要用語等を理解できる。比較社会論に関する比較社会学等の理論の考え方を理解できる。 ②比較の基準を基に、ロシアと日本の事情について自分なりの見解を持つ、論じることができる。 ③ロシアと日本の現状について自分なりの見解を論述することができる。</p> <p>授業の概要 現在、地球上には様々な国々が存在している。一方では、グローバル化が進んでいますが、他方では、各国がその独特さを身に付けている傾向も目立ちます。この授業では、比較社会論の分析方法に基づいて、ロシアと日本を中心に、主として社会構造（民族、階層等）、政治・経済体制（「…」主義等）、文化（宗教、教育、「食」等）について理解を深め、比較研究することを学習する。異国のことはすべて奇妙に見えるという常識を考え直し、自国と他国を比較する目が開かれることを期待する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	管理会計論特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 管理会計の理論と技法を学ぶ。15回の授業を通じて、管理会計の基本的なテーマについての理解を深めることを目標とします。 授業の概要 管理会計はマネジメントのための会計であり、財務諸表作成を目的とする財務会計と対比される。管理会計は、企業の経営管理活動と密接にかかわりながら20世紀初頭より学問として発展してきた。この講義では、履修者の管理会計基礎知識を確認しながら、比較的読みやすいテキストを用いて、企業活動のなかで管理会計の考え方や技法がどのように役立つかを学ぶ。	
	コスト・マネジメント特殊研究	授業のテーマ及び到達目標 管理会計の一分野である原価管理について学ぶ。伝統的な技法の理解のみならず現実の企業への適用についても理解することを目標とする。 授業の概要 コスト・マネジメントは、主として標準原価計算を用いて事後的な原価削減を意図してきた狭義の原価管理からはじまって、いまでは企業活動に不可欠な戦略や利益管理の領域にまで、その範囲を拡大している。この講義では、履修者の管理会計や原価管理に関する知識を確認しながら、コスト・マネジメントの理論的発展と、現実企業への適用について学ぶ。	
	価値創造会計特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 経済組織の価値評価に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ財務会計アプローチを中心に研究する。企業や自治体を研究フィールドとして、実際の外部報告会計の財務データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つデータ改善手法を提案できることを目標とする。 授業の概要 企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の外部報告会計の財務データを用いて、組織に投下された資本の価値評価方法、組織と社会両方の価値共創化などについて研究する。	
	価値創造会計特殊研究 II	授業のテーマ及び到達目標 価値増大を図ろうとする経済組織の戦略や管理に有用な計数データをデザインし、経済組織の価値創造課題の解決に役立つ管理会計手法を中心に研究する。企業や自治体を研究フィールドとして、実際の内部報告データを用いて分析・評価し、当該組織における価値創造課題の解決に役立つ実践的なマネジメント手法を提案できることを目標とする。 授業の概要 企業や地方自治体等の具体的な経済組織を研究フィールドとして、受講生の経歴や関心課題等を勘案しながら、研究対象とする経済組織における実際の内部報告データを用いて、購買・生産・販売・保守等の活動や各種行政サービスにおける価値分析、見える化などからの価値創出提案について研究する。	
	財務諸表論特殊研究 I	授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。 (到達目標) 先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。適切な考察を加えたうえで、論理的に意見を述べることができる。報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。 授業の概要 自分自身の研究をしっかりとこころなうことは当然だが、ほかの学生の報告を聞いたうえでのコメント（質問や提案など）はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	財務諸表論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ) 受講者の関心に応じて、最先端の会計理論及びそれに至るまでの変遷について先行研究を渉猟する。</p> <p>(到達目標) 先行研究を数多く読み、分析し、丁寧にまとめることができる。 適切な考察を加えたいうで、論理的に意見を述べることができる。 報告の場でのあらゆる質疑に、適切な対応を心掛けることができる。</p> <p>授業の概要 自分自身の研究をしっかりとこなうことは当然だが、ほかの学生の報告を聴いたうでのコメント(質問や提案など)はもっと大切である。文献講読においても、「この点がわかるようになった」といった積極的な議論を期待する。</p>	
	財務報告論特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標 将来的に修士論文や特定課題レポートを執筆する上での基礎的な能力を養成することを目標とする。</p> <p>授業の概要 日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成を学ぶことを主眼に置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生の要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p>	
	財務報告論特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 将来的に受講生の皆様が修士論文や特定課題レポートを執筆する上での素地を整えることを目標とする。</p> <p>授業の概要 日本語論文の読み方、先行研究の整理の仕方、研究論文の基本的な構成などを学ぶことに主眼を置く。じっくりとレポート・論文の書き方に関する入門書を熟読し、その後で関心を有する研究対象に関連する先行研究を取り上げ、音読をとおして精読していく。内容は受講生要望により詳細を決定するが、会計に関するケース研究、制度的研究及び歴史的研究がメインとなる。</p> <p>前期に開講する財務報告論特殊研究Ⅰよりも論文の精読の割合を増やし、具体的に研究計画(案)を練っていく。希望によっては外国文献及び英文による会計基準を精読し、主要国の先進的な潮流を確認することにも注力する。</p>	
	租税法特殊研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標 租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 租税法の条文の読み方を理解している。 2. 租税法に関する判例の読み方を理解している。 3. 租税法の重要論点に関する判例・学説の動向を理解している。 <p>授業の概要 租税法に関する重要判例を題材に、参加者が調査・報告し、議論することにより、租税法の基礎概念と、判例・学説の動向を理解することを目的とするものである。</p>	
	租税法特殊研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標 租税法をテーマとし、到達目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 税制の現状を理解している。 2. 税制の課題を理解している。 3. 立法論の立場から税制を議論できる。 <p>授業の概要 租税法に関する論文集等を読み、議論することを通じて、税制の現状と課題を理解することを目的とするものである。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	会計実務特殊研究Ⅰ	授業のテーマ及び到達目標 「財務会計及び管理会計の視点から考察する税法に規定する圧縮記帳」について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。 授業の概要 税法の制度について理解するとともに、財務会計及び管理会計の視点から考察する。圧縮記帳の方法によって、財務諸表にどのような影響があるのか。また、その後の売価設定などの意思決定や目標利益額の設定などの意思決定ではどのような点を留意しなければならないか検討する。	
	会計実務特殊研究Ⅱ	授業のテーマ及び到達目標 税効果会計について考察する。会計理論についての理解を深め会計実務に適用できる実務能力を養う。 授業の概要 『税効果に係る会計基準』では、繰延法ではなく資産負債法を採用している。『個別財務諸表における税効果会計に関する実務指針』でも資産負債法を前提に作成されている。しかし、『連結財務諸表における税効果会計に関する実務指針』では、未実現損益の消去に関する税効果に関しては繰延法が例外的に採用されている。例外的に採用され、その後現在まで変わっていない。資産負債アプローチが定着して長いがこのままでよいか検討する。	
	特講（実務租税法Ⅰ）	授業のテーマ及び到達目標 主に所得税・法人税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。 授業の概要 日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。	
	特講（実務租税法Ⅱ）	授業のテーマ及び到達目標 主に消費税・相続税について、その問題点の検討を行うことにより、租税法の理解を深める。 授業の概要 日本税理士会連合会『令和4年度税制改正に関する建議書』にて提起されている現在の税制の問題点に対する建議が、本当に正しいといえるのか基礎資料・判例・論文等によって検討を行う。資料として金子宏『租税法第24版』（2021）弘文堂を用いる。	
	特講（知的財産の応用）	授業のテーマ及び到達目標 本講義では、知的財産の応用として、特に知的財産権と租税法との関係について講義する。知的財産権に対する課税と、知的財産権を用いた租税回避への対応について理解することを到達目標とする。 授業の概要 知的財産権に対する課税および租税回避への対応について講義する。資料として茶園成樹（2020）『知的財産法 第3版』有斐閣、金子宏（2021）『租税法 第24版』弘文堂などを用いる。	
	特講（マーケティング概論）	授業のテーマ及び到達目標 マーケティングの基本概念と近年のデジタル・マーケティングの考え方に依拠しながら、データに基づいたマーケティング意思決定案をまとめられる。 授業の概要 「マーケティング」は、企業が市場に対して様々なはたらきかけを行って、ライバル企業よりも自社製品を顧客に選んでもらうための活動全体のことであり、企業と顧客との望ましい関係をデザインし実施する活動である。このように一口にマーケティングと言っても、その範囲は多岐にわたる。そのため、1つの講義だけでマーケティングに関わる様々な問題を網羅することはできない。そこでこの講義では、近年のインターネット技術の発展を踏まえて、デジタル社会を前提としたトピックや事例を取り上げ、それらを通じて基本的なマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	特講（社会課題とマーケティング）	授業のテーマ及び到達目標 近年の事例を通じて社会課題とマーケティングとの関わりに関する基本的な考え方を学び、自身が所属する組織の問題に対して適用できる。 授業の概要 近年、ソーシャルメディアの普及によって市場の評判がより短期間で可視化されやすくなっており、社会課題とマーケティングとの関わりは本格的に無視できない状況になりつつある。そこでこの授業では、具体的な事例を取り上げながら、社会課題とマーケティングに関する基本的な考え方について学ぶ。	
	特講（マネジメント概論）	授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている 授業の概要 現代社会において、人は様々な組織とかかわり、それらの組織の影響の下、生活を営んでいる。それは決して営利組織だけを対象とした議論ではなく、古くて新しい組織、非営利組織もその対象となる。組織において、人はいかなる視点をを用い、マネジメントしていくのか。その視点を科学的な観点から検討する。	
	特講（組織論）	授業のテーマ及び到達目標 1. 演習に関わる経営学の基本的用語の理解ができている 2. グループワークにおける参加の仕方について、理解をしている 授業の概要 1900年代から始まる近代組織論の概略を確認しつつ、最新の理論についても議論を行う。 世の中には経営学の話題となる事象が多く存在する。最新のニュースを見れば、ほとんどが企業や行政など組織に絡むニュースである。現代社会において、人は会社、行政機関、NPOなど、実に様々な組織とかかわり生活をしている。その構造や文化、変化のメカニズムを理解することを本講義の目的とする。	
	特講（競争戦略）	授業のテーマ及び到達目標 テーマ「急変する経営環境と経営戦略の在り方」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握できる分析力を鍛えること ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の理論と動的な展開パターンを理解すること 授業の概要 経営戦略論の中で、事業部戦略とも呼ばれる競争戦略に焦点をおいて講義する。具体的に、経営課題の解決に向けた多数企業の事例分析を通じて、 ①今日の企業経営戦略に求められる諸点を把握し、 ②競争優位を確立するために展開される経営戦略の動的な展開パターンを学習する。 実際の講義では、2日間を6つのセッションに分け、講義と討論を行う。	
	特講（ビジネス・イノベーション）	授業のテーマ及び到達目標 テーマ「今日企業に求められるイノベーション」 到達目標 ①今日の企業経営戦略に求められるイノベーションと関連した専門知識を理解すること ②イノベーションの創出を目指す経営戦略の関連理論と動的な展開パターンを理解すること。 授業の概要 経営戦略論の学問分野で特に注目されている第4次産業革命、デジタルトランスフォーメーションなどと関連したイノベーションをメインテーマにして講義を進める。 具体的に、日米企業をメインとしたグローバル企業のイノベーション事例を多数用いて、今日の企業におけるイノベーションの意味や効果、創出プロセスと動向などの諸点を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	特講（地域企業経営）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域企業経営に関連する基礎的知識や理論、今日的課題が理解できていること。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義では、地域経営で必須ともいえる地域企業や地域組織に着目する。その上で、関連する法制度やその変遷、継続的に経営していく上での経営・育成手法に関して、様々な事例から学ぶ。それにより、地域でみられる諸課題を経営の課題として捉えることができるようになり、今後の地域経営を考える上で必要となる視点を得ることを目指す。</p>	
	特講（地域デザイン）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地域デザインに関連する基礎的知識や今日的課題が理解できていること、演習や発表時に実践できていること。</p> <p>授業の概要</p> <p>地域デザインの概略に関して理解を深めた上で、「参加・協働のまちづくり」などをキーワードに、地域をデザインし協働で進めていく手法や関連する組織、課題などを、実践例などから学ぶ。さらには、地域デザインで用いられる機会の多いワークショップを講義内で実施する予定であり、それらを通して実践的に学んでいく。</p>	
	特講（組織行動）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は社会科学の行動科学の下位分野である組織行動論をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織行動論の基礎的知識や理論を理解できる 2. 組織行動論の基礎的知識や理論の間の関係性を理解できる 3. 組織行動論の基礎的知識や理論を実際の経営事例に適用し、分析できる <p>授業の概要</p> <p>組織行動論の様々な理論が登場した時代的・理論的背景を理解して、各理論の仮定・観点・概念・仮説を学習することを目的とする。具体的には、組織の中で起こる個人・グループ・組織レベルの様々な人間行動について理論を適用し、理由を推論する「理論的因果推論」(theoretical causal inference)を身につけることを目指す。</p>	
	特講（ビジネス統計）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業はOLS回帰分析を用いた因果推論における仮説検証をテーマとする。到達目標は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 因果推論に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を説明できる 2. 実際の認識、態度、行動に関するデータをEXCELなどの分析ツールを用いて分析できる 3. 分析結果の意味を社内外の利害関係者に分かりやすく説明できる <p>授業の概要</p> <p>情報化技術が発展する近年の企業経営環境においては、直観や経験に依存した意思決定を超えて、「エビデンス」に基づいたマネジメントが求めている。例えば、人事部が評価制度を設計することにあたって、自社が蓄積している従業員の意識、態度、行動に関するデータを分析して(HRアナリティクス)、得られた自明な「エビデンス」がないと、社内の利害関係者を説得することは難しいだろう。本科目では因果推論(causal inference)に関する基礎的な分析手法に関する理論や知識を学習することを目標とする。また、EXCELなどの分析ツールを用いて、統計解析を実務で応用できるようになることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 経営学コース科目	特講(マーケティング・リサーチ)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動の理論的背景を理解する。 ・マーケティングに関するデータから消費者行動分析やリサーチの技術を身につける。 ・消費者行動モデルやマーケティングモデルに関する理解を深める。 <p>授業の概要</p> <p>インターネットや情報技術の発達に伴い、さまざまな消費者行動に関連する情報を比較的容易に取得可能になりました。それゆえ、学術だけでなく実務上においてもマーケティング活動の示唆を得るため、消費者行動に対するメカニズムやプロセスを体系的に理解することが求められる。本講義では、大きく2つのパートに分け、前半では消費者行動理論の理解を目的とし、後半では消費者行動やマーケティングをリサーチ・分析するための事例を学ぶ。終盤には消費者行動モデルやマーケティングモデルの最新の研究について紹介します。</p>	
	特講(データサイエンス基礎)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的分析に関する統計理論を理解する。 ・様々なデータを用いて適切に分析し、分析結果を理論的に解釈できる。 ・因果関係と相関関係の違いや因果効果について理解する。 <p>授業の概要</p> <p>学術だけでなく実務においても経験や勘に基づく意思決定ではなく、データ解析から正しい結果を導き出すことで合理的な意思決定をすることが求められている。そこで本講義では、データ解析について実務上の観点から利用可能な手法を習得することが大きな目的である。特に近年注目されている効果検証の観点から、計量経済分析や多変量解析に加えて、統計的因果推論に関しても扱うこととする。修士論文、課題研究だけでなく、実務上誤って効果を測定してしまうような案件について、紹介する。</p>	
	特講(コーポレート・ファイナンス)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代ファイナンス理論のうち企業の投資意思決定に関して基礎から学ぶことにより、最終的に企業の投資意思決定における諸課題を認識する能力およびそれらの解決能力を身につけることを目標としている。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業では、とくに貨幣の時間価値、リスク、資本コストなどの概念に対する理解を深め、投資意思決定における諸課題を考える。</p>	
	特講(人的資源管理)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態：通常講義 ・到達目標：人的資源管理の概念や制度の動向について理解している。学んだことから実社会で起きている経営現象を理解できる。自分自身のキャリア形成に置き換えて考えられる。 <p>授業の概要</p> <p>企業の資源は「人」「モノ」「金」「情報」と言われる中で「人」の重要性はますます高まっており、企業が人を最も効果的に活用していくための仕組みとは何かについて学んでいく。また、授業を通じて自分自身のキャリア開発についても考える。</p>	
	特講(リーダーシップ)	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標：多様なリーダーシップスタイルを理解した上で、自分自身のリーダーシップ体験を振り返り、今後の課題・取組みの方向についてどのようにリーダーシップスタイルを開発していくのかその方法論について説明、議論できる。 <p>授業の概要</p> <p>リーダーシップの基礎理論、実践的研究及び事例全般について講義すると同時に、ワークショップ形式で出席者自身の体験をベースに対話を通じて体感的にリーダーシップについて理解する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コース 共通科目	特設外国語 英語Ⅰ	<p>This seminar class for graduate students explores economic theories applied to real-life situations. Skills honed in this class are critical thinking, research methodology, academic reading, data evaluation and professional presentation. The first section of the class is spent discussing the major theme, incentives and how people are incentivized—from the textbook <i>Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything</i>, by Levitt and Dubner (2005). In the second part of this class students will work with the professor on their own research through writing, editing, practicing and presenting in a professional format—and in English.</p> <p>実生活の状況に当てはまる経済理論を検討する。このクラスで磨かれる技能には、批判的思考、研究方法論、アカデミックリーディング、データ評価、専門的プレゼンテーション能力が含まれる。前半は、レヴィット&ダブナー著「ヤバい経済学：悪ガキ教授が世の裏側を探検する」から主要テーマ「インセンティブおよび人はどうしたらやる気になるか」について議論する。後半では、教員との共同作業を通して、英語でのレポート執筆、編集、専門的プレゼンテーションを行い、学生自身の研究を進める。</p>	
	特設外国語 英語Ⅱ	<p>TOEICは大学生のみならず、社会人も多く受験している英語技能テストです。本授業では、TOEIC L&R対策用学習教材を使用して、英語聴解力、読解力、語彙力を総合的にレベルアップさせることを目標とします。受講者は、学内外で開催される実際のTOEICを積極的に受験して下さい。履修対象は、主として中級レベル（英検2級程度）の英語力を持つ学生です。</p>	
	特設外国語 英語Ⅲ	<p>リーディングを中心として、総合的で高度な英語力を養成することを目標とする。</p> <p>文化や旅、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなど幅広い分野を題材に、写真や映像を豊富に用い、五感を使って主として語彙力と読解力を伸ばす。また、オーラルコミュニケーション、ビデオ視聴、ライティングも練習する。授業では、原則的に訳読は行わず、できるだけ多く英語を使うことに重点を置く。</p> <p>その他、本科目には以下のような特長がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルのリーディングを扱う。アカデミック・イングリッシュを学ぶ準備にも好適である。 ・様々な国からのリアル・ストーリーを紹介する。学習者は英語とともに世界を学ぶ。 ・語彙力、読解力、アカデミック・イングリッシュおよびクリティカル・シンキング能力を養うための演習を豊富に行う。 ・IELTSやTOEFL試験対策に有益な質問形式の演習を行う。 ・関連サイトで、音声、ビデオ、ビデオスクリプト、語彙リストを利用できる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コース 共通科目	特設外国語 英語Ⅳ	<p>This course is designed for non-native speakers of English who need to learn advanced writing strategies to succeed in the academic environment. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper. Students will be asked to develop individual research projects on a topic of their interest using the techniques and methods discussed during this lecture, with the final objective of demonstrating their skills in a final research paper at the end of the course.</p> <p>During the course, students will be strongly encouraged to work on developing their vocabulary, writing, listening, reading and speaking skills according to the average standards necessary to successfully comprehend the academic subjects under discussion.</p> <p>学問的環境で成功を収めるために高度な英語ライティング能力を必要とするノンネイティブ話者を対象としている。主要な目標は、論理的思考の段階的訓練を通じて、学生が明瞭で説得力のある学術論文を書くために必要な技能を獲得することである。学生は、講義を通じて身に付けた技術と方法論を用い、自身が関心のあるトピックに関して研究プロジェクトを進めていくことが求められ、最終的に研究論文を執筆する。 講義全体を通じて、学生は議論しているテーマを理解するのに必要な語彙力および4技能を高めるよう努力することが求められる。</p>	
	特設外国語 ロシア語Ⅰ	<p>ロシア語力を多面的に高めていくことを目標とする。主として、露文のリーディング・ライティング、ロシア語のインターネット検索等を通じて、ロシア社会における諸問題の理解を深めることによって、研究に必要な知識を身につけてもらうことを目指す。受講生の興味・関心と語学力に応じて、授業のテーマとレベルを調整したテキストを使用する。</p>	
	特設外国語 ロシア語Ⅱ	<p>ロシア語の新聞・雑誌、あるいは近年において容易に閲覧できるようになったインターネット上の記事を、辞書など補助教材の一定のサポートを得ることにより、正確に読めるようになること——これが本授業の目標である。本授業には多様なロシア語学習歴を有する受講生諸君が来ることと予想されるため、それぞれの語学力に応じ、授業レベルを調整することとする。これまでの各自の学習歴において不足していた文法的知識についても補強する。</p>	
	特設外国語 中国語Ⅰ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）序文～第2集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	
	特設外国語 中国語Ⅱ	<p>中国語文献購読。現代中国語文献の購読を通じて、経済経営専攻での研究に必要な中国語読解力の強化をめざす。あわせて現代中国の諸問題への理解を深める。テキストには近年出版・発表された研究書・論文などを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1989年の天安門事件当時中国で話題になった蘇曉康・王魯湘『河殤』（三聯書店（香港）、1988年）第3集～第5集までを購読する予定だが、受講生の必要に応じて別の文献を購読を行うことも可能である。 ・毎回、テキストの指定された範囲を輪読する。また折に触れてテキストの背景などに関する解説も行う。 ・履修者は、毎回指定された範囲について、音読と翻訳が出来るよう十分準備した上で出席することが求められる。 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 自専攻科目 コース 共通科目	専攻科目	特設外国語 韓国朝鮮語	主に東アジア地域の研究を目指し朝鮮半島に関心のある学生を対象に、研究動向の整理やインターネット検索など研究活動を進める上で求められる韓国朝鮮語の運用能力の養成を目指す。あわせて政治・経済・社会・文化などの時事問題に触れて朝鮮半島への理解を深める。到達目標は次のとおりとする。 ・ 朝鮮半島の時事問題に理解と関心を持つ。 ・ 辞書や参考書を引きながら韓国朝鮮語の文献を読解できる。	
		特設外国語 日本語 I	[概要] この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。 [ねらい] 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)ハンドアウトと論文の書き分け、(3)口頭発表のスキル、(4)日本語待遇法の理解と習得などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについての習熟も図る。	
		特設外国語 日本語 II	[概要] この授業は、大学院留学生として習得しておくべき日本語技術の向上を目的とする。「特設外国語 日本語 I」からのさらなる熟達・発展をめざすクラスである。 [ねらい] 特に焦点を当てる項目は(1)引用文・文献リストの正確な文法と記法、(2)論文デアル体・語彙の習得、(3)ハンドアウトと論文の書き分け、(4)口頭発表のスキル、(5)レポート・論文・アカデミックプレゼンテーションの資料作成、などである。もちろん、そのためには基盤となる基本的な日本語能力(文法・語彙)の熟達が求められるので、それについてのさらなる熟達も図る。	
他専攻科目	地域デザイン 科学 研究科 人間文化 専攻科目	人間文化創造特論	本講では人間文化専攻で研究を進めるための基礎となるリテラシーと研究倫理を身につけると共に、文化に関する研究や実践を進めるにあたっての基礎的な知識を身につけることを目的とする。講義においては、研究と実践を往還させながら双方を深めていくことを重視し、具体的な研究事例を基にした実践的な内容を中心とする。社会活動面における倫理なども重視し、プロジェクト研究における実践の基盤となる知識・理論・技能等を身につけることを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (45 小野原雅夫/7回) 大学院における研究の在り方と方法及び研究倫理に関する内容(5回)、文化概念について(2回) (46 初澤敏生/8回) 文化の地域的存立基盤について神社の祭礼を中心に解説する。(4回) 文化を活用した地域づくりについて事例研究を行い、基礎的な技能の定着を図る。(4回)	オムニバス方式
		現代日本語特論	計量的な日本語研究の方法について考察する。日本語研究の中でこれまでに用いられた多変量解析の技法について概観するとともに、電子化された言語データを使用し、実際にアプリケーションソフトを用いて各技法の使用法を学ぶ。具体的には、記述統計、クロス集計、検定といった基礎的な技法のほか、因子分析、林の数量化理論、クラスター分析、重回帰分析、VARBRUL、パス解析、SEMなどを扱う。コンピュータリテラシーと一定の数学的素養が要求される。	
		地域言語特論	方言研究の方法について考察する。社会言語学的な観点に基づく言語変化研究を扱う。諸文献の講読を通じて、戦後の国語研究所による言語生活研究、各地で実施された共通語化の研究、日本出自の技法であるグロットグラム法などの成果を概観し、方法を把握するとともに各研究の問題点についても考察する。日本語方言の研究にとどまらず、W. Labov, P. Trudgill, J. Chambersら欧米の研究者による研究にも目を配る。また随時コンピュータを用いて実際の方言データの分析実習も行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	日本近代文学特論	文体という観点から日本における近代文学の変遷を辿る。文語文体から言文一致を経て自然主義の隆盛へ向かう明治期、モダニズム的な様相を呈する大正期、関東大震災後から戦時下へ向かう昭和期、多様な様式が展開される戦後と、それぞれの時代の小説を文体という視点からアプローチすることで、小説の方法や様式を把握する。	
	比較文学特論	西洋文学の受容を視野におさめながら、日本における文学の形成について論じる。具体的には、毎回1篇の小説や詩のテキストを取り扱い、文体や様式、掲載雑誌やジャンルなどに目配りしながら文学史的な位置づけを行う。特に構造主義以降のポストコロニアリズム的状况を理解しながら、日本（語）文学のあり方を考え、より深く理解する。	
	日本古典文学特論	相互に関係のある複数の日本古代文学作品について、それら諸作品が作られた時代の政治や文化、制度や社会、他の内外の作品との影響関係などの観点から、それぞれの特徴や意義、及び相互の関係性などについて考察する。授業の進め方としては、最初に日本古代文学史について概説し、講義中に取り上げた作品の中から主要なものを学生に選択させて、先行研究や独自の調査を織り込みつつ講読していく。	
	日本文学特論	日本文学の形成過程及び特質について、伝統的な美意識の形成と展開を軸に据えて、言葉、作家、風土、社会、ジャンル、歴史、外国文化・文学・思想との関連など多面的な観点から講義する。また、日本文学がどのように享受されているかについて、学校教育における文学教材のあり方や特徴を軸に据えて、詩歌、物語・小説、随筆・エッセイ、日本文化論を取り上げ、文学研究の立場から講義する。	
	漢文学特論	漢文学における中国古代神話は、従来、孤立断片的な「涸れたる神話」と見なされ、その体系性のなさがしばしば指摘されてきたが、もともと稀薄だったわけではない。授業の前半は枯渇の主因となった儒教の経典化や経典の歴史化について講述し、後半は豊饒な神話的世界を、主に『楚辞』をもとに読解し、巫祝文化との関係についても講述する。なお、理解の度合を確認するため毎時レポート提出を求める。	
	中国思想特論	漢文学の根底に流れる道家思想から、特に「混沌」「渾沌」の概念について、「老荘列」の三書から具体例を示しつつ講述する。特に『列子』における楽園説話成立の背景に、「昆侖」「空同」「華胥」「終北」に代表される混沌境地の地理的表象や至人描写があることを詳述する。なお、授業理解の度合を確認するため、毎時小レポートと短い漢文原典読解の提出を求める。	
	国語科教育特論	国語科教育法には、様々な理論と方法が存在する。本特論では、「単元学習」「文芸研」「読み研」「分析批評」「一読総合法」「読者行為論」「読者反応論」「読書指導（ブックトーク・アニメーション等）」といった様々な理論と方法や、垣内松三、西尾實、芦田恵之助といった国語教育学の古典となっている研究について理解を深める。また、情報機器の扱いを含めたメディア・リテラシー教育の現況を知り、今後の国語科教育の展望を探る。	
	国語科教育実践研究 I	「実践報告」と「実践研究」の違いを理解したうえで、国語科教育学における質的研究と量的研究の方法を理解する。そのうえで、多くの教育実践論文を分析し、教育実践論文の書き方を習得する。具体的には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（文学的文章・説明的文章・古典）」「メディア・リテラシー教育」といった各領域を扱い、また、小学校、中学校、高等学校といった各校種の教育実践論文を取り上げる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	英語意味論特論	自然言語の意味に関する形式的な分析方法を概観する。本授業では、哲学や論理学の伝統を受け継ぎ、意味の数学・論理的側面を厳密な方法で分析する形式意味論のアプローチを主に取り上げる。意味研究の基盤となる古典的な命題論理、述語論理、様相論理の基本から学び、形式意味論における三つの基本的概念である真理条件・モデル・構成性の原理の理解を深めることを目的とする。授業は、文献講読を中心に進める。	
	英語構造論特論	英語学の研究領域の中で、特に統語論を中心に生成文法のこれまでの理論的展開をいくつかの主要なトピックを通して概観することにより、生成文法の基本的概念と思考法を理解する。理論の変遷が個別現象の分析と生成文法の目標とどのように関わるかについて理解するとともに、必要に応じて関連分野における研究の進展なども考慮しながら、生成的言語研究における理論的展開がどのように動機づけられてきたかという問題や、部門間における派生と対応の問題などを取り上げて検討する。	
	社会言語学特論	「言語」「社会」「文化」「認識」の関係を、身近な問題と引き比べながら検討していく。社会的変数に焦点をあて、地域、階層や階級、性、年齢、役割などが、言語にどのような影響を与えているか、文化変容とどのような関係を持っているかなどの検討を行う。さまざまな言語変種がどのような過程を経て生まれ、現実社会の中でどのように扱われているかを考察する。とりわけ、「女ことば」に関する歴史的考察とそれに対する社会の姿勢を通時的にたどることによって、ジェンダーとことばの現代的解題を明らかにする。また、そうしたことばに対する社会的な姿勢の変遷が、歴史的、社会的、経済的な変容とどのように関わっているかをとり上げ、法律の改正、産業形態の変化、社会的意識の変容の関係を検討する。	
	現代アメリカ文化特論	アメリカ文学作品とそれを原作とする映画作品について、それぞれを作品として分析して現代的意義を明らかにするとともに、比較検討してそれぞれのジャンルの特性を探究する。具体的には、アメリカ現代文学の源と言われる1925年の文学作品 <i>The Great Gatsby</i> を原文で読み、20世紀アメリカ文学のテーマを明らかにする。さらに作家 F. Scott Fitzgerald や作品の時代背景について調査して、作品分析及び映画作品との比較の準備をする。	
	初期近代英米文学特論	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文、散文の文学テキストを用いて、文学テキストの意味作用を理解することを目的としている。とりわけ、ジェンダー、階級、人種などのカルチュラル・スタディーズなどの観点から考察を加える方法を教えるとともに、自分なりの英米文学に関する理解の方法論を身につけるための技法について明らかにする。	
	近代英米文学特論	英国を代表する文芸批評家 (F. R. Leavis, Raymond Williams, Terry Eagleton) のテキストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって、それを読んだだけでは分りにくい諸問題 (植民地主義, ナショナリズム, 資本主義, 帝国主義など) を浮かび上がらせ、そして、その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを、この授業の目的とする。授業は、基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	
	英語教育学特論	教育的介入の効果 (教育効果) を検証するには、教育的介入の目的に照らして適切な評価が不可欠である。適切な評価を行うには、評価が目的に沿っていることに加え、様々な妥当性の根拠を示すことが求められる。本授業は英語教育における評価の意義と役割について理解を深めることを目的とする。言語テスト理論に関する文献講読を通して、目的に応じた適切なテストの作成、テストが学習者に与える影響 (波及効果) の検討、そしてテスト得点の処理方法について理論を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	英語教育学特論演習	指導と評価の一体化を実現するためには評価の意義と役割について理解を深め、教育的介入の効果（教育効果）の適切な測定や望ましい波及効果をもたらすフィードバックの実践が不可欠である。本授業は、英語教育における評価の意義と役割について理解を深め、妥当性の高い評価を実践する力を身につけることを目的とする。ペーパーテストおよびパフォーマンステストの作成、プロダクトの評価、そしてテスト得点の処理に関する演習を通して、言語テスト理論に根ざした評価を実践できるようにする。	
	英語教育学研究Ⅰ	英語教育学は学際的な分野であり、実験心理学に基づいたアプローチを中心に様々な研究領域の研究手法が応用されている。実験結果から確かな結果を主張するためには、内的妥当性などの条件を満たした研究デザインを採用する必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソッドロジーについて理解を深め、研究目的に沿った研究デザインを検討する力を身につけることを目的とする。英語教育学および実験心理学の研究手法に関する文献講読を通して、先行研究に基づいてリサーチクエスチョンを設定し、内的妥当性の高い研究デザインを構想できるようにする。	隔年
	英語教育学研究Ⅱ	英語教育学研究のアプローチは多様化しており、従来の量的分析に加え、質的分析や混合研究法など様々な研究手法が用いられるようになってきている。そのため、研究の目的に照らして適切なアプローチを見極める必要がある。本授業は、英語教育学の研究メソッドロジーについて理解を深め、様々な研究デザインに適した分析手法の検討および実践する力を身につける。統計分析を中心とした量的分析と質的分析に関する文献講読および分析演習を通して、研究目的や研究デザインに照らして適切な分析を実施できるようにする。	隔年
	第二言語習得特論	外国語として英語を学習している日本人を対象に第一言語（日本語）と第二言語（外国語を含む）の習得過程の特徴（類似点と相違点）について理解を深める。また、日本語を母語とする学習者が様々な校種において外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）の言語事象の特徴とその要因について考察する。さらに、第二言語習得に関する数多くの文献をもとに様々な言語習得理論の特徴を理解し、外国語として英語を学習している日本人の言語習得の研究手法も身につける。	
	第二言語習得特論演習	日本語を母語とする学習者が外国語として英語を学習する際（外国語活動及び英語科教育）のプロセスの特徴について、心理言語学の研究調査に基づく演習を通して、言語の学習プロセスを徹視的かつ巨視的な視点で理解できるようにする。また、心理言語学に基づく言語習得研究に関する数多くの文献等の具体的事例をもとに科学的証明方法（仮説の立て方、実験調査のデザイン、数量的データの統計分析及び考察方法等）を身につける。	
	第二言語習得研究Ⅰ	第二言語習得のメカニズムについて心理言語学の記憶研究の視点に基づく研究を理解する。特に言語習得に必要な不可欠な短期記憶であるワーキングメモリの働きに焦点を当てる。ワーキングメモリは、第一言語や第二言語等の音声言語及び文字言語の習得に重要な役割を果たしており、多様な機能を有している。この記憶機能と言語習得の多角的及び多面的関係性について、様々な実験調査研究を理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となる様々な要因について検討し、研究力を身につける。	隔年
	第二言語習得研究Ⅱ	第二言語習得のメカニズムの解明と第二言語学習の有効な指導方法を模索する研究力を身につける。第二言語習得における記憶メカニズムに関して、ワーキングメモリの代表的な複数の仮説やモデルに基づく実証的記憶研究論文をもとに、その有効性や妥当性について深く理解する。さらに、外国語環境にある日本語の母語話者が英語を理解し習得する際に重要となりうる要因（第一言語と第二言語の言語的距離、学習者の年齢や認知発達段階及び同年齢における個人差等）の解明とその要因に基づく有効な指導方法を考察する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	英語教育実践特論	<p>This class will draw from ideas and theories about the teaching of English, beginning with the instructor showing students how they look in practice. Students will then be encouraged to choose, from the variety of approaches learned (through readings, videos, and observations in this and other classes), those they feel most comfortable and confident in. They will be asked to demonstrate, critique, and adapt their approaches through follow-up discussions and readings. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.</p> <p>この授業は英語で行われる。まず、授業担当者が様々な指導法の実践を示し、英語教育に関する考え方や理論について学ぶ。次に、受講生は文献講読や授業観察等を通して学んだ様々な指導法の中から、自身にとって最も自信があり適切だと考える方法を選ぶ。その上で、学習指導要領を含めた文献講読での解説やディスカッションを通して、その指導法の実践、批評そして改善を行う。</p>	
	英語教育実践特論演習	<p>Building on 英語教育実践特論, students will learn how to tackle and incorporate approaches about which they feel less confident, with the goal of becoming a more flexible and adaptable teacher. In addition, while reviewing studies in team-teaching related issues, we will consider how several types of team-teaching partners (both native and non-native English speakers) could be involved most effectively. Lastly, students will consider the applicability of the research to English teaching based on the Course of Study, including the use of information and computer technologies.</p> <p>この授業では、英語教育実践特論で学修したことに基づき、より柔軟で適応力の高い教員になることを目指して、受講生にとって自信がない指導法を取り入れるための方法を学ぶ。さらに、チーム・ティーチングに関連する研究を概観し、英語母語話者および英語非母語話者を含めた様々なパートナーとの効果的な関わり方を検討する。また、これらの検討結果に基づき、ICTの活用を含め、学習指導要領に基づいた指導への応用可能性を検討する。</p>	
	英語教育実践研究 I	<p>Students will begin by explaining, reviewing, and (if possible) demonstrating areas of difficulty that they have noticed in their English-teaching practice. We will then summarise and discuss both articles and experiences that apply to those problems. Further, students will be encouraged to do their own research and lead in readings of articles on issues they believe are likely to arise in their future teaching contexts.</p> <p>この授業ではまず、自身が考える英語教育の授業実践における問題点について、受講生が説明や概観を行う（可能であれば授業実践の実演も行う）。次に、そこで指摘および検討された問題点について、学術文献や実践経験に基づいて整理とディスカッションを行っていく。その上で、将来的に教育現場で生じると考える問題点について、文献講読や研究の遂行を行う。</p>	隔年
	英語教育実践研究 II	<p>Students will begin by expressing particular concerns that they have noticed in their English-teaching practice and in realising Course of Study objectives. We will then look at teaching issues from a range of cross-cultural standpoints, while relating them to our own experiences as teachers, learners, and users of foreign languages. Further, they will be coached on how to follow-up on their research interests, and will have at least three opportunities to present on articles related to themes such as Pragmatics, Intelligibility, goal-achievement, and statistics in language-learning studies.</p> <p>この授業ではまず、受講生が自身の英語授業の実践を通して気づいた問題点について、英語の学習指導要領の目的と照らし合わせつつ説明を行う。次に、受講生の教師、学習者そして外国語使用者としての経験と関連づけつつ、それらの問題点を異文化の観点から検討する。さらに、自身の研究の関心を追究できる方法論を身につけるため、語用論、明瞭さ、到達目標の達成および言語習得研究における統計学などに関する研究テーマの文献発表を行う。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	外国文化特論	主にドイツ・ロマン主義の文学作品、および文学論を読み、ロマン主義運動の本質を探る。扱う作品としては、ノヴァーリス『青い花』『キリスト教世界あるいはヨーロッパ』、フリードリヒ・シュレーゲル『ロマン派文学論』『ルツインデ』、ハインリヒ・フォン・クライスト『マリオネット劇場について』などを予定している。ただし学生からの要望に応じて扱うテキストを変更することも可能である。ドイツ語の知識は問わないが、あるに越したことはない。	
	日本社会文化史特論 I	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に在地社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年
	日本社会文化史特論 II	日本史上の諸問題について、文献の講読を通じて、社会・文化の側面から理解を深めることを目的とする。あらかじめ指定した先行研究のテキストを毎回読んできてもらい、授業のなかで議論を行う。本授業では、主に都市社会と文化に関するテキストを取り上げる。受講者には、研究史を批判的に評価する術の習得、研究の内容に対する理解の深化と共に、研究の方法論の理解を求める。	隔年
	日本地域文化史特論演習 I	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、村や町で作成された「御用留」を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年
	日本地域文化史特論演習 II	歴史学は、過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには、史料の読解能力、特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに、現在の個別細分化された研究状況においては、地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで、日本史の史料の中から、特に地域史・文化史に関わる史料を取り上げて、演習形式で輪読を行う。本授業では主に、百姓や町人の日記を取り上げる。受講者には、史料を解釈する能力の習得と共に、地域の視点から歴史を描く方法論の理解を求める。	隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論 I	ヨーロッパの前近代は現代日本とはあらゆる点で前提が異なる社会であるが、この社会について学ぶことで、ヨーロッパ社会をより深く理解し現代日本の社会・文化を相対化することが可能となる。本講義では、近年の「社会史」・「文化史」の主要な研究成果を取り上げつつ、ヨーロッパの前近代の主要なトピックについて「社会史」・「文化史」の観点から講義する。主に、宗教と社会との関わり、身分制、異文化圏との接触・交流といったテーマを取り上げる。	隔年
	ヨーロッパ社会文化史特論 II	近現代のヨーロッパは、現代日本に直結する社会・文化的課題が登場した社会である。本講義では、近現代ヨーロッパの主要なトピックについて、「社会史」・「文化史」の観点から講義する。前近代に比して資史料が豊富に残されている近現代については、人々の社会文化的生活を個人レベルで再構成することも可能であることから、一次史料の読解なども取り入れて講義する。主に、ヨーロッパ近現代史における革命、民族、人種、ジェンダー、家族といったテーマを取り上げる。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 人間文化 専攻科目	ヨーロッパ地域文化史特論 演習Ⅰ	ヨーロッパにおける「地域文化」の歴史について日本で学ぶ意味は、われわれとは異なる「地域」概念や日常生活のあり方について知ることを通じて、われわれ自身の地域・生活観を反省的に見つめ直すことにある。本講義では、ヨーロッパ前近代における人々の地域における日常生活のあり方を、「日常生活史」の主要な研究成果を取り上げつつ講義する。主に、古代ギリシア・ローマ、および中世ヨーロッパにおける食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを取り上げる。	隔年
	ヨーロッパ地域文化史特論 演習Ⅱ	本講義では、近現代ヨーロッパについて、「地域文化」の観点から講義する。食と住まい、労働と娯楽、旅と交通といったテーマを近現代について論じていくが、近現代においては「国民国家」の登場に伴い、「地域主義」の目覚めや「中央」と「地方」の相克など「地域」をめぐる諸問題が重要視されるようになる。本講義では、「日常生活史」に関わるトピックとともに、そのような「地域主義」の問題も取り上げていく。	隔年
	自然災害特論Ⅰ	本講義では自然災害のうち地震災害と火山災害について主に扱う。プレートテクトニクス運動によって地殻変動が著しい日本において、1. 日本周辺の地殻構造と地震発生と火山噴火の関係、2. 地震ならびに火山噴火の発生タイプとメカニズム、3. 地震/火山噴火観測の概要と予知の現状、4. これまでの主な地震災害・火山災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
	自然災害特論Ⅱ	本講義では自然災害のうち、風水害と土砂災害について主に扱う。台風の通り道になっており洪水や斜面災害が発生しやすい日本において、1. 日本周辺の気圧配置と気候の特徴について、2. 地球温暖化に伴う風水害被害拡大の概要、3. 気象観測の概要と予報の現状、4. これまでの主な豪雨災害・土砂災害の歴史、5. 災害対策の現状に関して、最新の論文や専門書等を輪読しながら受講生と議論をしつつ講義を進めていく。	隔年
	環境地理学特論演習Ⅰ	地域防災に関わる土地環境要素（活断層・火山）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地断層帯における活断層地形や吾妻火山について、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行き行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年
	環境地理学特論演習Ⅱ	地域防災に関わる土地環境要素（地すべり・軟弱地盤）について、その調査法を習得するため、自然地理学に関する室内実習ならびに現地観察を行う。本講義では福島盆地内における地すべり地形や軟弱地盤を実際に把握するために、室内での空中写真判読で地形分類を行った後に実際に現地に行き行ってスケッチや測量ならびに土地利用などに関する野外調査を行う。さらにその調査結果をもとに報告書を作成し、自然地理学における一連の野外調査法を学ぶ。	隔年
	地域と文化特論Ⅰ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から、主として地域における文化の存立基盤について検討を加える。具体的には、文化に関する概念や人間の文化習得についての理論的な検討と既存の研究の批判的検討の後に、「まつり」と「伝統工芸」を取り上げ検討を深める。まつりは地域社会と密接な関係を持って存在し、地域によって支えられるとともに、地域を支える役割も果たしている。本授業では地域の社会構造に注目しながら、その点を構造的にとらえていきたい。一方、伝統工芸はその地域の文化的な存在であるとともに経済的な存在でもある。ここでは主に製作に焦点を当て、その文化意識が産業にどのような影響を与えるのかを考察する。それにあたっては、文化的側面に注目しつつも、経済的側面にも視野を広げ、その存続基盤について検討する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	地域と文化特論Ⅱ	本授業では、人文地理学・文化地理学的な観点から主として地域における新しい文化的事象について検討を加える。具体的には、地域の食文化（伝統的食文化だけではなく、B級グルメなどの現代的な食文化も含む）やそれらを活用した地域振興など、文化を活用した地域づくり・まちづくりなど、現代文化を中心に、現代の地域において文化が果たしている役割について検討する。	隔年
	地域復興・振興特論演習Ⅰ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部において主に経済的側面からの地域振興の現状と課題について考察を加える。ここでは、グローバルとローカルをつなげる視点を常に持ち、具体的な事例の検討を通して検討を深める。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、研究視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
	地域復興・振興特論演習Ⅱ	本授業は、人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と、それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部においては主に地域づくりについて取りあげる。ここでは、Ⅰで取り上げたような経済的な視点の他、社会・文化的視点、それを支える市民の視点なども必要になる。授業中盤においては、これらに関する具体的な事例も挙げながら、地域づくりに関する視点を深化させる。これを受け、院生が調べた事例を紹介するとともに、その実践について批判的に検討し、討議を深める。これを通して院生の地域振興とまちづくりに関する考察を深める。	隔年
	観光産業特論Ⅰ	本授業では、経済学的な観点からさまざまな観光産業や観光施設、観光政策などを取り上げ、分析を加える。観光産業・観光施設等は観光資源の特性によってその性質を大きく変化させるため、本授業を進めるに当たっては、特に観光資源に着目し、類型化しながら検討を進める。また、観光政策面に関しては、特に東日本大震災後のさまざまな観光復興政策やCOVID-19に対応した振興策が地域の観光産業にどのような影響を与えたか、などについて検討する。	隔年
	観光産業特論Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から、主に修学旅行を中心とする教育旅行を対象として、分析を加える。教育旅行は教育目的に沿って行われるため、観光旅行の中でも特徴的な性格を持つ。その一方で、団体旅行として規模が大きいことから、産業面からも無視できない市場を形成している。本授業では修学旅行に関する目的意識の変化が旅行先の選択に与える影響や東日本大震災後の被災地を対象とした修学旅行の変化、COVID-19が修学旅行の地域構造に与えた影響などを取り上げて分析を加える。	隔年
	地域経済特論演習Ⅰ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に第一次産業（農・漁業）と第三次産業（商業・サービス業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。農・漁業に関しては、産地形成や資源管理など、地域的な生産体制が重要な役割を果たす。地域的な支店から経済を分析する。また、商業・サービス業は産業と地域が密接に結びついており、地域の構造変化が直接産業の変化に結びつく。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年
	地域経済特論演習Ⅱ	本授業では、経済学的な観点から地域経済の研究手法をとらえた上で、主に第二次産業（製造業）を取り上げて地域の中での産業の位置づけや特性を演習形式で学修する。製造業は各業種の生産構造的な特性と、地域の産業基盤の特性を組み合わせながら、その存立基盤を形成している。生産構造的な特性は全国レベル（あるいは世界レベル）の空間構造を形成し、地域的な産業基盤は市町村レベルでのローカルな構造を持つ。学修にあたっては、論文購読を行った上で、各種の統計資料を用いて地域経済分析を行う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	コミュニティ文化特論Ⅰ	高度成長期の工業化・都市化・大衆化、そして1980年代以降の情報化・高齢化・グローバリゼーションの進行によって、日本の地域社会は構造的な変化を経験し、一方で解体・再編が進むとともに、他方ではコミュニティとしての再形成の動向がみられるようになった。この授業では、社会学の視点と方法により、地域社会の変容を実態に即してあつげるとともに、その社会・文化・意識構造の今日的特質を描出する。	隔年
	コミュニティ文化特論Ⅱ	この授業では、コミュニティの担い手（＝主体）に注目し、コミュニティ文化の日本的特質を明らかにする。具体的には、地縁型組織である地域住民組織とテーマ型組織であるNPO・市民活動団体の組織と活動の特徴を描出するとともに、これら2つの組織間の連携およびこれらと行政との協働の実態を論じ、形成途上にあるコミュニティの文化的特質を明らかにする。	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅰ	この授業では、戦後日本における地域社会の解体・再編を踏まえつつ、これに対する再組織化の動向をコミュニティ形成の文脈で捉え、その主体的・構造的条件を社会学の視点と方法により明らかにする。具体的には、国によって提起されたコミュニティ政策の背景と展開過程、および地域での実践を捉え返し、その成果と課題を今日的視点から検証する。	隔年
	コミュニティ形成特論演習Ⅱ	この授業では、今日のコミュニティ形成および住民による主体的なまちづくりの動向に注目し、国内外の事例を紹介しつつ、まちづくりの意味と可能性について論じる。また、まちづくりをコミュニティ・レベルでの地域自治の実践として捉える立場から、これを制度的に保障するコミュニティ政策のありようについて検討を加える。	隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅰ	「人間開発」とは、教育的な場面においては、人材育成や人間発達支援を意味する語である。育てる者と育てられる者という上下関係の中での営みにおいてはパターンリズムの危険性が生じる。パターンリズムとは、親が子どもの幸せを考え子どもにとっての最善を判断しやっつけてあげることであり、子どもが小さいうちは絶対に必要な営みであるが、子どもが大きくなるにつれて、子どもにとっては自由の侵害となる可能性も生じてくる。そもそも教育は、育てられる側が自立して自由な存在者となることを目的とするものと思われるが、教育という行為には多かれ少なかれ強制的要素が含まれており、そこには自由と強制のパラドクスが発生してしまう。自由な主体を育成する人間発達支援の難しさ、そのあるべき姿について、文献講読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年
	人間開発の倫理学特論Ⅱ	「人間開発」とは、倫理学や政治・経済学の場面においては、弱者（開発途上国なども含む）の援助・支援を意味する。援助や支援は長いあいだ不完全義務と位置づけられ、自立や自治の尊重という完全義務よりも優先度の低い課題とみなされてきたが、近年では構造的暴力が問題視されるようになってきたことに伴い、たんなる善意による不完全義務にのみ任せておけばよい問題ではなく、根本的な対処が必要な完全義務と見なされるようになってきている。弱者支援の問題点と、そのあるべき姿について、文献講読や討論を通して徹底的に考えてもらう。	隔年
	共生の倫理学特論演習Ⅰ	人権について理解を深め、多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していくことの困難さと意義を実感してもらい、そのための具体的な手法を学んでもらう。人権には自由権、参政権、社会権、平等権や、その他の新しい人権など、様々な内容が時代とともに付け加わってきたが、それらは容易に両立するものではなく、互いに相克しあう複雑な関係を成している。対等な立場で語り合っていく哲学カフェの「対話のルール」を身に付けてもらった上で、人権に関わる様々なテーマについて哲学カフェを行いながら、理論と実践の両面から共生に向けたトレーニングを積んでいく。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	共生の倫理学特論演習Ⅱ	多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していく様々な手法を学んでもらうとともに、自ら新たに開発してもらう。具体的なトラブルが生じたときに非暴力コミュニケーション等を用いて紛争を解決していく平和的手法や平和的態度を身につけ、またそれらを指導するファシリテーションの技法についても学んでもらう。また、非暴力トレーニングなども学び、身近なところで生じる争いに対処するか、あるいは紛争地帯における暴力的状況のなかでどんなことができるかなどをシミュレーションしてもらった上で、新たな共生の手法を協働的に開発していく。	隔年
	食品科学特論	食品には大きく3つの機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能）がある。本授業では、それらに関わる食品成分の化学的性質、機能性について、その背景にある研究論文等を基に専門的な理解を深め、農産物から食品を科学的視点から捉えることを目的とする。具体的にそれぞれの機能を有する食品を例に取り上げ、社会的背景（消費者ニーズなど）、化学的性質、機能のメカニズム、その食品の意義（商品コンセプト）などに関連する文献等を活用しながら学ぶ。	
	食物学研究	食物学に関する研究の新しい知見や今後の課題を自ら見出ししながら、研究の全体像を捉えることをねらいとする。また、社会的な食品の課題へのつながりを見通すことをめざす。本授業では、食物学分野の文献、特に健康機能に関わるものを講読し、それをもとに内容についての解説と議論を行う。議論を通して、食物学分野の研究の背景や課題、手法などの理解を深めるとともに、現代の社会生活における食品に関する課題への関連や発展性を考える。	
	食生活特論	本授業では、受講生の興味や関心・修了研究のテーマ・修了後の進路などを勘案しながら、現代の日本の食生活における諸問題を授業テーマに設定する。最近の調理科学・食物学における話題等を入れながら、授業は主として講義形式ですすめるが、学生同士や教員とのディスカッションも適宜取り入れる。簡単な実習及び実験を取り入れる場合もある。	
	食生活支援研究Ⅰ	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。Ⅰでは主として食事や健康に関する内容を扱う。	隔年
	食生活支援研究Ⅱ	本授業では、学生各自で食生活支援をする対象（幼児から高齢者）と場面（具体的な地域や立場）を設定する。実践事例研究や文書講読、実地調査等を行って、その地域における特徴的な農林水産物・郷土料理・食文化を発掘し、対象者特有の食生活上の問題や課題を整理して、各自の食生活支援プログラムを作成する。発表や討論を経て、レポートにまとめる。Ⅱでは主として、食文化や食育に関する内容を扱う。	隔年
	衣生活特論	現代社会には、一人ひとりの生活の質の向上のためには衣生活に関わる多くの課題があり、その解決が求められている。本授業ではそれらの課題解決に資する知識を習得することをめざす。明治時代以降、現代にいたるまでの衣生活の変容について、衣服生産、衣服の流行と選択、衣服産業の課題等を中心に解説する。さらに、持続可能社会の形成及びユニバーサル社会形成のために、これからの衣生活のあり方について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻 科目	衣生活支援研究Ⅰ	自立した生活をめざす上で、衣服の選択や着装などは個人のアイデンティティに深く関わっている。本授業では、自立した衣生活とそれを支援するために必要な知識・技術について習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。さらに子ども、高齢者及び障害者を対象として衣生活の実態をとらえて課題を分析し、具体的な支援の方策について検討する。それらを通して支援のための具体的なプラン作成をめざす。	隔年
	衣生活支援研究Ⅱ	本授業では、持続可能な社会形成に資する衣生活支援に必要な知識・技術を、基礎的なものから、より実践的なものとして展開させ習得するために、関連資料の調査、文献講読等により検討する。衣服生産～廃棄及び再利用・再利用における問題点を把握し、分析する。さらに、地域における衣生活の実態をとらえて課題を分析する。それらを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し、具体的な支援方法についてプランの作成をめざす。	隔年
	家庭科教育特論	小・中学校を主とした家庭科の授業実践研究を題材、指導、評価等の視点や家庭生活と地域・社会の関連から分析できるようにする。家庭科教育における自立・自律ならびに共生をテーマに、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導のあり方、教材、評価等について探究する。また、生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズへの対応と家庭科教育のあり方についても考察する。	
	家庭科カリキュラム特論演習	家庭科教育における自立・自律ならびに共生を中心としたカリキュラム研究を通して、意思決定能力、コミュニケーション力、生活経営力等生活をよりよくする力を育成し、主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発を行う。生涯を見通した主体的な生活者の育成という現代的なニーズに対応するための家庭科教育の課題を明らかにし、児童・生徒の発達、生活の問題解決や地域との協働に即した教材が開発できるようにする。	
	家庭科教育実践研究Ⅰ	(概要) 小・中学校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを実現する教育及び実践について、ICTの活用、小・中学校の系統性や接続性を含めて考察する。 (オムニバス方式/全15回) (61 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活の学習内容について) (42 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (48 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)	隔年、オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化 専攻科目	家庭科教育実践研究Ⅱ	(概要) 中・高校家庭科の教育及び実践について追究するために、授業参観や実践記録の視聴、実践報告や先行研究等の文献講読を通して、題材計画や学習指導のあり方、教材、評価等を整理・分析し、課題や展望についての検討を行う。15回のうち5回は教科専門科学の理論と学習内容との関連についての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえ、生活課題の解決を図り実践するための主体的・対話的で深い学びを表現する教育及び実践について、ICTの活用、中・高校の系統性や接続性を含めて考察する。 (オムニバス方式/全15回) (61 角間陽子/12回) 10回(家庭科教育実践研究に関わる内容)、2回(生活経営学の理論と家族・家庭生活領域の学習内容について、生活経営学の理論と消費生活領域の学習内容について) (42 千葉桂子/1回) (被服学の理論と衣生活領域の学習内容について) (48 中村恵子/2回) (調理学の理論と食生活領域の学習内容について、食育と食生活領域の学習内容について)	隔年、オムニバス方式
	生涯生活マネジメント特論	人生100年時代を迎えた現代社会では、65歳以上を一律に受動的な弱者でありケアを受ける存在として捉えるのは妥当ではない。クリティカル思考により意思決定し、生活を主体的に選択・構築し、生涯にわたってアクティブ・エイジングが実現できる個人のあり方とその生活について追究する。自分らしく主体的に生きるためのライフロング・マネジメント・スキルを修得するとともに、そのスキルをもった人材の育成、他者の生活や地域・社会を支援する方法についても学ぶ。	隔年
	身体教育とスポーツ文化特論	本講義では、身体教育、スポーツ文化について理解を深めるとともに、身体教育とスポーツ文化との関連性について考察していく。スポーツを教材とした身体教育のあり方や、様々なスポーツ文化の教育的意義を踏まえたスポーツ指導のあり方について、テキストや資料をもとに論究する。具体的にはテキストや資料を読み進め、受講生が要点をまとめて説明した上で、教員からの内容確認の質問に答えていく形式で進める。	
	現代スポーツ特論演習	本演習では、現代社会におけるスポーツの様々な話題や問題について受講生がローテーションで話題提供し、現代スポーツに対する考え方についてディスカッションを行い理解を深める。現代社会におけるスポーツ指導のあり方や、各スポーツの現代的特徴、レクリエーションスポーツの今後の方向性など、できるだけ広い視野から現代スポーツの特徴を捉えていく。そして将来スポーツの現場に立ったときに、正しい判断と対処ができる指導者を育成していく。	
	スポーツ社会政策特論	現代のスポーツは、単にスポーツそのものの振興だけを担えばいいという時代は終わり、様々な社会問題の解決の一翼を担う、極めて社会的な存在へと進化した。そこで、国、都道府県、市区町村の三つのレベルから現代社会におけるスポーツ政策の重要性と理念を理解し、現代のスポーツ振興について解説していく。さらに、諸外国のスポーツ・健康政策についても触れ、今後、スポーツおよび健康政策を企画立案できる人材の養成を目指す。	
	スポーツクラブマネジメント特論演習	プロ・アマ問わず、スポーツクラブが自主独立し健全に発展するためには、人材、施設、財源、広報など、効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで、本演習では、国内外のスポーツクラブを事例に取り上げ、マネジメントするために、組織運営、経営方法、地域のマネジメント、マーケティング、施設管理、イベント管理、顧客管理等の知識を解説していく。そして、スポーツ組織・団体をマネジメントすることができる人材の養成を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 人間文化 専攻科目	スポーツ医科学特論	アスリートは自身の能力を最大限高めることで、高いパフォーマンスを発揮するために日々トレーニングしている。トレーニングにより疲労し、休養をとることで疲労が回復する。このサイクルが不適切になると、身体的諸問題が発生する。これは、アスリートのみならずスポーツ愛好家や健康の維持・増進を目的とした運動実践者においても起こりうる。本講義では、これらの身体的諸問題やその予防のための考え方などについて論究する。	
	健康科学と運動処方特論	健康の維持増進、および生活習慣病の予防にとって、日常生活における身体活動量の確保は非常に重要である。本講義では健康に対する考え方、身体活動量の評価、健康と運動（または身体活動）、生活習慣病と運動、健康の維持増進のための様々な取り組みについて、理解を深める。そして、健康の維持増進に欠かすことのできない運動をどのように処方すべきかについて、健康（健康科学）と運動の効果の観点から概説する。	
	スポーツバイオメカニクス特論	本講義では、バイオメカニクスの測定・分析方法を学ぶとともに、ヒトの運動を理解するためのバイオメカニクスの基本的知識および「走る」「跳ぶ」「投げる」などの基本的な運動のメカニズムに関する知識を基に、データを理解する能力を習得することを目的として、実験実習を取り入れながら授業を展開する。さらに、実際のスポーツ現場への応用方法について、ICTの活用と関連づけて考えていく。	
	運動学特論	本講義では、運動を習得し、修正し、自動化するまでの運動習得・習熟過程について理解することを目的として授業を展開する。受講学生自身の経験を振り返り、考えることで、理解を深める。さらに、運動指導においては、指導者は学習者の運動の微妙な違いを瞬時に評価するための「運動を見抜く力」や「運動共感能力」が求められるため、運動観察について知識を学ぶとともに、演習を通して運動観察力を身につけることを目指す。	
	運動生理学特論	本講義では、大学で学んだ（運動）生理学の知識を基礎として、より深化発展させた内容を行う。運動・トレーニングによる生体の反応、適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できるようにすることを目的とする。具体的には、運動時の遺伝子・タンパク発現と情報伝達系の変化、健康や運動パフォーマンス向上に関係する細胞内情報伝達系、筋の萎縮と肥大、等のテーマについて学ぶ。講義は理論を基礎とするが、理解を助けるために必要に応じて実験実習を行う。	
	健康指導特論演習	本講義では、運動が生体に与える影響について基礎的知識を総括した後、運動パフォーマンス向上および健康の維持増進のためにどのような運動が適切であるのかについて学ぶ。最近の研究成果を知るために運動生理学を中心とした論文を読む。また実験実習を通じて運動に伴う生体の反応について測定し、健康運動指導やコーチングに必要とされる測定方法、評価について学習する。講義、実習の成果をレポートにまとめ理解度を確認しながら進める。	
	武道文化特論	武道は闘争を起源にもつ伝統的日本の運動文化である。歴史の過程で仏教や神道、道教、儒教の影響を受け成立したものであり、独自の運動学習論が展開されている。その独自性を修行、道ととらえ、そこから派生した稽古や型の考え方等の独自の精神性を論じ、さらに、武道の国際化についてもふれる。これらを通して、武道の歴史や精神性等を学習し、武道の独自性を理解することを目的とする。	
	武道文化特論演習	本講義は、日本の伝統的運動文化である武道の伝書を中心に講読する。風姿花伝は能楽の伝書であるが、その運動学習理論は武道の源流をなす。不動智神妙録は、禅宗の考え方から剣術の技術をとらえたものである。兵法花伝書、五輪書、一刀斎先生剣法書は三大武芸伝書といわれ、流派の精神を説いたものである。猫の妙術と天狗芸術論は、剣術を老荘思想で説いたものである。これら伝書に加え、武道に関する論文を講読することによって、武道の特性を理解することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	保健体育科教育特論	授業の「計画－実践－評価」という授業づくりの構成要素を理解する。計画段階では、教材づくり、単元計画ならびに1単位時間の指導計画の立案、学習資料の作成などを行う。実践段階では、立案した授業計画にもとづいてマイクロティーチング（仮想模擬授業）を実施し、授業運営や相互作用行動などの実践的に学習する。評価段階では、体育授業観察者チェックリスト及び形成的授業評価、授業場面の期間記録法などの組織的観察法を用いた授業分析にも取り組む。	
	保健体育授業づくり特論	学校（小学校・中学校・高等学校）現場での体育科・保健体育科の授業を参観し、組織的観察法などを用いながら授業分析を行うとともに、模擬授業を立案・実践することを通して、保健体育科教師としての指導力向上ならび実際の教科の授業や学級経営のあり方について学修する。また学校現場の先生方との交流を通して、学校現場の実態や保健体育教師とはどうあるべきかなどについて深く考えていく。	
	現代声楽演奏特論演習	本授業では、日本歌曲の演奏を通じて、日本語演奏の表現法を研究する。また、馴染みの薄い邦人作曲家の作品を演奏することを通して知見を深め、今日の我が国におけるクラシック音楽のあり方について考える。授業は演奏実践と作曲家および詩人についての研究および作品についての考察を発表し、ディスカッションを通じて理解と作品に対する洞察力を養い、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。	
	声楽演奏特論演習	本授業では、学類の科目で触れることのできなかった、ロマン派後期から近現代の声楽曲を、西欧諸国のものを中心に学ぶ。方法論としては演奏実践と作品・作曲家・詩人についての調査発表を授業の両輪とする。調査発表については授業内でディスカッションを行い、それを通して洞察力と知見を身に付け、成果を演奏に還元することでより高いレベルの演奏を目指す。教材については芸術歌曲を中心とするが、オペラアリアや宗教曲のアリアなども排除しない。	
	オペラ特論演習	本授業では、モーツァルトのオペラを中心に、オペラのアリアやアンサンブルの演唱法を学ぶ。西欧で育まれたオペラを演唱するためには、我が国とは異なる文化や生活様式の理解が不可欠である為、それを解明しつつ、演唱を構築する。劇音楽とは何かを体験しつつ、彼我の大きな差異を理解することで、異文化理解につなげてほしい。実践が中心となるが、映像の鑑賞も時間の許す限り行う。また声楽の盛んな福島県という地域の実態に鑑み、様々な方法で地域オペラについて研究する。	
	音楽科教育特論	音楽科教育に関する研究方法論について、便宜上、哲学的・歴史的・記述的・実験的・民族誌的研究に区分けし、それぞれの梗概を把握する。また、音楽科の授業研究の方法について、質的・量的研究双方について学習する。次に音楽科教育の歴史、思想・哲学、教材論について、学術論文や著書を手掛かりとしつつ、批判的に検討する。音楽科学習指導要領について、ICTの活用やアクティブラーニングを中心に理解を深める。さらに、音楽科教育におけるポピュラー音楽の教材化を議論することで、今日的な学校音楽教育の有する可能性と課題について考究する。比較対象として、北欧の音楽教育やコミュニティ音楽療法も取り上げる。	
	音楽科カリキュラム特論演習	日本における音楽科カリキュラムの構成原理の変遷について俯瞰したうえで、現行の音楽科学習指導要領をカリキュラム論の視角から検討する。とりわけ重視されている協働的な学習、ICTの活用について、実践事例を取り上げながら考察を深める。続いて欧米やアジアなど諸外国との比較を通し、日本の音楽科カリキュラムの特有性を分析する。次に、音楽科教育におけるカリキュラム研究の系譜について概観する。近年主流となりつつある「多様な音楽」を扱う音楽科カリキュラムの意義と課題について検討する。前記「多様な音楽」を便宜上、西洋音楽、日本の伝統音楽、諸民族の音楽、ポピュラー音楽に区分し、各々について扱った音楽教育の実践研究等の文献講読を行い、カリキュラム開発のための基礎理念を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 人間文化 専攻科目	音楽科教育実践研究Ⅰ	音楽科授業の観察方法について授業映像を視聴しながら学習する。次に、本学の附属小学校・中学校の学校公開で扱われる楽曲について教材研究や分析を行う。研究授業の指導案を検討したうえで、参与観察を行う。その際、音楽科学習指導要領に基づき協働的学習やICT機器がどのように効果的に活用されているかにも注目する。授業者を交えた事後検討会での意見交換、及び大学での議論を通して、音楽科授業実践の在り方や可能性、今後の課題について考察する。	隔年
	音楽科教育実践研究Ⅱ	本学附属小中学校の学校公開用の教材楽曲や指導案の分析、検討を行った上で、参与観察に臨む。授業者を交えた事後検討会に参加し、また大学での検討会の議論を通して、音楽科授業実践のあり方について、目的、内容、方法、評価の視角から検討する。さらに音楽科学習指導要領とも関連付けて授業を分析し、その意義や有効性について検証する。その際、協働的な学習やICTの効果的な活用にも着眼し、今後の音楽教育実践の在り方を考究する。	隔年
	絵画特論	絵画の近代以降の系譜を検証し、美術制作学、美術科教育の視点からその構想について分析、考察する。併せて絵画表現の特質を理解し、現代における絵画表現と造形教育の関わりを深く追求する。具体的には、個別に設定したテーマに沿って、絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行い、絵画制作の主題、絵画の重層構造、技法や歴史的な問題について、現代の視点から再検討を行う。また絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。	
	絵画特論演習Ⅰ	絵画および現代美術に関して、個別に設定したテーマに沿って制作を行い、自身の制作について深く研究する。具体的には、テンペラを実制作する中で、材料の基本的な事項を獲得し、絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画等の比較や、絵画材料や技法の写真表現との比較検討等を行うなかで、制作学や美術教育学との関わりについても提起していく。	
	彫刻特論	彫刻特論の授業では、現代における彫刻の動向を学ぶとともに、パブリックアートに関する歴史的、物理的、社会的環境について学習を深めていく。前半では現代の彫刻の動向を複数の作家を取り上げて制作動機、表現、背景を理解していく。後半では明治大正期の彫刻設置と、1960年代以降の公共事業における1%システム事業に焦点を当て、各種環境との影響関係の概略を整理する。彫刻とその設置について調査研究することで、表現に活かすとともに、社会と芸術のありかたについて考察を深めていく。	
	彫刻特論演習Ⅰ	彫刻特論演習Ⅰでは、現代における彫刻表現の動向を踏まえ、制作を通して自身の表現の位置づけを探る。特に野外彫刻の具体的な事例をもとに、制作動機、表現、背景への理解を深め、自身の制作の振り返りを行う。パブリックスペースにおける彫刻設置は、数多くの課題を克服することが要求されている。授業では入念な検討をもとに、彫刻の本質的な造形技法を駆使しながら新たな提案に結び付けるとともに、図工・美術科の造形遊びや立体表現指導に活かせるよう学びを深める。	
	日本美術史特論	海外でも人気が高い日本美術のジャンルといえば、それは浮世絵であろう。人々の生き生きとした姿を描写した浮世絵は、当時の社会・風俗を映し出す鏡でもある。また、その平面性や色づかい、斬新な構図はヨーロッパの印象派の画家たちに大きな影響を与えた。本講義では、17世紀から19世紀にわたる浮世絵の誕生と発展、ならびにそれぞれの絵師の特色を解説する。さらに、浮世絵版画の技法や販売方法について説明する。	
	西洋美術史特論	世界中から観光客を惹きつける「永遠の都」ローマは、17世紀にはすでに現在の姿に近いものとなっていた。本授業では、当時のローマを中心とした視覚芸術（絵画・彫刻・建築）を概観し、様式の特徴を解説する。同時に、それぞれの芸術家の活動の様態、ならびに彼らが生み出した作品と17世紀ローマの社会・文化・宗教との関わりについて考察していく。さらに、近代社会へ移行しつつあった時期のパトローネージ、美術市場の在り方に検討を加える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科人間文化専攻科目	美術科教育特論	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえながら、美術教育の表現領域の課題を明らかにし、幼稚園・小学校・中学校における授業実践研究を通して、表現性、題材性、指導と評価等の視点、及び、人間性、社会性、相互理解等の視点から「現代社会における教育の意義」を探る。具体的には、心象表現領域と適応表現領域の比較を通して実践研究をもとに、主として幼稚園造形表現・小学校図画工作科や中学校美術科の「適応表現領域」を材料に系統的な「目指すべき資質・能力」を追求する。また、戦後の学習指導要領改訂の変遷やそれに伴う指導内容・方法の変遷、情報機器活用の可能性の考察を通して、近隣諸国や欧米の実践事例との比較研究などを行う。	
	美術科カリキュラム特論演習	学習指導要領における重要事項、改訂事項を踏まえ、特に「主体的・対話的で深い学び」の観点から美術科のカリキュラムに視点を当て、学校や地域、子供たちの発達課題に即した表現題材開発を行う。具体的には、教科書や美術資料等を中心に、「何が出来るようになるか」に向けた「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点で題材開発並びにカリキュラム開発を行う。主に「立体、工作」における発想・構想に関して、思い付いたアイデアを、用途や材料の特性を踏まえてどのように表すか組立てていく往還に着目し、育みたい資質・能力の視点からカリキュラムについて考察していく。その際、教育活動へのICT活用の実際についても考察を深めていく。	
	美術科教育実践研究Ⅰ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（心象表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を元にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年
	美術科教育実践研究Ⅱ	学習指導要領の改訂内容や背景を踏まえ、美術科の授業改善の視点を明らかにするとともに、附属幼・小・中学校授業公開に参加し、授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。附属幼・小・中学校及び研究拠点校における造形・図画工作・美術（適用表現領域）の授業を参観して、教育現場の実践授業を通じた授業分析や題材分析を行う。また、授業記録を基にした研究室でのディスカッションにより、実践的な指導と評価の在り方や教科授業及び教科経営の在り方等を学ぶ。その上で、現代の幼児・児童・生徒を想定した魅力ある造形・図画工作科・美術科の表現分野及び鑑賞に関する題材開発を行う。	隔年
	教育心理学特論演習	教育現場において必須と思われる心理学的知識として、「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」について学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。特に、幼児・児童・及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）の視点を重視する。	
	認知教育方法特論	教効果的な教授技術の開発・教材作成のために必要な心理学的知識を学ぶ。特に、知識形成、問題解決能力、及び学習障害などのトピックスについて、認知心理学的視点を重視する。前半は認知心理学で教育に関連する代表的な文献を抄読する。後半では、各人が興味を持った研究について掘り下げ、自身の研究テーマとの関連を探る。	
	認知教育方法特論演習Ⅰ	知識形成、問題解決能力、及び学習障害についての知識を、どのように効果的な教授技術の開発・教材作成に活かせるか考えるために、認知心理学、発達心理学の手法を学ぶ。それを踏まえて後半では、先行研究を調べ、独自の手法について模索する。基本的には各人の研究テーマ追究を支援するが、本演習では幼児・児童・青年期の認知機能・学習障害をテーマとすることが望まれる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻 科目	認知教育方法特論演習Ⅱ	認知教育方法特論演習Ⅰで得た先行研究の知見や方法論を基に、教授技術の開発・教材作成について具体的な実践案を立てる。そしてその効果について、実験や調査を実施する。また可能であれば、教育現場などで実践する。実験を実施する場合は、認知心理学的手法を用いることが望ましい。調査を行う場合は、多変量解析などの統計的知識を修得していることが望ましい。	
	発達心理学特論	広い意味での発達心理学に関する理論と現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本特論の到達目標である。発達理論（主として成人になるまでを範囲とすることが多い）及び生涯発達理論（一生涯を範囲とする）について、また認知機能とパーソナリティ・社会機能の生涯発達に関する知見について幅広く概説する。これらの概説等に基づいて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅰ	広い意味での発達心理学に関する理論について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期と大人期の発達過程の「繋ぎ目」となる青年期と新成人期、成人初期に注目し、この年齢期を含む生涯発達理論を中心に概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅱ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までの認知機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	
	発達心理学特論演習Ⅲ	広い意味での発達心理学に関する現象について理解を深め、広い視野に立ってヒトの生涯発達過程を捉えることができるようになることが本演習の到達目標である。子ども期から青年期・成年期・高齢期までのパーソナリティ・社会機能の発達・加齢変容について概説する。受講生は適宜関連文献を講読・発表し、これらを踏まえて、講師と受講生とで討論を行う。	
	乳幼児・小学生の心理学特論	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。乳幼児および小学生の発達心理学における基礎的な知識について解説するとともに、言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る方法について、著名な研究を複数取り上げながら紹介していく。後半に取り上げる具体的な研究事例やトピックの選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識して、最新の研究動向を紹介していく。	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階についての理解を深める。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	
	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講読を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期における各発達段階について、それらの発達に影響を及ぼす可能性のある諸要因についての理解を深めていく。具体的に講読する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 人間文化専攻科目	乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅲ	乳幼児から学童期まで子どもは、心的内面を十分に言語化して表現することが難しい場合が多い。先行研究の講義を通して、このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法についての理解を深める。また乳幼児期、および学童期の健全な発達を促すために、保育や学校教育、地域でできることは何か、さらに家族の支援のあり方について考えていく。具体的に講義する先行研究の選定にあたっては、受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	
	中学生・高校生の心理学特論	基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。とりあげたいトピックは以下の通りである。 (1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程について専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
	人間理解特論演習Ⅰ	毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の心身の変化とそれがもたらす心理的影響、(2) 幼児期・児童期との比較に基づく青年期の認知的変化と人間関係の変容、(3) アイデンティティ形成に関連する諸領域の課題。これらについて考え、中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程についての専門的理解を深めると共に、求められるサポートや理解の視点などについて議論する。	
	人間理解特論演習Ⅱ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、次の3つの要素を織り交ぜながら授業を進める。基本的に講義形式だが、適宜、議論できる場を提供するつもりであるので、積極的に参加してほしい。(1) 心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2) 事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3) ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などを検討するとともに、自己理解を深める。	
	人間理解特論演習Ⅲ	生徒指導、教育相談および進路指導等に関する視点を踏まえて、毎回、定められた文献を講読し、それをもとに議論を行う。その際、以下の3つの話題に適宜ふれていくこととする。(1) 心理治療や心理学理論の歴史を概観し、心理療法を支える人間観や拠って立つ心理メカニズムなどを理解する。(2) 事例などを通して、カウンセリングマインドについて考え、日常のコミュニケーションの枠組みについて再考する。(3) ワークを通して、事象に関する観察能力、記録能力、対応能力などについて検討するとともに、それらを通じて自己理解を深める。	
	実験心理学特論	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	実験心理学特論演習Ⅰ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	実験心理学特論演習Ⅱ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学 研究科人間文化専攻科目	実験心理学特論演習Ⅲ	この授業では心理学の基礎領域であり、実験的手法により心の理解を目指す実験心理学領域に焦点をあて、これまでこの領域で培われてきた基本的な知識を習得することを目指す。実験心理学には学習心理学、認知心理学、比較心理学、生理心理学、知覚心理学のほか、神経科学分野の研究が含まれる。実験心理学に関連した海外の研究論文を講読し、実験心理学の過去の研究から新しいトピックまで幅広く学習する。	
	幼児心理学特論	幼児の姿をみていると、一見意味のないような行動にも意味がある。これを見ることができないと、子どもは未熟で、早く大人と同じような行動を身につけさせなければならないという考えになってしまう。本授業では、幼児期の行動をとくに、イメージの発達に焦点をあてながら、幼児の行動や保育におけるイメージの役割について考察する。また、発達に影響を及ぼす要因を出生体重や養育・保育環境という点から考えていきたい。	
	幼児心理学特論演習Ⅰ	幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考え、幼児期の発達と保育者や親の役割について考える。とくに幼児心理学特論演習Ⅰでは乳幼児期の子どもの養育や保育に関わる問題を通して、保育者や親の役割、支援について先行研究をもとに検討をすすめる。中でも、東日本大震災やコロナ禍での保育の実態や今後何が生かせるかを検討した研究に焦点をあてて、幼児期に必要な子どもの経験は何かを考えた。	
	幼児教育学特論	本授業では、遊び論に関する複数の文献の講読を行う。『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で、遊びを通した総合的な指導（保育）が基本原理とされていることから分かるように、保育・幼児教育の実践で遊びは大きな比重を占めている。しかし、遊びを論じる切り口・理論は一樣ではない。本授業では、幼児教育学や保育実践者にとどまらず、社会学、哲学といった極力毛色の異なる遊び論を題材に、各論者の異同を議論する。それにより、遊び論の広がり、それぞれの保育・幼児教育実践とのつながりを検討する。	
	幼児教育学特論演習Ⅰ	本授業では、インタビューなど小規模な言語データの質的分析に適した方法である Steps for Coding and Theorization (SCAT; 大谷 2011 など) の習得を目指し、幼児教育学に関するテーマを設定した上で現役保育者（など）へのインタビューの実施・分析という一連の研究プロセスを経験する。	
	幼児教育内容特論	我が国の乳幼児教育の制度やカリキュラムの歴史の変遷をたどりながら「保育とは何か」「幼児期とは」等の幼児教育の本質について考える。また、具体的な実践例をもとに幼児教育の内容と方法について幼児の発達や子どもの権利条約の視点から考える。現代の子どもの発達上の問題点を検討し、現代的視点から幼児教育における教育内容のあるべき姿を議論し、深める。	
	幼児教育内容特論演習Ⅰ	さまざまな幼児教育実践にふれ、子ども・保育者・保護者の関係性を学ぶ。幼児教育現場の課題を明らかにするとともに、幼児の豊かな育ちを保障する幼児教育の内容と方法について議論する。授業者の保育現場体験、保育実践記録を素材とし、保育内容を構造的にとらえていく。保育における人間関係発達論（嶋さな江）、親が参画する保育をつくる（池本美香）、発達する保育園大人編（平松知子）を参考テキストとする。	
	幼児教育内容特論演習Ⅱ	東日本大震災による原発事故後の福島の保育について、「それでも、さくらは咲く（さくら保育園編）」を中心とする関連実践記録や保育白書、関係書籍から振り返る。また、コロナ禍における保育の状況を探るなかで、子どもの育ちを保障する保育とは何かについて具体的に考える。想定外の困難が起こった時、保育に求められるものについて議論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科地域政策科学専攻科目	憲法 I	憲法にかかわる諸問題を理論的に考察する。国家・市民社会の近代的二分法に加え、公共圏の観点も取り込みつつ、近代のRecht概念と国制をめぐる原理的な探究を行う。とりわけ、国制論としての憲法学から、政治哲学的人権論へと変遷した現代の憲法学における法学的国家論の不在を自覚的に問い直すことにより、統治機構論の照射としての人権論の深い理解へも繋がるような作業を進めたい。	隔年
	憲法特論 I	憲法の原理的な探究を行う。①哲学・思想・政治学・社会学・歴史学・民俗学・文化人類学等々の隣接諸科学の知見を踏まえながら、法の支配と立憲主義の本質を解明する。②①のバースペクティブに基づいて、主要国の憲法・憲法学を比較検討する。1946年日本国憲法を検討する際には、「全世界の国民の平和的生存権」理念をその特質として重点的に考察することになる。以上により、人類史における日本国憲法の位置づけと体系的な再構成を行いたい。	隔年
	憲法 II	憲法改正をめぐる諸問題について理論的に検討する。具体的には、①憲法改正の法的性格（憲法制定権と憲法改正権の関係など）、②憲法改正限界論と日本国憲法生誕の法理（八月革命説、制憲議会説、追認説など）、③憲法改正手続規定の改正が理論上問題を含まるか否か、④諸外国の立憲主義的憲法の改正手続と比較した際の日本国憲法の改正手続の特徴、⑤いわゆる憲法改正国民投票法にかんする具体的な法的問題、⑥憲法改正の違憲審査の可能性、の順に取り扱う。	隔年
	憲法特論 II	境界線を引くという行為は、法というもののあり方に深く関わっている。法は、管轄内/管轄外、適法/違法、など、無数の線を引く。このことによって、実際のところ法、多くの問題を対象外として必然的に排除することになる。本研究は、内部/外部、われわれ/彼ら、日常/非日常、正義/邪悪などの境界線を引いて事態を管理しようとする企てに着目することを通じて、法現象の特質を逆照射するとともに、境界線の存在を意識しそれを相対化する視座を獲得することを目的とする。	隔年
	刑事法学	刑法、刑事訴訟法、少年法、更生保護法、心神喪失者等医療観察法、再犯防止推進法、犯罪被害者基本法など、刑事法の解釈や刑事政策にかかわる分野について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。特に近年、刑事司法・刑事政策の各分野において、福祉、心理、教育等の多様な分野との連携・協働の重要性が指摘されていることにかんがみ、刑事法の体系的な知識の習得を基礎としつつ、狭義の「法解釈」にとどまらない多角的な視座の涵養を意図している。	隔年
	司法福祉政策	刑事法・刑事政策にかかわる諸分野のうち、特に「司法と福祉の連携」が重要となる問題について、受講生の興味・関心に応じて、文献講読や施設参観を交えた講義を行う。具体的には、高齢出所者等の地域生活支援、少年非行や児童虐待における児童福祉と司法の連携、出所者や触法精神障害者の居住・就労支援、犯罪被害者・遺族や加害者家族の生活支援などがある。当該分野に関する法・制度の体系的な知識を習得しつつ、「制度の狭間」を架橋する法・制度・実践について考察することを意図している。	隔年
	地方自治法 I	我が国の地方自治制度の根幹をなす「地方自治法」について、主に「住民自治」の領域と「団体自治」の領域に分けてそれぞれについて主要な論点の検討を行う。すなわち、「住民自治」の領域にあっては、住民と自治体との関係が、国家と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、住民の概念・権利・義務、直接請求、住民監査請求・住民訴訟、自治体の執行機関と議会の関係などを扱う。「団体自治」の領域にあっては、自治体と国（市町村と都道府県）の関係が、行政一般と私人の関係とどのように異なっているのか、という点に着目して、自治体の処理する事務の区分、自治体に対する国の関与、自治体と国との間の紛争処理の仕組み、自治体間連携、自治立法権などを扱う。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 地域政策科学専攻科目	地方自治法Ⅱ	「地方自治法Ⅰ」で、身につけた地方自治制度に関する基礎知識を踏まえて、この授業では、自治体政策法務の諸問題についての検討を行う。具体的には全国の自治体において制定されている「政策条例」を素材に、いかなる条例を制定するか（規制上乗せ条例を選択するか、規制別目的条例を選択するか）、条例の実効性確保の手段（刑事罰、過料、氏名公表のいずれを採用するか）、あるいは条例ではなく行政内規たる要綱に基づく行政手法を用いるか、といった問題について実現すべき政策の性質、自治体の種類（都道府県か市町村か）なども勘案しながら考察する。	隔年
	国際法Ⅰ	現在、国際社会では、グローバルな諸課題や国際的な摩擦が増大し、様々な分野において第二次世界大戦後に構築されてきた秩序、協力関係のあり方が改めて試されている。国際法は、国際紛争の防止・解決、および国際社会における共通の利益に資することが期待されている。この授業では、国際法の主体（国家、国際組織、個人）、法源論、国家責任、国際紛争解決など、基本的論点を踏まえた上で、法の形成、適用、執行の各場面で、国際法が国際社会で現に果たしている役割と特徴およびその変化の過程を分析する。	隔年
	国際法Ⅱ	国境で囲われ自律的存在である国家と国家の間を規律し、国家の共存を保障する役割を担ってきた国際法が、国境に関わりなく展開する諸活動や課題に対応する必要性は増大し続けている。グローバルな諸課題に関し、現在のところ国家の役割は低下することなく変化を余儀なくされ、また国際組織の数も役割も増大している。河川、海、空、宇宙などの空間やそこに存在する資源の利用、環境、経済、犯罪、武力紛争等に関わる分野で、国家と国際組織が織りなす協力関係が、具体的課題に直面してどのように機能しているか、その現実と限界、および新たな対応策を検討する。	隔年
	行政法Ⅰ	政策と法との関係について、具体的には、法律によって規定された政策を実際にどのように実現していくのかという問題について考えていく。その手掛かりとしては、法律の逐条解説を座右に置きながら、各種個別法を細かく読み、各回毎に章や節を単位として解釈・検討していくこととする。ある条文で法規命令への委任の文言が置かれていて、何か法規命令が制定されているときには、それと元の条文とを照らし合わせて検討する。ある条文の解釈や運用について行政が指針を作成しているときにはこれも条文と比較対象し検討する。	隔年
	行政法Ⅱ	行政活動と行政裁判権との関係という問題について考えていく。手始めに行政側が新規に立案した政策・条例について、裁判所が違法・無効と判断した事例を複数比較検討する。訴訟提起した原告を含め、裁判所に立ち現れてきた諸アクターの利益状況や、アクター間・行政主体間・行政・諸アクター間の利害関係についても事案に基づいた分析を加える。続いて、裁判所における行政裁量の尊重ないしは行政裁量の限界という問題の考究へと進んでいく。	隔年
	民法特論Ⅰ	本講では、民法のうち、財産法（契約法・不法行為法・物権法）および家族法（親族法・相続法）の発展的な内容を検討する。現在議論されている改正債権法、家族法の改正等について、立法論・解釈論の動向などに関する諸文献を購読し、これからの民法像を探究していく。公法・私法の協働が議論されて久しいが、民法のみならず、民事の特別法・公法等、他の諸法律についても、対象とする。	隔年
	民法特論Ⅱ	本講では、民法上の具体的なテーマ、例えば、取引・家族関係等の諸問題について、実定法学のみならず、法理学（法学方法論）・法社会学等の基礎法学、あるいは、社会学的な知見・手法も交えて、考察していく。それにより、教養としてのみならず、生ける法へアプローチするための法的思考を獲得することを目的とする。民事法学の多様性を知ってもらおうよう努めたい。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 地域政策科学 専攻科目	消費者法	現代社会では、事業者と消費者との取引が社会取引における地位を増しており、それに伴って消費者法の重要性も増している。この領域で問題とされる内容には、消費社会が活発化する中で絶えず指摘される事柄に加え、新たなサービスの誕生とともに認識されるものがあり、また、中には地域特有の問題も存在する。そうした中での本講の目的は、一般的に消費者法として取り上げられる諸問題を概観し、立法によって行われた対応や、その後の社会に影響を与えた裁判例などの学びを通して、あるべき消費社会とは何かを探究することである。	隔年
	財産法特論	財産法分野には、一般法である民法のほか、社会的要請に基づくさまざまな特別法が存在し、たとえば土地や家屋をめぐる現代的課題（所有権の在り方や賃貸借など）や、新たに活用範囲を広げる電子商取引に起因する課題などがある。そこで本講は、「法」が種々の現代的課題に対してどのように関与しているかを概観することで、原理的な理論のみならず、裁判例や学説に現れる新たな理論を知り、「法」の持つ普遍的価値観と柔軟性を考究することを目的とする。	隔年
	法社会学Ⅰ	現代国家は、その政策目標を達成するために、さまざまな社会領域に介入し、法の支配は拡大の一途を辿っている。しかし、その一方で、家庭、学校、職場、地域社会などのいわゆる部分社会にも、国家法とは異なる独自の論理と構造をもった「法」が存在し、「生ける法」として、われわれの実際の行動を規制している。本講では、社会に存在する各種の「法」を経験科学的な手法を通して把握し、国家法とのかかわりの中で、その生成・発展・消滅のプロセスとメカニズムを探究していく。	隔年
	法社会学Ⅱ	法社会学は、社会現象の一つである法が、現代社会の中でどのような形で存在し、他の諸要因と絡み合って作用しているかを経験科学的方法で考察・分析することによって、『法とは何か』という課題に実証的に迫る学問である。本講では、量的調査、参与観察、フィールドワークなど、法社会学の経験科学的手法の基礎と理論を学ぶとともに、実際のテーマに合わせた応用と実践を探究していく。	隔年
	民事手続法	民法・会社法などの民事実体法によって定められた具体的権利を実現するための民事手続諸法（民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法、民事再生法、会社更生法、ADR基本法など）の日本における近年の立法・改正・判例などを基本題材とする。そのうえ、母法たるドイツ民事訴訟法(ZPO)および姉妹法たる韓国民事節次法などとの比較法・基礎的研究を行う。さらに、法圏を同じくする上記三カ国の次世代裁判制度(電子訴訟、映像裁判、仮想裁判、AI裁判)の構築などについて、有機的な連携を考察する。	隔年
	民事救済法	実体法上の権利の観念的実現過程である判決手続に引き続き、債権者の確定された実体法上の権利の内容（金銭支払、物の引渡し、作為・不作為等の請求権）を強制的に実現することを目的とする強制執行、その強制執行に着手するまで相手方の財産の現状等を保全しておくことを目的とする民事保全（仮差押え・仮処分）、さらに抵当権等担保権の実行手続としての競売等、これらの民事執行及び民事保全手続の全般を学修する。	隔年
	商法Ⅰ	本講では、会社法の法理論上の基本問題を研究する。現代社会では、あらゆる分野の法人による組織活動において、株式会社が利用されるようになった。従って、法人法を学ぶに当たっては、会社法の知識が基礎になる。商法Ⅰでは、そのような意味で、現代経済社会に必須の知識である会社法の基礎理論を扱う。会社法は現代化以来、その運用実績を重ねてきたが、様々な課題も明らかになってきた。そこで、現実の経済との関係を重視しながら、株式会社の組織や運用だけでなく、あり方や可能性を見直すことを目指したい。	隔年
	商法Ⅱ	本講では、保険契約の法理論上の基本問題を研究する。保険制度は、地域の福祉や各種の被害者の救済という面などで、あるいは補完的にあるいは主体的に重要な役割を果たしている。特に巨大災害が頻発し、社会問題化している現代は、まさに保険の時代ともいえ、保険に対する消費者のニーズは、形を変えて高まっている。そして、このような事態に対して保険者は、様々な保険商品を開発・販売しているが、その約款は消費者との間に紛争を生じることもしばしばある。将来不安の現代において、保険契約の構造を理解し整理することは重要と考える。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学研究科 地域政策 科学専攻科目	労働法・社会保障法Ⅰ	労働関係法令の対象となる「労働者」の範囲について検討する。労働基準法は、指揮命令を受けながら働き、働いたことの対価として報酬を得る者を「労働者」として定義し(9条)、この定義に当てはまる者には労働基準法をはじめとする各種の労働者保護法の適用を認める。一方、この定義に当てはまらない場合は、原則として労働法的な保護を受けられない。社会保障もこの労働者性概念(雇用概念)に依拠する制度が多い(雇用保険、労災保険等)。しかし、働き方の多様化のなかで、必ずしもこの定義に当てはまらない働き方が増えており、「雇用類似の働き方」をいかに保護するかが注目を集めている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、「労働法とは何か」、「労働者とは誰か」、「労働法による保護はどうあるべきか」を検討する。	隔年
	労働法・社会保障法Ⅱ	労働法・社会保障法にかかわる諸問題のなかでも、雇用差別禁止法について検討する。日本的雇用慣行が変容し、女性や高齢者、障害者などのこれまで周縁的な労働力と考えられていた人達が労働力として中心的な役割を果たすようになってきた今日において、性、年齢又は障害などを理由とする雇用差別を規制する必要性が高まっている。本講では、労働法および社会保障法についての知識がある程度備わっていることを前提に、雇用差別禁止法についてその規制の在り方を検討する。	隔年
	地方行政	地方行政は、洋の東西を問わず、集権的統一国家が全国を有効に支配するために形作られてきた。したがって、地方行政ができあがっていく過程は、そのまま統一国家が集権化を達成していく過程でもあった。この講義では、明治期の日本を対象に、戸籍や徴税、さらには学校の設置などを題材として、その過程を検証したいと考えている。封建的な家制度などといわれるが、戸籍の導入により家制度は大きく変化しているし、税財政改革によって従来の貢租負担のあり方も変化した。それらはいずれも、目標とする統一国家像との関係で成立した仕組みであり、そこに日本の制度の特徴を読み取ることもできるだろう。	隔年
	地方制度	この講義では、地方行政の分野でもとくに、地方統治のための機構を中心に扱う。都道府県や郡、そして市町村といった機構が、どのように区画分けされ、そこにどのように権限配分されているか、財政的裏付けがどうなっているかなどについて、歴史的に検証したい。その結果、地方制度も安定的・不変のものではなく、時代によって作り変えられている様子がわかる。そして、その変遷を見れば、逆に時代的要請がどのように変化してきたのかもまた明らかになる。地方制度を通して社会の変遷をたどるといのがこの講義の狙いでもある。	隔年
	行政学Ⅰ	本講では、行政活動に関する実証研究における主要な理論と研究方法について学び、今日の行政活動を分析するためのアプローチを検討する。とくに、中央-地方関係、自治体間関係、自治体-住民間関係といった観点を踏まえ、行政活動の範囲や自治の様相を読み解き、制度・政策およびそれらの運用実態の諸問題と課題について検討を行う。	隔年
	行政学Ⅱ	本講では、行政活動に関する諸問題のなかでも、災害と行政に関する検討を行う。災害時行政の諸問題をレビューしたうえで、平時と非常時の行政には連続性がみられるという観点から、それがどのような連続性であるのかを分析する視点を学ぶ。行政および行政学についての基礎知識がある程度備わっていることを前提に、短期的、中長期的な災害対応の向上に資する方策を検討する。	隔年
	比較政治Ⅰ	世界各地での民主化へのうねり、日本など先進各国での「政治改革」の試み、福祉国家の再編や労働政治の変容、新しい社会運動の登場など、現代政治のカレントなテーマは、「政治変動」という視点から分析する手法が有効である。本講では、前半に「政治変動」に関する諸理論の綿密な検討を行った後、受講者が抱えるテーマにこうした理論を適用することで、実証分析の先鋭化と既存理論の精緻化を同時に試みることにする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 地域政策 科学 専攻科目	比較政治Ⅱ	本講では、先進産業社会が抱える共通の課題とそれへの取り組みについて、比較の手法で具体的に明らかにする。担当者の専門であるドイツ・オーストリアを中心としたヨーロッパ各国を比較の対象としながら、廃炉・最終処分地の選定、エネルギー政策や中山間地域過疎対策といった、原子力災害被災地としての福島にとって重要な課題を取り上げたい。	隔年
	国際政治Ⅰ	本講では国際政治の実証研究（特に質的研究）に用いられる主要な理論と研究方法を学ぶ。国際政治研究では、様々な国際政治事象を分析、説明するために理論が用いられている。それは個別具体的な事例の研究にも役に立つ。そこで本講では国内外で出版された大学院レベルの教科書や学術書を教材として、国際政治の主要な理論であるリアリズム、リベラリズム、合理主義、コンストラクティヴィズムの理論の特色や意義、限界などについて検討する。また、研究論文のレビューを通じて、理論研究のスタイルや手法についても解説する。	隔年
	国際政治Ⅱ	国際政治の実証研究は理論を用いた理論研究と歴史学的手法を用いた歴史研究に大別できる。本講の目的は、国際政治史研究と呼ばれる後者の研究アプローチについて学ぶことにある。そのために近年目ましく発展した冷戦史研究に焦点を合わせ、国内外で出版された冷戦史に関する学術書や研究論文を教材として、国際政治史研究の視角や研究手法について検討する。また、国際政治史研究で用いられる様々な史資料を教材として用い、オーラルヒストリーやアーカイブ調査の方法や史資料の利用方法についても解説する。	隔年
	政治学原論	政治問題、社会問題を理解するためには、現実が「どうなっているのか」という経験分析をすることに加えて、現実を評価しあるべき姿を考察する規範分析が不可欠である。本講では、まず政治哲学においてなされてきた規範的研究の代表的業績を取り上げ、規範分析の意義と課題を確認する。講義の後半では、国内外の最新のテキスト・論文のレビューを通じて、規範分析の方法を修得を目指す。	隔年
	現代政治論	本講では、現代の政治問題、社会問題を取り上げ、それらの解決策を規範的分析を含む学際的な観点から検討する。より具体的には人口減少と少子高齢化にともなう問題をとりあげる。地域の担い手不足に対応するため、地域運営への住民参加を進める自治体がある。そうした自治体の事例をとりあげ、民主主義理論の観点からその意義と課題を検討する。また、地方政治への女性の参加を阻む構造的要因についても論じる。人口減少への対応策として国外から労働力を受け入れる試みもなされている。本講義では日本の入管政策を諸外国との比較のなかに位置づけたのちに、政治哲学の観点から日本の政策の課題を明らかにする。	隔年
	社会計画Ⅰ	本講では、社会計画論の対象・学史的系譜について概観し、近代日本社会の形成過程において様々な社会計画が果たしてきた役割及び問題点を検討する。そして、社会計画論の今日的課題ー例えば、ひとびとの価値意識が多分化した現代社会での社会計画の方向性、計画策定から実施に至るプロセスにおける市民参加の態様と問題点等ーに焦点をあて、具体例に即して考察を加える。	隔年
	社会計画Ⅱ	本講では、持続可能な地域社会形成に向けた社会計画の役割と課題について検討することを目的とする。なかでも過疎・高齢化が進行する農山村集落に焦点を当て、地域の課題解決のために策定される地域社会計画の内容、その策定・実施・評価のプロセス、上位の行政機関の政策との関連性や影響等について具体的な事例をもとに考察する。計画過程における多様な主体の「参画」の在り方に重点を置き、地域住民、NPO、大学等の連携による地域マネジメントや行政支援の実態、今後に向けた課題について文献輪読や現地調査等を通して検討を加えていきたい。	隔年
	地域環境論Ⅰ	本講では、日本国内の公害・環境問題の事例を取り上げながら、環境社会学の基本的な理論やアプローチを講義する。第1に、公害事件で発生した被害の実態解明や問題解決を目指した被害構造論（加害-被害論）であり、これと同時に被害非認識や被害の矮小化・不可視化といった被害放置のメカニズムについても理解を深める。第2に、地域開発や環境問題をめぐる受益圏-受苦圏論、社会的ジレンマ論について学習し、問題解決の先に見据えた共存戦略の構想や持続可能な社会について検討する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 地域政策 科学 専攻科目	地域環境論Ⅱ	本講は、大規模な地域開発やNIMBY問題に対する住民運動研究（環境運動研究）について講義する。事例として取り上げるのは、沖縄の地域開発による公害・環境問題であり、それに対する住民・市民側の反対運動である。本土復帰後に急速に進められた地域開発の背景にある沖縄の特殊事情や本土との格差問題を学習しながら、住民運動の展開過程やコミュニティ論について理解を深め、環境紛争の問題解決の方法とともに環境創出や地域のサステナビリティの構想について検討する。	隔年
	社会調査Ⅰ	社会調査とは、ある社会を対象とし、明確な問題意識に基づいてデータ収集・分析を行い、その記述から公表までを行う一連の過程である。すなわち、社会事象に対する問いの立て方、見え方という認識のあり方に始まり、その認識の手立てとして意図を持って適切に方法を使いこなす技量が求められる。本講では学類レベルのごく基礎的な社会調査に関する考え方、知識をおさらいした上で、社会調査の一連の過程を実際に設計・実施するための、一段上の能力を獲得することを目的とする。文献輪読や社会調査事例分析などを通じて、具体的に考えたい。	隔年
	社会調査Ⅱ	本講は社会調査Ⅰをふまえ、より地域社会、とりわけコミュニティデザインの現場における社会調査の実践を意識した、応用的な内容を取り扱う。地域社会における諸問題を各種計画により解決しようとするとき、社会調査はその基本的な視点を提示する手だてとなる。また、社会調査を通じて地域社会の構造的な理解を試みることは、より豊かな地域社会の形成に向けて実践すべき課題である。そこで本講では、地域政策への還元までを意図した社会調査の理論・方法について検討することを主な目的とする。各自の修士論文における社会調査のとりくみを念頭に置き、実際にその設計・実施を交えながら、実践的に考えたい。	隔年
	地域福祉論Ⅰ	本講では、我が国における地域に関与する福祉政策を俯瞰し、現代のコミュニティ形成の現状を分析評価していく。そして、多様化する福祉制度の運営や、それらの連携についても検討しながら、実践現場での諸課題を明らかにしていく。また、地域における生活問題の社会的要因と性格を明らかにし、福祉コミュニティの在り方を問うていく。そのために、本講では、主に文献・資料を使用しながら地域福祉の実践理論を学び、コミュニティの在り方を議論するとともに、各種福祉分野の見識の深化を目指す。	隔年
	地域福祉論Ⅱ	本講では、地域福祉の実践を意識して、応用的な内容を講じていく。その中で、福祉コミュニティの形成をはかるための住民の組織化・住民参加活動の検討、当事者中心の福祉各分野の実態・実状分析・課題解決、具体的な福祉活動の運営、多分野連携を介した包括的な生活者のトータルサポートなどを一例として、地域福祉を展開する手法を学ぶ。さらには、地域福祉の観点を通したまちづくりや地域振興を考察する。そのために、本講では、主に地域福祉や地域づくりに関する実践事例や先行事例・課題解決事例を取り扱いながら研究を進める。	隔年
	社会と情報Ⅰ	本講は、情報社会を理論的な側面から把握するために、以下のような内容を検討する。①まず一つ目は、社会のあらゆる分野や領域等に情報化が浸透する現代を位置付ける出発点として、高度な情報メディアの発達を現実化しえた、人間という存在の特性を把握することである。②次に、人間が歴史的に形成するに至った現代の社会システムがいかんして情報メディアの発展を加速し、そのことが社会システムそのものに対してどのような意味を持つと考えられるかについて議論したい。③そのうえで、情報メディアの発展が社会に与える影響や意義について論じた様々な社会理論を批判的に検討する。	隔年
	社会と情報Ⅱ	本講は、現代社会の様々な分野や領域等に浸透するデジタル化の現状を把握した上で、その課題などを検討し、今後向かうべき方向性などを考えるものである。取り扱う内容はその時々々の社会状況や問題関心によって変化すると思われるが、①企業や行政を中心とした社会におけるデジタルトランスフォーメーションの進展、②災害時の情報伝達の現状と課題、③デジタル化による働き方や働く場所の変化、④デジタル化による地域課題の解決、⑤デジタル化が旧来のメディアに与える影響、⑥デジタル化が市民生活や市民の権利に与える影響などについて検討する予定である。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 地域政策科学専攻科目	地域社会とジェンダーⅠ	「地域社会とジェンダー」は比較的先行する議論が少ない領域である。しかし、〈性〉（ジェンダー及びセクシュアリティ、ジェンダー・アイデンティティ）に関わる現象を理解するためには、現象の生じている〈場所〉の地域特性や時代といった、時間的・空間的変数を考慮に入れることが不可欠である。本講では、社会学、地理学、経済学、人類学、表象研究といった各学問領域の既存の議論に基づきながら、地域社会におけるジェンダーおよび〈性〉に関わる現象全般の解明に必要と思われる基礎的理論・概念等について、学際的な観点から検討する。	隔年
	地域社会とジェンダーⅡ	本講では、「地域社会とジェンダーⅠ」における議論を前提としつつ、地域社会における労働と家族の問題に焦点を当て、実証的な研究方法及び研究事例（ここでは主に質的な調査方法及び質的調査に基づいた実証研究）の検討を行う。対象となる地域は福島県や東北地方に限定しないが、可能な限り比較の対象として福島県内についての事例研究を置きながら議論を進める。また、検討対象となる具体的現象に応じて、表象にかかわる研究も取り扱う。	隔年
	地域社会と歴史Ⅰ	日本中世史を中心に、①前提となる古代社会の特質、②中世社会への移行をめぐる諸説、③中世の各時代区分とその特質について、Ⅰでは南北朝時代までを範囲に講義する。特に、これまでの学説史においてどのような議論が積み重ねられてきたのか、その根拠となる史料はどのように解釈されてきたのか、最近の学説ではどのように理解されるようになっているのかを整理しながら講義することで、個別研究が学説史の豊富な蓄積の上に立脚していることを十分に自覚し、先行研究に真摯に学びながら自ら学問的課題を発見し、的確な史料解釈に基づいて立論することの重要性を修得することを目標とする。	隔年
	地域社会と歴史Ⅱ	地域社会と歴史Ⅰに引き続き、Ⅱでは日本中世史のうち、①室町時代の特質、②戦国時代の特質、③中世社会から近世社会への移行をめぐる問題について取り上げたのち、④中世における地域社会論の成果と課題について、特に東国・東北に焦点を据えながら、その分析視角と方法論を中心に講義する。いずれもⅠと同様に、学説史の展開と立論の根拠となる史料解釈に重点を置くことにより、講義を通じて学説史の中で自らの研究課題を捉えなおし、新たな学問的課題を発見して追究できるようになることを目標とする。	隔年
	地域社会と歴史Ⅲ	地域社会の歴史を解明するには、根拠となる歴史資料が必要である。とりわけ古文書と言われる文書資料が歴史研究を行う上で重要となるが、人と地域社会との紐帯が弱体化している今日、古文書を後世に継承していくことが難しくなっている。また、たび重なる重大な災害の発生は、歴史資料そのものを物理的に消滅させており、歴史資料を災害から守るといことも課題となっている。この授業では、地域社会の歴史を明らかにする古文書等の保全と継承について学ぶこととし、関連する論文講読を行う。また、地域に残る古文書を読み解き、歴史を明らかにする作業に取り組むことを通じて、地域史研究の方法を実践的に学ぶ。	隔年
	地域社会と歴史Ⅳ	日本では明治維新後、中央集権的な国家が形成され近代化が推し進められていった。政治的なシステムも、領主と領民という治者と被治者の関係から、議会制という代議制に基づく政治参加の時代へと変化していくこととなる。また、開港による海外貿易の本格化や文明開化に伴う近代技術の導入によって、日本の生産技術も大きな進歩を遂げインフラ整備も進展し経済活動も活発になっていく。こうした政治的・経済的変化は、地域社会の姿を大きく変えていくこととなったのである。こうした近代日本形成期において、地域社会がどのような課題を抱え、それにどのように対応しようとしたのかを考えることとし、関連する史料読解・論文講読等を行う。	隔年
	地域社会と考古学Ⅰ	遺跡・遺物に代表される考古資料の分析から、地域社会の歴史や文化の究明にいかに向かうかを考える。本講義の主要な対象は文献史料の乏しい時代までの日本列島とするが、受講者の関心によっては中近世や諸外国を取り上げることも考慮する。また、おもに考古学的手法による地域史研究を振り返ったうえでその妥当性と問題点を検証し、新たな地域像提起への可能性を探る。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン科学研究科 地域政策科学専攻科目	地域社会と考古学Ⅱ	日本においては、埋蔵文化財（「遺跡・遺物」をさす法律用語）が「国民共有の財産」と位置づけられ、これらに対する土木工事が行われる際には、発掘調査に代表される保護のための対応が行政により執行されている。このような「埋蔵文化財行政」は、世界的にみて優れた取り組みといえるが、そこには成果とともに課題も決して少なくない。本講では、各地における埋蔵文化財行政の具体例、成果、課題等を紹介するとともに、実際に各地方公共団体や遺跡に赴いてその実践例を学び、埋蔵文化財行政のあるべき姿を受講者自身が考える姿勢を身につけるようにする。	隔年
	地域社会と社会教育Ⅰ	地域の文化・健康・福祉・環境などの諸課題に対し、地域行政による住民への教育的働きかけ・援助と住民の主体的な学習活動との相乗効果のなかで、解決への展望をみいだすことが今日求められている。住民の主体的な学習活動と社会教育・生涯学習の行政や各分野の行政過程における教育的手法との関連について検討する。	隔年
	地域社会と社会教育Ⅱ	近年の社会教育研究・成人教育研究・生涯学習研究においては、新たなパースペクティブからのアプローチや研究方法論の再検討が行われている。本講では、国際的動向も視野に入れて、そうした新たなアプローチや研究方法論をめぐる議論をとりあげ、検討する。	隔年
	地域社会の国際化と言語Ⅰ	20世紀初頭のイギリスに焦点を合わせ、言語と文化のありようについて検討する。とくに当時の文学作品を英語で読むことで、その作品が生み出された時代背景について考察する。また、なぜイギリスがEUからの離脱を行ったかについても検討し、世代別、地域別に離脱の意思が異なっていたことをあきらかにすることで、現在のイギリスが抱えている課題を明らかにする。 またEUの加盟国拡大が旧西欧圏の経済大国と旧東欧圏の新興加盟小国の間に深刻な経済格差を生じており、旧東欧圏からの出稼ぎ労働者が西側各国に流入し、移民排斥運動が強まっている。移民労働者の権利をどう守り旧東欧圏の少数使用言語や文化の保護施策についても考える。	隔年
	地域社会の国際化と言語Ⅱ	本講では、地域社会の国際化を理解する上でも近隣アジア諸国の現状についての理解を深める。とくに日本との歴史的関係でも重要な、中国、韓国、朝鮮、台湾と東南アジアのベトナム、ミャンマー、マレーシアなどについて現状を知り、今後の日本との対等な関係の構築の在り方を学ぶ。とくにイギリスが植民地支配を行っていた旧マラヤ植民地（現ミャンマー）へのスコットランドの関与を明らかにして、また、インドでのシェイクスピア作品教育が、イギリスの植民地支配を支える役割を果たしていたことを明らかにする。	隔年
	国際交流研究Ⅰ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に19世紀後半から1901年の豪州連邦結成に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成に与えた影響について考察していく。	隔年
	国際交流研究Ⅱ	豪州が1901年に連邦化してからすでに1世紀以上経過している。今でこそ、多元文化主義政策が成功している国の1つとして認知されている豪州だが、連邦結成当時は『白豪主義』を国是として国家統一を目指していた。その『白豪主義』に日本が大きな影響を与えていたことは意外と知られていない。本講では、主に連邦結成後から太平洋戦争に至る両国関係を振り返りながら、日本の存在が豪州連邦結成後に与えた影響について考察していく。	隔年
	ヨーロッパ文化研究Ⅰ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、現在に至る芸術をめぐる状況を考察する。また、作品鑑賞や批評のあり方、作品の保護、展示、公開や作家尾育成などを行う文化政策的観点も含めて、今後の芸術の在り方の方向と問題点を探る。そして、個別の作家・作品や個々の事象の分析・考察ができる基礎となる知識を養うことを目的とする。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 地域デザイン 科学 研究科 地域政策 科学 専攻科目	ヨーロッパ文化研究Ⅱ	近世以降のフランスを中心としたヨーロッパにおける美術・文学などの芸術の流れを歴史的背景と個々の作家・作品との影響関係に着目して概観し、作品鑑賞や批評のあり方や文化政策的観点も含めて、現在そして今後の芸術の在り方の方向と問題点を理解した上で、様々な研究手法や資料についての知識を深め、それらを用いて特定の作家・作品や事象の具体的で詳細な分析・考察を行える能力を得ることを目的とする。	隔年
	英米文化研究Ⅰ	アメリカにおける文化の多元性、多様性、多様性について学ぶ。また、それらと比較することで自分および自文化を取り巻く諸現象について考察する。まずは歴史的背景を概観してから、個々の問題を検討する。題材として、歴史資料や論文と併せて、文学作品と映像作品を、また必要に応じて、新聞・雑誌、まんが、TV番組、CM、音楽なども扱う。	隔年
	英米文化研究Ⅱ	アメリカおよびイギリスの文化について、フィクション（主として文学作品と映像作品）を題材に、ジェンダー、人種、民族、階級、世代、あるいは宗教の側面から、諸問題を考える。文学作品については19世紀以降に書かれたものを、映像作品は19世紀以降を舞台としたものを扱い、時代特有の社会・文化的背景と現代的視点との関係を意識しながら、分析を行う。小説を原作・原案とした映像作品を取り上げる際には、両者の関係性についても考察する。また、研究に用いる文芸批評理論も、必要に応じて取り上げる。	隔年
	社会の基礎理論Ⅰ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに東北農山村の地域研究への接続に焦点をあてる。	隔年
	社会の基礎理論Ⅱ	社会的な世界は、それがどんなにマクロな次元のものであっても、個々人の行為と行為との結びつきから成り立っている。本講では、幾つかの古典理論、現代理論を検討することをとおして、社会的行為のなりたちと行為と行為との接続のしくみについて考察していきたい。その作業をとおして、地域という生活の場において問題解決志向的な営みを模索する際の足掛かりを求めたい。とくに災害による避難、そこからの復興に焦点をあてる。	隔年
	メディア論Ⅰ	本講では、メディアと地域の接合を図るために、まずはメディア研究の重要な理論と視座を中心的に学んでいく。今後もデジタル化の進展とともに様々なメディアが誕生していくであろうが、そうした変化は重要な理論と視座の変奏として捉えることが可能となるためである。特に重視したいのは、日常的な見方との違いが大きい、メディアの概念の捉え方とメディアの受容に関する理論と視座である。	隔年
	メディア論Ⅱ	本講では、メディアと地域の接合に関する研究の専門的探究を進めていく。メディアの発達、地域の枠を超えて情報の伝達を可能にするシステムを作り上げた。地域とメディアのこうした研究について、最新の研究成果を題材として、問いの設定・先行研究の知見の示し方・方法論の設定・明らかとなった知見を分析しつつ対象文献を読み、受講者自らもそうした構造化された視点と書き方を習得することを目指す。	隔年
	地域社会学Ⅰ	地域社会学における「地域」の概念に影響を与えた農村社会学や都市社会学の隣接分野について、国内の研究を取り上げる。具体的には、地域を構成するイエや村、地区、町内会や自治会、コミュニティなどのそれぞれの概念について学ぶ。近年、地域社会学でも取り入れられている「モビリティ」の問題についても学び、地域社会を行き来する住民層の多様性を前提にした地域のあり方について検討する。大学院での今後の調査計画において、個々の学生がそれらの概念との関連を明確にできるように、代表的な文献とその内容の理解を促す。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目 他専攻科目	地域社会学Ⅱ	近年、地域包括ケアの推進にみるように、地域における一般住民による「支援やケア」が必要とされている。コミュニティカフェや「つながりづくり」や「通いの場」や高齢者サロンなど、専門職ではない地域住民相互の支え合いはその基盤として想定されている。それでは、どのようにしたら住民相互の「共助」が可能かについて、「支援やケアの社会学」と呼ばれる領域の基本文献をもとに検討する。適宜、地域での事例検討なども行い、大学院での研究テーマと関連を明確にできるように、講義を行う。	隔年	
	都市計画特論Ⅰ	都市計画・まちづくりをめぐる環境は、人口増加・成長社会から人口減少・非成長社会への転換、災害多発化時代の到来などに伴って、大きく変化しつつある。本講義では、こうした背景のもとに、都市計画・まちづくりに関する歴史、現状、課題について、理論的および実務的な観点から講義を行う。都市計画・まちづくりにかかわる多様な領域について探究するが、特に都市基本計画、土地利用計画、防災・復興計画などについて重点的に探究する。	隔年	
	都市計画特論Ⅱ	本講義では、福島県をはじめとする国内の都市・農村や海外の都市・農村を対象として、土地利用、交通、防災・復興、水・緑、歴史・景観、観光、環境などの多様な観点から、文献講読、現地調査、ディスカッションなどを行うことによって、都市計画・まちづくりの実態と課題に関する理論的および実務的な探究を行う。これを通じて、都市計画・まちづくりの到達点を多面的に確認・検証し、今後の都市計画・まちづくりのあり方について展望する。	隔年	
	共生システム理工学専攻科目	生産システム最適化特論Ⅰ	本講義では、ものづくり(製造業)の業務における管理手法である「経営工学」手法の基礎的な知識、理論、手法を習得し、問題発見・問題解決のための実践的な能力習得を目的とする。具体的には、製造業を対象とした製品設計や生産管理業務に従事する実務者を想定し、製品企画から、製品設計、生産設計、工程管理、生産計画を含むエンジニアリングチェーンにおける各種業務で必要な経営工学分野の幅広い知識、理論や、実務で役立つ手法を対象とする。授業形式は、講義と演習や、輪講形式で進めていく。	
	物性物理学特論Ⅰ	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。学部レベルでの物理数学、力学、電磁気学、量子力学を基礎にして、モノの性質を考えていく。物性物理学で提示される物理モデルについて理解し、解析的に取り扱えることを目標とする。また、基本的な物性実験の手法について計測原理も含めて理解できるようにする。		
メカトロニクス特論Ⅰ	本講義では、平易な英語で書かれたロボット工学の入門書を輪読し、メカトロニクス・ロボット工学に関する専門的知識を英語で学ぶことを通して、英語で書かれた論文やレポート等を読む力を涵養する。使用する教科書の内容は、学類時代の講義で学んだことを多く含んでおり、日本語で学んだ事項を英語で復習するという通して授業のねらいを達成する。			
物性物理学特論Ⅱ	量子力学を基礎とした物性物理学全体の概念を理解することを目的とする。特に光・放射線に関する物理的内容を題材として進め、物性物理学に基づいた光・放射線解析手法を理解し、また測定によって得られたデータを解析できることを目標とする。実践的な能力を高めるために、モンテカルロ法を用いた粒子輸送計算シミュレーションやγ線のエネルギースペクトル測定実習など具体的な課題に取り組むこととする。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	メカトロニクス特論Ⅱ	授業概要： メカトロニクス技術の重要な応用分野はロボットである。ロボットに関する最新の論文を読み解き、最新のロボット技術への理解を深める。 授業内容： 1. 最新のロボットに関する論文を担当教員と相談して1編選ぶ。 2. 毎週、その論文の内容について少しずつ発表しながら討論し、内容の理解を進める。 3. 最終回では、論文内容をまとめた発表を行う。	
	分析化学特論Ⅰ	分析化学は大きく大別すると「分離化学」と「計測化学」とに分けることができる。本講義では、分離化学を重点的に講義する。一方、計測化学は、分析化学特論Ⅱで取り扱う。分離化学では、抽出、すなわち分配現象を中心に解説する。具体的には、溶媒抽出における液／液分配、固相抽出における固／液分配、界面活性剤によるミセル分配などの分配現象を取上げて、理論と実際の実験方法を踏まえて解説する。	
	分析化学特論Ⅱ	現代科学の著しい進歩は機器分析の発展によって支えられている。環境分析においても、環境動態を解明する上で、機器分析法は重要な役割を担っている。本授業では、学部で行われる機器分析より高度な機器分析科学を講義する。光分析、電磁気分析、電気分析、分離分析、その他の5種類に分類し、具体的には、サーマルレンズ吸光光度法、ストップドフロー分析、ゼーマン偏光型原子吸光光度計、化学発光分析法、ICP-MS/MS、三次元NMR、CT法、カールフィッシャー水分計、キャピラリー電気泳動法、質量分析法等のデータの解釈、具体的な測定例を中心に最新のトピックスを交えて解説する。	
	環境微生物学特論Ⅰ	微生物の代謝やその制御が現在の地球環境の形成に果たした役割を、地球史と微生物の進化・分化との関連から解説する。 授業の到達目標及びテーマ： ・ 土壌、水環境、地下などの生物化学的プロセスに果たす微生物の役割を理解する。 ・ 農業、水産業、林業、畜産業の場としての地圏・水圏における物質循環や地球環境問題などの各分野・問題で、微生物学が、イノベーションや問題解決に貢献する題材を理解し、考えるための基礎知識を身につける。	
	分子生態学特論Ⅰ	本授業では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、適宜、報告・討論・ワークショップなどを混ぜながら進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野に関連した視野を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料を丁寧に読解するほか、論文の構造に着目した読解方法、自らの論文執筆に活かすためのデータの蓄積、批判的な論文読解、より効果的な文章の改善案の検討などについて解説する。	
	流域水管理特論Ⅰ	本授業では、降水から、蒸発、地下浸透、河川への流出の一連の水循環過程と、この水循環に関わる社会の影響を理解するとともに、具体事例を基に流域水マネジメントの対象となる水循環要素の出現頻度と治水、利水関連施設の役割を講述する。また、この流域水マネジメントの応用として、ディベートによる演習も行い、水管理、水循環に対する社会的な各立場からの視点を養うことにも取り組む。	
	流域水循環特論Ⅰ	この授業では、水循環システムのメカニズム、モデル化、プログラミングについて講義と演習を組み合わせ学習する。最終的には、地中の水移動現象の支配方程式である飽和・不飽和浸透流の数値モデルを自力で作成する力の獲得を目指す。これに向けて、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて移流方程式、拡散方程式、移流拡散方程式を順に数値的に解く力を身につける。また、計算結果を可視化・図化する能力の獲得を目指す。いずれも講義に演習形式を取り入れて、教員と対話しながら実践的に指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻科目	地下水盆管理計画特論 I	<p>【授業概要】 地下水盆そのものと地下水盆を取り巻く諸条件について体系的・定量的に把握・評価するための専門技術を解説し、地下水盆を量・質両面から適切に管理するための方法論と実例を紹介する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に必要となる地下水盆構造の解明や帯水層特性の把握、涵養量や揚水量の算出方法、地下水観測記録の解析方法、許容揚水量の設定や最適揚水量配分の方法などについて理解し、地下水盆の評価を行うための専門技術を身につける。</p>	
	環境微生物学特論 II	<p>生物地球化学的な物質循環の中で人間活動による生物生産が持続可能なものとなるために重要な微生物学的過程に着目した研究論文等を紹介する。</p> <p>持続可能性のためには温室効果ガスの排出が少ない技術を選択する必要がある。この観点で、微生物による独立栄養と従属栄養とのバランス、温室効果ガスであるメタンや一酸化二窒素の発生やその消費を対象とした研究や、工業的窒素固定に依存しない生物生産に関わる窒素固定に関わる研究、微生物反応の制限要素となる元素の象徴に関わる研究等を対象とする。</p>	
	分子生態学特論 II	<p>本論では、分子生態学分野の研究と参加する院生の研究テーマに関連する話題を取り上げ、報告・討論・ワークショップなどをまじえつつ進める。各自の研究テーマにおいて分子生態学分野の成果・手法を援用することを学び、行政等における実務家として十分な情報発信能力を得ることを目指す。同時に、原著論文を中心とした参考資料の的確な読解に基づく、先行研究のレビューやその発表技術、先行研究を自らの論文執筆に活かすためのテクニックなどについても解説する。</p>	
	流域水管理特論 II	<p>水循環、水資源管理の一連の基礎的内容を踏まえ、社会の高度化や気候変動等の環境変化を促す外的要因を考慮することで、発展的に生じうる流域問題をシミュレーションするための理論を講義と演習を通じて学ぶ。また、シミュレーションを行うことで将来的に生じうる治水、利水対策の問題点を考察し、今後の安全かつ快適な社会創生において必要とされる流域の適応策、緩和策について具体的に計画できるマネジメント能力の育成に取り組む。</p>	
	流域水循環特論 II	<p>この講義では、流域内における水の動態に関するデータを計算機を用いて自在に解析し、価値ある知見を見出すスキルを演習形式で体験的に習得することを目的とする。具体的には、プログラミング言語の一つであるPythonを用いて、①水循環に関する数値データの収集・解析・結果の可視化、②流域の水文・地理データの収集・解析・結果の可視化、③数値データを解析するためのアプリケーション開発、のいずれかに取り組む。①～③の選択は、受講者の進路や希望などに応じて決定する。</p>	
	地下水盆管理計画特論 II	<p>【授業概要】 この演習では、地下水盆モデル化の基礎となる地下水盆の離散化の考え方や地下水シミュレーション技術の基礎、地下水モデルの種類、実際の地下水盆のモデル化、地下水シミュレーション解析技術の適用と応用までを扱い、地下水盆管理計画のための地下水シミュレーション解析技術を実践的に習得する。</p> <p>【ねらい】 地下水盆管理計画に欠かすことのできない地下水シミュレーション解析技術を習得し、地下水モデルを自ら作成し運用できるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	環境放射能学Ⅰ	環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動にともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (153 脇山義史/3回) 陸域の放射性核種動態について解説する。 (151 高田兵衛/3回) 海洋の放射性核種動態について解説する。 (154 Maksym Gusyev/3回) 放射性核種動態の数値解析について解説する。 (100 VasyI Yoschenko/2回) 生態系の放射性核種循環・移行について解説する。 (179 五十嵐康記/2回) 水循環に関連する放射性核種動態について解説する。 (178 石庭寛子/2回) 陸生動物への移行・影響について解説する。	オムニバス方式
	環境放射能学Ⅱ	環境放射能研究所に所属する教員によるオムニバス形式の講義。それぞれの教員が放射性物質の土壌中での存在形態、水土砂の移動にともなう移動、生物への移行、生態系内での循環、それらの予測方法や放射性物質の測定技術といった各教員の専門領域における基礎的理論を解説しながら、これまでに行ってきた研究事例を紹介する。受講生は各専門分野における研究の背景や方法論、放射性物質の移行プロセス、データ解析の方法といった研究を行う上で必要な知識・理論を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (149 和田敏裕/2回) 水圏での放射性核種の移行・影響について解説する。 (99 塚田祥文/2回) 農業環境の放射能汚染について解説する。 (101 Aleksei Konoplev/2回) 過去の原発事故を含めた環境放射能研究について解説する。 (150 Ismail Md. Mofizur Rahman/3回) 放射能の除去技術・修復について解説する。 (102 鳥居建男/4回) 放射線量測定について解説を行う。 (152 平尾茂一/2回) 大気中の放射性核種の拡散・数値解析について解説する。	オムニバス方式
	核種分析学	天然および人工放射性核種の種類・起源・基礎的性質、放射線と物質の相互作用等の物理、その計測原理の理解を目的とする。天然放射性核種としては、ウラン・トリウム系列核種、長寿命放射性核種、宇宙線生成核種、更には天然原子炉による放射性核種を理解する。また、人工放射性核種については、大気圏核実験、原子炉、核燃料サイクルなどに由来する放射性核種について学習する。また、アルファ線、ベータ線、ガンマ線の計測原理と、放射線画像計測など基礎から応用までの放射線計測技術を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (99 塚田祥文/8回) 天然・人工放射性核種とそれらの性質・分析について開設する。 (152 平尾茂一/7回) 放射線計測技術と関連する基礎理論を解説する。	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	原子力災害学	<p>本講義では原子力災害に関する講義を行う。チェルノブイリ、スリーマイル、セラフィールド、福島で発生した原子力事故を題材として、災害の要因、緊急時対応、放射性物質の起源（ソースターム）や環境中での輸送と生態系への移行、そのモデル化と予測、環境修復を含む事故後の対策について解説を行う。受講者は、原子力施設が住民や環境に与える潜在的な影響や危険性を学び、原子力災害発生時の緊急時対応や環境修復策に関する基本原則等を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） (101 Aleksei Konoplev/4回) 過去の原因事故、事後の対応、影響を概説する。 (153 脇山義史/4回) 陸域の放射性核種動態について解説する。 (151 高田兵衛/4回) 海洋の放射性核種動態について解説を行う。 (150 Ismail Md. Mofizur Rahman/2回) 事故後の環境修復について解説を行う。 (154 Maksym Gusyev/1回) 放射性核種を用いた環境動態解析について解説する。</p>	オムニバス方式
	放射生態学	<p>放射線が生物に及ぼす影響および生物を介した放射性物質の移行に関する講義を行う。各種放射線による生体への影響やその発現機構を解説するとともに、放射性物質の生態系内での生物を介した移行に関する研究事例を紹介し、それらの背景・理論・研究方法について教授する。</p> <p>（オムニバス形式/全15回） (100 Vasyi Yoschenko/3回) 放射線影響・放射線防護の理論について解説する。 (149 和田敏裕/3回) 水圏における生物への放射線影響について解説する。 (95 難波謙二/3回) 生物と放射性核種の相互作用について解説する。 (178 石庭寛子/2回) 陸生生物への放射性核種の移行・影響を解説する。 (179 五十嵐康記/2回) 森林生態系における放射性核種の循環について解説する。 (147 兼子伸吾/2回) 放射線影響を分子生物学の観点から解説する。</p>	オムニバス方式
	水圏放射生態学	<p>水圏放射生態学の基礎となる水生生物（主に魚類）の生理生態や、震災前の福島県の海面・内水面漁業について説明するとともに、津波と原発事故による影響や、水生生物の放射性セシウム汚染実態とそのメカニズムについて海域と陸水域に分けて説明する。また、福島とチェルノブイリとの比較も示したうえで、福島県の漁業復興に向けた取り組みを紹介する。</p>	
	森林放射能学	<p>森林放射能学の基礎知識を習得するための講義です。講義では、植物体内における光合成と物質生産を学びます。これは、植物や森林における物質循環を理解するための必須項目です。講義では、無機栄養の利用、水分生理、成長と発達に及ぼす環境の影響、植物のストレスなどを順に学びます。その後、植物の物質輸送における放射性物質の動態のメカニズム、植物への放射線の影響、森林や林産物の放射能に関する実践的な課題などを明らかにします。</p>	
	動物生態学	<p>野生動物への放射性物質の動態や、影響を明らかにするために必要な動物生態学の基礎知識を習得する。前半は採餌理論、種内・間関係、社会、進化など動物生態学の基礎となる理論と概念について概説を行う。後半は、研究論文や放射線防護の国際機関が発行する報告等を用いて、野生動物を対象とした放射線研究に関する事例や国際的な動向を学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 共生システム理工学研究科環境放射能学専攻科目	陸域放射能動態学	本科目では、陸域における水循環・土砂動態に関連した放射性物質の動態に関する講義を行う。陸域における放射性物質の再移動を規定する水循環・土砂動態の基礎を概説した後、大気核実験や福島原発由来の放射性物質の動態に関する観測事例を紹介する。受講者は、講義を通じて水・土砂動態や放射性物質の再移動プロセスを定量的に評価する手法や放射性物質をトレーサーとして活用する方法を学ぶ。また、文献購読を通じて他者の研究内容を理解・説明する能力を涵養する。	
	移動現象論	本科目では、放射性物質の環境動態を理解するための移動現象（運動量、熱、物質移動）を学び、基本的な方程式を理解し、その数値解析法を学ぶことを目的とする。移流拡散方程式を理解し説明できること、実環境中での物質輸送現象に応用できる能力を培う。前半は、理論的背景、方程式の導出等について概説する。後半は、現実の適用事例について理解を深めるとともに、大気中の物質輸送に関わる物理現象を学習し、研究論文等を用いて最新の動向を学ぶ。	
	放射能モデリング学特論	原子力発電所事故後の環境中での放射性物質の拡散予測や事故後の対策の効率性を分析するためには、モニタリングデータに基づく数値モデリングが主要なツールとなる。本科目では、表流水（池、貯水池、河川、沿岸域）、地下水（流域、沿岸域）を対象とした放射性核種移行モデルおよび食物網／線量解析モデルとそれらを活用するためのソフトウェアシステムについて概説する。 また、チェルノブイリ原子力発電所、福島第一原子力発電所の事故により放射性降下物の影響を受けた地域における放射性核種輸送予測や事故後の対策評価の実例を挙げながら、モデリングツールの実装について説明する。	
	海洋放射能動態学特論	本科目では、海洋における放射性物質の動態に関する講義を行う。前半では海洋における物理・化学・生物についての基礎知識、更には海洋での物質循環に関して理解をする。中盤から後半にかけて、海洋での天然及び人工放射性物質の分析手法や動態、更には海水、生物、海底堆積物への移行の定量方法を修得することを目的とする。	
	陸域生物圏放射能動態学	農業環境から植物に移行する放射性核種の動態に関する講義を行う。土壌および灌漑水における放射性核種の挙動と存在形態変化、その要因について学習する。葉面吸収や経根吸収によって植物へ吸収する放射性核種について理解する。また、植物へ移行する放射性核種の類推手法を学び、作物中放射性核種濃度の評価を習得する。更に、作物摂取による内部被ばく線量についても学習する。	
	放射能等の分離技術	本科目では環境試料中の放射性物質の分離技術についての講義を行う。放射能汚染に関する研究の歴史・背景、対象となる核種の性質、放射性物質関連の規制ならびに放射化学の基礎的内容を概説したのち、放射能汚染に曝された土壌や水などの環境試料から、放射性物質を分離・除去する技術や課題について、研究事例を交えながら解説を行う。受講者はそれらの技術の背景となる物理的・化学的プロセスの基礎的理論および応用方法について修得する。	
	放射線計測工学特論	本科目では、環境中における放射性物質の分布、挙動を把握・評価する上で重要となる放射線の計測技術について理解を深めるため、前半は主要な放射線である α ・ β ・ γ 線の特徴と放射線挙動の物理、放射線の輸送解析技術、計測技術の基礎について理解を深める。特に、原子力分野、理工学分野、医学分野などで進められている放射線計測技術の現状とその利活用、また今後必要となる課題について理解を深める。後半は、放射線源を把握し環境中での放射線挙動を理解する上で重要となる放射線分布の可視化、イメージング技術に関する研究開発について理解を深めるとともに、放射線計測技術と異分野の技術との融合による計測技術、解析技術の高度化について学習し、さまざまな分野、領域への放射線計測手法の適用や応用の能力を高める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 食農科学研究科食農科学専攻科目	先端食品科学	<p>食品科学分野における基盤技術、理論、応用開発事例などの現状と最新の動向および今後の展望について、各担当教員がそれぞれ専門とする以下の分野について講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(155 石川大太郎、157 吉永和明、104 平修、159 渡部潤 / 1回) (共同)</p> <p>第1回 食品の非破壊分析、脂溶性成分分析、食品網羅的分析および微生物ゲノムの基礎 (106 藤井力、107 西村順子、105 熊谷武久、103 松田幹 / 1回) (共同)</p> <p>第2回 微生物機能利用(真核微生物)、微生物機能利用(原核微生物)、乳酸菌機能論およびプレバイオ食品免疫論の基礎 (158 升本早枝子、156 尾形慎、155 石川大太郎 / 1回) (共同)</p> <p>第3回 ファイトケミカル機能論および糖質素材・酵素合成論の基礎、食品の非破壊分析の事例と動向 (157 吉永和明、104 平修 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 脂溶性成分分析および食品網羅的分析の事例と動向 (159 渡部潤、106 藤井力 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 微生物ゲノムおよび微生物機能利用(真核微生物)の事例と動向 (107 西村順子、105 熊谷武久 / 1回) (共同)</p> <p>第6回 微生物機能利用(原核微生物)および乳酸菌機能論の事例と動向 (103 松田幹、158 升本早枝子 / 1回) (共同)</p> <p>第7回 プレバイオ食品免疫論およびファイトケミカル機能論の事例と動向 (156 尾形慎 / 1回)</p> <p>第8回 糖質素材・酵素合成論の事例と動向、まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	先端農業生産科学	<p>農業生産科学コースの各専門分野のテーマについて、社会的な背景、基盤技術、理論、応用事例などの現状、最新の研究動向および今後の展望について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(108 新田洋司 / 1回)</p> <p>第1回 作物学 (160 高橋秀和 / 1回)</p> <p>第2回 遺伝育種科学 (161 渡邊芳倫 / 1回)</p> <p>第3回 育土栽培学 (162 深山陽子、163 高田大輔 / 1回) (共同)</p> <p>第4回 園芸学特論 (109 篠田徹郎、164 岡野夕香里 / 1回) (共同)</p> <p>第5回 植物保護学特論 (110 大瀬健嗣 / 1回)</p> <p>第6回 土壌環境科学 (165 二瓶直登 / 1回)</p> <p>第7回 植物栄養学特論 (111 石川尚人 / 1回)</p> <p>第8回 畜産学</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 他専攻科目 食農科学研究科 食農科学専攻科目	先端生産環境科学	<p>国土管理の基盤である森林科学と農業工学を領域とする生産環境科学コースにおいて、持続可能性の観点から、環境調和型の農林業生産と、生態学的な機能の高度化を目指すことは重要な課題である。また、農村地域の特徴、あるいは課題解決・対策に必要とされるアプローチは多様である。本講義では、生産環境科学コースを構成する多方面の専門領域から、農村地域の課題を解く手がかりとなり得る先進的な話題について解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(167 望月翔太 /1回) 第1回：生産環境科学の先進的な取組とは (172 窪田陽介、171 牧雅康 /1回) (共同) 第2回：農業技術における国内外の先端研究 (170 申文浩 /1回) 第3回：行政が展開している先進的な取組：農業農村整備 (166 福島慶太郎 /1回) 第4回：森林管理における国内外の先端研究 (168 藤野正也 /1回) 第5回：行政が展開している先進的な取組：森林管理 (113 神宮字寛 /1回) 第6回：農村の生態系管理における国内外の先端研究 (114 原田茂樹、112 金子信博 /1回) (共同) 第7回：行政が展開している先進的な取組：気候変動と生物多様性保全 (169 石井秀樹、167 望月翔太 /1回) (共同) 第8回：行政が展開している先進的な取組：防災・減災</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	先端農業経営科学	<p>本講義では、農業、食料、地域をめぐるイノベーションの動向を先進的な社会科学理論と分析視角から学修していく。持続的なフードシステムに向けた課題、世界の動向、産地の新展開に対して、それらを支えるイノベーションをキー概念として最新の知見を習得することをめざす。前半部分では、食料政策、農産物流通、マーケティングをめぐるイノベーションを取り上げ、後半部分では、福島県の原子力被災地域に焦点を当て、地域産業復興の最前線を支えるイノベーションを取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(174 則藤孝志 /2回) 第1回 食料の安定供給をめぐる社会動向とイノベーション 第8回 まとめ (173 原田英美 /1回) 第2回 農産物流通の新展開と農業経営戦略 (116 河野恵伸 /1回) 第3回 マーケティング・リサーチの最前線 (175 高山太輔 /1回) 第4回 GI (地理的表示) の評価分析 (117 小山良太 /1回) 第5回 風評問題とこれからの産地づくり (115 荒井聡 /1回) 第6回 地域農業システムのイノベーション (176 林薫平 /1回) 第7回 地域資源活用の新展開</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目 復興知と農業・食料のイノベーション	<p>「食」と「農」におけるイノベーションの特質と課題を示しつつ、受講者各自の専門的スキルも基づいて、復興と持続可能な社会の構築に求められるイノベーションを考究する。また東日本大震災・原子力災害で被災した地域の復旧・復興を超えて、福島から明らかとなった「復興知」、ひいては日本の農業の未来をデザインするイノベーションについて学際的かつ実践的に考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (108 新田洋司、169 石井秀樹 /2回) (共同) 第1回(講義)：人類社会とイノベーション 第15回(演習)：復興知の確立とイノベーションの社会的実装 (116 河野恵伸 /1回) 第2回(講義)：農業技術と食料・農林水産業 (108 新田洋司/2回) 第3回(講義)：食料生産と農林水産業 第9回(講義)：福島イノベーションコースト構想と復興知 (169 石井秀樹/1回) 第4回(講義)：東日本大震災と原子力災害の被害の特質 (117 小山良太/1回) 第5回(講義)：農水産物の風評問題の社会的構造と協同組合間連携 (114 原田茂樹/1回) 第6回(講義)：放射線の計測と対策技術 (165 二瓶直登/1回) 第7回(講義)：農作物への放射性物質の移行メカニズムと吸収抑制対策 (105 熊谷武久/1回) 第8回(講義)：お米のブランド化と販売面 及び 機能性表示食品制度(農産物、加工食品) (114 原田茂樹、169 石井秀樹/1回) 第10回(演習)：環境共生とイノベーション (105 熊谷武久、116 河野恵伸、169 石井秀樹/1回) (共同) 第11回(演習)：福島と食品産業のデザイン (117 小山良太、169 石井秀樹/1回) (共同) 第12回(演習)：福島と新しい地域社会・市民社会のデザイン (108 新田洋司、165 二瓶直登、169 石井秀樹/1回) (共同) 第13回(演習)：福島と新しい農業のデザイン (108 新田洋司、169 石井秀樹、116 河野恵伸/1回) (共同) 第14回(演習)：イノベーション思考とデザイン思考</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	他専攻科目	食農科学研究科食農科学専攻科目 アグロエコロジー	<p>「アグロエコロジー」の定義と最新の議論について総括し、世界的な発展の歴史を踏まえ、日本に適した環境保全型農業として位置づける。現代の農業を生態学の視点から再検討し、生態系の機能を維持しつつ生態系サービスを活用することで持続可能で環境負荷を最低限にする生産システムを構築する。あわせて農業者から消費者まで公正な分配と対等の関係性のもとに農業生産を一体となって維持するしくみを、認証制度を活用して構築する方法について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(112 金子信博 /3回)</p> <p>第1回 近代農法の問題点とアグロエコロジーの必要性</p> <p>第9回 小規模・家族農業と保全農法</p> <p>第11回 保全農法による農生態系の多様化</p> <p>(115 荒井聡 /1回)</p> <p>第2回 環境保全型農業の展開条件</p> <p>(162 深山陽子 /1回)</p> <p>第3回 気候変動と一次生産への影響</p> <p>(110 大瀬健嗣/1回)</p> <p>第4回 土壌劣化とその影響</p> <p>(160 高橋秀和 /1回)</p> <p>第5回 作物の遺伝資源の多様性</p> <p>(113 神宮字寛 /1回)</p> <p>第6回 生物多様性と農業・農村整備</p> <p>(109 篠田徹郎 /1回)</p> <p>第7回 生物多様性を活用した害虫管理</p> <p>(165 二瓶直登 /1回)</p> <p>第8回 栽培様式の違いによる土壌微生物の多様性</p> <p>(161 渡邊芳倫 /2回)</p> <p>第10回 保全農法における土壌管理</p> <p>第12回 保全的水田農業の技術開発</p> <p>(112 金子信博、161 渡邊芳倫/1回) 共同</p> <p>第13回 アグロエコロジーにおける栽培技術【演習】</p> <p>(112 金子信博、113 神宮字寛/1回) 共同</p> <p>第14回 アグロエコロジーによる環境保全【演習】</p> <p>(112 金子信博、115 荒井聡/1回) 共同</p> <p>第15回 農業を基盤とする社会システムの転換【演習】</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特別 演習 経済経営特別演習 I	<p>研究テーマに関連する専門知識や先行研究調査を実施するために必要となる論文作成・研究遂行のための基礎的な知識を修得する。また、調査結果の共有・報告等のために必要となる基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>(1 奥山修司) マネジメント会計、取引デザインについて指導を行う。</p> <p>(3 岩井秀樹) 人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザインについて指導を行う。</p> <p>(5 岩本吉弘) 経済学史について指導を行う。</p> <p>(7 貴田岡信) 管理会計、原価計算について指導を行う。</p> <p>(9 佐野孝治) 開発経済学、アジア経済について指導を行う。</p> <p>(10 末吉健治) 経済地理学について指導を行う。</p> <p>(11 十河利明) アメリカ経済論、世界経済論、景気循環論について指導を行う。</p> <p>(12 吉高神明) 国際公共政策、国際関係論について指導を行う。</p> <p>(13 奥本英樹) ファイナンスについて指導を行う。</p> <p>(14 井上健) 統計学、計量経済学について指導を行う。</p> <p>(15 熊澤透) 労働経済、社会政策、社会保障について指導を行う。</p> <p>(16 尹卿烈) 経営戦略について指導を行う。</p> <p>(19 遠藤明子) マクロ・マーケティングについて指導を行う。</p> <p>(20 朱永浩) アジア経済論、中国経済論について指導を行う。</p> <p>(21 伊藤俊介) 朝鮮近代史について指導を行う。</p> <p>(22 佐藤寿博) 経済学（近代経済学）について指導を行う。</p> <p>(25 大川裕嗣) 日本経済史について指導を行う。</p> <p>(26 KUZNETSOVA MARINA) 社会論について指導を行う。</p> <p>(28 稲村健太郎) 租税法について指導を行う。</p> <p>(29 沼田大輔) 環境経済学について指導を行う。</p> <p>(30 菊池智裕) 西洋経済史、ドイツ経済史・社会経済史について指導を行う。</p> <p>(31 吉田樹) 都市・地域計画、地域交通政策、観光政策について指導を行う。</p> <p>(32 荒知宏) 国際経済学について指導を行う。</p> <p>(33 野口寛樹) 組織論、非営利組織論について指導を行う。</p> <p>(34 佐藤英司) 産業組織論について指導を行う。</p> <p>(35 金善照) 組織行動論について指導を行う。</p> <p>(36 根建晶寛) 財務会計、企業評価分析について指導を行う。</p> <p>(37 平野智久) 会計学（財務会計論）について指導を行う。</p> <p>(38 三家本里実) 労働過程論、労働社会学について指導を行う。</p> <p>(39 村上早紀子) 地域づくり、住居学、都市計画について指導を行う。</p> <p>(40 藤原遥) 地域経済学、地方財政論、環境経済学について指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	特別演習 経済経営特別演習Ⅱ	<p>研究テーマに関連する専門知識や先行研究調査のまとめ等の実践、ならびに研究テーマに関連する調査手法の基礎的な知識を修得することで、より高度な論文作成・研究遂行能力を修得する。</p> <p>(1 奥山修司) マネジメント会計、取引デザインについて指導を行う。</p> <p>(3 岩井秀樹) 人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザインについて指導を行う。</p> <p>(5 岩本吉弘) 経済学史について指導を行う。</p> <p>(7 貴田岡信) 管理会計、原価計算について指導を行う。</p> <p>(9 佐野孝治) 開発経済学、アジア経済について指導を行う。</p> <p>(10 末吉健治) 経済地理学について指導を行う。</p> <p>(11 十河利明) アメリカ経済論、世界経済論、景気循環論について指導を行う。</p> <p>(12 吉高神明) 国際公共政策、国際関係論について指導を行う。</p> <p>(13 奥本英樹) ファイナンスについて指導を行う。</p> <p>(14 井上健) 統計学、計量経済学について指導を行う。</p> <p>(15 熊澤透) 労働経済、社会政策、社会保障について指導を行う。</p> <p>(16 尹卿烈) 経営戦略について指導を行う。</p> <p>(19 遠藤明子) マクロ・マーケティングについて指導を行う。</p> <p>(20 朱永浩) アジア経済論、中国経済論について指導を行う。</p> <p>(21 伊藤俊介) 朝鮮近代史について指導を行う。</p> <p>(22 佐藤寿博) 経済学（近代経済学）について指導を行う。</p> <p>(25 大川裕嗣) 日本経済史について指導を行う。</p> <p>(26 KUZNETSOVA MARINA) 社会論について指導を行う。</p> <p>(28 稲村健太郎) 租税法について指導を行う。</p> <p>(29 沼田大輔) 環境経済学について指導を行う。</p> <p>(30 菊池智裕) 西洋経済史、ドイツ経済史・社会経済史について指導を行う。</p> <p>(31 吉田樹) 都市・地域計画、地域交通政策、観光政策について指導を行う。</p> <p>(32 荒知宏) 国際経済学について指導を行う。</p> <p>(33 野口寛樹) 組織論、非営利組織論について指導を行う。</p> <p>(34 佐藤英司) 産業組織論について指導を行う。</p> <p>(35 金善照) 組織行動論について指導を行う。</p> <p>(36 根建晶寛) 財務会計、企業評価分析について指導を行う。</p> <p>(37 平野智久) 会計学（財務会計論）について指導を行う。</p> <p>(38 三家本里実) 労働過程論、労働社会学について指導を行う。</p> <p>(39 村上早紀子) 地域づくり、住居学、都市計画について指導を行う。</p> <p>(40 藤原遥) 地域経済学、地方財政論、環境経済学について指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	特別 研 究 経済経営特別研究 I	<p>研究テーマに則したデータ収集・分析手法のための体系的かつ高度な知識・スキルを演習等を通じて修得する。また、論文・レポート執筆に必要な正確な文書作成スキルを修得する。</p> <p>(1 奥山修司) マネジメント会計、取引デザインについて指導を行う。</p> <p>(3 岩井秀樹) 人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザインについて指導を行う。</p> <p>(5 岩本吉弘) 経済学史について指導を行う。</p> <p>(7 貴田岡信) 管理会計、原価計算について指導を行う。</p> <p>(9 佐野孝治) 開発経済学、アジア経済について指導を行う。</p> <p>(10 末吉健治) 経済地理学について指導を行う。</p> <p>(11 十河利明) アメリカ経済論、世界経済論、景気循環論について指導を行う。</p> <p>(12 吉高神明) 国際公共政策、国際関係論について指導を行う。</p> <p>(13 奥本英樹) ファイナンスについて指導を行う。</p> <p>(14 井上健) 統計学、計量経済学について指導を行う。</p> <p>(15 熊澤透) 労働経済、社会政策、社会保障について指導を行う。</p> <p>(16 尹卿烈) 経営戦略について指導を行う。</p> <p>(19 遠藤明子) マクロ・マーケティングについて指導を行う。</p> <p>(20 朱永浩) アジア経済論、中国経済論について指導を行う。</p> <p>(21 伊藤俊介) 朝鮮近代史について指導を行う。</p> <p>(22 佐藤寿博) 経済学（近代経済学）について指導を行う。</p> <p>(25 大川裕嗣) 日本経済史について指導を行う。</p> <p>(26 KUZNETSOVA MARINA) 社会論について指導を行う。</p> <p>(28 稲村健太郎) 租税法について指導を行う。</p> <p>(29 沼田大輔) 環境経済学について指導を行う。</p> <p>(30 菊池智裕) 西洋経済史、ドイツ経済史・社会経済史について指導を行う。</p> <p>(31 吉田樹) 都市・地域計画、地域交通政策、観光政策について指導を行う。</p> <p>(32 荒知宏) 国際経済学について指導を行う。</p> <p>(33 野口寛樹) 組織論、非営利組織論について指導を行う。</p> <p>(34 佐藤英司) 産業組織論について指導を行う。</p> <p>(35 金善照) 組織行動論について指導を行う。</p> <p>(36 根建晶寛) 財務会計、企業評価分析について指導を行う。</p> <p>(37 平野智久) 会計学（財務会計論）について指導を行う。</p> <p>(38 三家本里実) 労働過程論、労働社会学について指導を行う。</p> <p>(39 村上早紀子) 地域づくり、住居学、都市計画について指導を行う。</p> <p>(40 藤原遥) 地域経済学、地方財政論、環境経済学について指導を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	経済経営特別研究Ⅱ	<p>研究テーマに合致したデータ収集・分析手法のための知識・スキルを演習等を通じて深化させる。また、論文・レポート報告のために必要となるより高度なプレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>(1 奥山修司) マネジメント会計、取引デザインについて指導を行う。</p> <p>(3 岩井秀樹) 人的資源管理論、組織行動論、コミュニティデザインについて指導を行う。</p> <p>(5 岩本吉弘) 経済学史について指導を行う。</p> <p>(7 貴田岡信) 管理会計、原価計算について指導を行う。</p> <p>(9 佐野孝治) 開発経済学、アジア経済について指導を行う。</p> <p>(10 末吉健治) 経済地理学について指導を行う。</p> <p>(11 十河利明) アメリカ経済論、世界経済論、景気循環論について指導を行う。</p> <p>(12 吉高神明) 国際公共政策、国際関係論について指導を行う。</p> <p>(13 奥本英樹) ファイナンスについて指導を行う。</p> <p>(14 井上健) 統計学、計量経済学について指導を行う。</p> <p>(15 熊澤透) 労働経済、社会政策、社会保障について指導を行う。</p> <p>(16 尹卿烈) 経営戦略について指導を行う。</p> <p>(19 遠藤明子) マクロ・マーケティングについて指導を行う。</p> <p>(20 朱永浩) アジア経済論、中国経済論について指導を行う。</p> <p>(21 伊藤俊介) 朝鮮近代史について指導を行う。</p> <p>(22 佐藤寿博) 経済学（近代経済学）について指導を行う。</p> <p>(25 大川裕嗣) 日本経済史について指導を行う。</p> <p>(26 KUZNETSOVA MARINA) 社会論について指導を行う。</p> <p>(28 稲村健太郎) 租税法について指導を行う。</p> <p>(29 沼田大輔) 環境経済学について指導を行う。</p> <p>(30 菊池智裕) 西洋経済史、ドイツ経済史・社会経済史について指導を行う。</p> <p>(31 吉田樹) 都市・地域計画、地域交通政策、観光政策について指導を行う。</p> <p>(32 荒知宏) 国際経済学について指導を行う。</p> <p>(33 野口寛樹) 組織論、非営利組織論について指導を行う。</p> <p>(34 佐藤英司) 産業組織論について指導を行う。</p> <p>(35 金善照) 組織行動論について指導を行う。</p> <p>(36 根建晶寛) 財務会計、企業評価分析について指導を行う。</p> <p>(37 平野智久) 会計学（財務会計論）について指導を行う。</p> <p>(38 三家本里実) 労働過程論、労働社会学について指導を行う。</p> <p>(39 村上早紀子) 地域づくり、住居学、都市計画について指導を行う。</p> <p>(40 藤原遥) 地域経済学、地方財政論、環境経済学について指導を行う。</p>	

国立大学法人福島大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福島大学				福島大学				
人文社会学群				人文社会学群				
人間発達文化学類	260	10	1,060	人間発達文化学類	260	10	1,060	
行政政策学類				行政政策学類				
昼間	185	10	760	昼間	185	10	760	
夜間主	20	-	80	夜間主	20	-	80	
経済経営学類	220	10	900	経済経営学類	220	10	900	
理工学群				理工学群				
共生システム理工学類	160	-	640	共生システム理工学類	160	-	640	
農学群				農学群				
食農学類	100	-	400	食農学類	100	-	400	
計	945	30	3,840	計	945	30	3,840	
福島大学大学院				福島大学大学院				
人間発達文化研究科								
教職実践専攻(P)	16	-	32		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域文化創造専攻(M)	17	-	34		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	7	-	14		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域政策科学研究科								
地域政策科学専攻(M)	20	-	40		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経済学研究科								
経済学専攻(M)	10	-	20		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経営学専攻(M)	12	-	24		0	-	0	令和5年4月学生募集停止
								研究科の設置(事前相談)
				<u>地域デザイン科学研究科</u>				
				人間文化専攻(M)	20	-	40	
				地域政策科学専攻(M)	8	-	16	
				経済経営専攻(M)	14	-	28	
				<u>教職実践研究科</u>				研究科の設置(事前相談)
				教職高度化専攻(P)	12	-	24	
				共生システム理工学研究科				
				共生システム理工学専攻(M)	40	-	80	定員変更(13)
				環境放射能学専攻(M)	5	-	10	定員変更(2)
				共生システム理工学専攻(D)	4	-	12	
				環境放射能学専攻(D)	2	-	6	
				<u>食農科学研究科</u>				研究科の設置(意見伺い)
				食農科学専攻(M)	20	-	40	
計	148	-	302	計	125	-	256	